

常磐自動車道
相馬工事

かやぐらばし（下部工）

設計図

令和6年11月

1	本線土工
2	相馬IC土工
3	函渠工
4	宇多川橋（下部工）
5	馬藩沢橋（下部工）
6-1	信田橋（下部工）
6-2	信田橋（上部工）
7-1	黒木橋（下部工）
7-2	黒木橋（上部工）
8	かやぐらばし（下部工）
9	大野台希望の橋(下部工)
10	附帯工
11	詳細図
12	参考図
13	契約参考図書

東日本高速道路株式会社 東北支社
いわき工事事務所

図面目次（かやぐらばし（下部工））

図面番号	図 面 名	図面番号	図 面 名
1	かやぐらばし 下部工数量総括表	73	かやぐらばし P1大型土のう配置図
2 ～ 3	かやぐらばし 橋梁一般図(1)～(2)	74	かやぐらばし A1橋台 既設補強土壁撤去図
4	かやぐらばし 下部工座標図	75	かやぐらばし A2橋台 既設補強土壁撤去図
5 ～ 6	かやぐらばし A1橋台 構造一般図(1)～(2)		
7 ～ 19	かやぐらばし A1橋台 配筋図(1)～(13)		
20	かやぐらばし A1橋台 踏掛版配筋図		
21 ～ 22	かやぐらばし A1橋台 深礎杭配筋図(1)～(2)		
23	かやぐらばし A1橋台 深礎杭土留工図		
24	かやぐらばし A1橋台 裏込め工排水工詳細図		
25	かやぐらばし P1橋脚 構造一般図		
26 ～ 30	かやぐらばし P1橋脚 配筋図(1)～(5)		
31 ～ 32	かやぐらばし A2橋台 構造一般図(1)～(2)		
33 ～ 45	かやぐらばし A2橋台 配筋図(1)～(13)		
46	かやぐらばし A2橋台 踏掛版配筋図		
47 ～ 48	かやぐらばし A2橋台 深礎杭配筋図(1)～(2)		
49	かやぐらばし A2橋台 深礎杭土留め工図		
50	かやぐらばし A2橋台 裏込め工排水工詳細図		
51	かやぐらばし L型擁壁一般図		
52 ～ 64	かやぐらばし L型擁壁配筋図(1)～(13)		
65	かやぐらばし A2橋台 重力式擁壁一般図		
66 ～ 67	かやぐらばし A1橋台 土留工構造図(1)～(2)		
68	かやぐらばし A1橋台 横矢板詳細図		
69 ～ 71	かやぐらばし A2橋台 土留工構造図(1)～(3)		
72	かやぐらばし A2橋台 横矢板詳細図		

下部工数量総括表

項目	細目	規格寸法	単位	A1	P1	A2	合 計	備 考		
構造物掘削	普通部		m ³	-	633.1	-	633.1	埋戻し 454.2m ³		
	特殊部A9		〃	1378.1	-	-	1378.1	埋戻し 371.0m ³		
	特殊部A10		〃	-	-	10266.3	10266.3	埋戻し 521.5m ³		
基礎材	B	RC-40	m ³	11.2	-	11.2	22.4			
裏込め材(土工)	裏込め工B		m ³	509.0	-	1050.4	1559.4	(一次施工)		
地下排水工	Du-Pφ0.15,0.50,0.50		m	7.7	-	9.2	16.9			
基礎杭	場所打ちコンクリート杭	(人力掘削、φ3000)	m	22.0	-	34.0	56.0			
	埋設ライナープレート	(φ3000,t=2.7mm)	m	22.0	-	34.0	56.0			
	裏込めグラウト		m ³	19.4	-	31.2	50.6			
コンクリート	A1-3	σ _{ck} =30N/mm ²	下部工	322.9	181.6	388.8	893.3			
	B2-1	σ _{ck} =24N/mm ²	下部工	302.1	159.0	302.1	763.2			
		σ _{ck} =24N/mm ²	杭 体	155.5	-	240.3	395.8			
		計		m ³	457.6	159.0	542.4	1159.0		
	D1-1	σ _{ck} =18N/mm ²	下部工	〃	5.6	7.6	5.6	18.8		
型わく	C		下部工施工	m ²	585.0	328.1	724.9	1638.0		
	D			〃	3.5	3.5	3.5	10.5		
鉄筋	A	下部工	D13	t	-	-	-	-		
			D16～D25	〃	2.446	6.733	1.717	10.896		
			D29～D32	〃	2.625	2.261	9.032	13.918		
			D35	〃	6.357	-	-	6.357		
		基礎杭	小計	〃	11.428	8.994	10.749	31.171		
			D16～D25	〃	11.804	-	12.881	24.685		
			D29～D32	〃	1.504	-	5.920	7.424		
			小計	〃	13.308	0.000	18.801	32.109		
	合計			〃	24.736	8.994	29.550	63.280		
	A (E)	下部工	D13	t	0.864	-	1.003	1.867		
			D16～D25	〃	10.550	-	7.025	17.575		
			D29～D32	〃	8.291	-	14.002	22.293		
			D35	〃	3.380	-	6.772	10.152		
			D41	〃	-	-	6.812	6.812		
			小計	〃	23.085	-	35.614	58.699		
	B	下部工	D29～D32	〃	-	1.183	3.439	4.622		
			D35	〃	4.138	7.513	-	11.651		
			D51	〃	-	18.020	-	18.020		
			小計	〃	4.138	26.716	3.439	34.293		
	機械式継手	普通鉄筋	箇所	38	185	38	261			
		B (E)	下部工	D29～D32	t	0.956	-	2.562	3.518	
	D35			〃	-	-	0.676	0.676		
	小計			〃	0.956	-	3.238	4.194		
	機械式継手	エポキシ樹脂鉄筋	箇所	13	-	37	50			
		C	下部工	D16～D25	t	1.473	3.286	1.537	6.296	
	小計			〃	1.473	3.286	1.537	6.296		
	基礎杭		D16～D25	〃	0.599	-	3.418	4.017		
	合計			〃	2.072	3.286	4.955	10.313		
	機械式定着加工 (下部工)		普通鉄筋	箇所	231	460	239	930		
	機械式定着加工 (基礎工)	普通鉄筋	箇所	64	-	392	456			
	C (E)	下部工	D13	t	0.279	-	0.316	0.595		
			D16～D25	〃	2.006	-	2.159	4.165		
			小計	〃	2.285	-	2.475	4.760		
		鉄筋質量合計			〃	43.365	38.996	57.052	139.413	
		機械式定着加工 (下部工)	エポキシ樹脂鉄筋	箇所	688	-	754	1442		

附帯工数量総括表

項目	細目	規格寸法	単位	数 量				備 考
				L1	L2	重力式擁壁	合 計	
基礎材	B	RC-40	m ³	-	-	1.1	1.1	
コンクリート	A1-3		m ³	233.0	83.5	-	316.5	
	B2-1		m ³	267.0	212.0	-	479.0	
	C2-1		m ³	-	-	9.3	9.3	
	D1-1		m ³	16.9	13.5	-	30.4	
型 わ く	C		m ²	399.2	162.2	25.9	587.3	
	D		m ²	5.2	3.3	-	8.5	
鉄 筋	A	D 13	t	0.864	0.708	-	1.572	SD345
		D16～D25	t	1.854	2.614	-	4.468	
		D29～D32	t	6.266	-	-	6.266	
		合 計	t	8.984	3.322	-	12.306	
	A (E)	D 13	t	0.176	-	-	0.176	
		D16～D25	t	1.697	2.418	-	4.115	
		D29～D32	t	15.414	-	-	15.414	
		合 計	t	17.287	2.418	-	19.705	
	B	D 13	t	-	-	-	-	
		D16～D25	t	-	3.651	-	3.651	
		D29～D32	t	18.908	-	-	18.908	
		合 計	t	18.908	3.651	-	22.559	
	C (E)	機械式継手	箇所	209	82	-	291	
		D13	t	0.881	0.322	-	1.203	
		機械式鉄筋定着加工数	箇所	544	199	-	743	
裏面排水工	透水マットA		m	-	-	-	61.7	B=400
転落防止柵工	A		m	-	-	-	26.7	
工事用道路工	耐候性大型土のう 設置・撤去		袋	-	-	-	12.0	

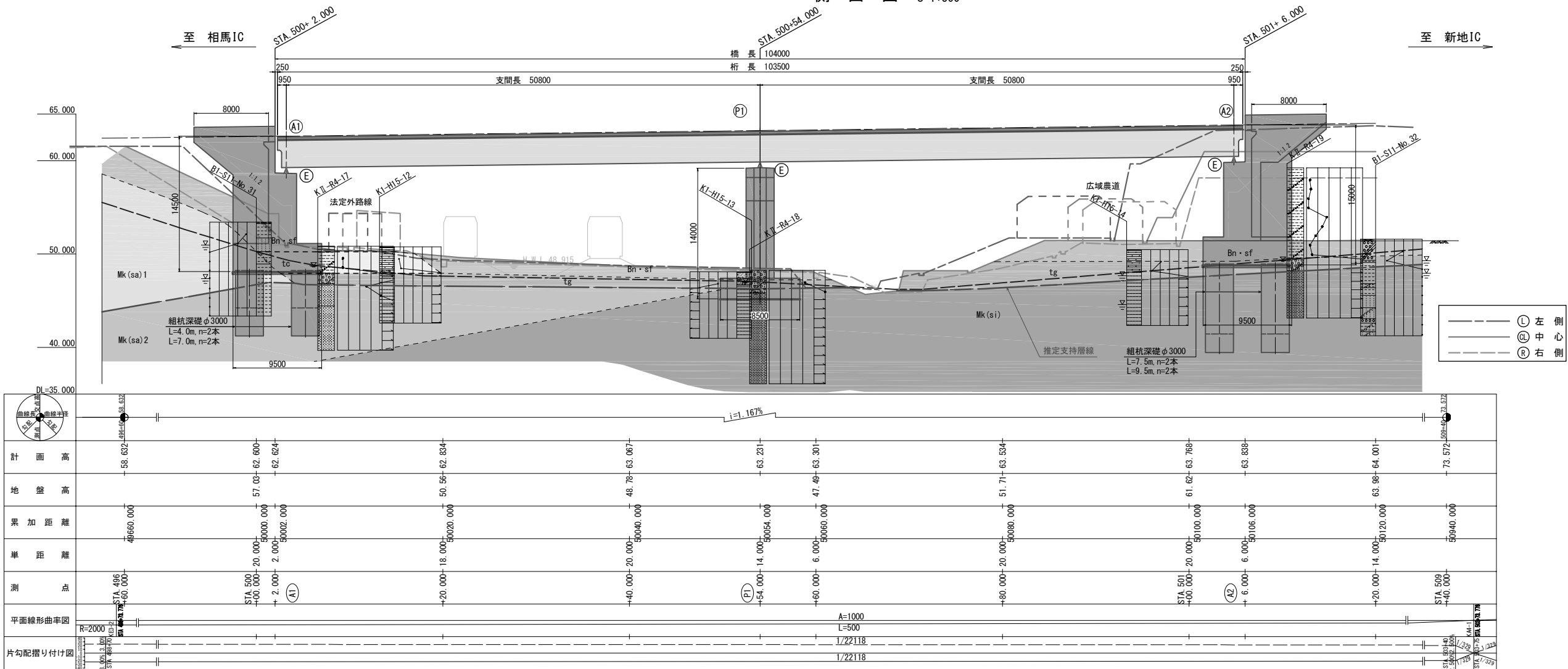
仮設工数量総括表

工程	項目	種別	区分	単位	数量			
					A1橋台	P1橋脚	A2橋台	合計
構造物取壊し工	帯補強土壁撤去工	補強土壁	-	m ²	61.0	-	205.7	266.7

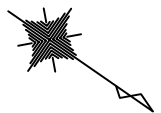
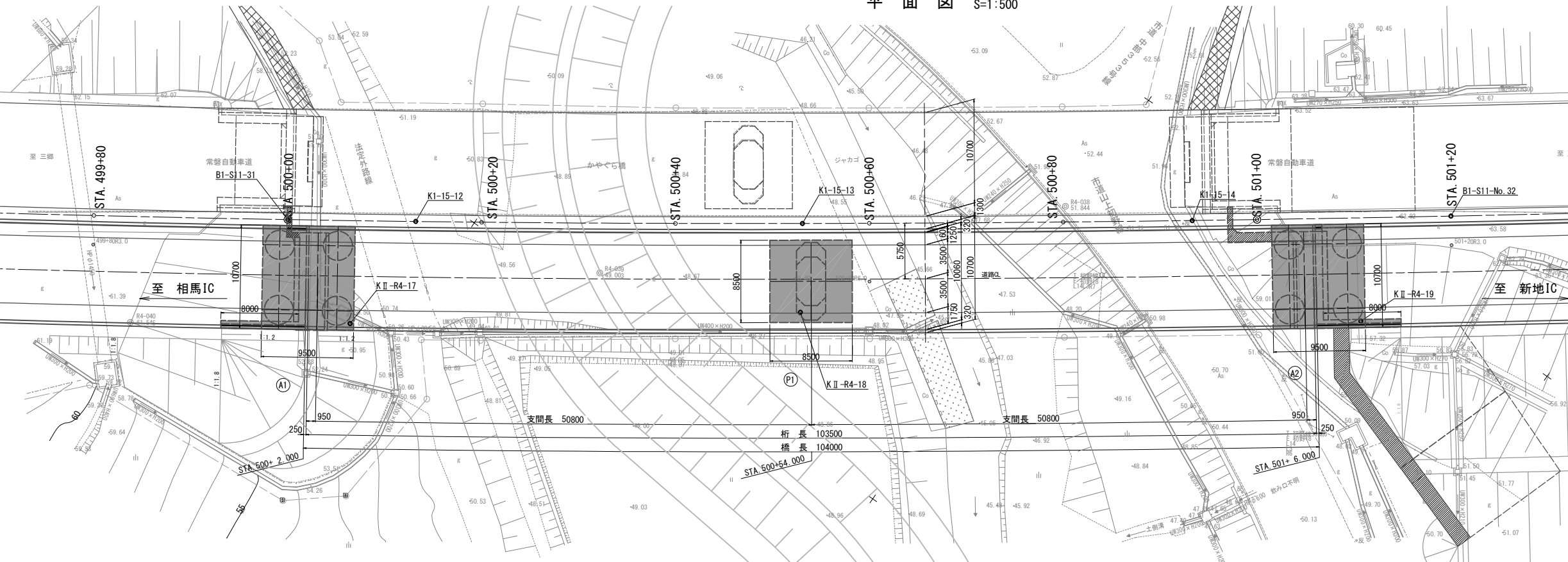
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし 下部工数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

かやぐらばし 橋梁一般図(1)

側面図 S=1:500

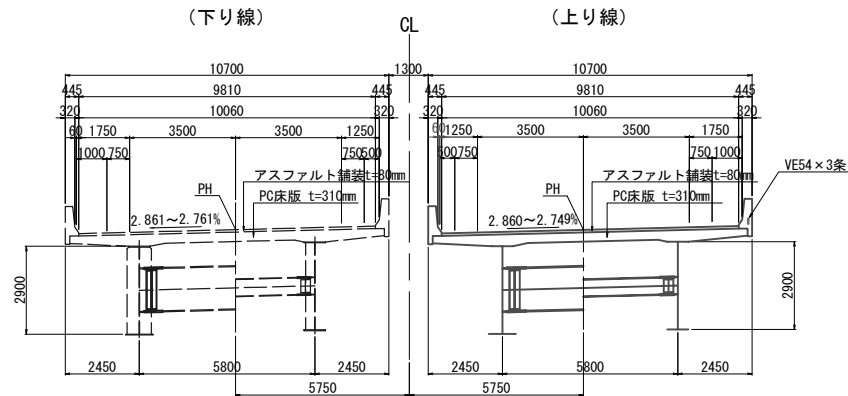


平面図 S=1:500



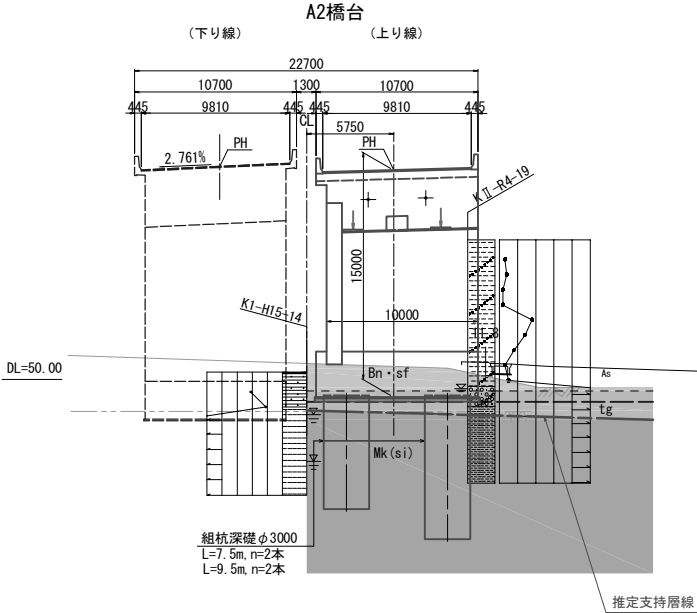
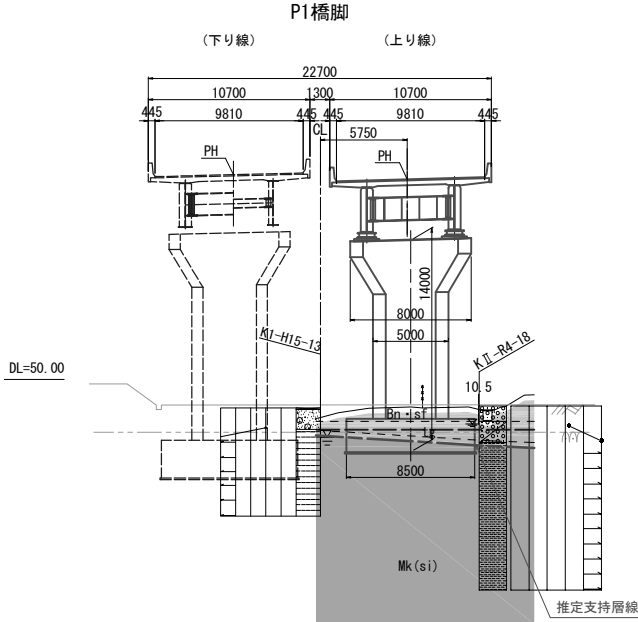
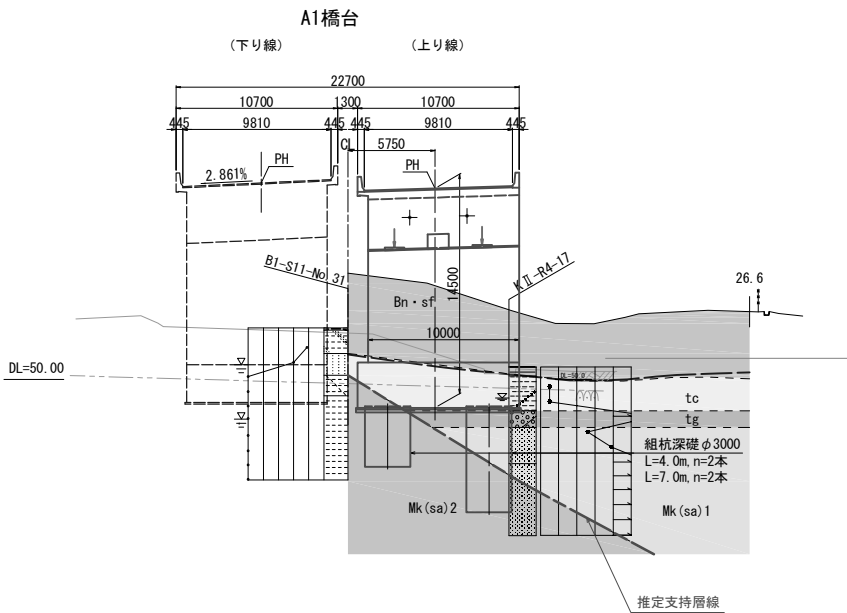
常磐自動車道 相馬工事	
図面の種類	かやぐらばし 橋梁一般図(1)
縮尺	図示 図面番号
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所

標準横断面図 S=1:250

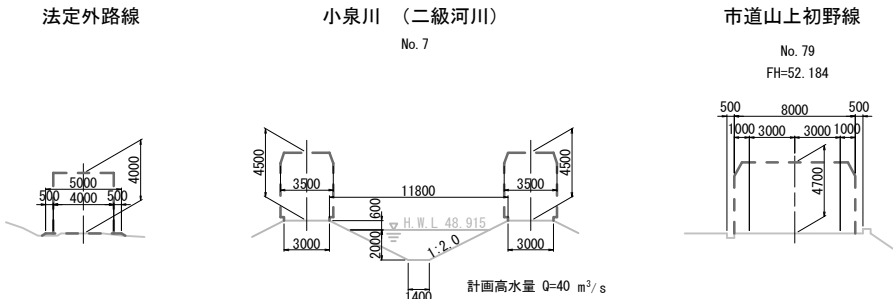


設計条件			
道路規格	第1種2級B規格	設計速度	V=100 km/h
計画交通量	大型車 3,067台（2方向・台/日）		
活荷重	B活荷重	雪荷重	考慮しない
橋長	L=104,000 m	桁長	L=103,500 m
支間長	L= 50,800 m + 50,800 m		
有効幅員	W= 9,810 m		
縦断勾配	1.167 ‰		
平面線形	A= 1000 m		
横断勾配	2.860~2.749 ‰		
斜角	90° -00' -00"		
重要度区分	B種の橋		
地域区分	A2地域（福島県相馬市）		
設計水平震度	水平震度 KH = 0.20		
地盤種別	I種地盤		
支持層	A1:極細粒砂岩 (Mk (sa) 2) P1, A2:シルト岩 (Mk (si))		
上部工形式	鋼2径間PC床版連続合成2主鉄桁橋		
	架設工法		
	トラッククレーンベント架設		
	舗装		
	アスファルト舗装 t= 80 mm		
	支承		
上部工	免震支承		
	高欄形式		
	フロリダ型壁高欄SB種		
	コンクリート		
	床版 $\sigma_{ck} = 40 \text{ N/mm}^2$		
	地覆、壁高欄 $\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$		
下部工	鉄筋		
	材質 SD345		
	P C 鋼材		
	SWPR19L, 1S28.6		
	鋼材		
	SM520, SM490Y, SM400, SS400, S10T		
下部工	下部工形式		
	A1: 逆T式橋台 P1: 張出し橋脚 A2: 逆T式橋台		
	コンクリート		
	躯体 $\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$		
	フーチング $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$		
	鉄筋		
基礎形式	材質 SD345		
	A1: 組杭深礎 P1: 直接基礎 A2: 組杭深礎		
適用基準		道路橋示方書・同解説 I～V（日本道路協会）平成29年11月 設計要領第二集（東日本高速道路株式会社）平成28年 6月	

下部工正面図 S=1:500



交差条件 S=1:500



常磐自動車道 相馬工事	
図面の種類	かやぐらばし 橋梁一般図(2)
縮尺	図示 図面番号
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
施工会社名	東日本高速道路株式会社 東北支社
事務所名	いわき工務事務所

A1橋台座標

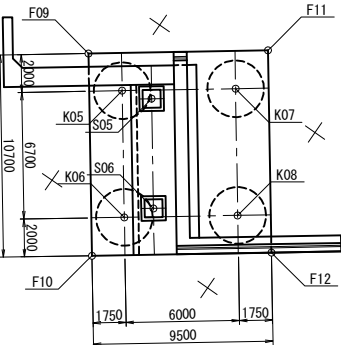
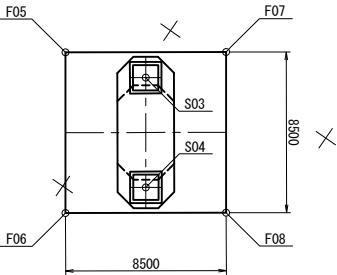
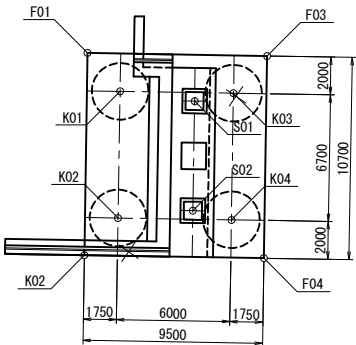
		x	y
支承	S01	201,488.3370	92,311.4562
	S02	201,491.5609	92,316.2777
フーチング	F01	201,482.2370	92,312.5881
	F02	201,488.1846	92,321.4829
	F03	201,490.1342	92,307.3076
	F04	201,496.0818	92,316.2023
深礎杭	K01	201,484.8034	92,313.2780
	K02	201,488.5276	92,318.8476
	K03	201,489.7911	92,309.9429
	K04	201,493.5153	92,315.5125

P1橋脚座標

		x	y
支承	S03	201,530.3432	92,282.7916
	S04	201,533.6533	92,287.5543
フーチング	F05	201,526.0829	92,284.1085
	F06	201,530.9338	92,291.0883
	F07	201,533.0627	92,279.2575
	F08	201,537.9137	92,286.2373

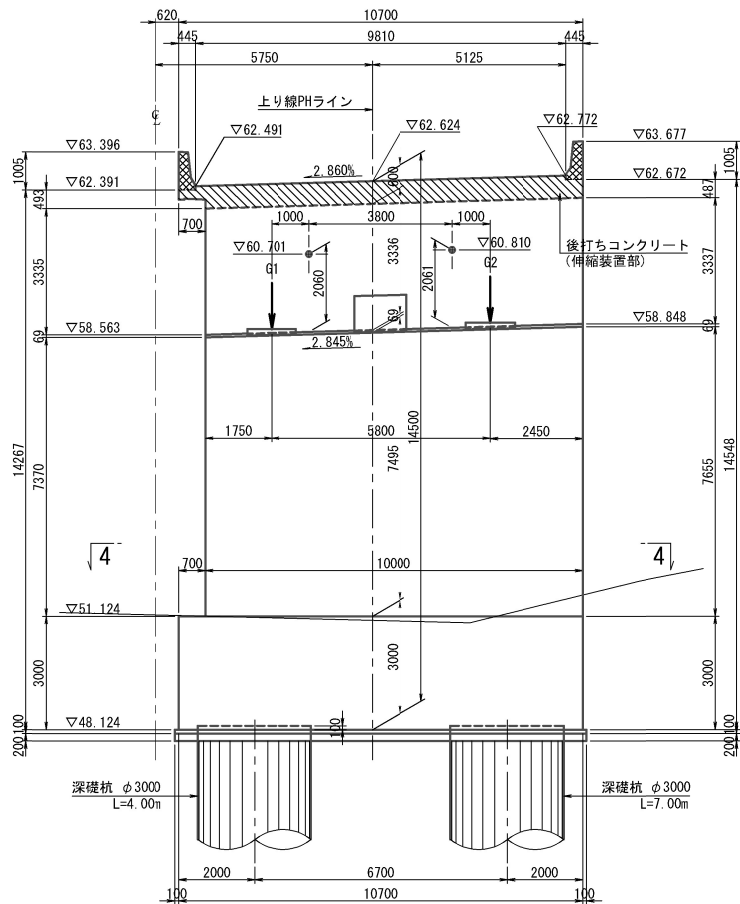
A2橋台座標

		x	y
支承	S05	201,571.8716	92,253.4530
	S06	201,575.2541	92,258.1646
フーチング	F09	201,567.7622	92,253.3874
	F10	201,574.0022	92,262.0795
	F11	201,575.4795	92,247.8472
	F12	201,581.7195	92,256.5393
深礎杭	K05	201,570.3502	92,253.9915
	K06	201,574.2575	92,259.4342
	K07	201,575.2242	92,250.4925
	K08	201,579.1315	92,255.9351

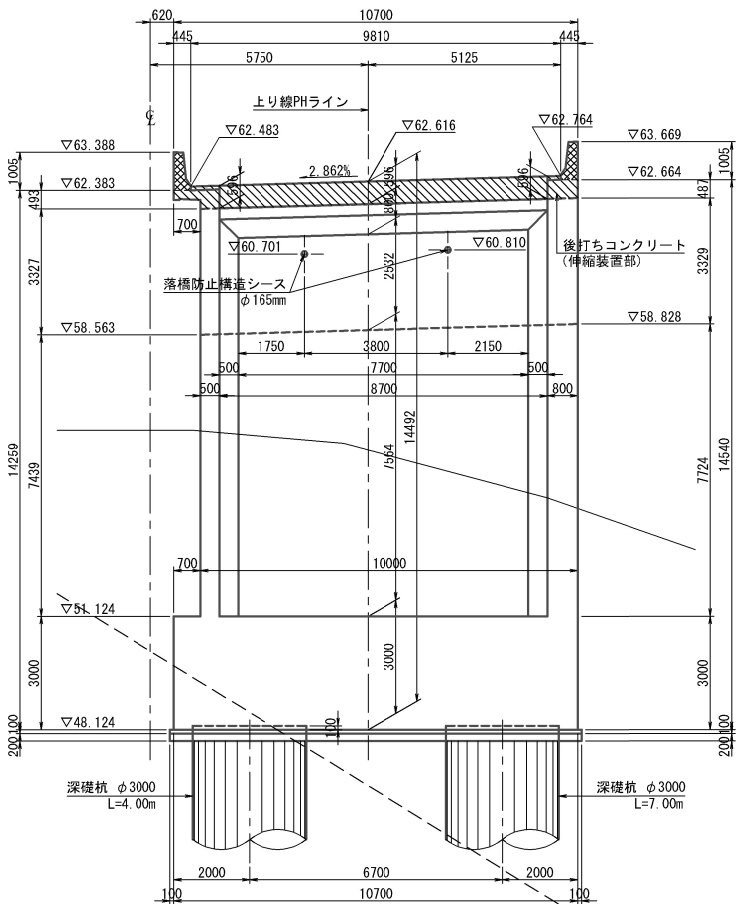


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし 下部工座標図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

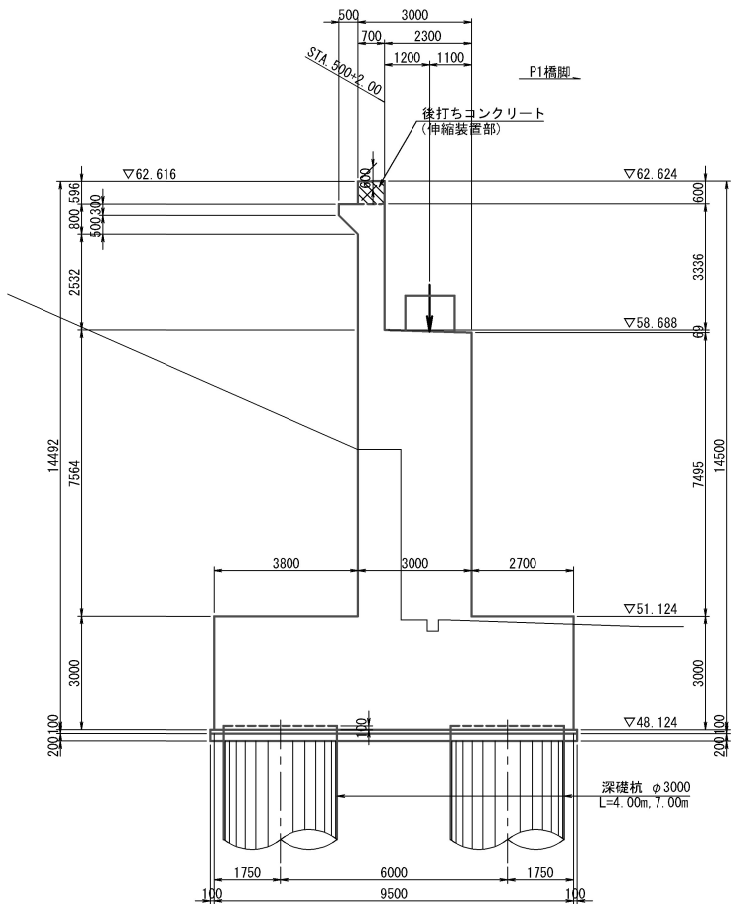
正面図(1-1)



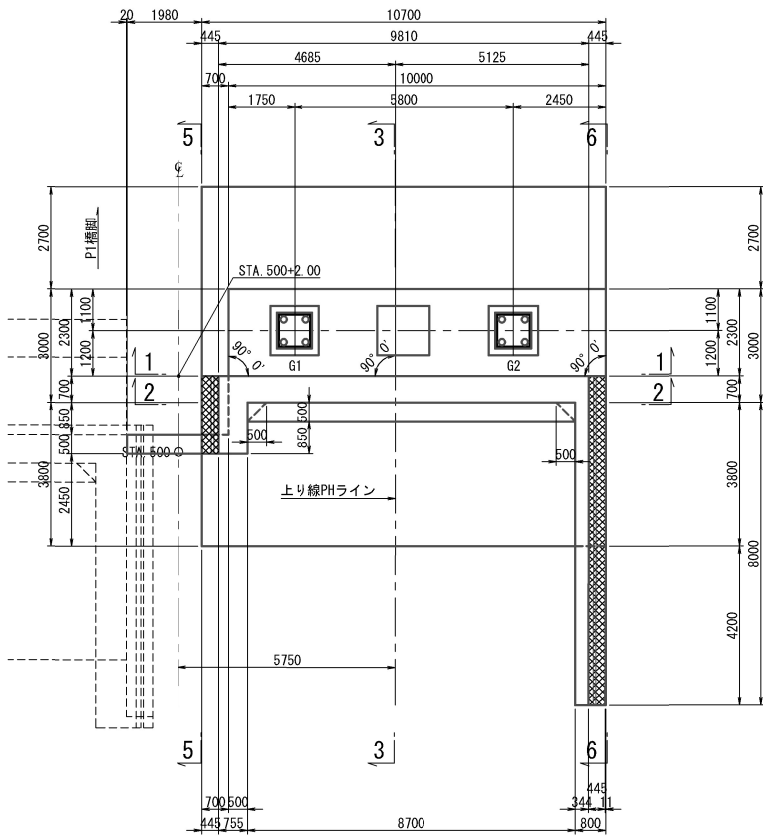
背面図(2-2)



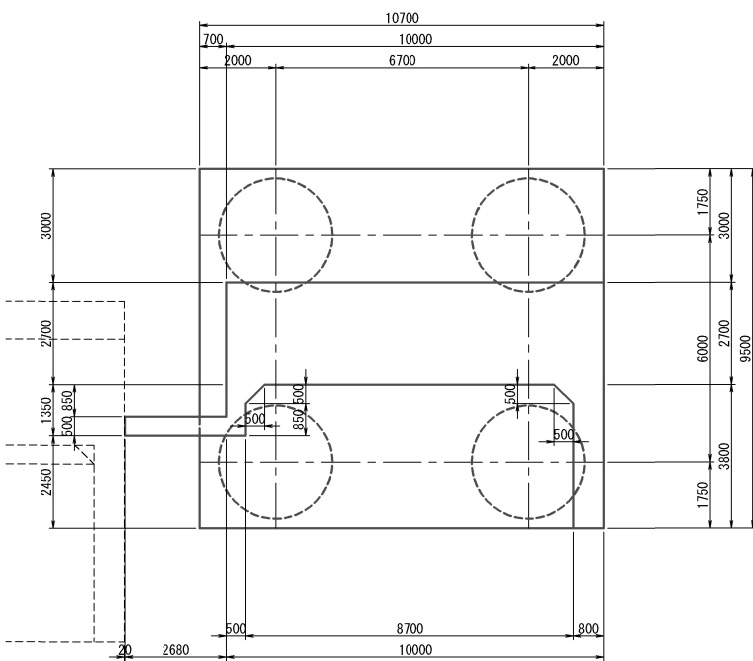
3 - 3



平面図



杭配置図(4-4)

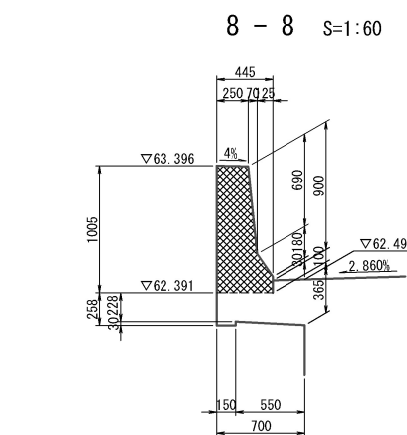
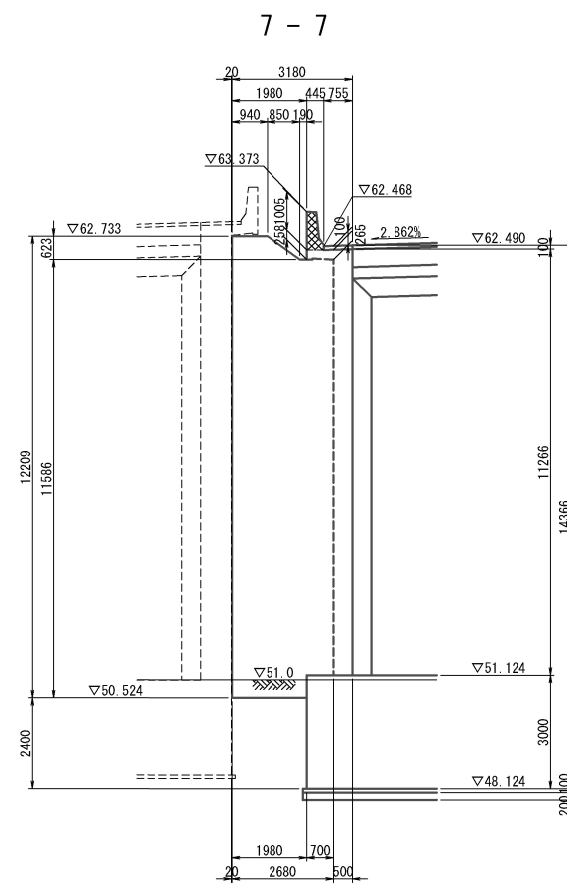
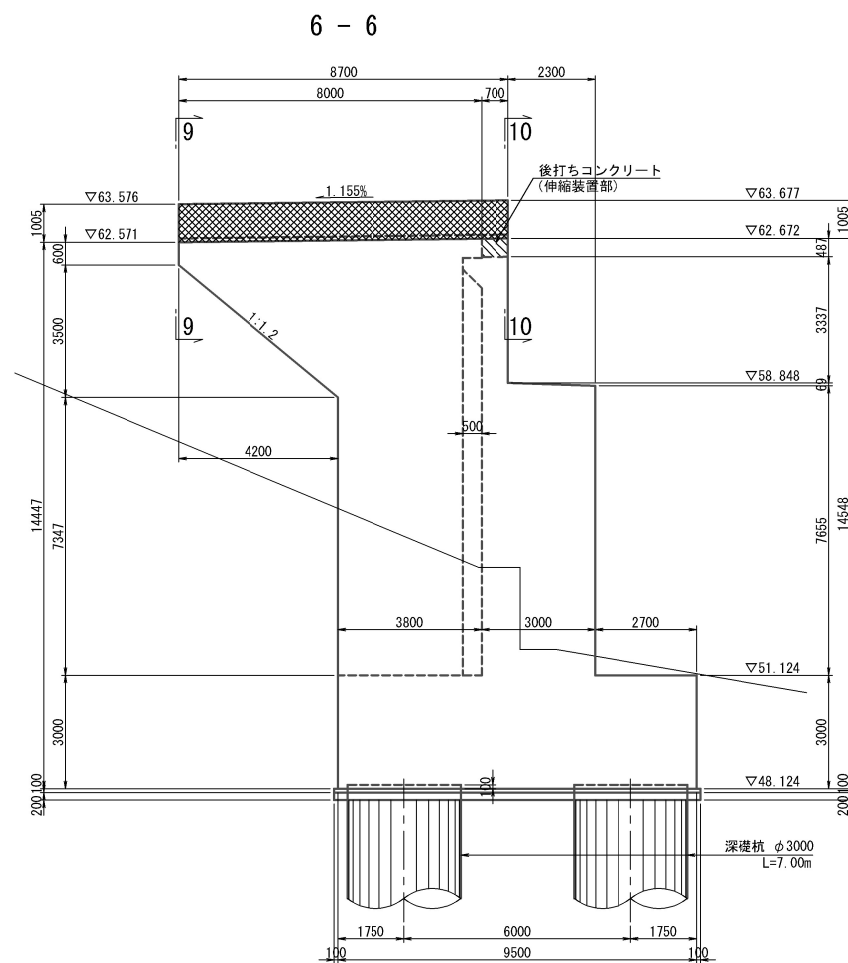
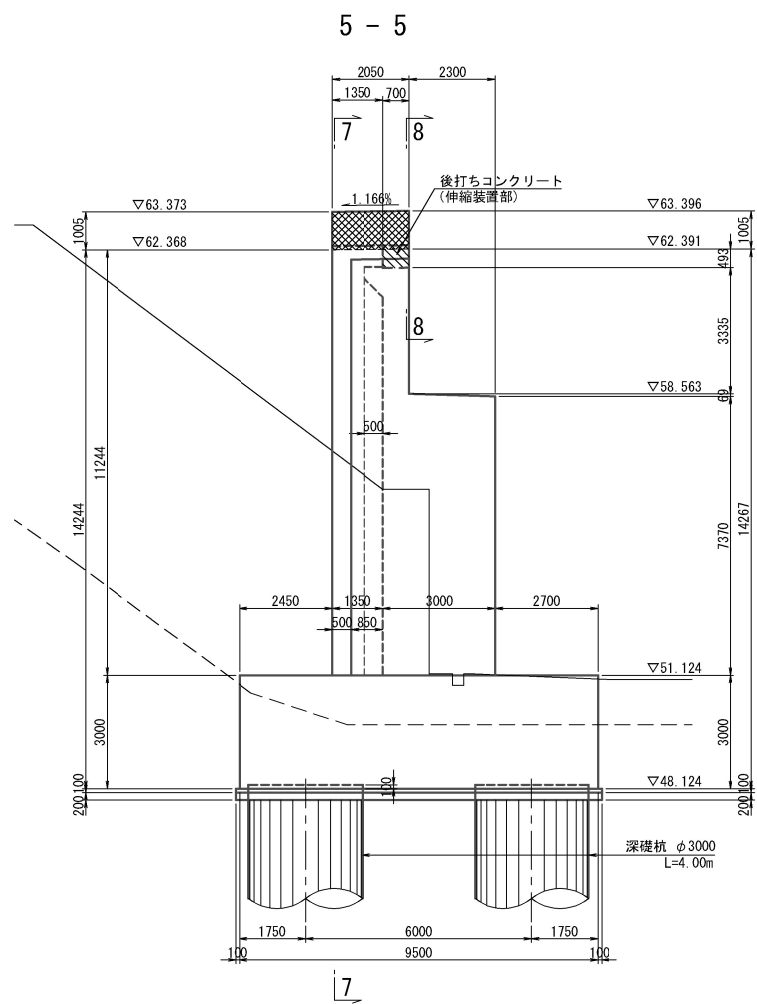


設計条件

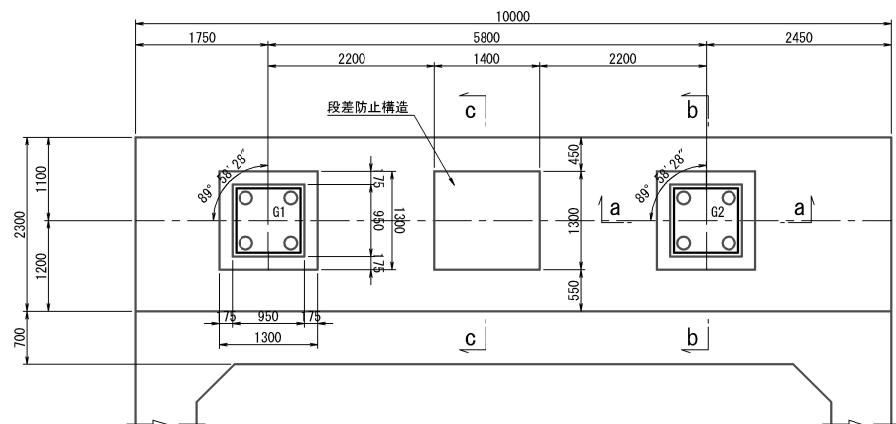
道 路 規 格		第1種 2級 B規格		
重 要 度 区 分		B種の橋		
活 荷 重		B活荷重		
地 域 区 分		A2地区		
地 盤 種 別		I 種地盤		
斜 角		∠R (支承設置角: 89° 58' 28")		
適 用 示 方 書		道路橋示方書・同解説 社) 日本道路協会 (平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社 (平成28年6月)		
設 平 計 農 水 域		レベル1	レベル2-I	レベル2-II
	橋軸方向	0.20	0.83	0.85
	直角方向	0.20	0.84	0.85
下 部 構 造	形 式	逆T式		
	基 礎	組杭深礎基礎φ3000		
	材 料	コンクリート 躯体: σ _{ck} =30N/mm ² 、底版: 深礎: σ _{ck} =24N/mm ²		
	鉄 筋	SD345		
	支持地盤	極細粒砂岩 (Mk (sa) 2層)		

・本図で示す標高はすべてT P表示とする。
・図で示すハッチング部は、上部施工とする。

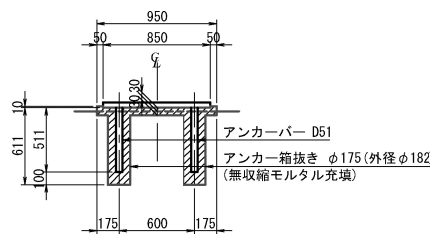
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台構造一般図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



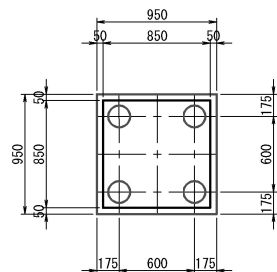
橋座面展開図 S=1:100



支承箱抜き詳細図 S=1:60

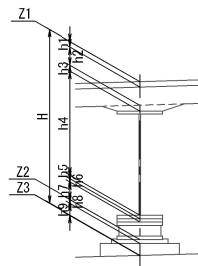


平面図

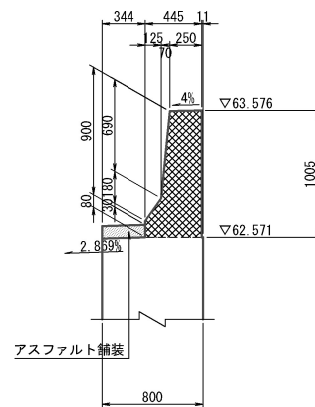


構造高表

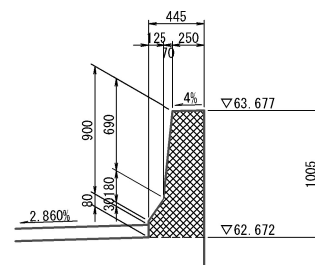
	G1	G2
路面標高	Z1 62.561	62.727
舗装厚	h1 0.080	0.080
床版厚	h2 0.310	0.310
ハンチ高	h3 0.100	0.100
主桁高	h4 2.900	2.900
下フランジ厚	h5 0.026	0.026
ソールプレート厚	h6 0.027	0.027
支承高	h7 0.373	0.373
沓座面標高	Z2 58.747	58.912
沓座モルタル厚	h8 0.030	0.030
台座コンクリート高	h9 0.140	0.140
構造高合計	H 3.986	3.986
下部工天端標高	Z3 58.575	58.741



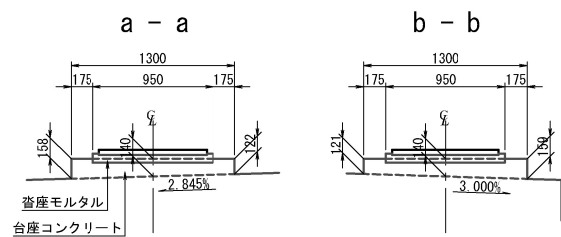
9 - 9 S=1:60



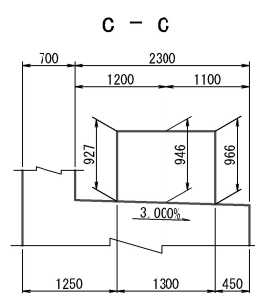
10 - 10 S=1:60



台座コンクリート詳細図 S=1:60

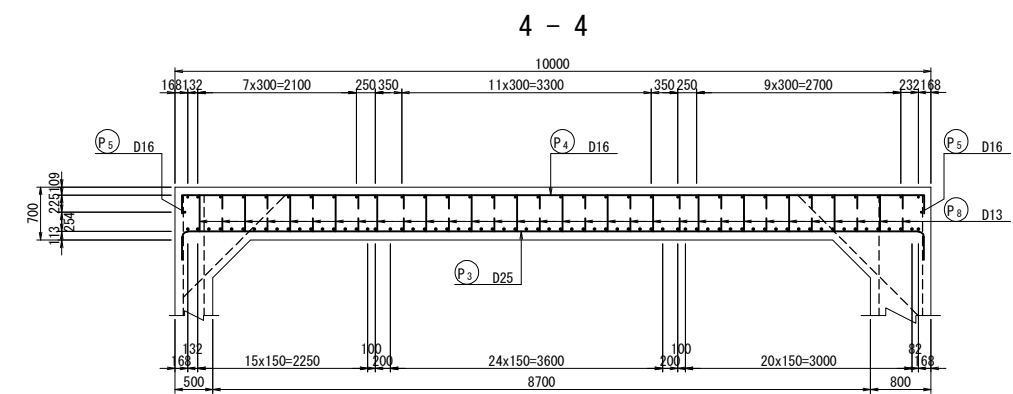
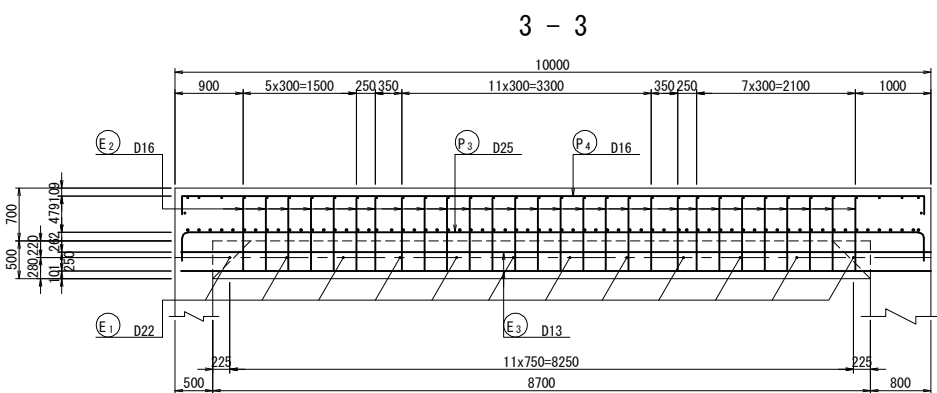
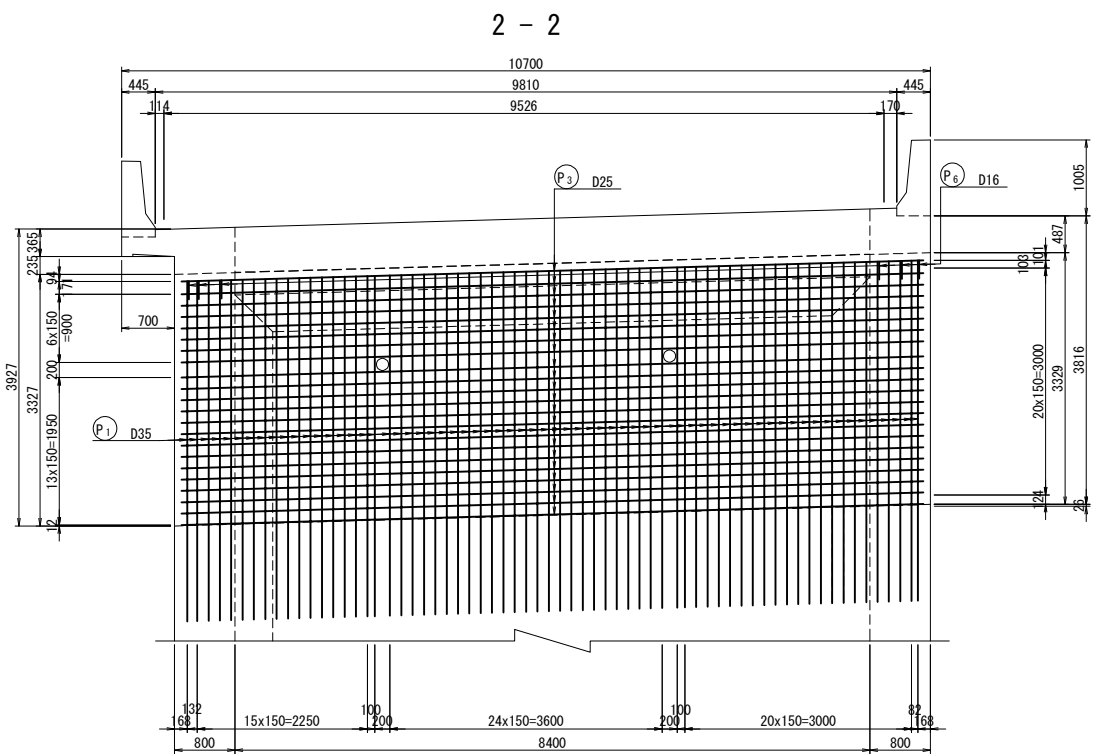
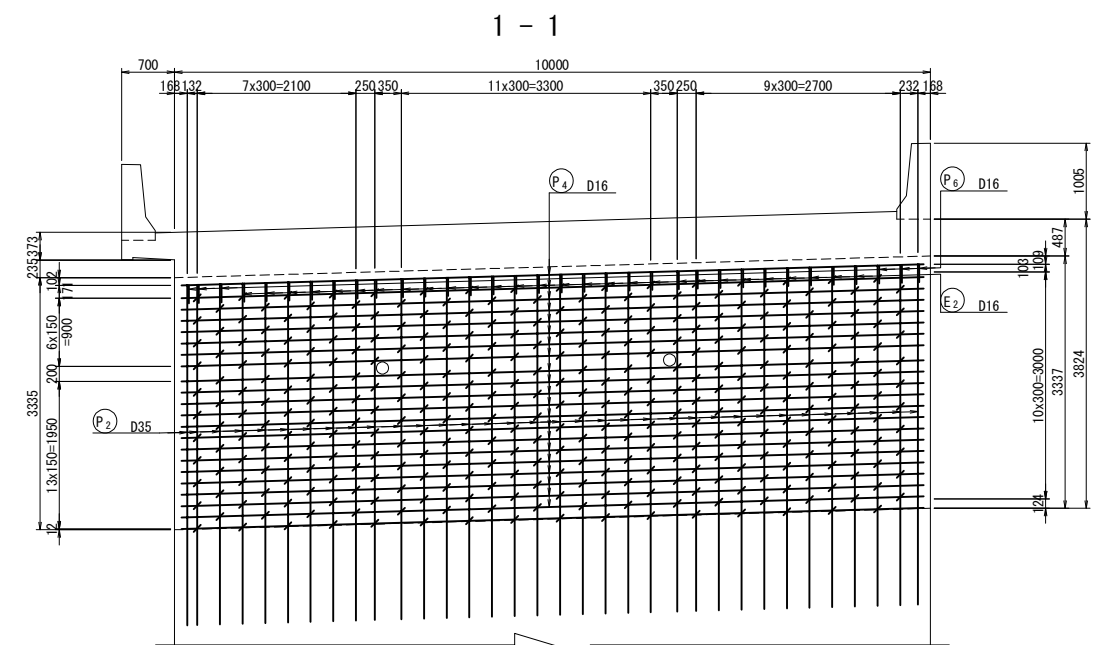


段差防止構造詳細図 S=1:100

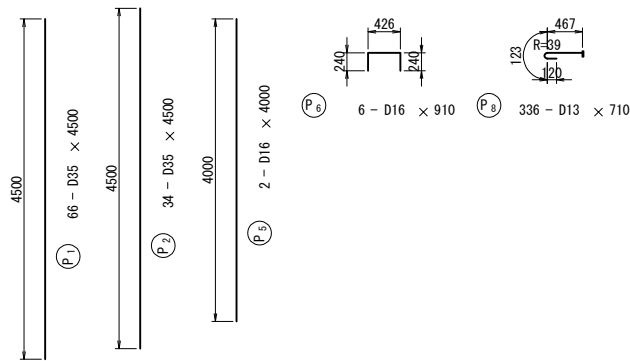
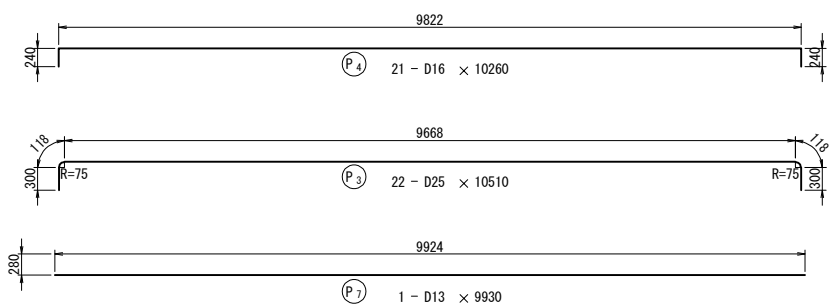
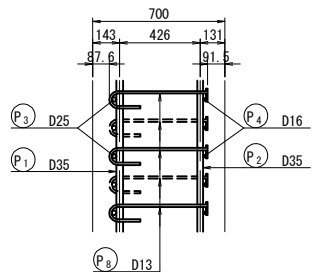


・本図で示す標高はすべてT P表示とする。
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

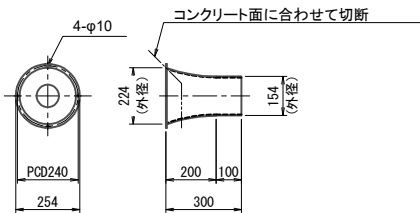
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台構造一般図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



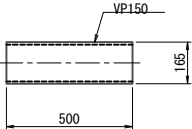
かぶり詳細図 S=1:40



偏向ダクト S=1:30



シース S=1:30



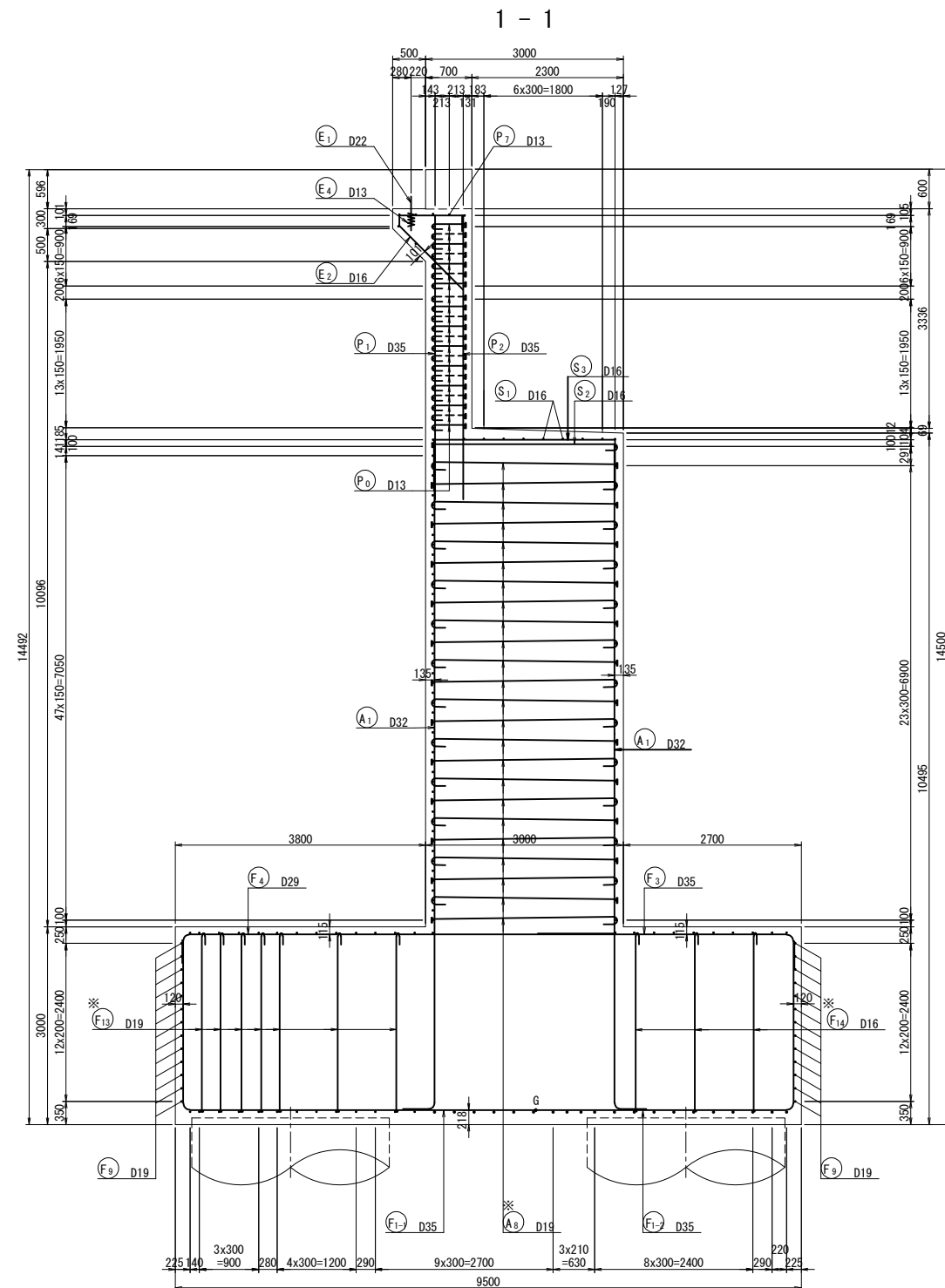
落橋防止構造 材料表(1本当たり)

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
① 偏向ダクト	φ254×300	個	1	ポリエチレン
② シース(下部工側)	φ165×500	本	1	VP150

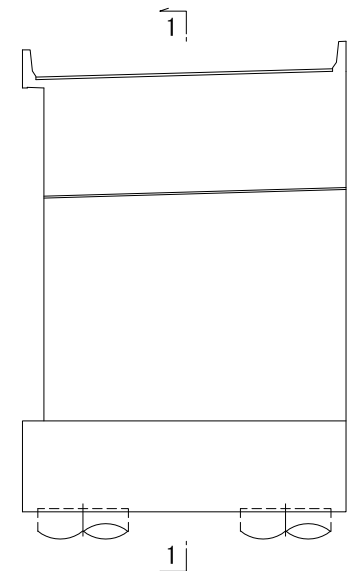
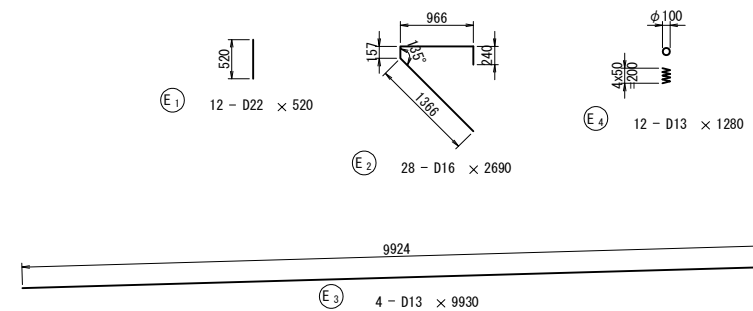
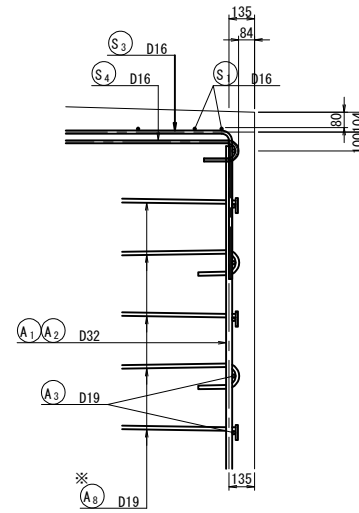
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台配筋図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



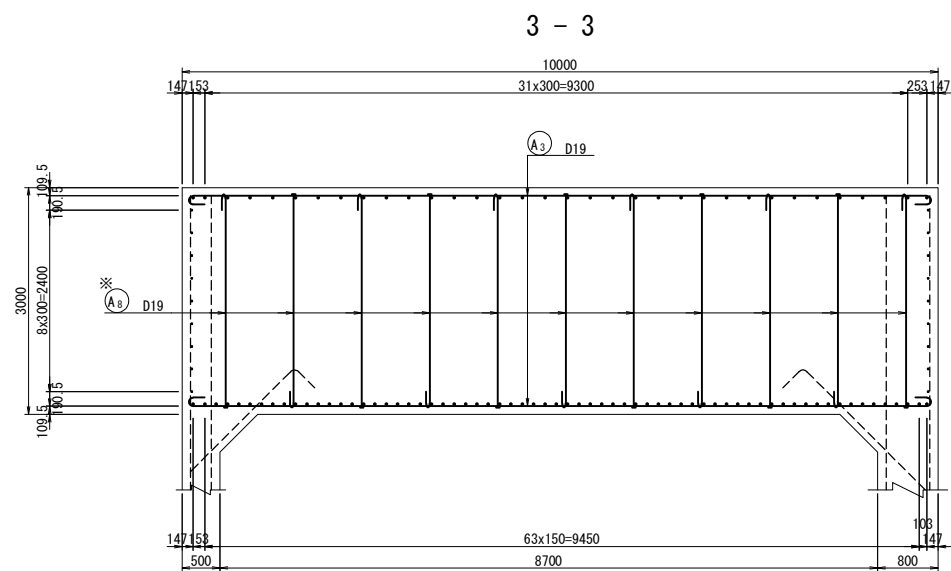
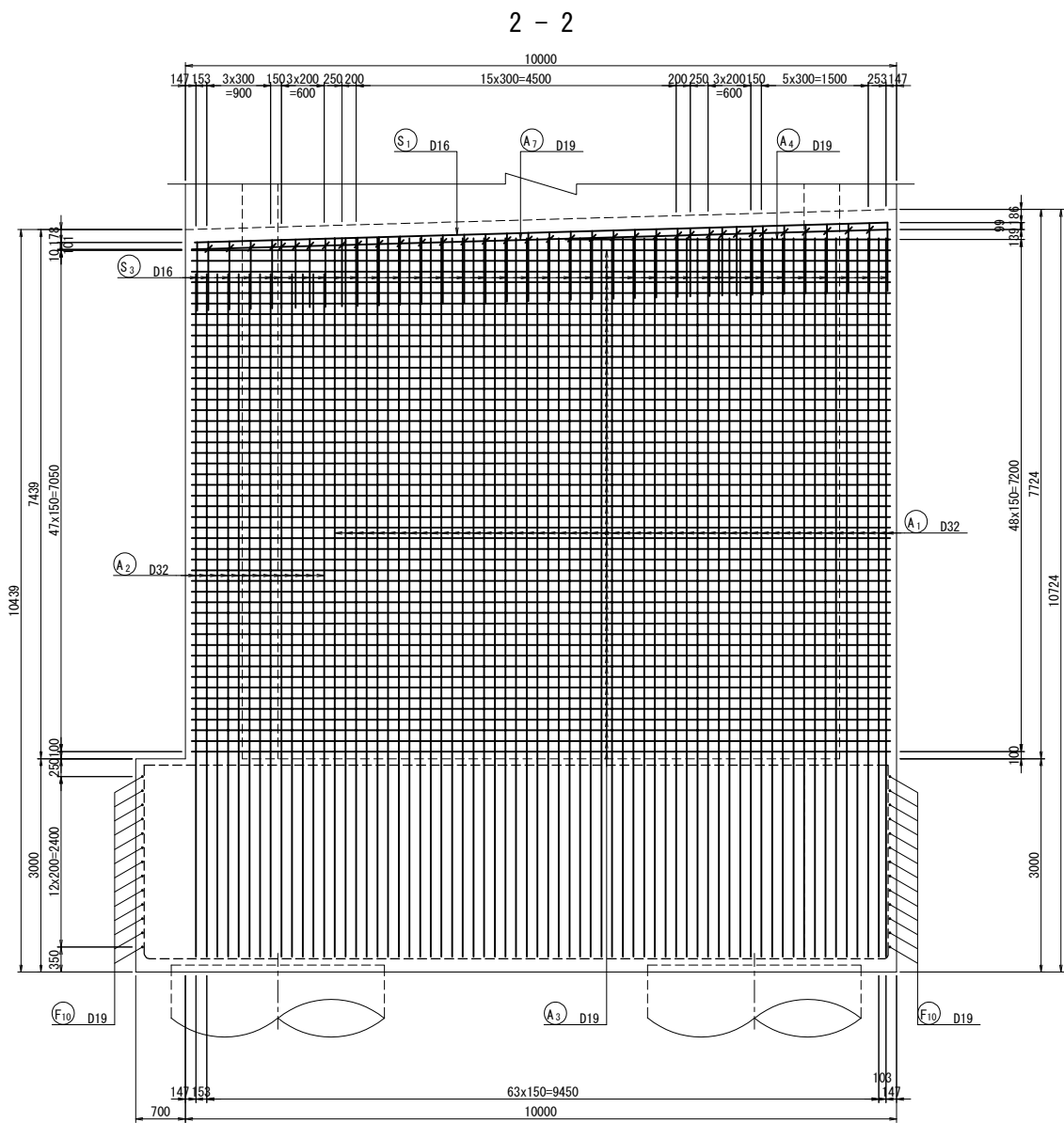
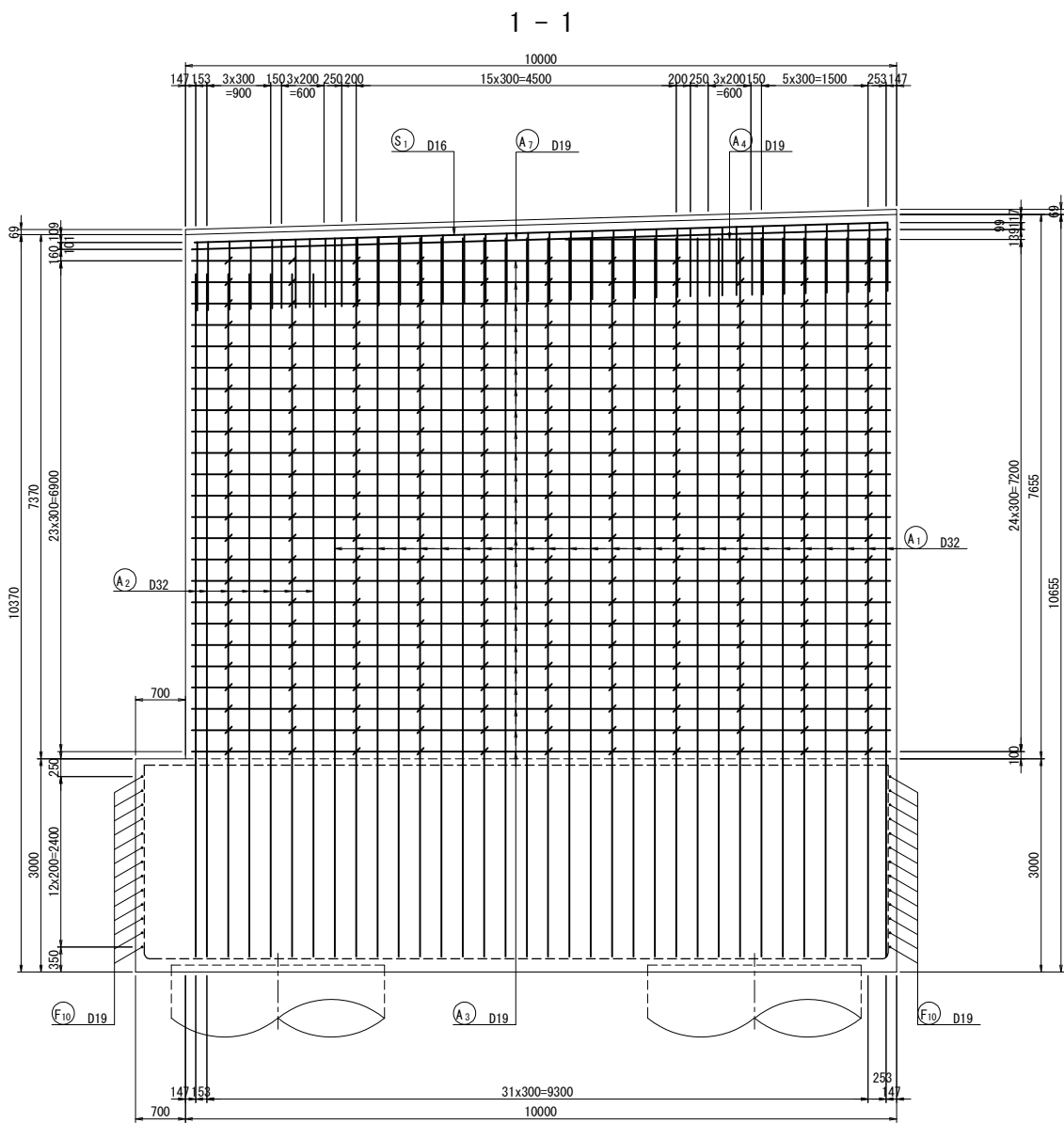
かぶり詳細図 S=1:40



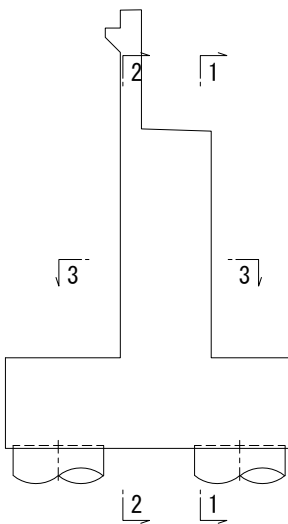
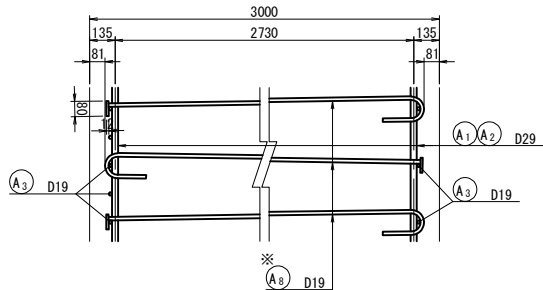
特記事項

- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路標示方法 Ⅱ 附解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してよい。
また、中間帯筋材に本定着体を用いる場合は橋束効果の実験等による効果が保障された定着体を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より適用筋材の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - ・詳細図に示す定着体はhead-bar工法であるが、他工法の採用を決定するものではない。
 - ・本定着体は、使用製品の製品と施工方法、管理方法を定着体に確認してから工事を実施すること。
- 5) ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- 6) Kは機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



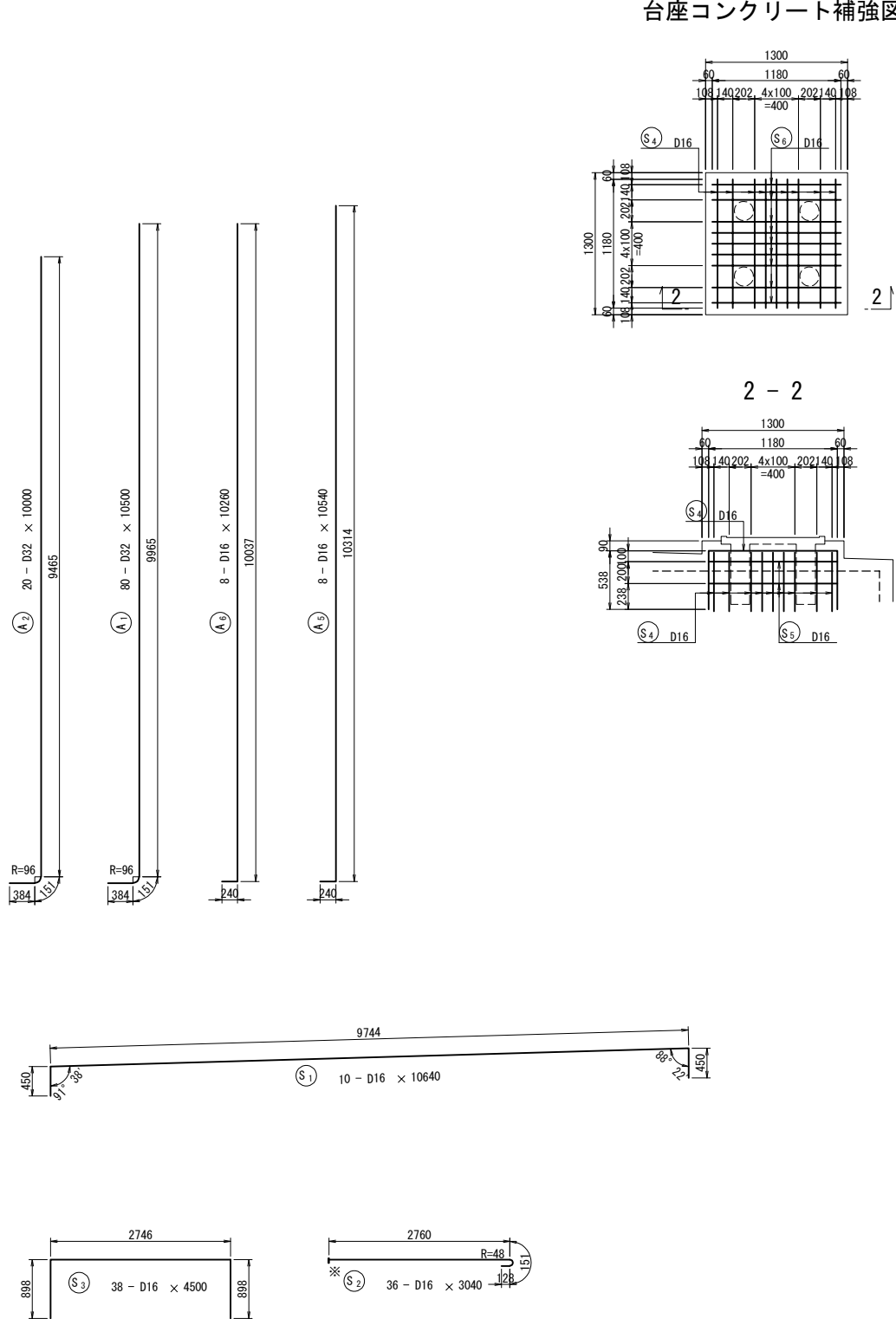
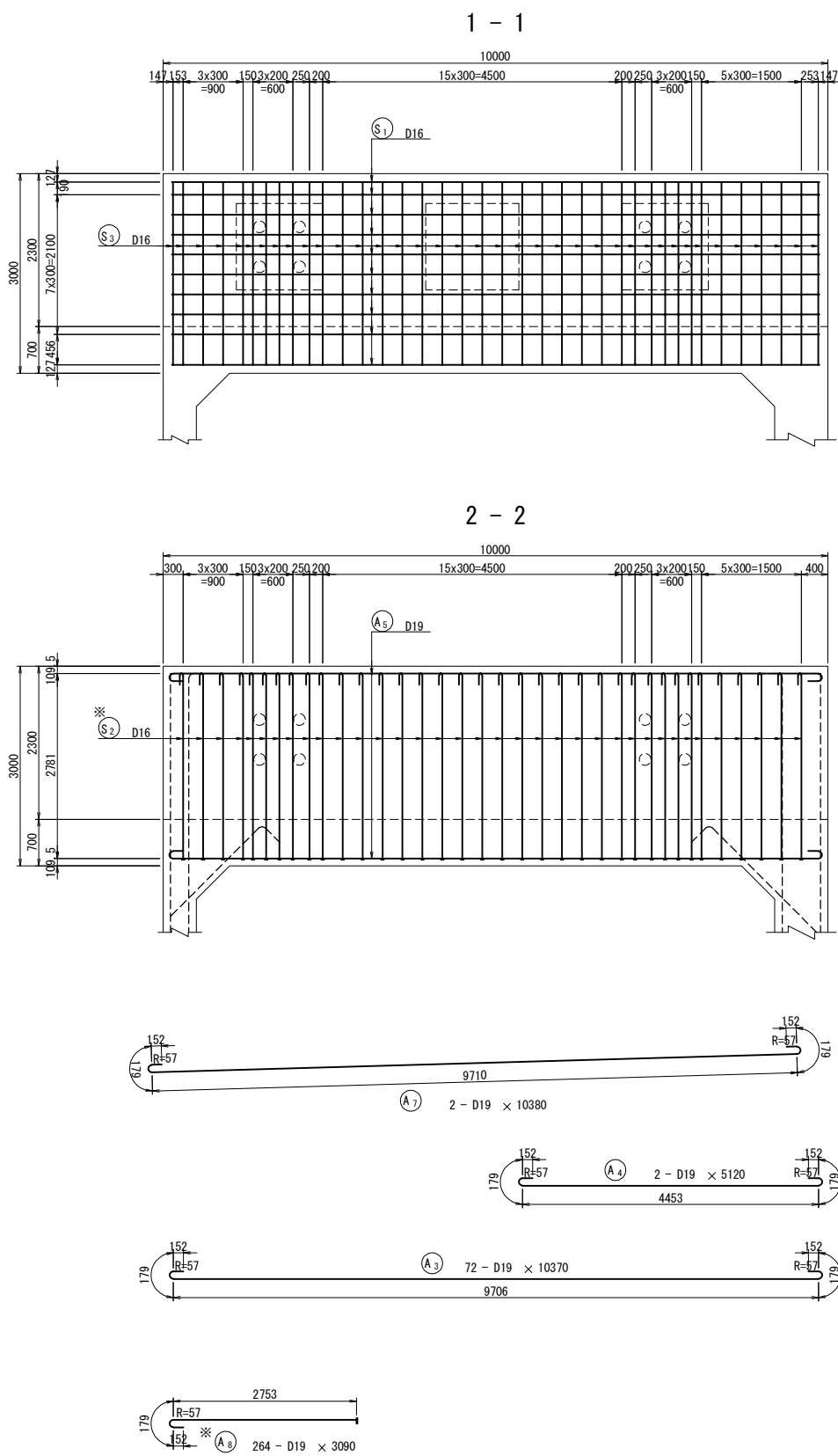
かぶり詳細図 S=1:40



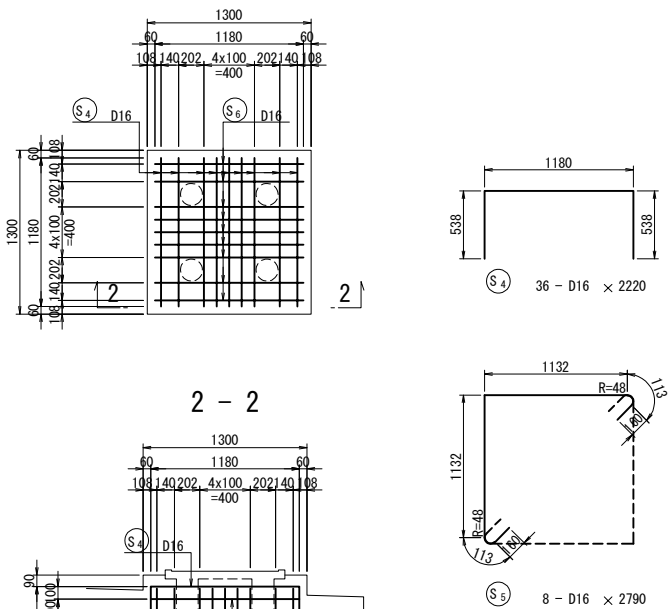
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路橋示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



台座コンクリート補強図 S=1:60



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。

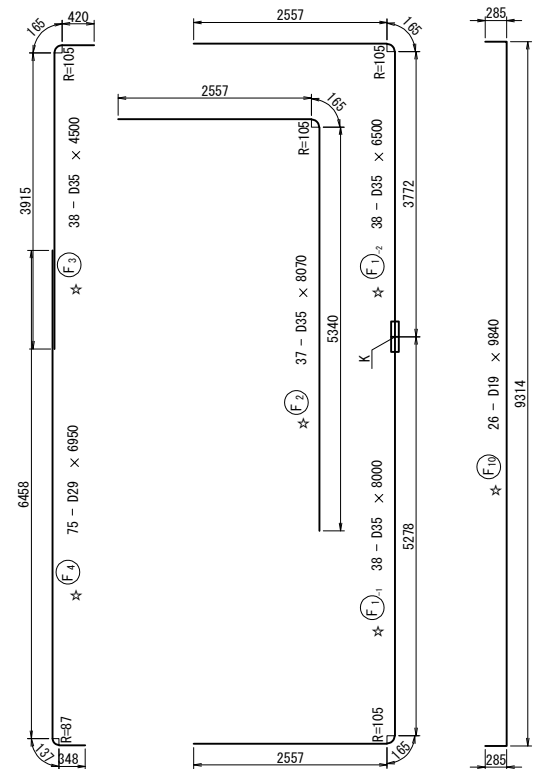
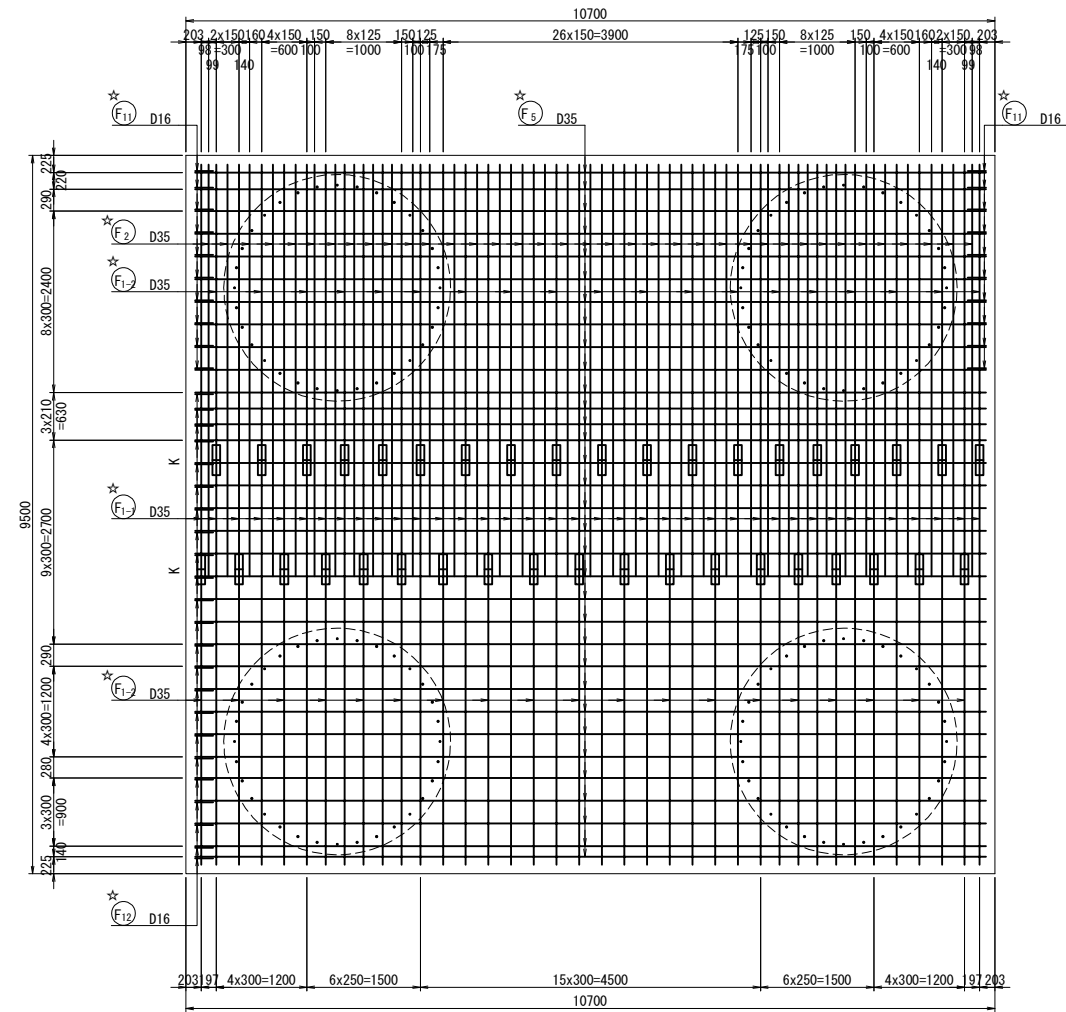
4) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

5) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

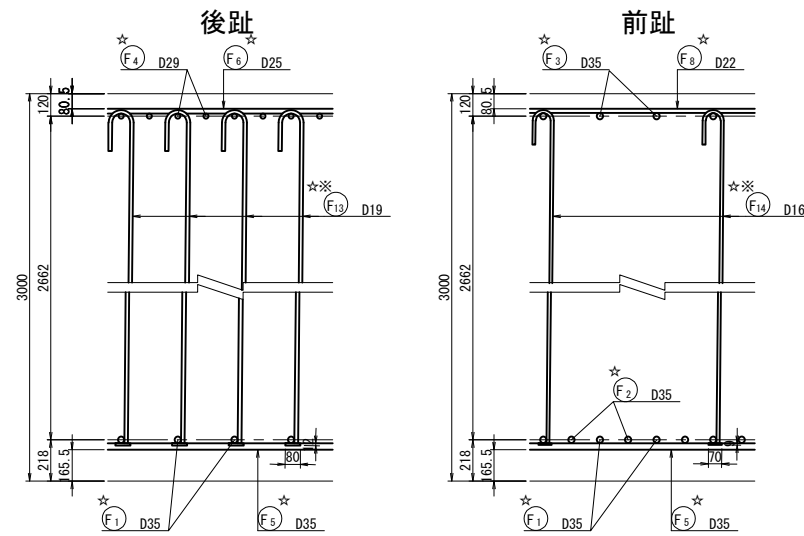
6) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A1橋台配筋図(4)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

2 - 2

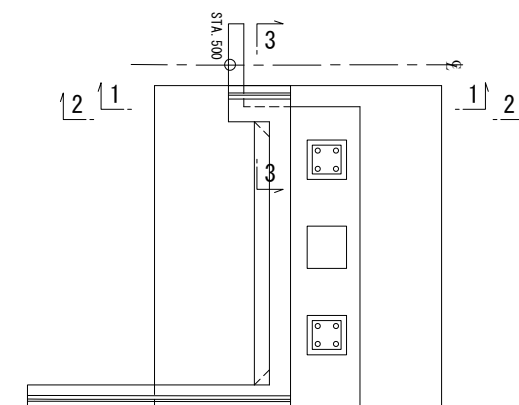
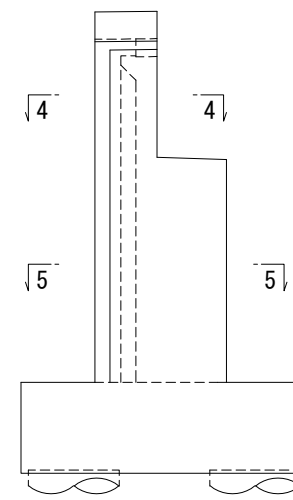
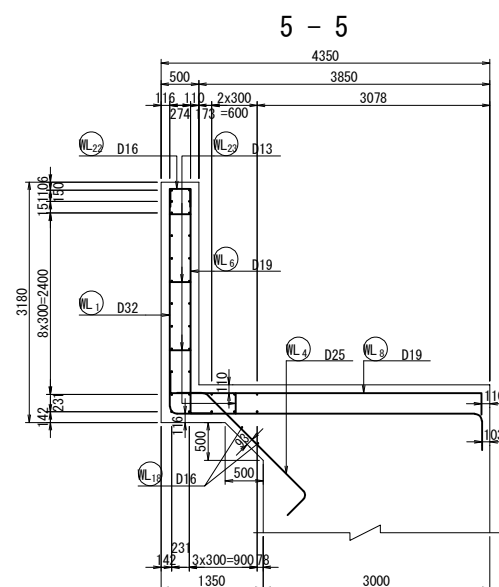
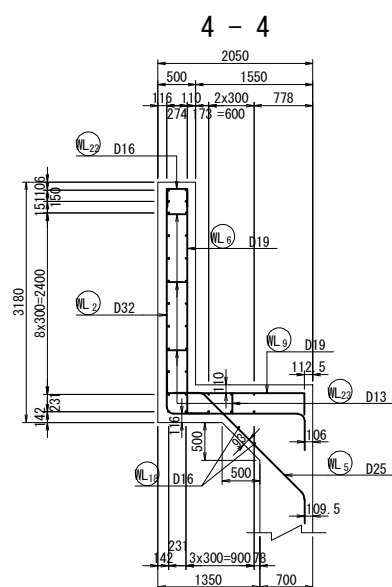
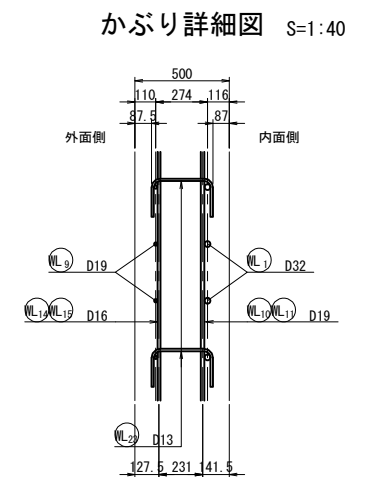
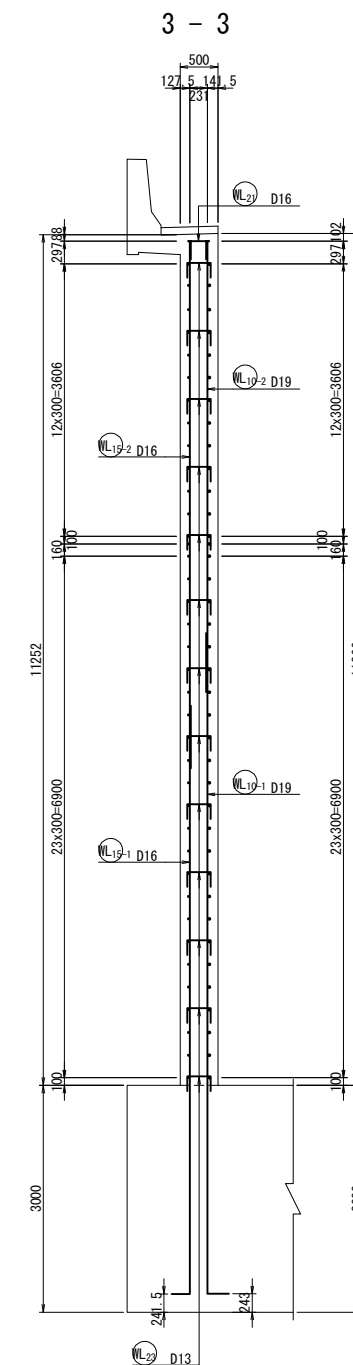
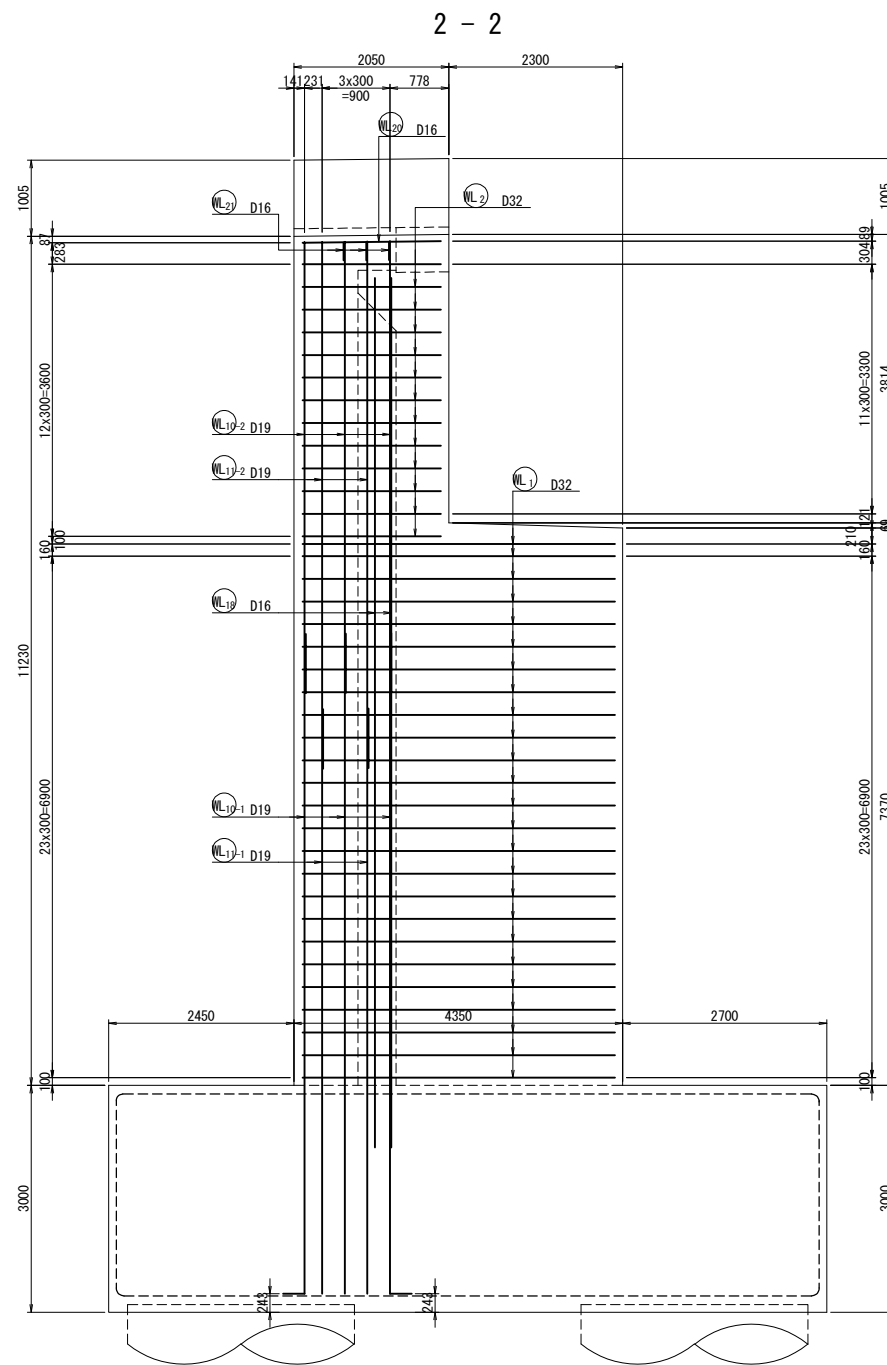
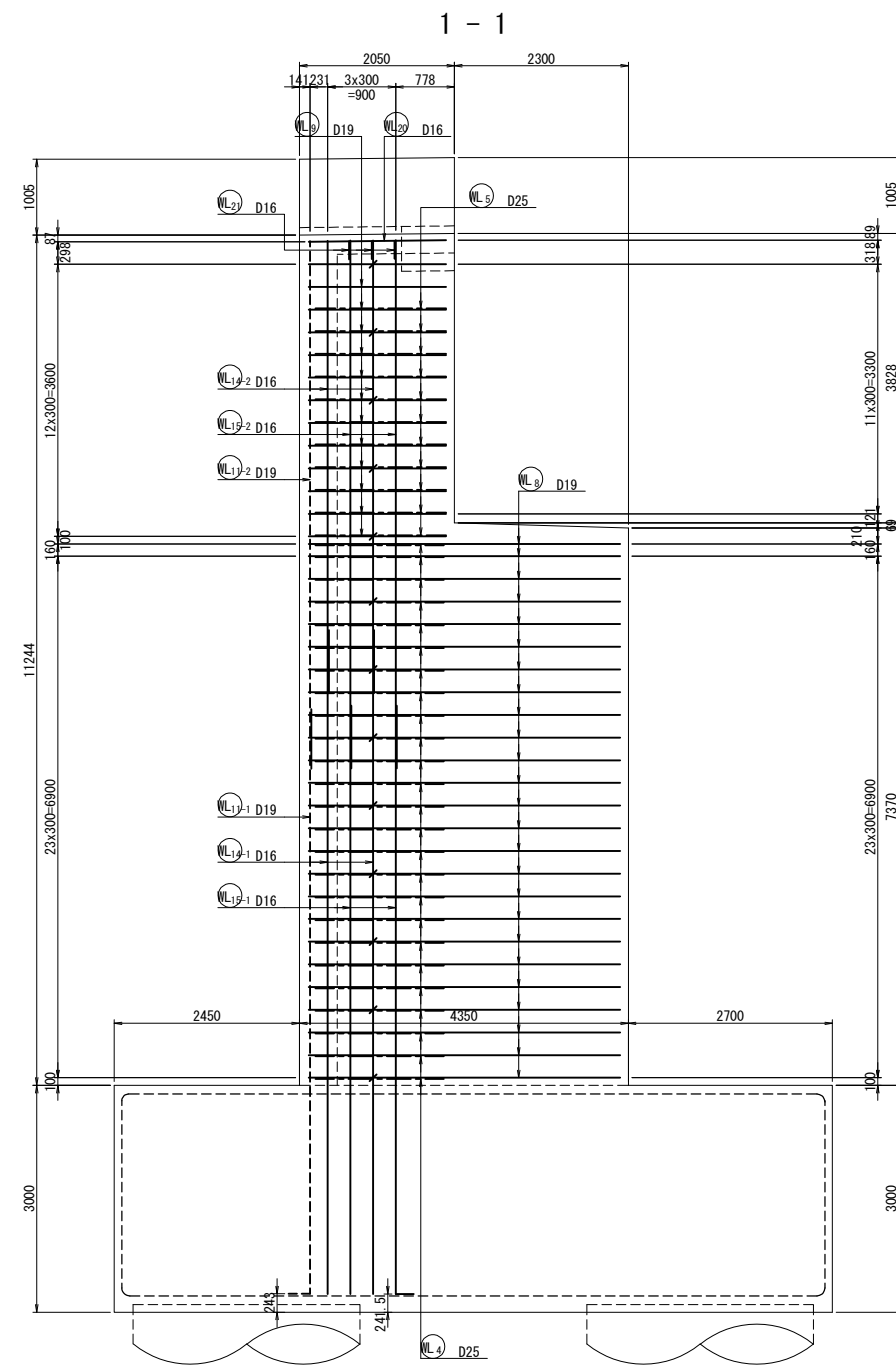


S=1 : 40

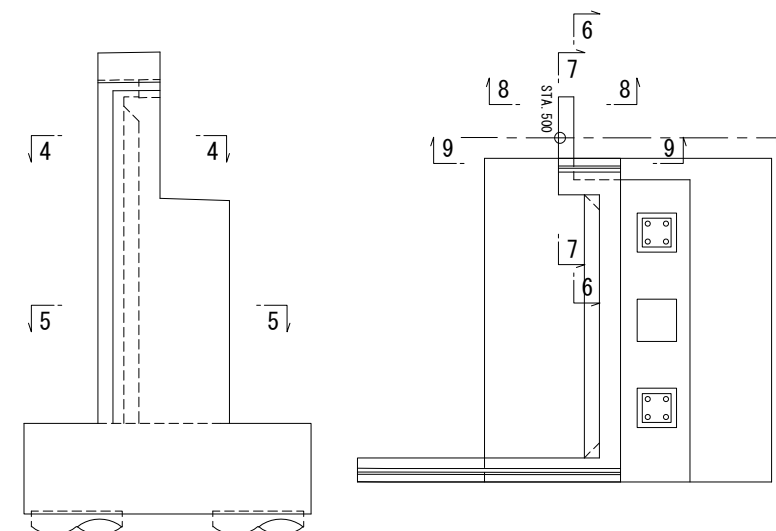
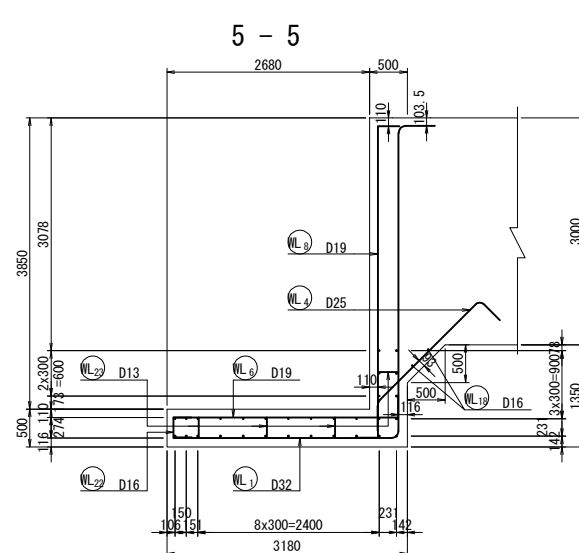
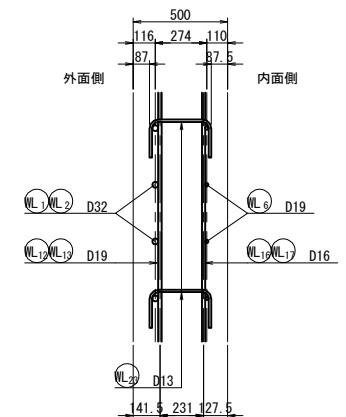
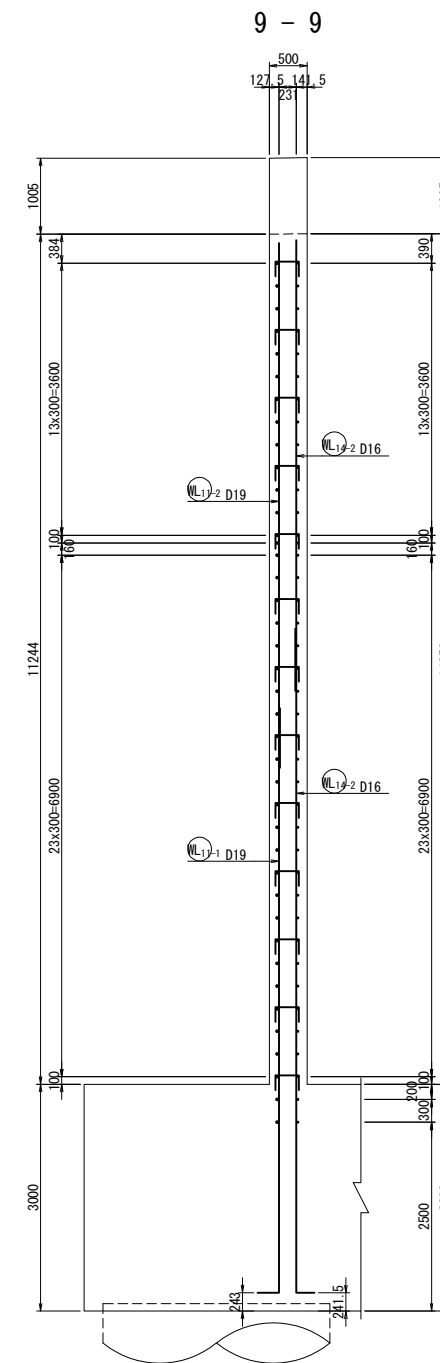
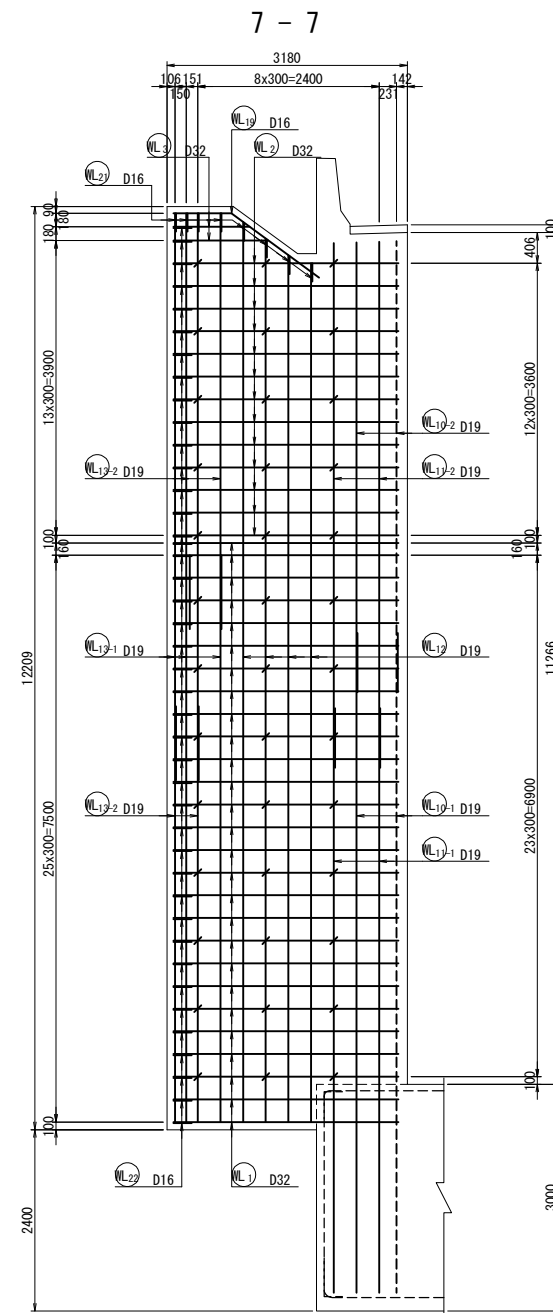


- 1) ※「Y」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあつては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路標識方式 同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- また、中間等鉄筋に本定着体を用いる場合は構拘束効果の実験による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
 - ・監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから施工を行うこと。
 - ・詳細図に示す定着体のHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 4) 機械式組手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから施工を実施すること。
- 5) ※Y表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキ系鉄筋を示す。
- 6) Kは機械式組手を示す。

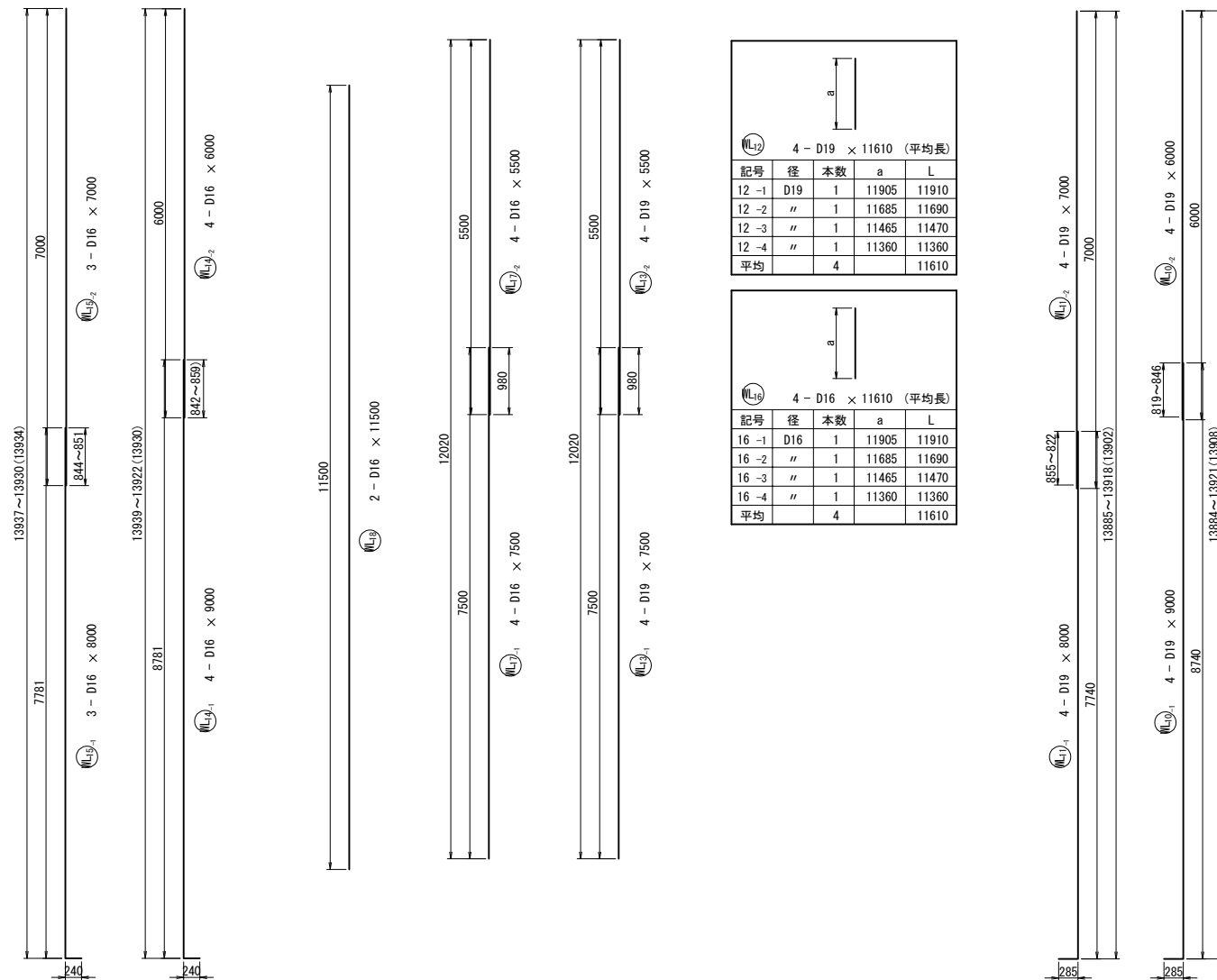
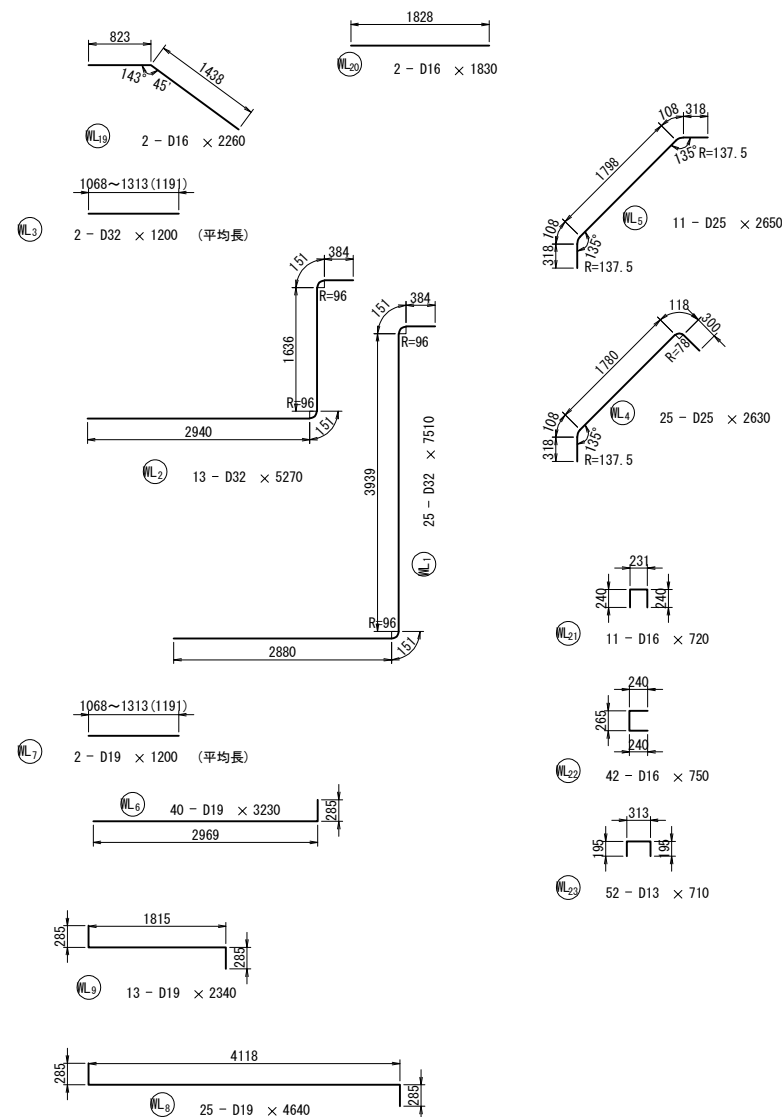
常盤自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A1橋台配筋図(5)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支 いわき工事事務所		



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(6)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事				
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (7)			
縮 尺	図 示	図面番号		
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所			

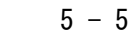


Technical drawing of a shaft with a diameter of 4 - D16 and a length of 11610. A dimension line indicates a length 'a'.

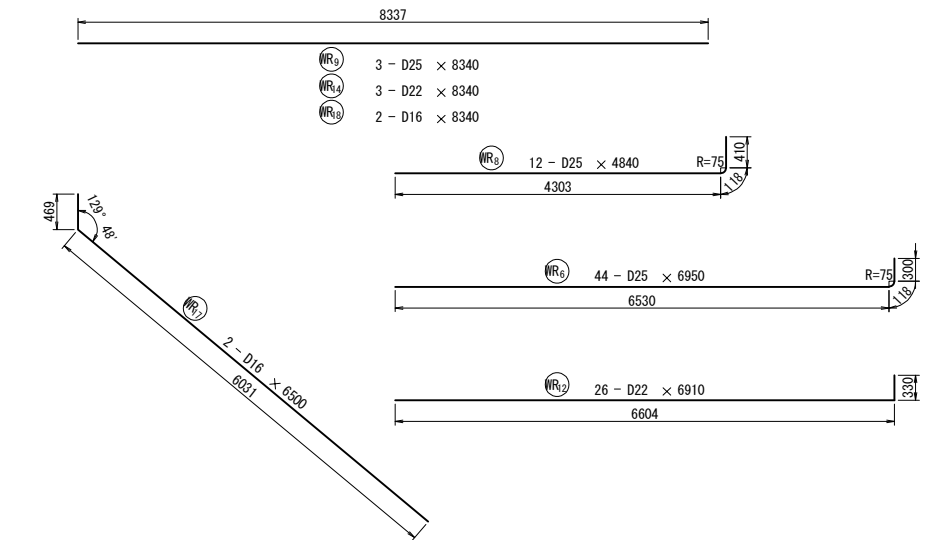
特記事項

- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路橋示方書・同解説(H29.11日本道路協会)・機械式鉄筋定着工法の設計設計ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
 - また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
 - 監理員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 詳細図面・指示定着体はHead-β工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
 - ①定着工法の手順・定着体の製品と施工方法、管理方法を監理員に確認してから工法を実施すること。
- ※ Ⅱ表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- Ⅱ K は機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (8)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



かぶり詳細図 S=1:40



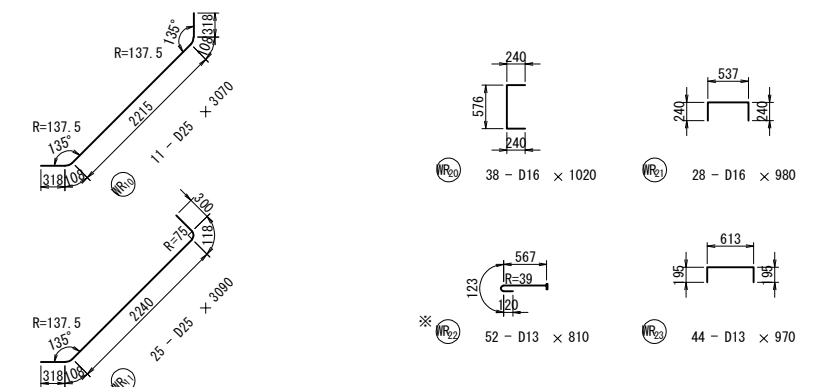
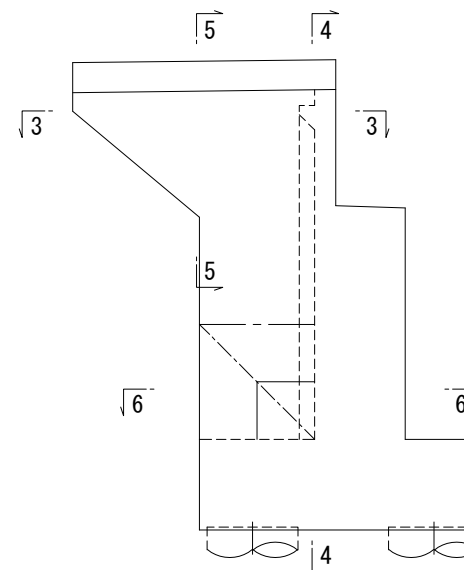
記号	径	本数	a	L
13-1	D22	1	8441	85
13-2	"	1	8081	8390
13-3	"	1	7727	8030
13-4	"	1	7361	7670
13-5	"	1	7001	7310
13-6	"	1	6641	6950
13-7	"	1	6281	6590
13-8	"	1	5921	6230
13-9	"	1	5561	5870
13-10	"	1	5201	5510
13-11	"	1	4841	5150
13-12	"	1	4481	4790
平均		12		6770



$28 - D16 \times 2210$

(平均長)

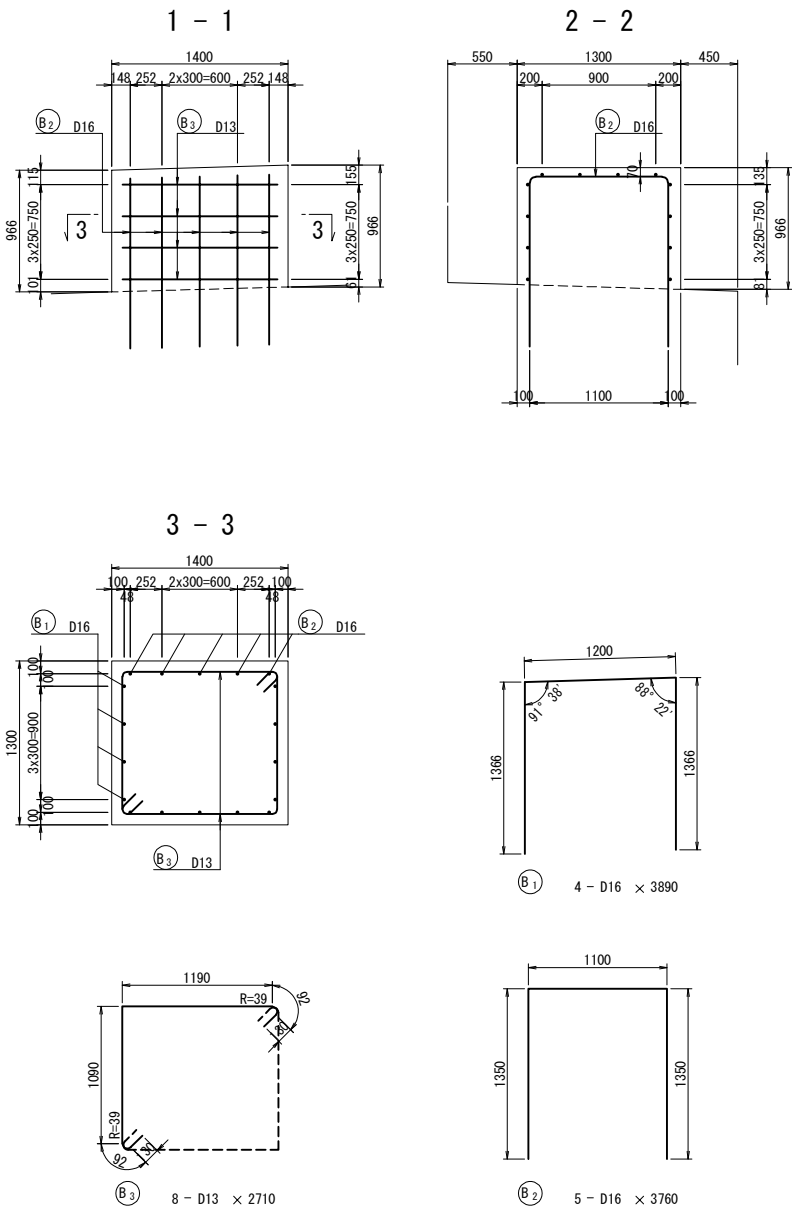
記号	径	本数	a	L
15-1	D16	2	555	570
15-2	"	2	808	810
15-3	"	2	1062	1070
15-4	"	2	1315	1320
15-5	"	2	1569	1570
15-6	"	2	1822	1830
15-7	"	2	2076	2080
15-8	"	2	2329	2330
15-9	"	2	2583	2590
15-10	"	2	2836	2840
15-11	"	2	3090	3090
15-12	"	2	3343	3350
15-13	"	2	3597	3600
15-14	"	2	3850	3850
平均		28		2210



- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあつては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路標示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は模拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
 - ・監督員より示定着工法の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - ・詳細図により示定着体はHead-Bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
 - ・機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 5) ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- 6) K印は機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(10)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

段差防止構造



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
P 1	D35	4,500	66	7.51	33.8	2,231	
P 2	D35	4,500	34	7.51	33.8	1,149	
P 3	D25	10,510	22	3.98	41.8	920	┐
P 4	D16	10,260	21	1.56	16.0	336	┐
P 5	D16	3,000	2	1.56	4.68	9	
P 6	D16	910	6	1.56	1.42	9	┐
P 7	D13	9,930	1	0.995	9.88	10	—
P 8	D13	710	336	0.995	0.706	237	┐ ※
						4,901	kg
E 1	D22	520	12	3.04	1.58	19	
E 2	D16	2,690	28	1.56	4.20	118	┐
E 3	D13	9,930	4	0.995	9.88	40	—
E 4	D13	1,280	12	0.995	1.27	15	┐
						192	kg
A 1	D32	10,500	80	6.23	65.4	5,232	┐
A 2	D32	10,000	20	6.23	62.3	1,246	┐
A 3	D19	10,370	72	2.25	23.3	1,678	┐
A 4	D19	5,120	2	2.25	11.5	23	┐
A 5	D16	10,540	8	1.56	16.4	131	┐
A 6	D16	10,260	8	1.56	16.0	128	┐
A 7	D19	10,380	2	2.25	23.4	47	┐
A 8	D19	3,090	264	2.25	6.95	1,835	┐ ※
						10,320	kg
S 1	D16	10,640	10	1.56	16.6	166	┐
S 2	D16	3,040	36	1.56	4.74	171	┐ ※
S 3	D16	4,500	38	1.56	7.02	267	┐
S 4	D16	2,220	36	1.56	3.46	125	┐
S 5	D16	2,790	8	1.56	4.35	35	┐
						764	kg
☆ F 1-1	D35	8,000	38	7.51	60.1	2,284	┐ [38]
☆ F 1-2	D35	6,500	38	7.51	48.8	1,854	┐
☆ F 2	D35	8,070	37	7.51	60.6	2,242	┐
☆ F 3	D35	4,500	38	7.51	33.8	1,284	┐
☆ F 4	D29	6,950	75	5.04	35	2,625	┐
☆ F 5	D35	11,420	33	7.51	85.8	2,831	┐
☆ F 6	D25	11,160	14	3.98	44.4	622	┐
☆ F 7	D25	1,740	8	3.98	6.93	55	┐
☆ F 8	D22	11,080	10	3.04	33.7	337	┐
☆ F 9	D19	11,040	26	2.25	24.8	645	┐
☆ F 10	D19	9,840	26	2.25	22.1	575	┐
☆ F 11	D16	3,160	20	1.56	4.93	99	┐
☆ F 12	D16	3,150	23	1.56	4.91	113	┐
☆ F 13	D19	2,980	195	2.25	6.71	1,308	┐ ※
☆ F 14	D16	2,940	36	1.56	4.59	165	┐ ※
						17,039	kg
WL 1	D32	7,510	25	6.23	46.8	1,170	┐
WL 2	D32	5,270	13	6.23	32.8	426	┐
WL 3	D32	1,200	2	6.23	7.48	15	— (平均長)
WL 4	D25	2,630	25	3.98	10.5	263	┐
WL 5	D25	2,650	11	3.98	10.5	116	┐
WL 6	D19	3,230	40	2.25	7.27	291	┐
WL 7	D19	1,200	2	2.25	2.70	5	— (平均長)
WL 8	D19	4,640	25	2.25	10.4	260	┐
WL 9	D19	2,340	13	2.25	5.27	69	┐
WL 10-1	D19	9,000	4	2.25	20.3	81	┐
WL 10-2	D19	6,000	4	2.25	13.5	54	
WL 11-1	D19	8,000	4	2.25	18.0	72	┐
WL 11-2	D19	7,000	4	2.25	15.8	63	
WL 12	D19	11,610	4	2.25	26.1	104	(平均長)
WL 13-1	D19	7,500	4	2.25	16.9	68	
WL 13-2	D19	5,500	4	2.25	12.4	50	
WL 14-1	D16	9,000	4	1.56	14.0	56	┐
WL 14-2	D16	6,000	4	1.56	9.36	37	
WL 15-1	D16	8,000	3	1.56	12.5	38	┐
WL 15-2	D16	7,000	3	1.56	10.9	33	
WL 16	D16	11,610	4	1.56	18.1	72	(平均長)
WL 17-1	D16	7,500	4	1.56	11.7	47	
WL 17-2	D16	5,500	4	1.56	8.58	34	
WL 18	D16	11,500	2	1.56	17.9	36	
WL 19	D16	2,260	2	1.56	3.53	7	┐
WL 20	D16	1,830	2	1.56	2.85	6	—
WL 21	D16	720	11	1.56	1.12	12	
WL 22	D16	750	42	1.56	1.17	49	┐
WL 23	D13	710	52	0.995	0.706	37	┐
						3,571	kg

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
WR 1-1	D29	9,000	7	5.04	45.4	318	┐ [7]
WR 1-2	D29	5,570	7	5.04	28.1	197	
WR 2-1	D29	8,000	6	5.04	40.3	242	┐ [6]
WR 2-2	D29	6,570	6	5.04	33.1	199	
WR 3	D29	8,000	5	5.04	40.3	202	
WR 4-1	D25	9,000	6	3.98	35.8	215	┐
WR 4-2	D25	6,500	6	3.98	25.9	155	
WR 5-1	D25	8,000	7	3.98	31.8	223	┐
WR 5-2	D25	7,500	7	3.98	29.9	209	
WR 6	D25	6,950	44	3.98	27.7	1,219	┐
WR 7	D25	6,920	12	3.98	27.5	330	┐ (平均長)
WR 8	D25	4,840	12	3.98	19.3	232	┐
WR 9	D25	8,340	3	3.98	33.2	100	—
WR 10	D25	3,070	11	3.98	12.2	134	┐
WR 11	D25	3,090	25	3.98	12.3	308	┐
WR 12	D22	6,910	26	3.04	21.0	546	┐
WR 13	D22	6,770	12	3.04	20.6	247	┐ (平均長)
WR 14	D22	8,340	3	3.04	25.4	76	—
WR 15	D16	2,210	28	1.56	3.45	97	(平均長)
WR 16	D16	8,500	2	1.56	13.3	27	
WR 17	D16	6,500	2	1.56	10.1	20	┐
WR 18	D16	8,340	2	1.56	13.0	26	—
WR 19	D16	11,500	2	1.56	17.9	36	
WR 20	D16	1,020	38	1.56	1.59	60	┐
WR 21	D16	980	28	1.56	1.53	43	┐
WR 22	D13	810	52	0.995	0.806	42	┐ ※
WR 23	D13	970	44	0.995	0.965	42	┐
						5,545	kg
KL 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	┐
KL 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	┐
KL 3	D16	1,350	17	1.56	2.11	36	┐
KL 4	D16	1,230	17	1.56	1.92	33	┐
KL 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	┐
KL 6	D13	1,200	52	0.995	1.19	62	┐
KL 7	D13	1,150	52	0.995	1.14	59	┐
KL 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	┐
KL 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	—
KL 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	—
KL 11	D13	1,050	10	0.995	1.04	10	┐
						465	kg
KR 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	┐
KR 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	┐
KR 3	D16	1,750	17	1.56	2.73	46	┐
KR 4	D16	1,300	17	1.56	2.03	35	┐
KR 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	┐
KR 6	D13	1,470	52	0.995	1.46	76	┐
KR 7	D13	1,190	52	0.995	1.18	61	┐
KR 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	—
KR 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	—
KR 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	—
KR 11	D13	1,050	10	0.995	1.04	10	┐
						493	kg
B 1	D16	3,890	4	1.56	6.07	24	┐
B 2	D16	3,760	5	1.56	5.87	29	┐
B 3	D13	2,710	8	0.995	2.70	22	┐
						75	kg

機械式鉄筋定着工法数量表（普通鉄筋）

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	—	—	—	—	—	—
D16	—	—	36	—	—	—
D19	—	—	195	—	—	—
D22	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	—	—	—	—
小計	—	—	231	—	—	—
合計						

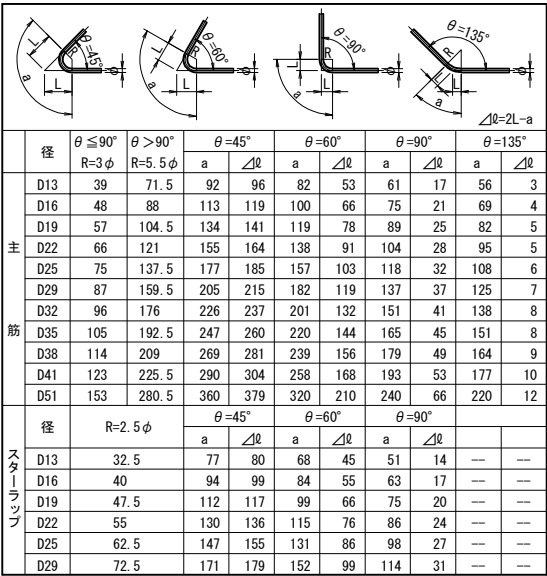
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路標示方書・同解説（H29.11日本道路協会）
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- Kは機械式継手を示す。

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A+B+C
普通鉄筋	D51	— kg	— kg	— kg
	D41	— kg	— kg	— kg
	D38	— kg	— kg	— kg
	D35	6357 kg	4138 kg (38)	10495 kg
	D32	— kg	— kg	— kg
	D29	2625 kg	— kg	2625 kg
	D25	677 kg	— kg	677 kg
	D22	337 kg	— kg	337 kg
	D19	1220 kg	— kg	1220 kg
	D16	212 kg	— kg	212 kg
	D13	— kg	— kg	— kg
合計	11428 kg	4138 kg	1473 kg	17039 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋	D51	— kg	— kg	— kg
	D41	— kg	— kg	— kg
	D38	— kg	— kg	— kg
	D35	3380 kg	— kg	3380 kg
	D32	8089 kg	— kg	8089 kg
	D29	202 kg	956 kg (13)	1158 kg
	D25	4424 kg	— kg	4424 kg
	D22	888 kg	— kg	888 kg
	D19	2865 kg	— kg	2865 kg
	D16	2373 kg	— kg	2373 kg
	D13	864 kg	— kg	864 kg
合計	23085 kg	956 kg	2285 kg	26326 kg
総質量	34513 kg	5094 kg	3758 kg	43365 kg

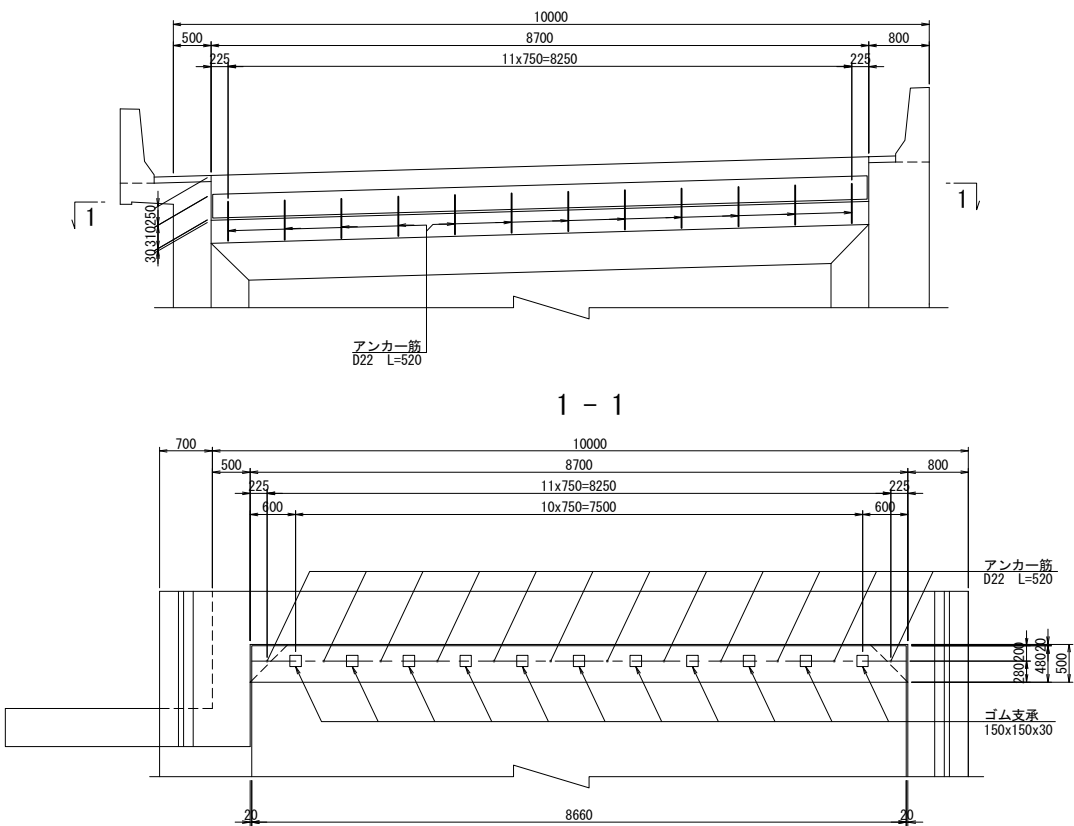
機械式鉄筋定着工法数量表（エポキシ鉄筋）

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	388	—	—	—	—	—
D16	—	—	—	36	—	—
D19	—	—	—	264	—	—
D22	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	—	—	—	—
小計	388	—	—	300	—	—
合計						



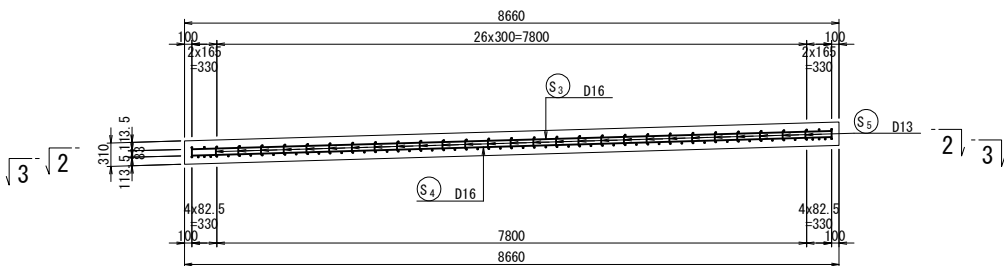
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A1橋台配筋図(13)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

受台部横断図



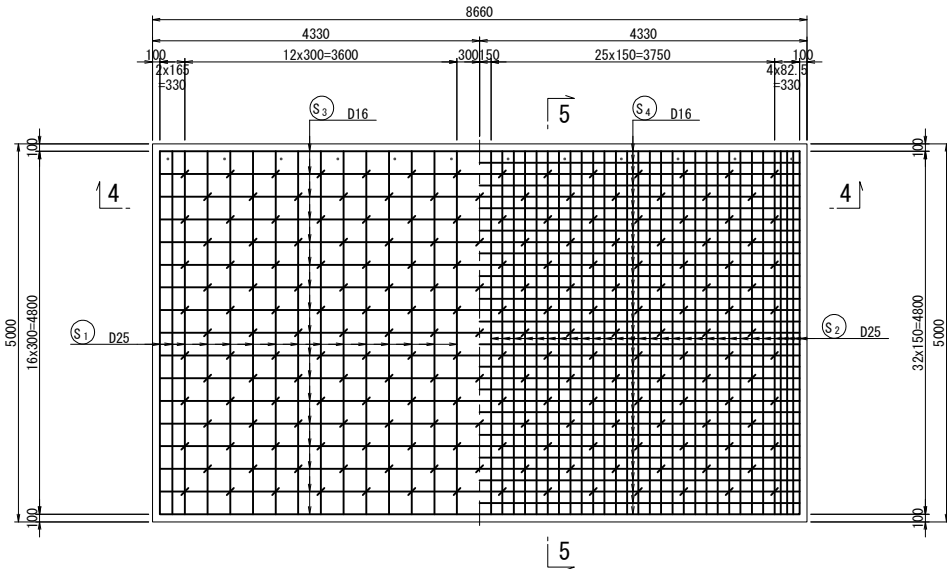
1 - 1

4 - 4

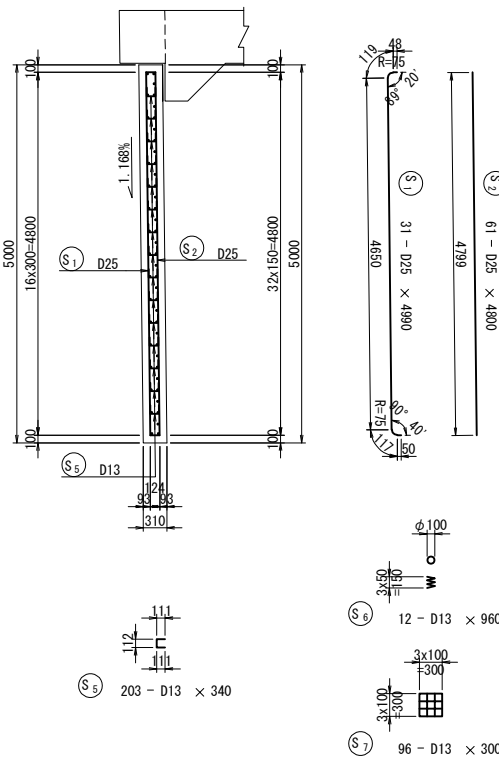


2 - 2

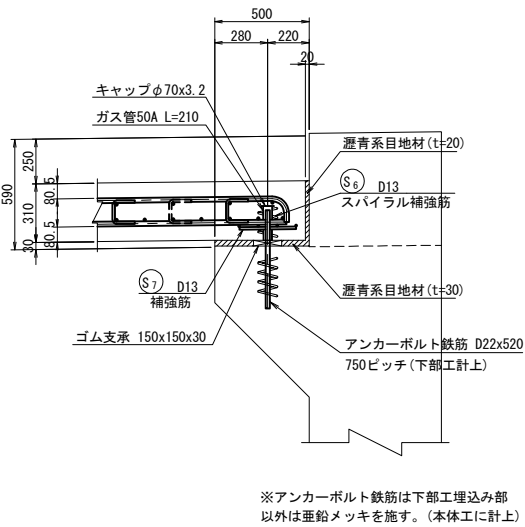
3 - 3



5 - 5



受台部詳細図 S=1:40

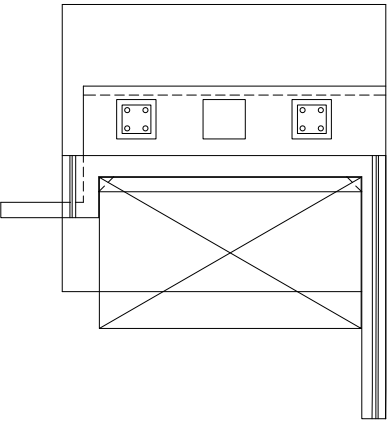


※アンカーボルト鉄筋は下部工埋込み部
以外は垂鉛メッキを施す。(本体工に計上)

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要	備考
S 1	D25	4,990	31	3.98	19.86	616	—	
S 2	D25	4,800	61	3.98	19.10	1,165	┌	
S 3	D16	8,590	17	1.56	13.40	228	—	
S 4	D16	8,470	33	1.56	13.21	436	┌	
S 5	D13	340	203	0.995	0.34	69	└	
S 6	D13	960	12	0.995	0.96	12	≡	
S 7	D13	300	96	0.995	0.30	29	—	
2,555 kg								
(SD345) D13 110 kg								
(SD345) D16 664 kg								
(SD345) D25 1,781 kg								
合計 2,555 kg								

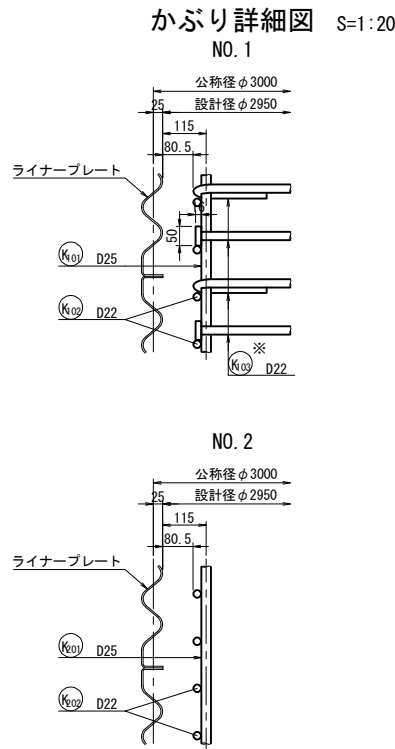
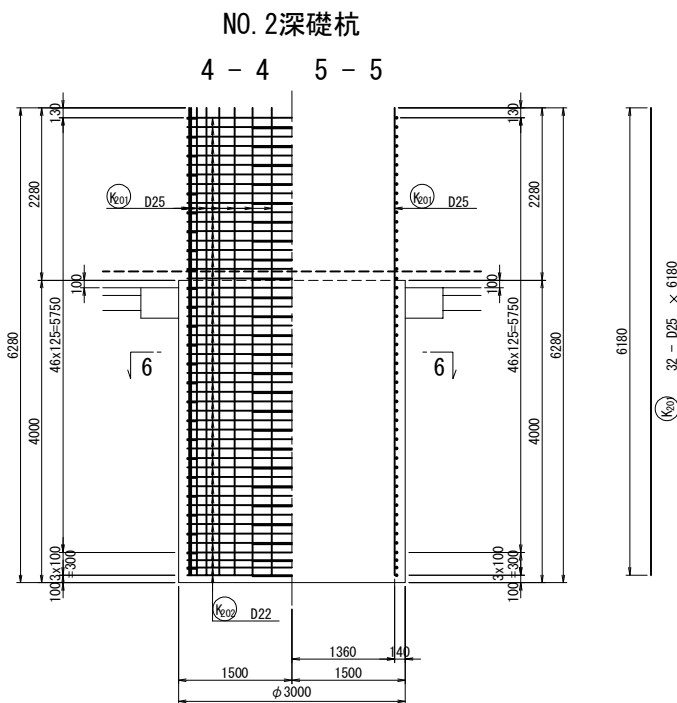
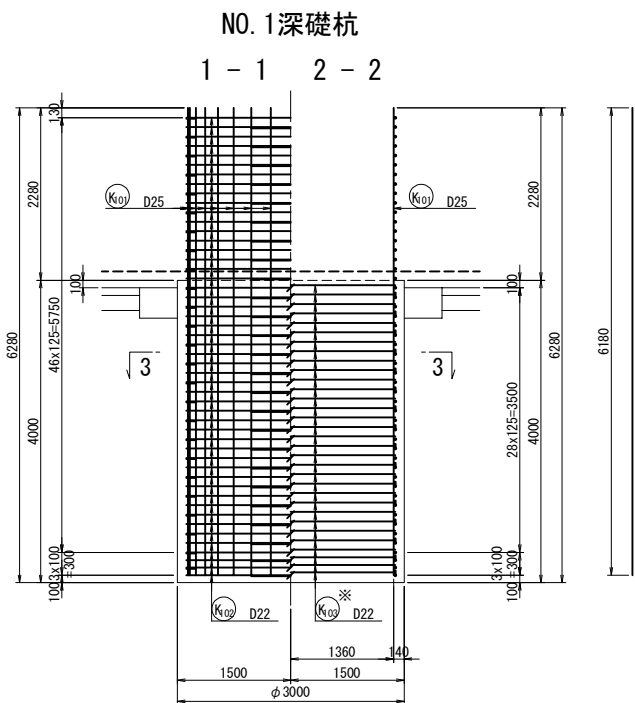
位置図



下部工計上以外施工対象外(舗装工事施工)

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台踏掛版配筋図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(1) S=1:100
< φ3000 杭長 L=4.0m, N=2本 >

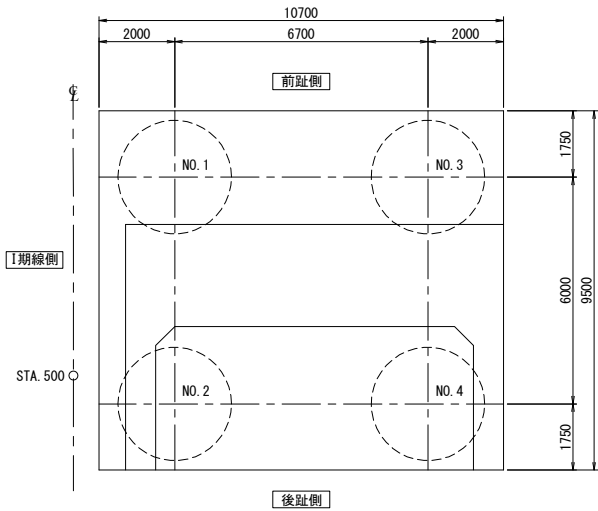
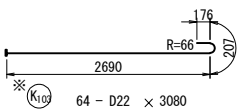
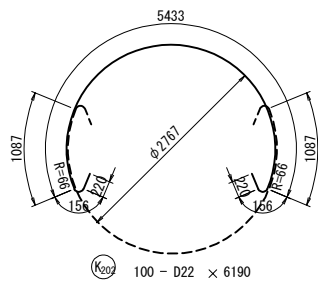
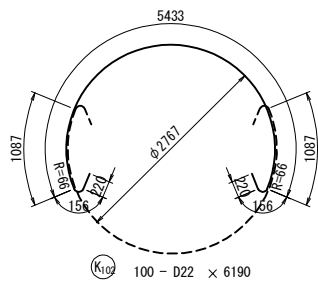
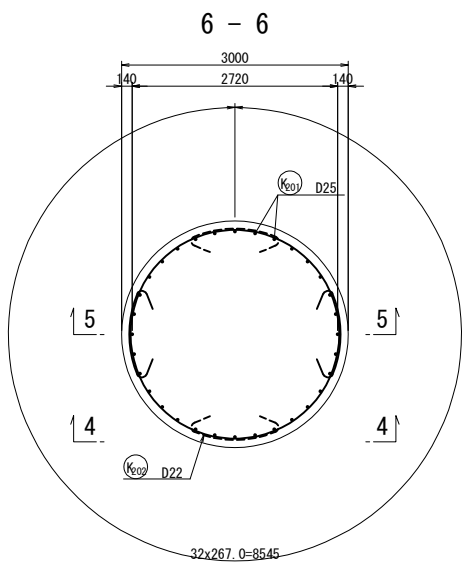
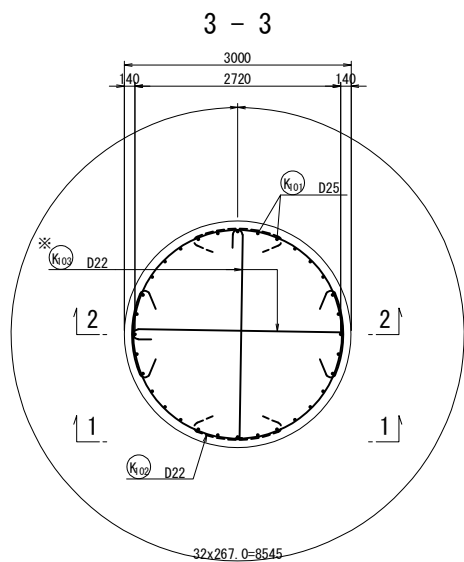


鉄筋表

(杭1本当り質量)						
記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
NO.1深礎杭						
K 101	D25	6,180	32	3.98	24.6	787
K 102	D22	6,190	100	3.04	18.8	1,880
K 103	D22	3,080	64	3.04	9.36	599
					3,266 kg	
					鉄筋A	鉄筋C
(SD345) D22					1,880 kg	599 kg
(SD345) D25					787 kg	
合計					2,667 kg	599 kg
NO.2深礎杭						
K 201	D25	6,180	32	3.98	24.6	787
K 202	D22	6,190	100	3.04	18.8	1,880
					2,667 kg	
					鉄筋A	鉄筋C
(SD345) D22					1,880 kg	
(SD345) D25					787 kg	
合計					2,667 kg	

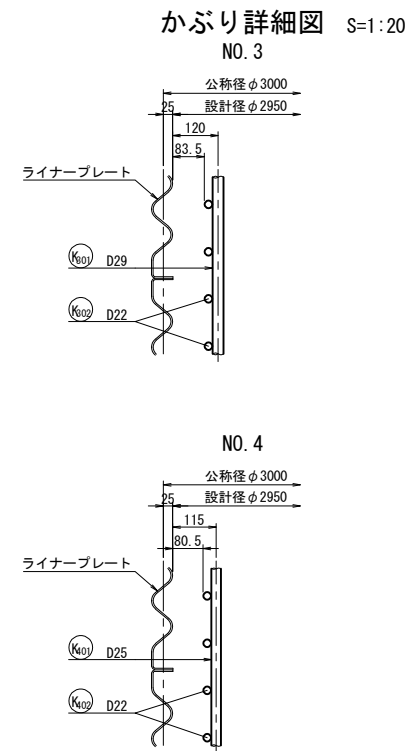
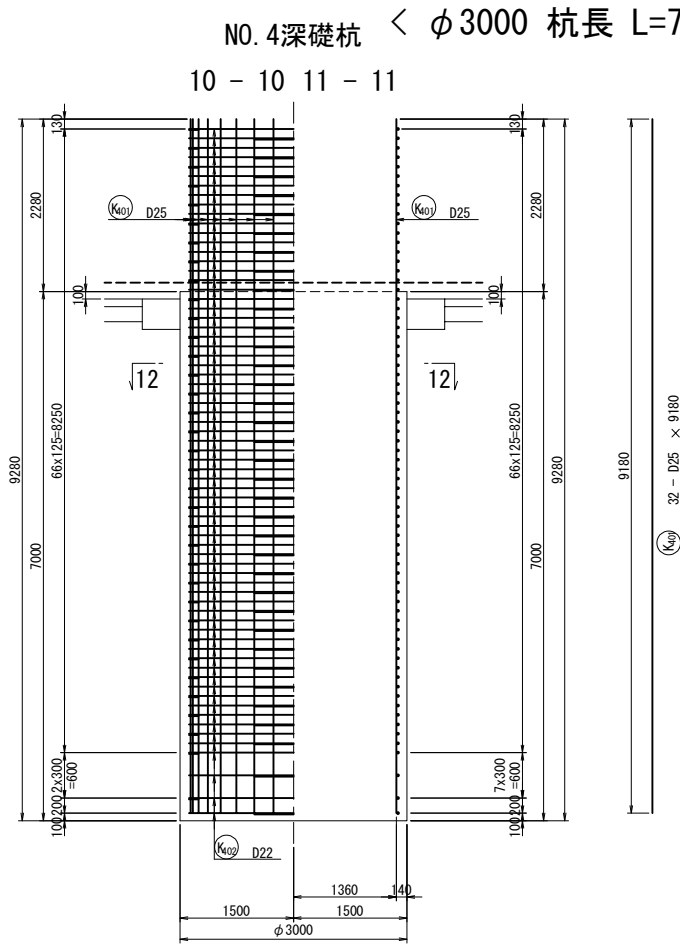
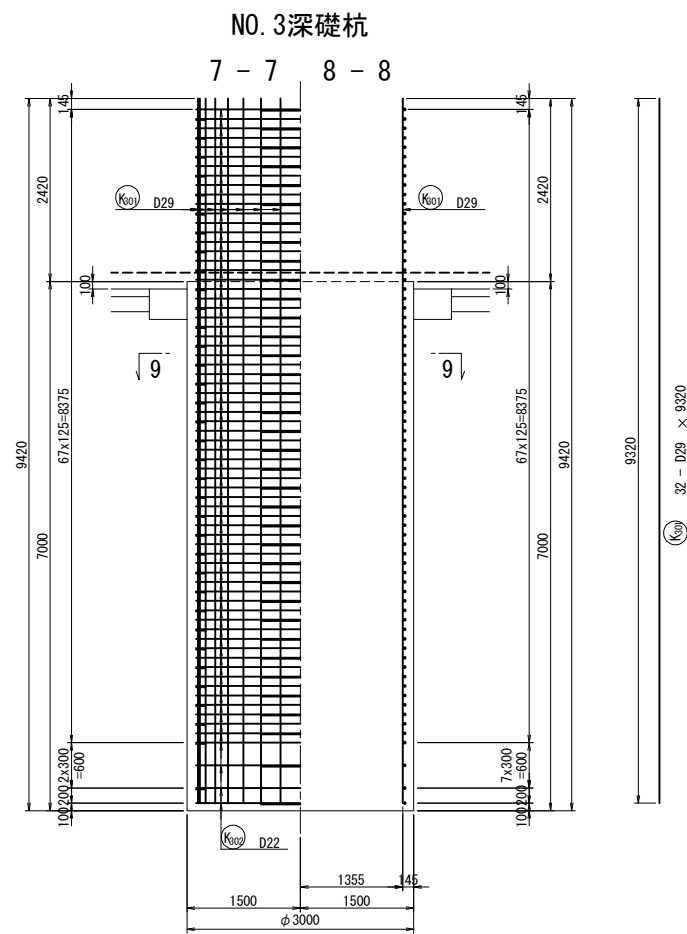
機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	---	---	---
D19	---	---	---	---	---	---
D22	---	---	---	64	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	---	64	---	---
合計	64箇所					



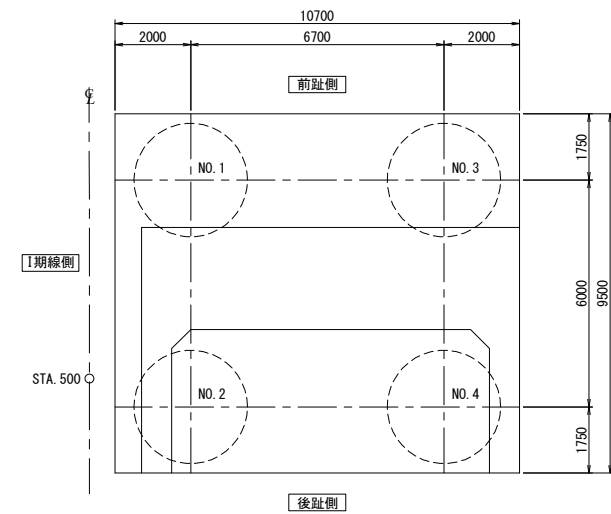
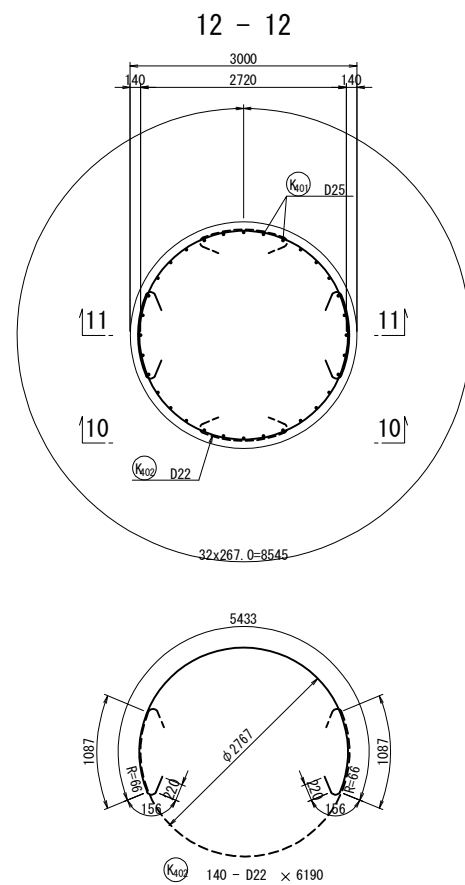
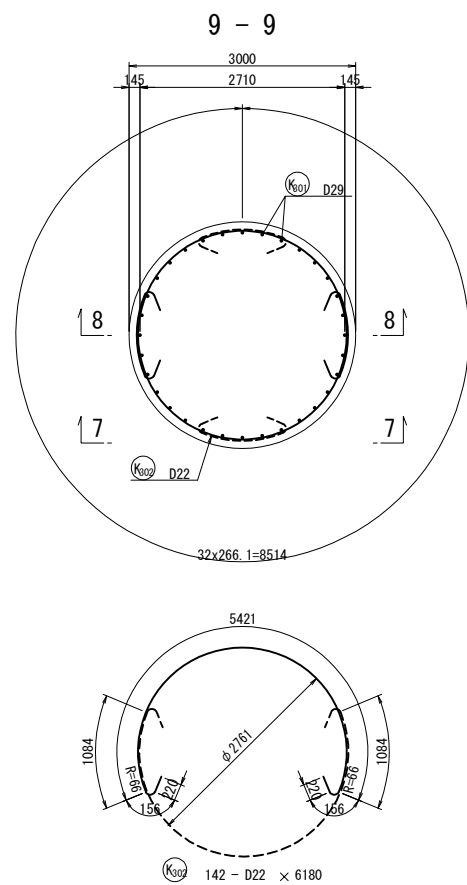
特記事項
機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (H24. 3日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
3. 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の確認を得てから工事を行うこと。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



鉄筋表

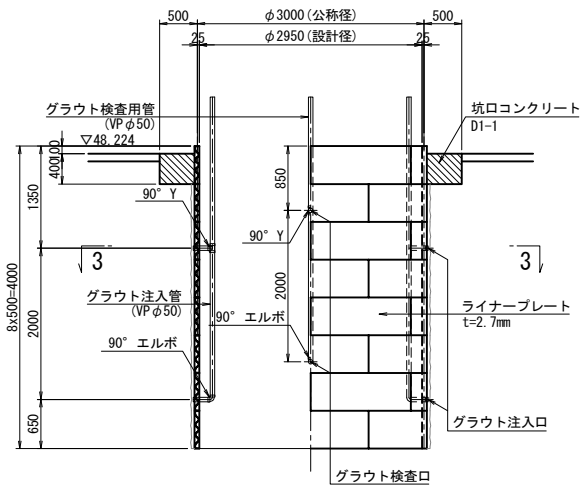
(杭1本当り質量)						
記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
NO.3深礎杭						
K 301	D29	9,320	32	5.04	47.0	1,504
K 302	D22	6,180	142	3.04	18.8	2,670
						4,174 kg
				鉄筋A	鉄筋C	
				(SD345) D22		2,670 kg
				(SD345) D29		1,504 kg
				合計		4,174 kg
NO.4深礎杭						
K 401	D25	9,180	32	3.98	36.5	1,168
K 402	D22	6,190	140	3.04	18.8	2,632
						3,800 kg
				鉄筋A	鉄筋C	
				(SD345) D22		2,632 kg
				(SD345) D25		1,168 kg
				合計		3,800 kg



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

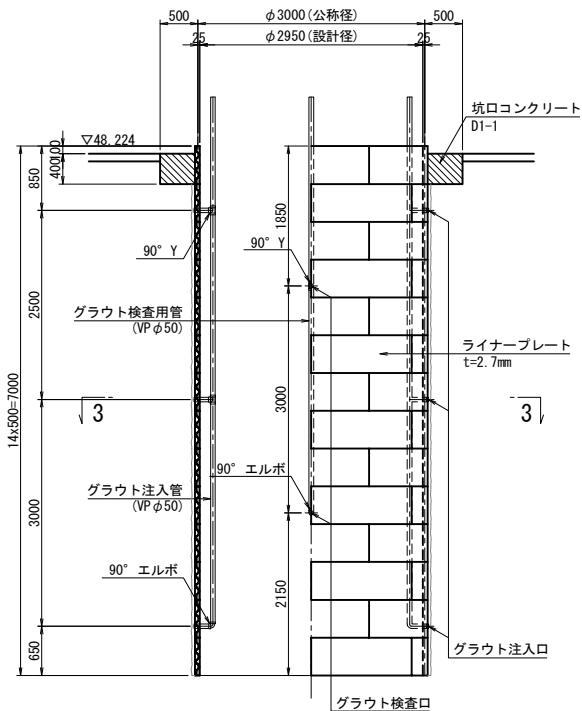
NO. 1, 2深礎杭

1 - 1 2 - 2

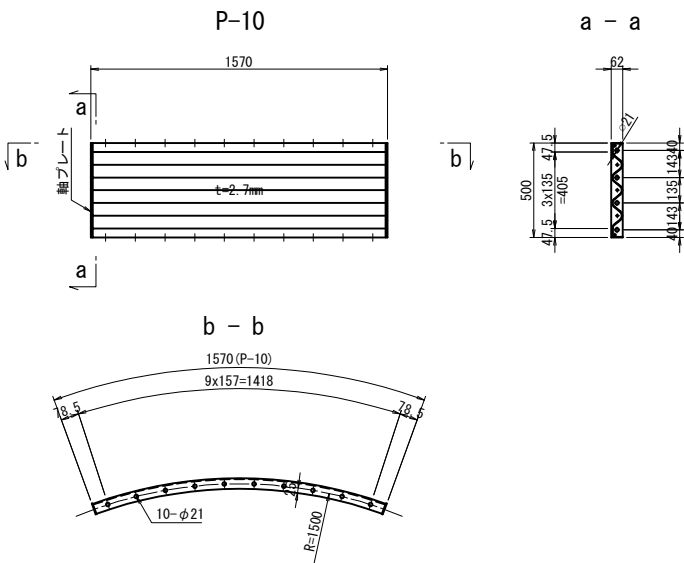


NO. 3, 4深礎杭

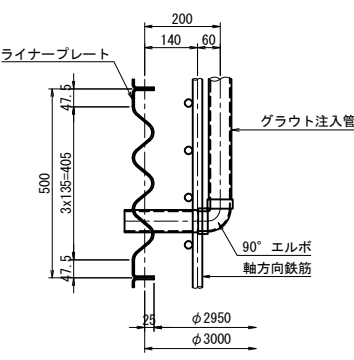
1 - 1 2 - 2



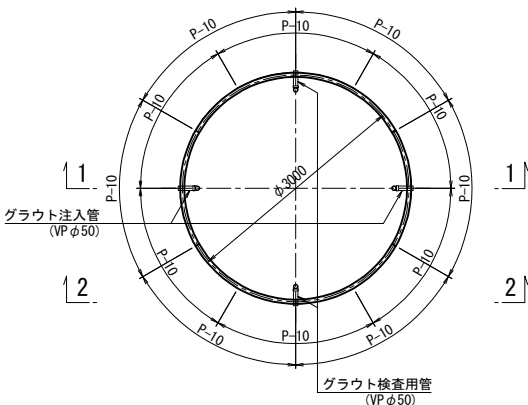
ライナープレート詳細図 S=1:40



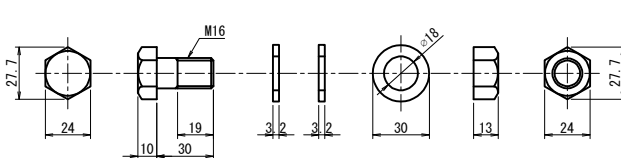
配管詳細図 S=1:20



3 - 3



組立ボルト詳細図 S=1:4

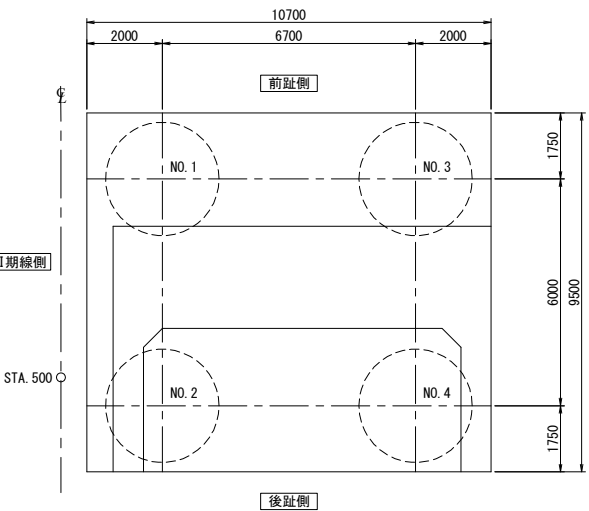


ライナープレート材料表

名 称	規 格 寸 法	数 量	単 位 質 量	質 量 (kg)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 4.0m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	96	26.0	2,496	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP組立て用)	1,224	0.137	168	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 7.0m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	168	26.0	4,368	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP組立て用)	2,232	0.137	306	
ライナープレート			6,864 kg		
組立ボルト			474 "		
合計			7,338 kg		

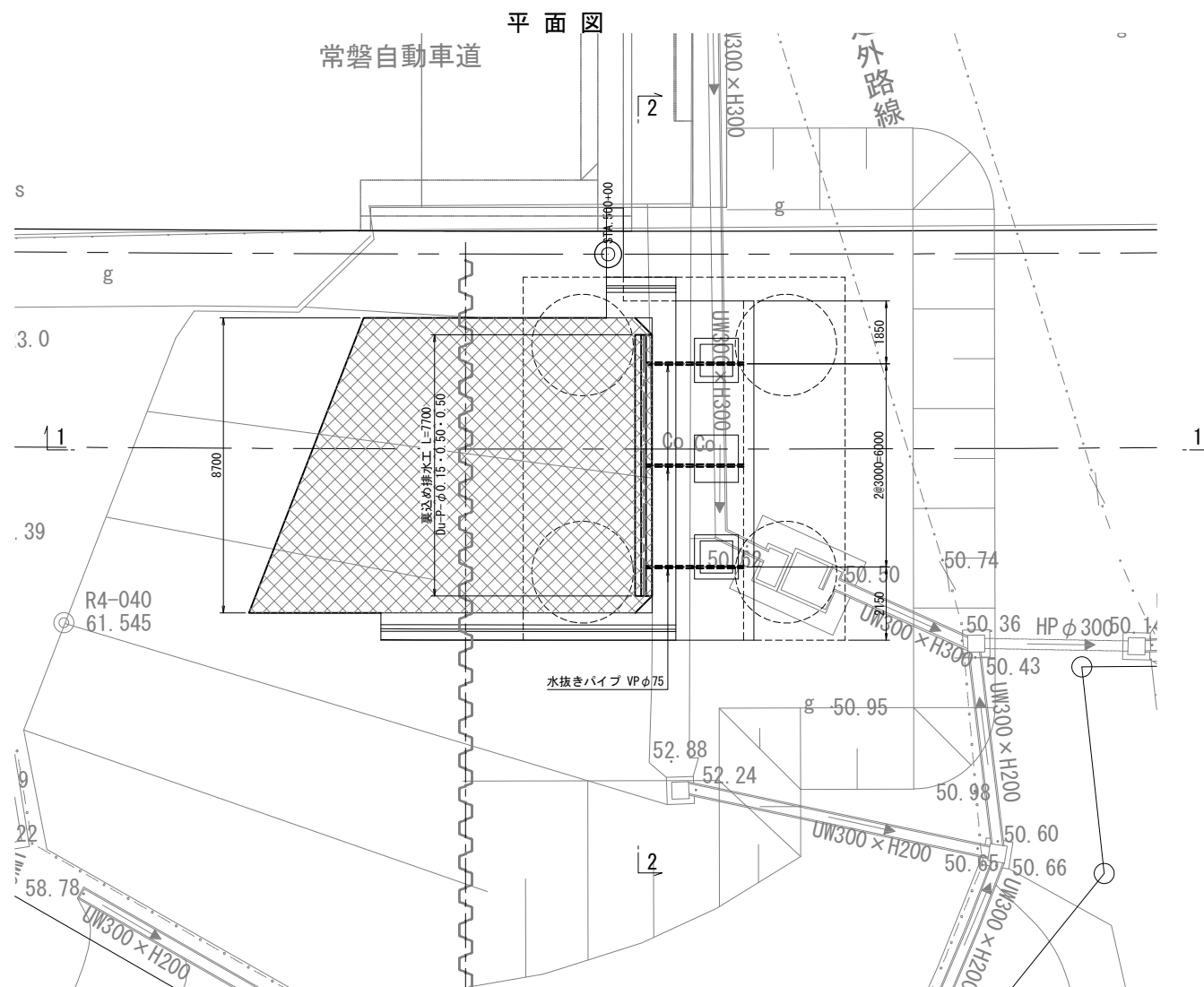
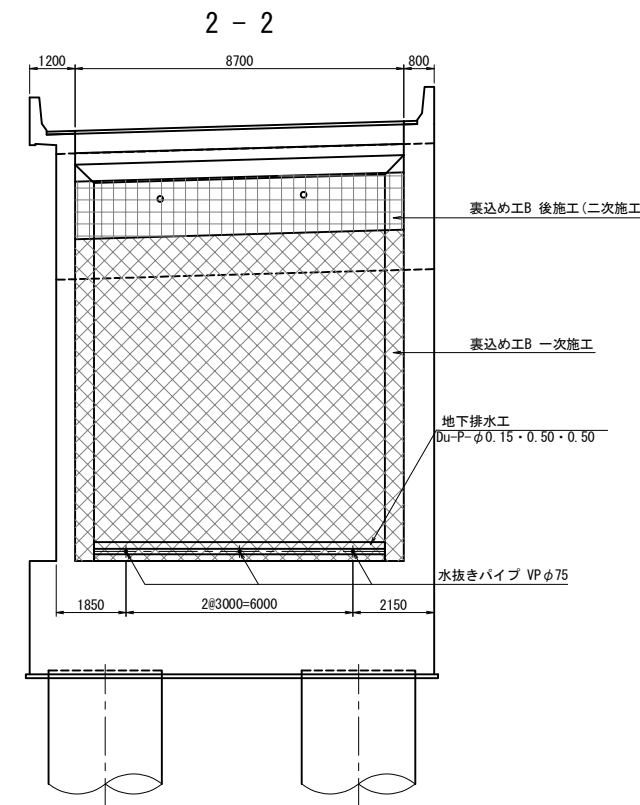
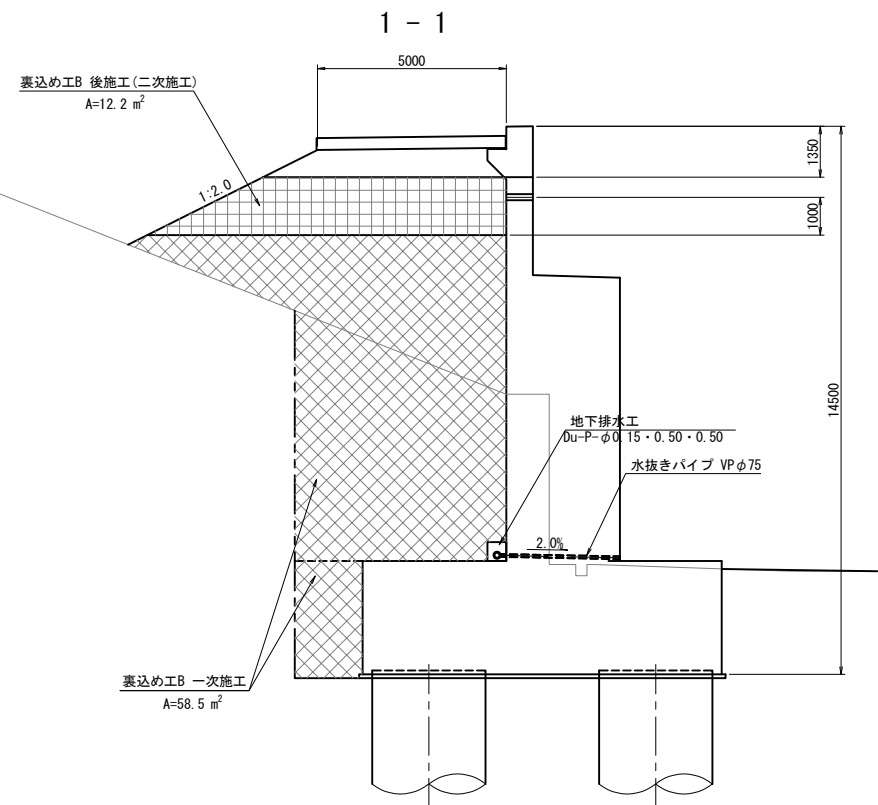
グラウト注入管材料表 (参考)

名 称	規 格 寸 法	数 量	延 長 (m)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 4.0m)				
直管	VP 50	—	22.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	8	—	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 7.0m)				
直管	VP 50	—	46.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	12	—	
坑口コンクリートD1-1	2.2 m ³	1本当たり		
	8.8 m ³	4本当たり		
坑口型枠D	5.025m ²	1本当たり		
	20.1 m ²	4本当たり		

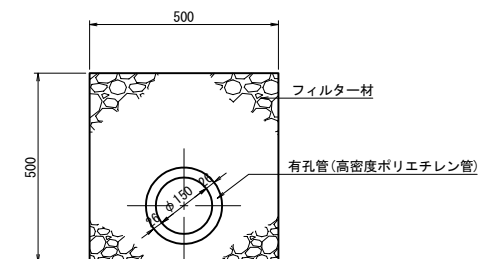


・本図で示す標高はすべてT.P表示とする。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭土留工図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



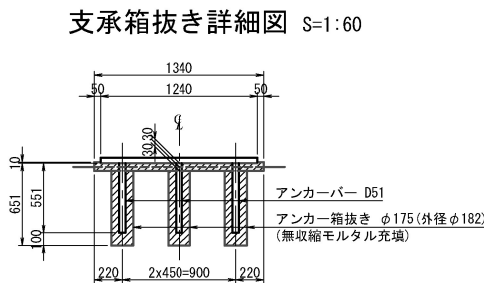
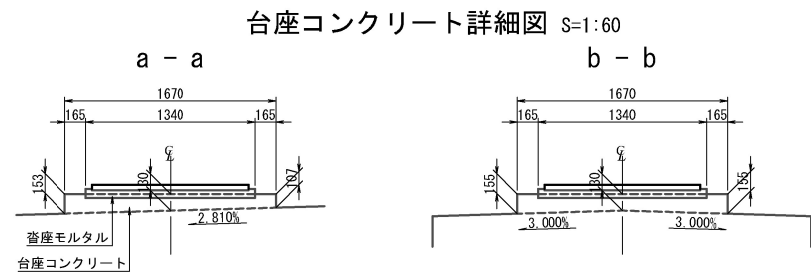
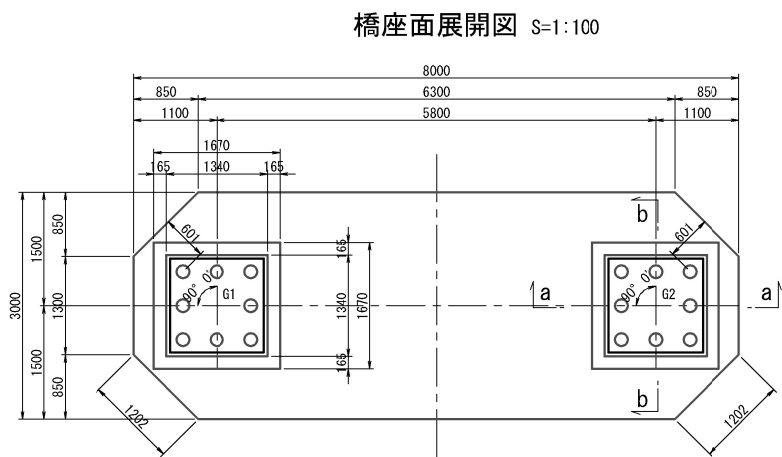
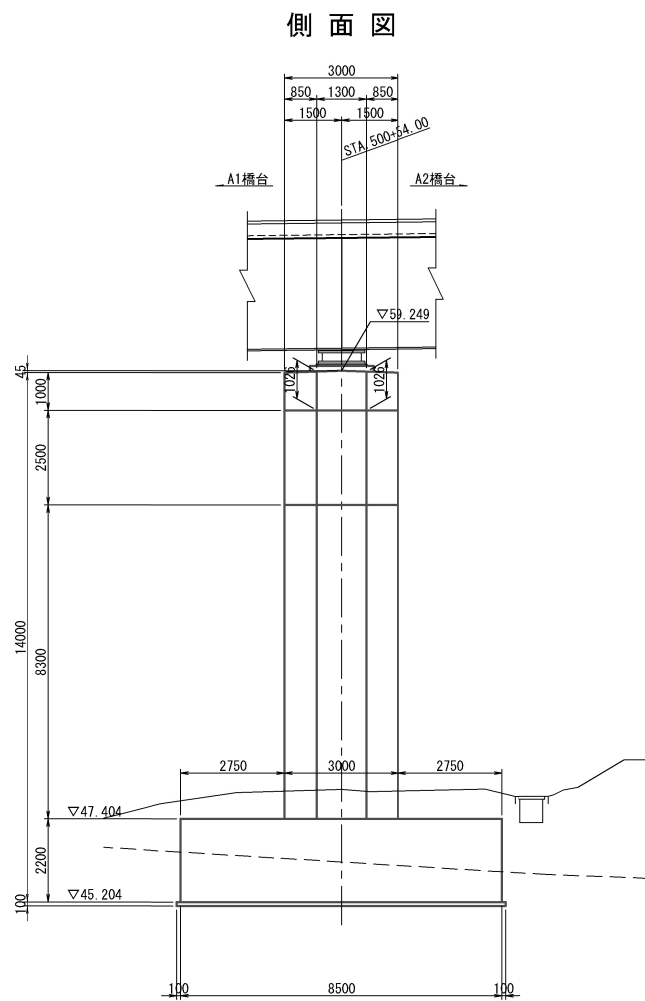
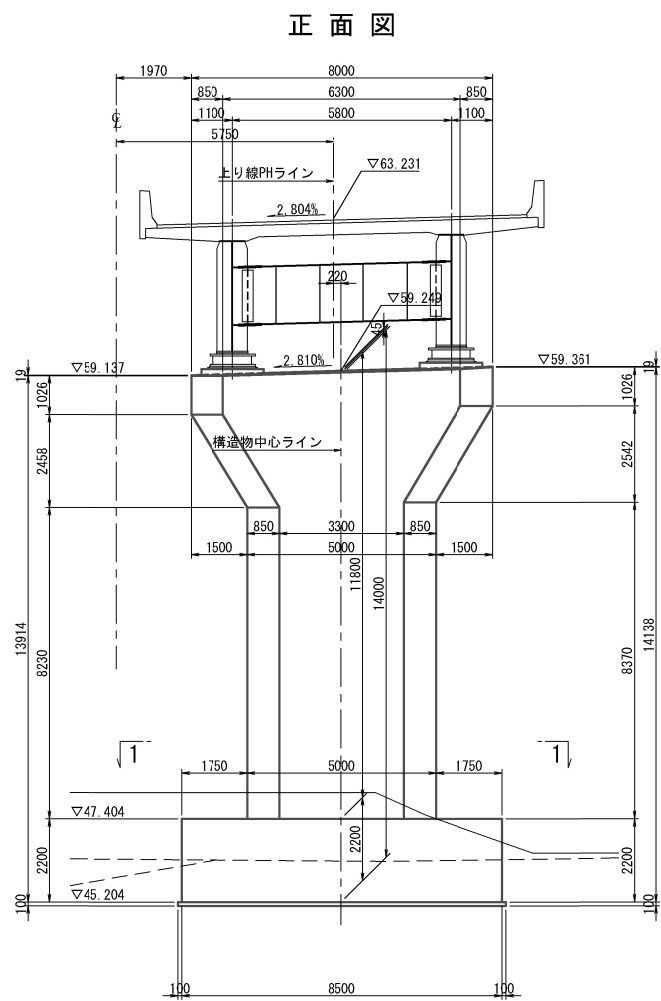
地下排水工詳細図 S=1:40
Du-P-φ0.15・0.50・0.50



数量表

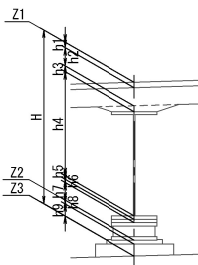
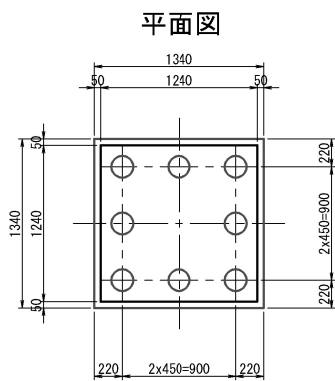
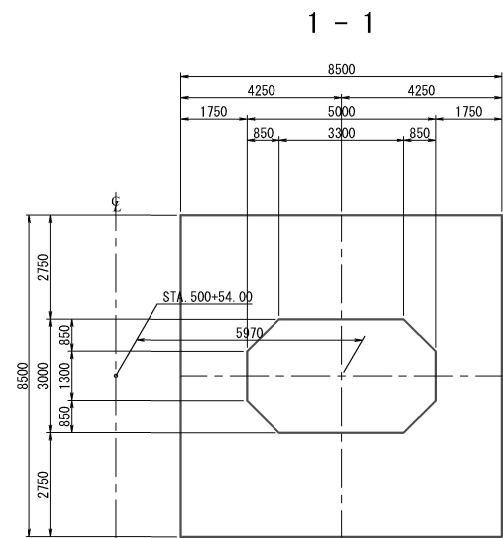
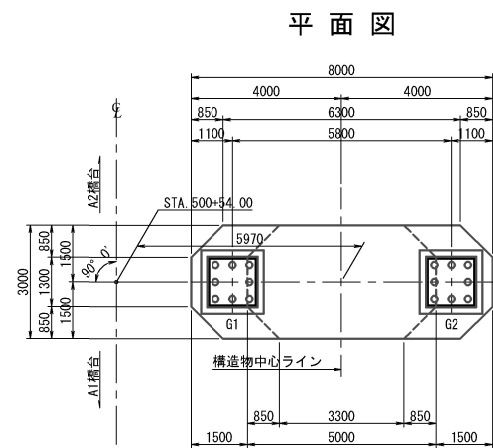
項 目	種 別	単位	数 量	備 考
裏込め材	裏込め工B 一次施工	m ³	509.0	
	裏込め工B (舗装工事施工)	m ³	106.1	二次施工
地下排水工	Du-P-φ0.15×0.50×0.50	m	7.7	

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし AI橋台裏込め排水工詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



構造高表

		G1	G2
路面標高	Z1	63.156	63.318
舗装厚	h1	0.080	0.080
床版厚	h2	0.310	0.310
ハンチ高	h3	0.100	0.100
主桁高	h4	2.900	2.900
下フランジ厚	h5	0.067	0.067
ソールプレート厚	h6	0.030	0.030
支承高	h7	0.365	0.365
省座面標高	Z2	59.305	59.468
省座モルタル厚	h8	0.030	0.030
台座コンクリート高	h9	0.130	0.130
構造高合計	H	4.012	4.012
下部工天端標高	Z3	59.144	59.306



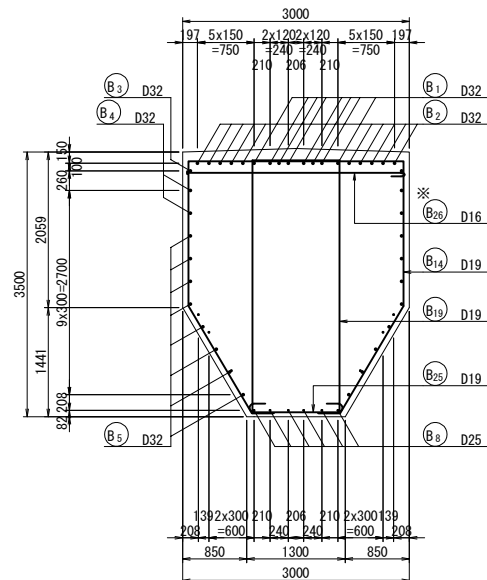
設計条件

道路規格	第1種 2級 B規格
重要度区分	B種の橋
活荷重	B活荷重
地域区分	A2地区
地盤種別	I 種地盤
斜角	∠R
適用示方書	道路橋示方書・同解説 社) 日本道路協会 (平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社 (平成28年6月)
設計標準水度	レベル1 レベル2-I レベル2-II
橋軸方向	0.20 0.83 0.85
直角方向	0.20 0.84 0.85
形式	躯体 張出式
基礎	直接基礎
材料	コンクリート 梁・柱: σ _{ck} =30N/mm ² 、底版: σ _{ck} =24N/mm ² 鉄筋 SD345
支持地盤	シルト岩 (Mk (s)) 層

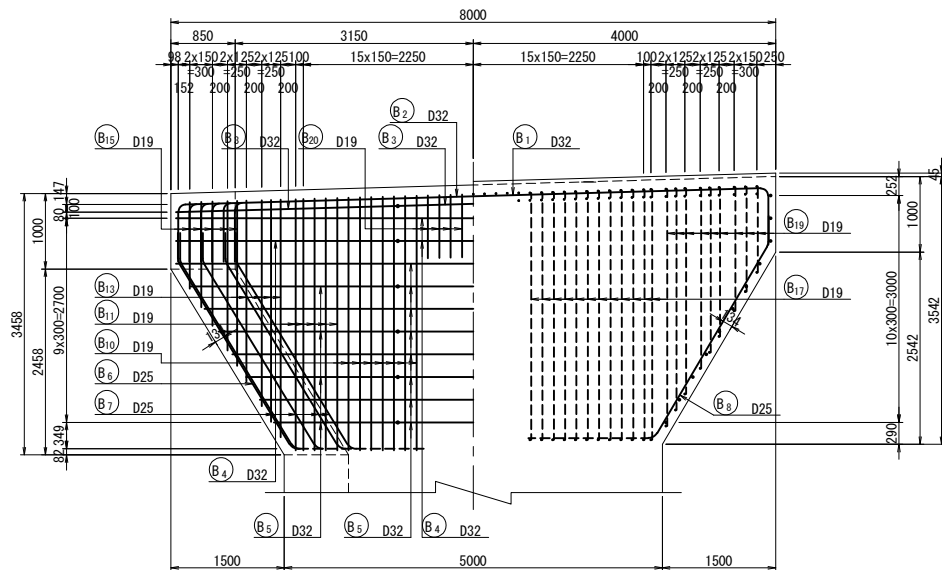
・本図で示す標高はすべてT P表示とする。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

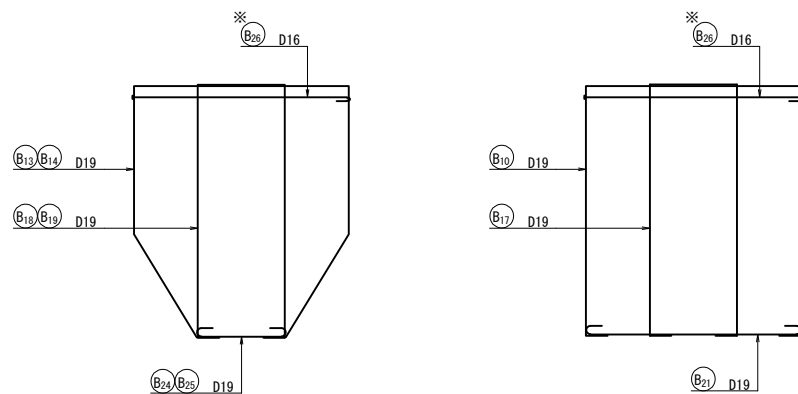
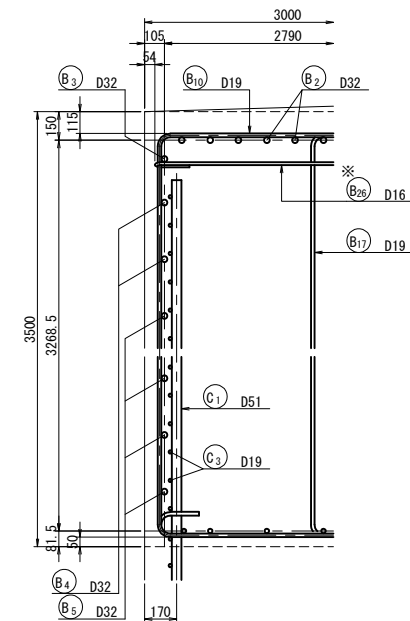
6 - 6



8 - 8

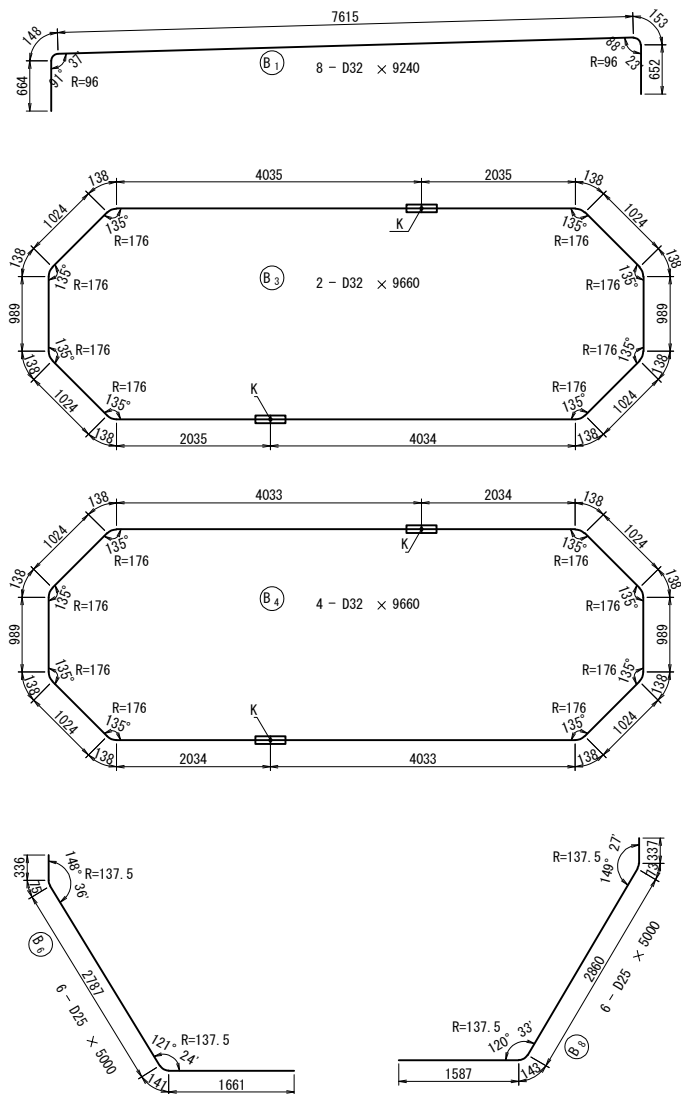


かぶり詳細図 S=1:40



- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路標示方書・解説(H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
 - 監督官より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用可否等するものではない。
 - 図様式継手については、使用製品の製造と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 3) Kは機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図 (1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



Technical drawing of a bent pipe. The drawing shows a pipe bent at an angle. The total length of the pipe is labeled 'b'. The radius of the bend is labeled 'R-96'. The angle of the bend is labeled 'α'. The dimensions of the pipe are given as 10 - D32 × 8340 (平均長). The table below provides the dimensions for different pipe sizes and lengths.

記号	径	本数	a	b	c	L
2-1	D32	2	668	7317	648	8940
2-2	"	2	672	7017	644	8640
2-3	"	2	676	6717	639	8340
2-4	"	2	681	6417	635	8040
2-5	"	2	685	6117	631	7740
平均		10				8340

Technical drawing of a circular track with a rectangular center section. The track has an outer radius $R=176$ and an inner radius $R=135$. The center section has a width of 16 and a length of 32. The track is divided into four quadrants by the center section. The track is labeled with 'a', 'b', 'c', and 'd' for the straight sections and 'K' for the curved sections. The track is labeled with '136', '138', '135', and '139' for the radii of the curved sections. The track is labeled with '16 - D32 x 8250 (平均長)' for the center section.

记号	径	本数	a	b	c	d	L
5-1	D32	1	4033	2034	—	—	9660
5-2	"	1	—	—	3887	1888	9370
5-3	"	1	3837	1838	—	—	9270
5-4	"	1	—	—	3710	1711	9010
5-5	"	1	3654	1655	—	—	8900
5-6	"	1	—	—	3533	1534	8660
5-7	"	1	3471	1472	—	—	8540
5-8	"	1	—	—	3356	1357	8310
5-9	"	1	3288	1289	—	—	8170
5-10	"	1	—	—	3179	1180	7950
5-11	"	1	3105	1106	—	—	7800
5-12	"	1	—	—	3002	1003	7600
5-13	"	1	2922	923	—	—	7440
5-14	"	1	—	—	2825	826	7240
5-15	"	1	2739	740	—	—	7070
5-16	"	1	—	—	2648	649	6890
平均		16					8250

記号	径	本数	a	L
7-1	D25	2	1364	4710
7-2	"	2	1064	4410
7-3	"	2	925	4270
平均		6		4470

記号	径	本数	a	L
9-1	D25	2	1290	4710
9-2	"	2	990	4410
9-3	"	2	851	4270
平均		6		4470

Technical drawing of a square pipe cross-section. The outer side length is labeled 'a'. The inner side length is labeled 'b'. The wall thickness is labeled 'e'. The drawing shows the outer square with side 'a' and the inner square with side 'b'. The distance between the outer and inner sides on one side is labeled 'e'. The total width of the drawing is labeled '2841'.

(B 11)

5 - D19 × 10260 (平均長)

Technical drawing showing two parts, B₂₀ and B₂₁.

Part B₂₀ is a rectangular plate with dimensions 2841 x 854. It features a central hole labeled 9 - D19 x 4500.

Part B₂₁ is a U-shaped component with a total width of 1779 and a central hole labeled 14 - D19 x 3390. The U-shape has a depth of 2727 and rounded ends with a radius of R=57 and a thickness of 152.

Technical drawing of a square plate with four V-shaped notches. The outer dimensions are 2841 mm by 2841 mm. The notches are 140° and 121° wide. The inner dimensions of the notches are 285 mm. The distance between the notches is 285 mm. The thickness of the plate is 8 mm. The drawing is labeled B13.

Technical drawing of a square with rounded corners. The outer square has a side length of 2841. The inner square has a side length of 285. The corner radii are 1413. The corner angles are 140° 27' and 120° 33'. The corner thicknesses are 156 and 156. The corner thicknesses are 156 and 156. The corner thicknesses are 156 and 156.

記号	径	本数	a	L
22 -1	D19	1	1422	2090
22 -2	"	1	1622	2290
22 -3	"	1	1922	2590
22 -4	"	1	2222	2890
22 -5	"	1	2522	3190
平均		5		2610

Technical drawing of a hexagonal nut (DIN 913) showing dimensions and average values. The drawing includes a top view and a side view. The top view shows a hexagon with a central hole of diameter $\varnothing 19$. The outer diameter is a , and the inner diameter is b . The thickness of the nut is c . The distance between the centers of the two hexagonal faces is L . The drawing also shows the dimensions of the hexagonal faces: the distance between the centers of the two hexagonal faces is L , the distance between the centers of the two hexagonal faces is L , the distance between the centers of the two hexagonal faces is L , the distance between the centers of the two hexagonal faces is L , the distance between the centers of the two hexagonal faces is L , the distance between the centers of the two hexagonal faces is L .

記号	径	本数	a	b	c	L
15 - 1	D19	1	1575	860	327	4470
15 - 2	"	1	1875	864	615	5360
15 - 3	"	1	2175	869	903	6240
15 - 4	"	1	2575	874	1287	7420
15 - 5	"	1	2825	919	1479	8150
平均		5				6330

記号	径	本数	a	b	c	L
16 - 1	D19	1	2825	872	1516	8120
16 - 2	"	1	2575	833	1319	7400
16 - 3	"	1	2175	838	926	6230
16 - 4	"	1	1875	843	631	5350
16 - 5	"	1	1575	847	336	4460
平均		5				6320

(B₂₄) 9 - D19 x 1790

Technical drawing of a U-bollet (U-Bollet) with dimensions: 152, 152, 179, R=57, 1122, 9 - D19 x 1790, and a circled B25.

Technical drawing of a reinforcement bar (B26) for a slab. The bar has a total length of 2820 mm. It features a 151 mm long curved hook at one end with a radius R=48 mm. The straight portion of the bar is 2669 mm long. The bar is labeled "34 - D16 x 3100" and "B26".

Technical drawing of a square flange with dimensions: 1157 (width), 285 (flange thickness), and 24 (hole diameter). The drawing shows a square with a central hole and four mounting holes.

記号	径	本数	a	L
17-1	D19	1	3320	8290
17-2	"	1	3323	8300
17-3	"	1	3327	8310
17-4	"	1	3331	8310
17-5	"	1	3336	8320
17-6	"	1	3340	8330
17-7	"	1	3344	8340
17-8	"	1	3348	8350
17-9	"	1	3353	8360
17-10	"	1	3357	8370
17-11	"	1	3361	8380
17-12	"	1	3365	8380
17-13	"	1	3267	8190
17-14	"	1	3271	8190
17-15	"	1	3275	8200
17-16	"	1	3279	8210
17-17	"	1	3284	8220
17-18	"	1	3288	8230
17-19	"	1	3292	8240
17-20	"	1	3296	8240
17-21	"	1	3301	8250
17-22	"	1	3305	8260
17-23	"	1	3309	8270
17-24	"	1	3312	8280
平均		24		8290

9 - D19 x 5990 (平均長)

記号	径	本数	a	L
18 - 1	D19	1	1140	3930
18 - 2	"	1	1390	4430
18 - 3	"	1	1640	4930
18 - 4	"	1	1973	5600
18 - 5	"	1	2181	6010
18 - 6	"	1	2390	6430
18 - 7	"	1	2723	7100
18 - 8	"	1	2931	7510
18 - 9	"	1	3140	7930
		9		5990

9 - D19 × 580 (平均長)

記号	径	本数	a	L
18 - 1	D19	1	3136	7920
18 - 2	"	1	2927	7510
18 - 3	"	1	2719	7090
18 - 4	"	1	2386	6420
18 - 5	"	1	2177	6010
18 - 6	"	1	1969	5590
18 - 7	"	1	1636	4920
18 - 8	"	1	1386	4420
18 - 9	"	1	1136	3920
平均		9		580

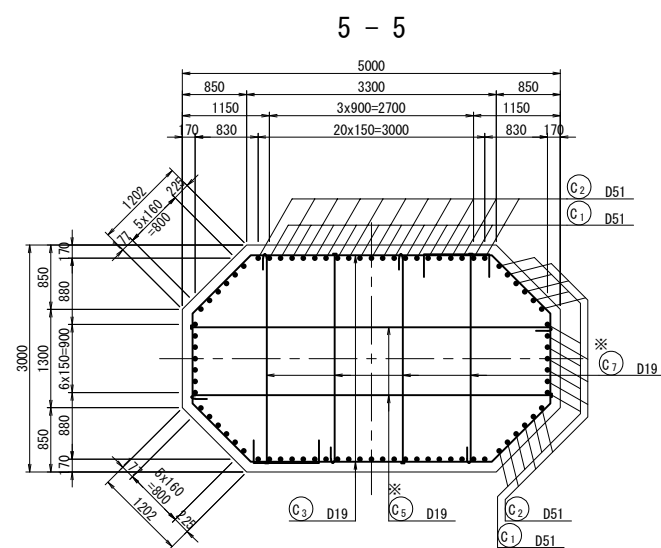
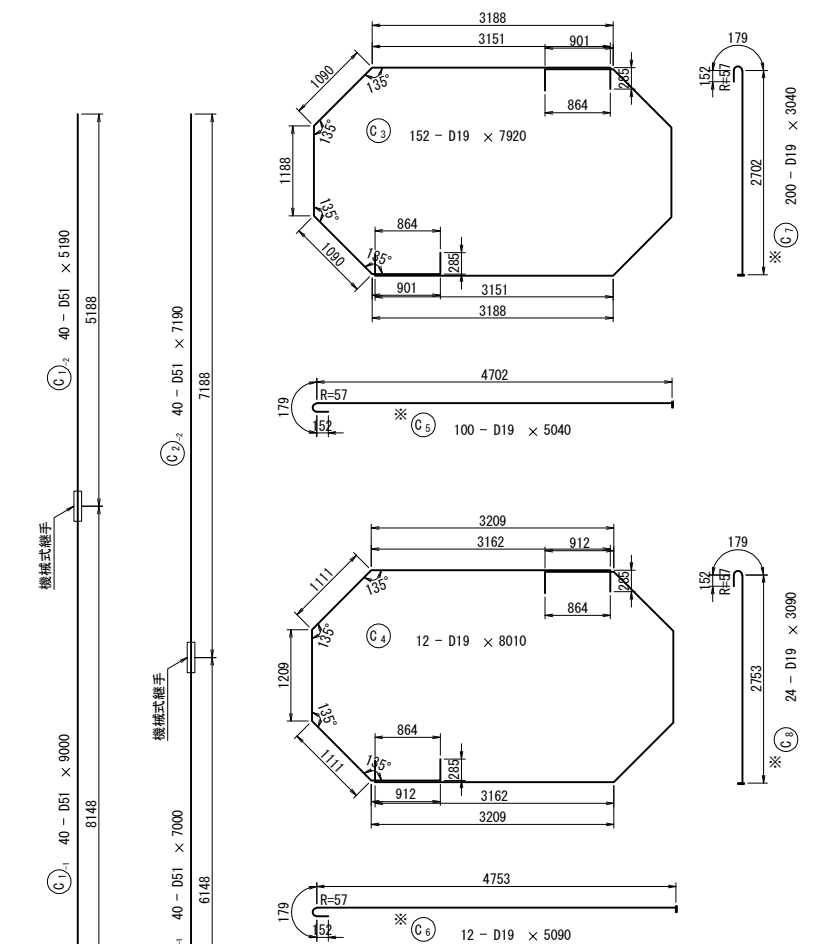
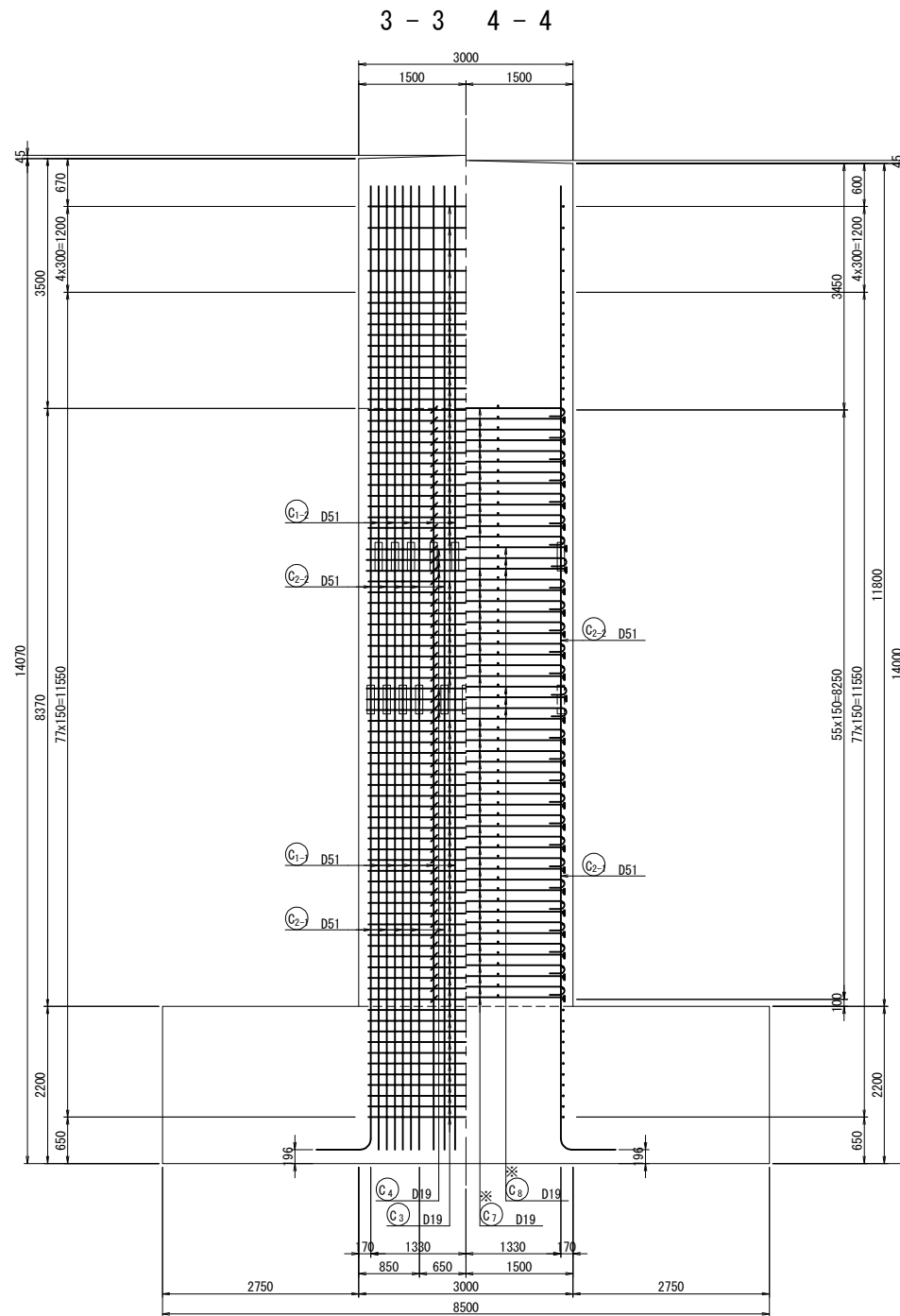
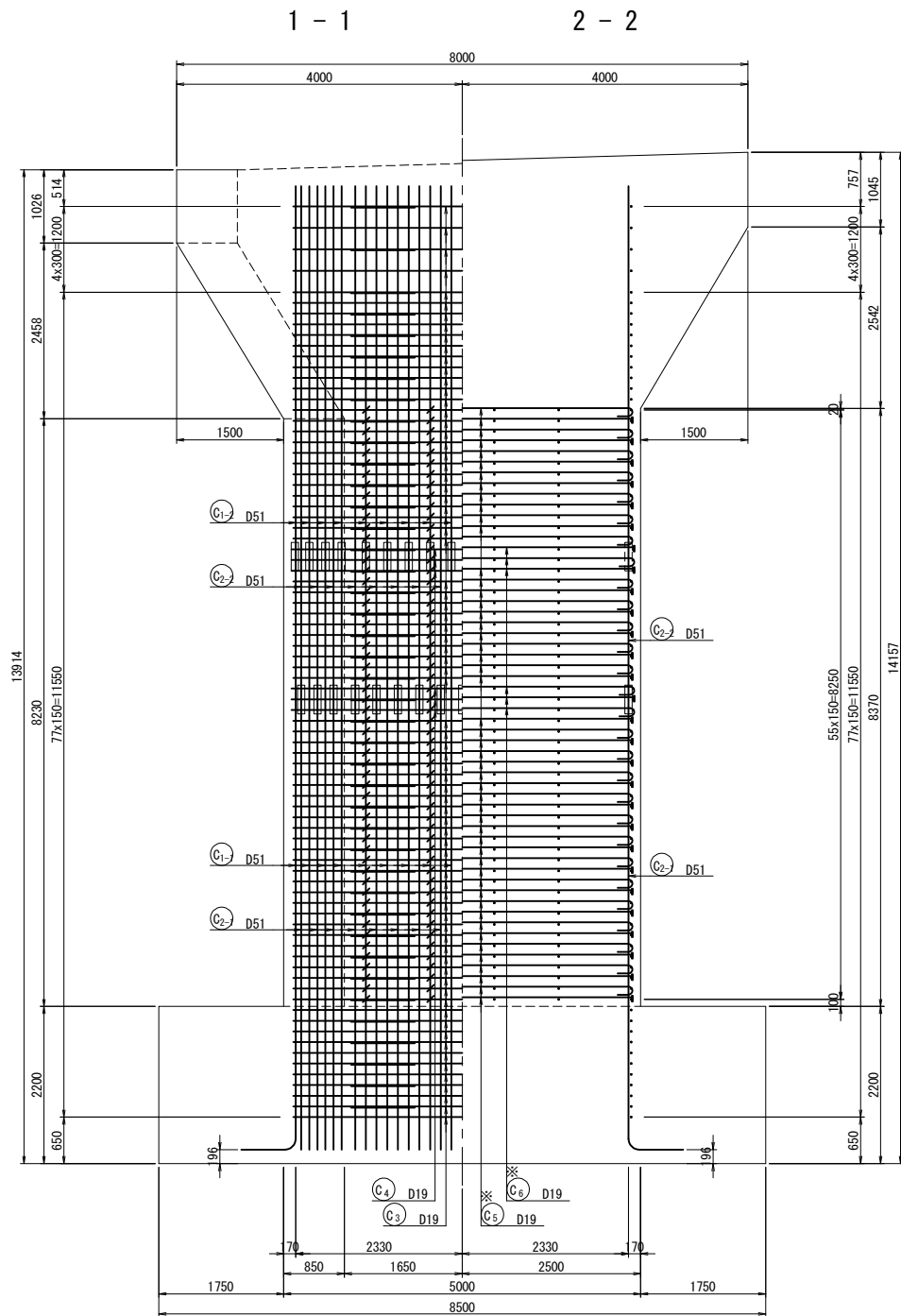
※ (B27) 10 - D16 × 2470 (平均長)

記号	径	本数	a	L
27 - 1	D16	2	1554	1840
27 - 2	"	2	1854	2140
27 - 3	"	2	2154	2440
27 - 4	"	2	2554	2840
27 - 5	"	2	2804	3090
平均		10		2470

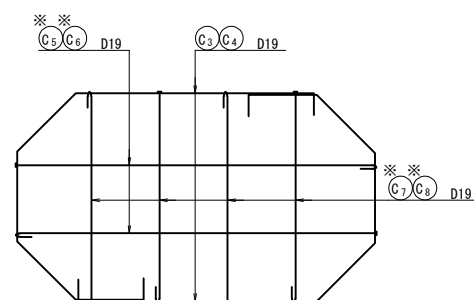
特記事項

- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
道路橋標示方丈・同解説 (H29.11日本道路協会)
機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円リブの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着体を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
監督員より使用鉄筋の性能と施工法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 4) 機械式鉄筋については、使用製品の製品と施工法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 5) K は機械式鉄筋を示す。

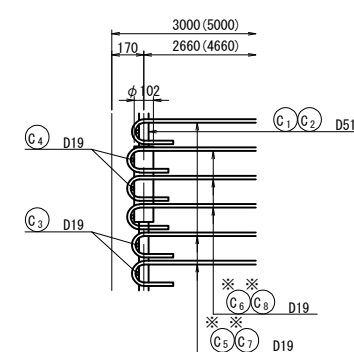
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図 (2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



帯鉄筋組立図 ctc150

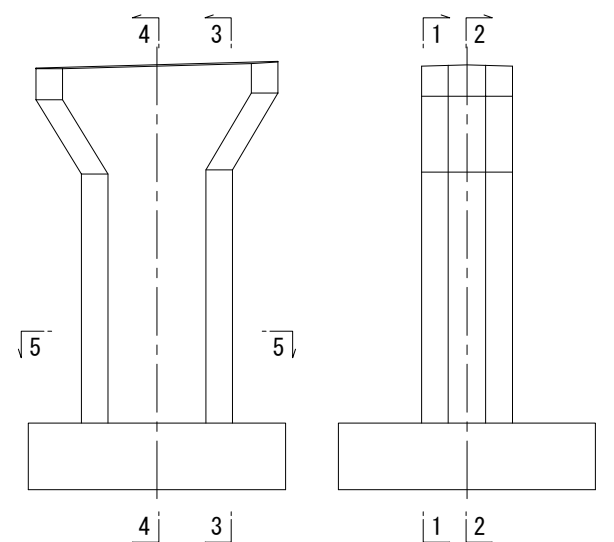


かぶり詳細図 S=1:40

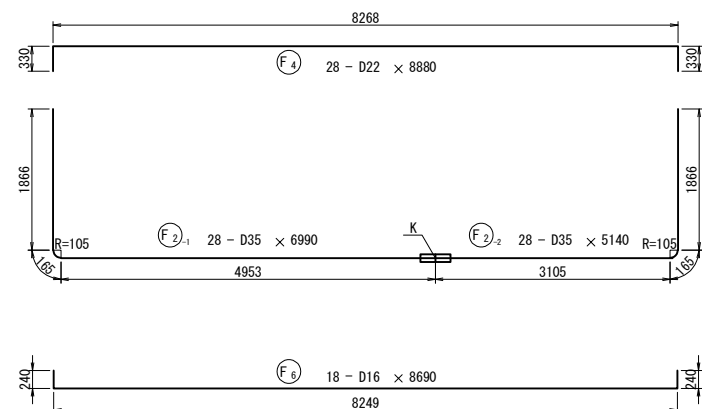
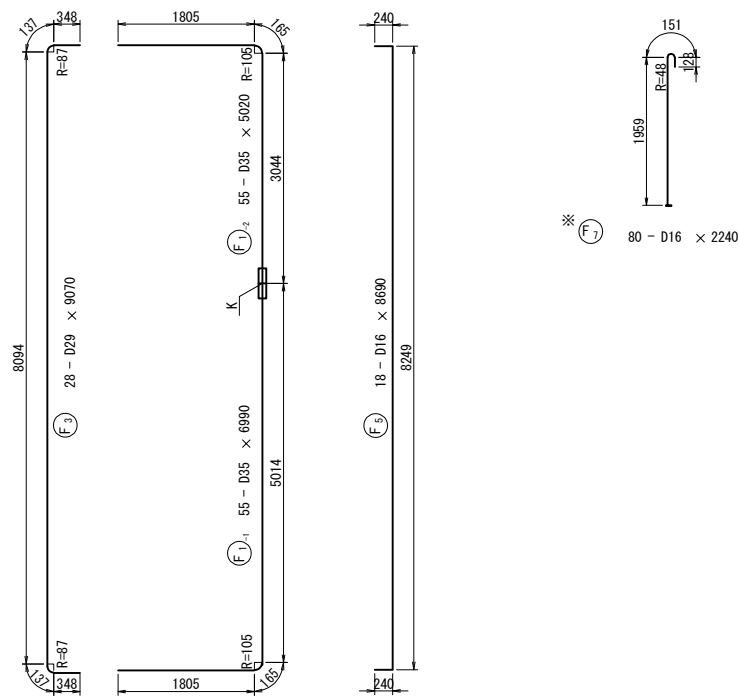
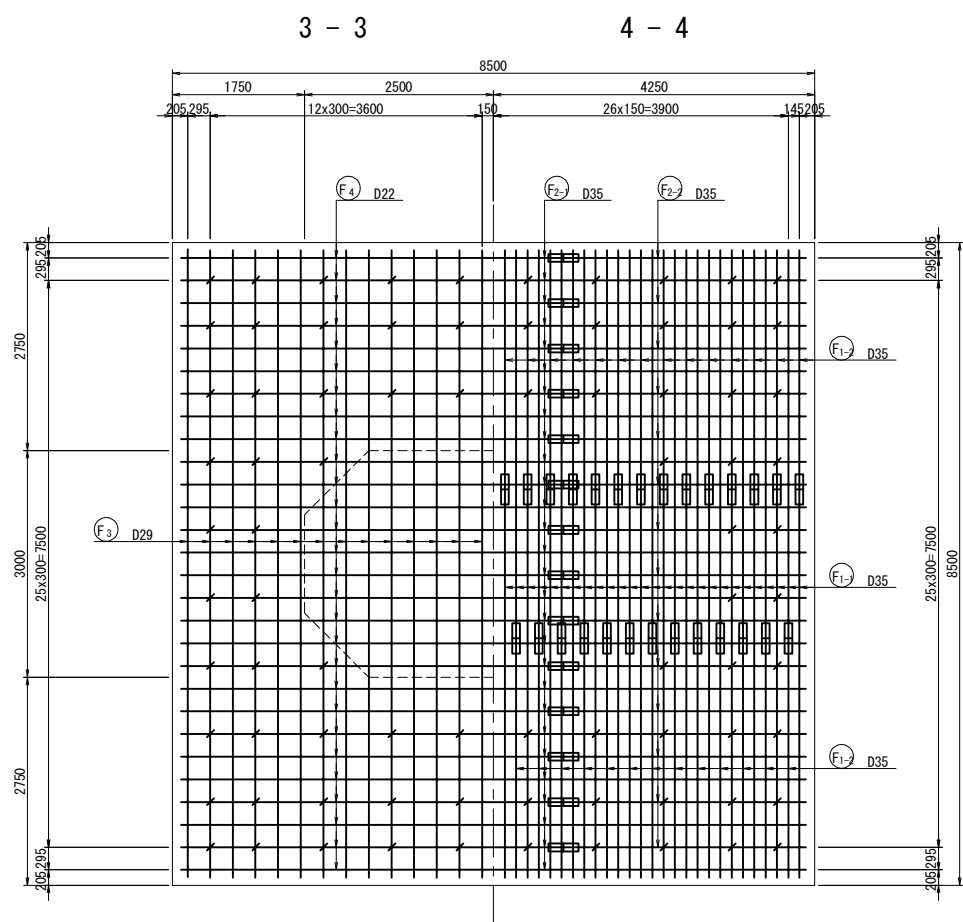
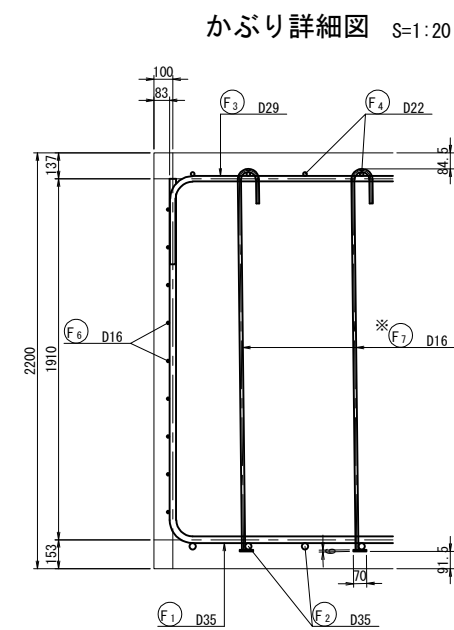
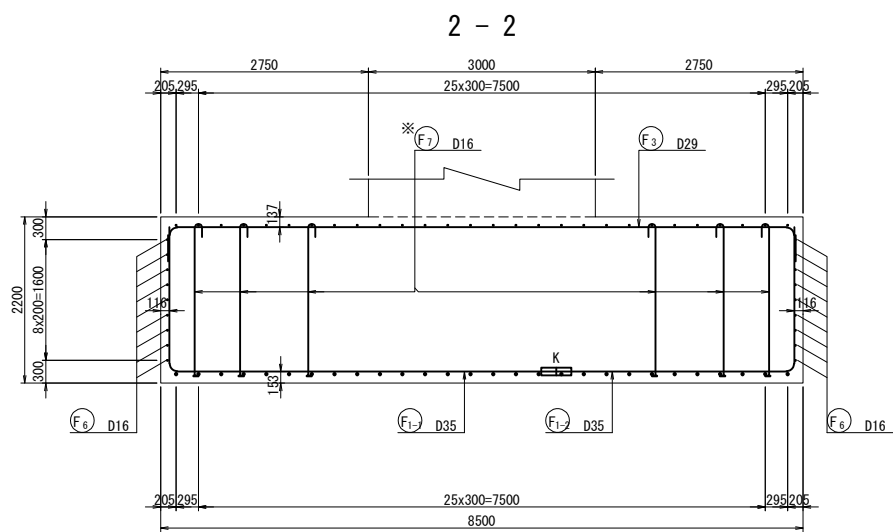
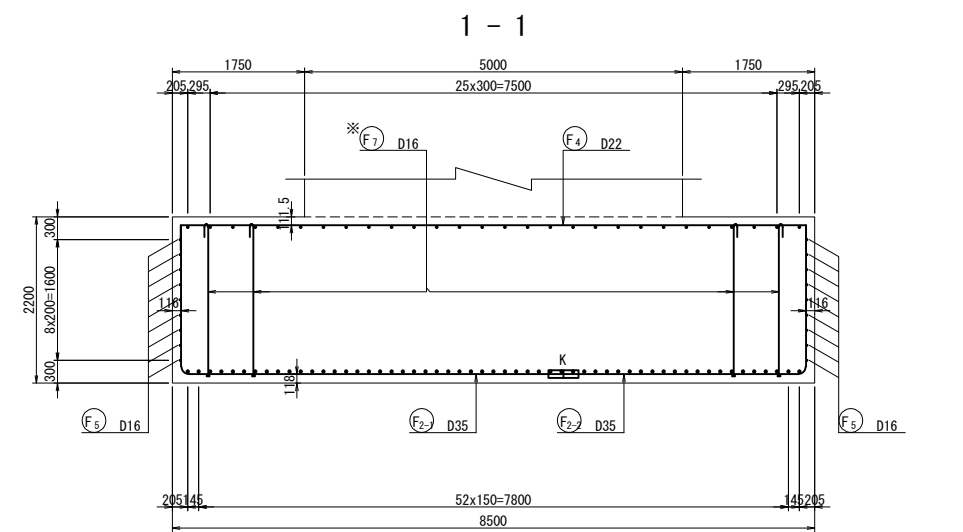


特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- K は機械式継手を示す。



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

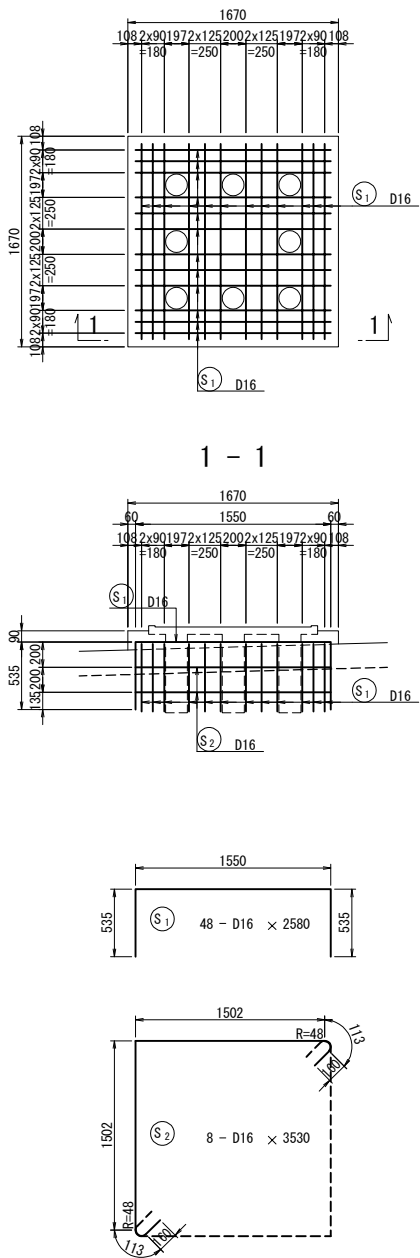


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(4)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- Kは機械式継手を示す。

台座コンクリート補強図



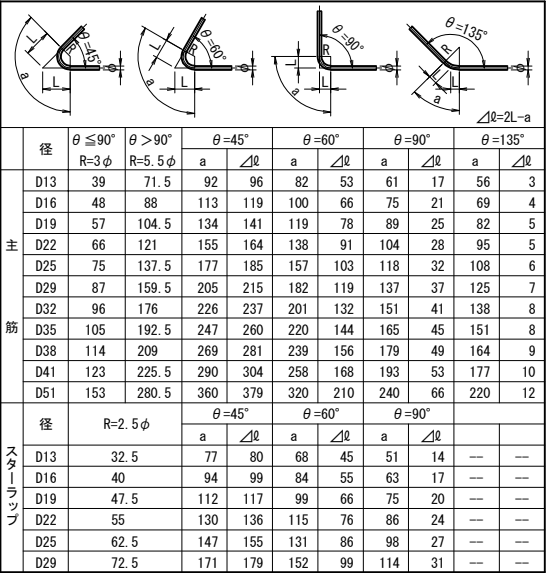
鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
S 1	D16	2,580	48	1.56	4.02	193	
S 2	D16	3,530	8	1.56	5.51	44	
237 kg							
B 1	D32	9,240	8	6.23	57.6	461	
B 2	D32	8,340	10	6.23	52	520	
B 3	D32	9,660	2	6.23	60.2	120	(2)
B 4	D32	9,660	4	6.23	60.2	241	(4)
B 5	D32	8,250	16	6.23	51.4	822	(16) (平均長)
B 6	D25	5,000	6	3.98	19.9	119	
B 7	D25	4,470	6	3.98	17.8	107	(平均長)
B 8	D25	5,000	6	3.98	19.9	119	
B 9	D25	4,470	6	3.98	17.8	107	(平均長)
B 10	D19	9,970	14	2.25	22.4	314	
B 11	D19	10,260	5	2.25	23.1	116	(平均長)
B 12	D19	10,210	5	2.25	23.0	115	(平均長)
B 13	D19	9,390	4	2.25	21.1	84	(平均長)
B 14	D19	9,370	4	2.25	21.1	84	(平均長)
B 15	D19	6,330	5	2.25	14.2	71	(平均長)
B 16	D19	6,320	5	2.25	14.2	71	(平均長)
B 17	D19	8,290	24	2.25	18.7	449	
B 18	D19	5,990	9	2.25	13.5	122	(平均長)
B 19	D19	5,980	9	2.25	13.5	122	(平均長)
B 20	D19	4,500	9	2.25	10.1	91	
B 21	D19	3,390	14	2.25	7.63	107	
B 22	D19	2,610	5	2.25	5.87	29	(平均長)
B 23	D19	2,610	5	2.25	5.87	29	(平均長)
B 24	D19	1,790	9	2.25	4.03	36	
B 25	D19	1,790	9	2.25	4.03	36	
B 26	D16	3,100	34	1.56	4.84	165	※
B 27	D16	2,470	10	1.56	3.85	39	(平均長) ※
4,696 kg							
C 1-1	D51	9,000	40	15.9	143	5,720	L [40]
C 1-2	D51	5,190	40	15.9	82.5	3,300	I
C 2-1	D51	7,000	40	15.9	111	4,440	L [40]
C 2-2	D51	7,190	40	15.9	114	4,560	I
C 3	D19	7,920	152	2.25	17.8	2,706	C
C 4	D19	8,010	12	2.25	18.0	216	C
C 5	D19	5,040	100	2.25	11.3	1,130	I ※
C 6	D19	5,090	12	2.25	11.5	138	I ※
C 7	D19	3,040	200	2.25	6.84	1,368	I ※
C 8	D19	3,090	24	2.25	6.95	167	I ※
23,745 kg							
F 1-1	D35	6,990	55	7.51	52.5	2,888	L (55)
F 1-2	D35	5,020	55	7.51	37.7	2,074	L
F 2-1	D35	6,990	28	7.51	52.5	1,470	L (28)
F 2-2	D35	5,140	28	7.51	38.6	1,081	L
F 3	D29	9,070	28	5.04	45.7	1,280	I
F 4	D22	8,880	28	3.04	27.0	756	I
F 5	D16	8,690	18	1.56	13.6	245	I
F 6	D16	8,690	18	1.56	13.6	245	I
F 7	D16	2,240	80	1.56	3.49	279	I ※
10,318 kg							

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A + B + C
普通鉄筋	D51 --- kg	18020 kg (80)	--- kg	18020 kg
	D38 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D35 --- kg	7513 kg (83)	--- kg	7513 kg
	D32 981 kg	1183 kg (22)	--- kg	2164 kg
	D29 1280 kg	--- kg	--- kg	1280 kg
	D25 452 kg	--- kg	--- kg	452 kg
	D22 756 kg	--- kg	--- kg	756 kg
	D19 4798 kg	--- kg	2803 kg	7601 kg
	D16 727 kg	--- kg	483 kg	1210 kg
	D13 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
合計	8994 kg	26716 kg	3286 kg	38996 kg
総質量	8994 kg	26716 kg	3286 kg	38996 kg

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	90	34	---	---
D19	---	---	---	224	---	112
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	90	258	---	112
合計	460箇所					

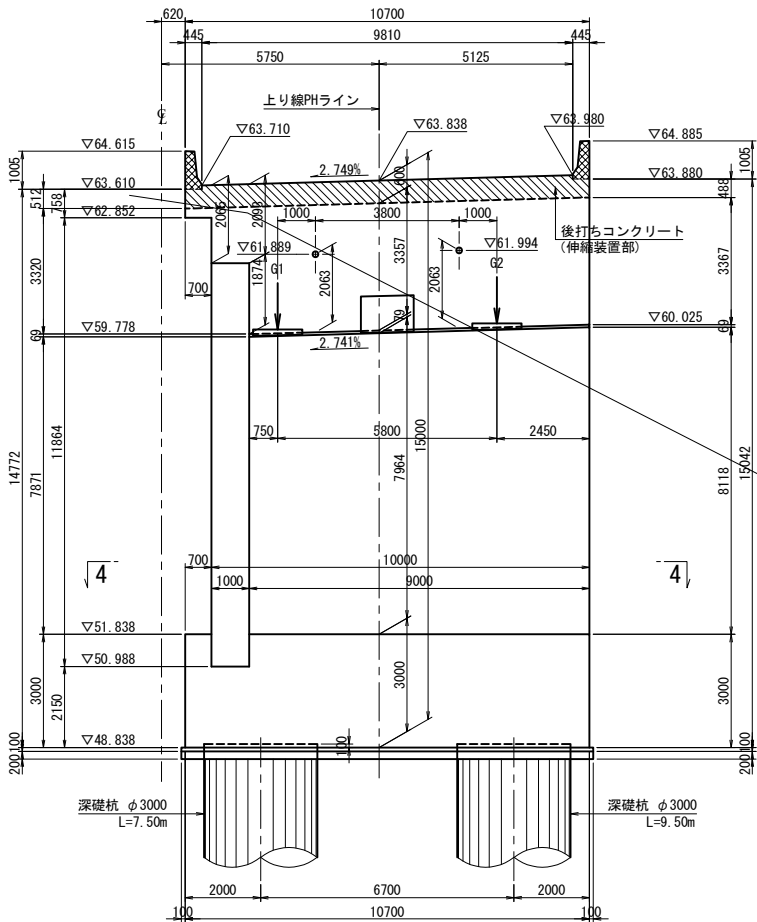


特記事項

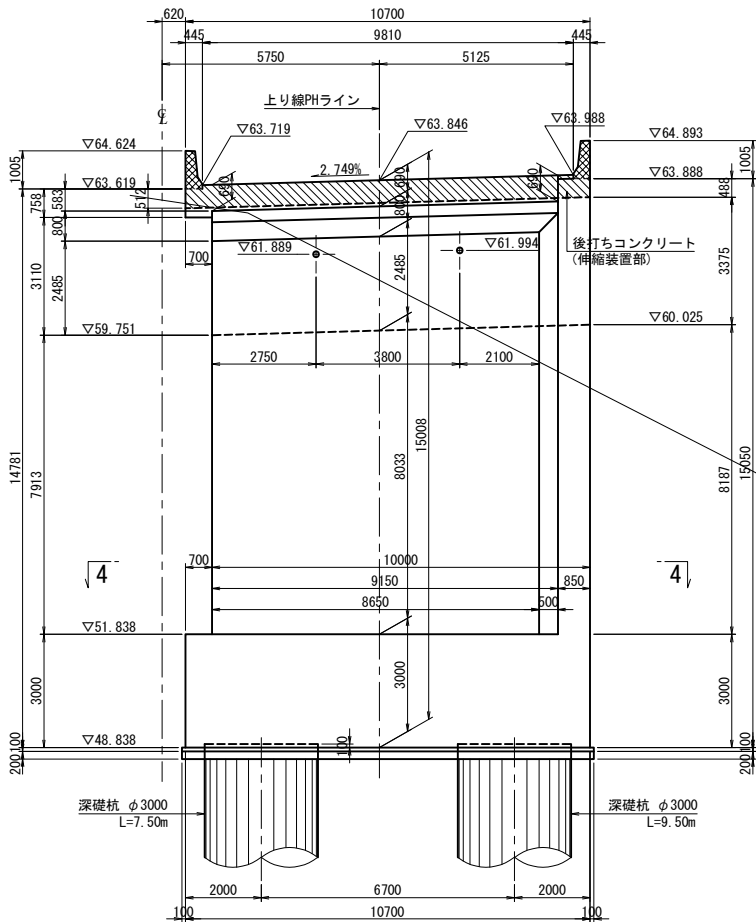
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	P1橋脚配筋図(5)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

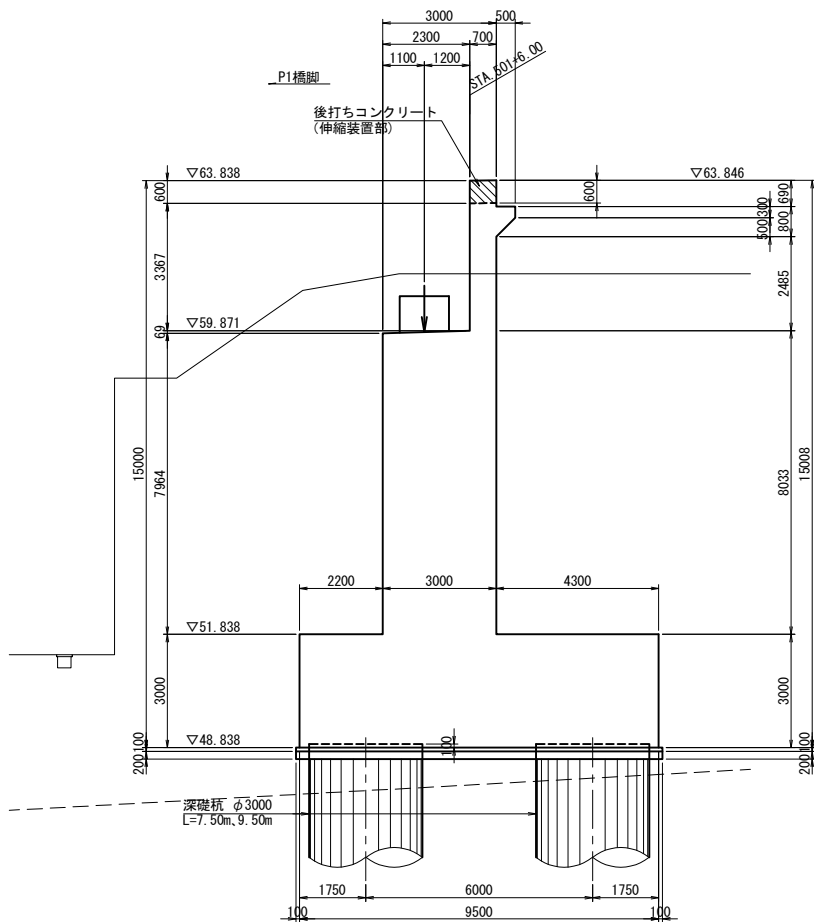
正面図(1-1)



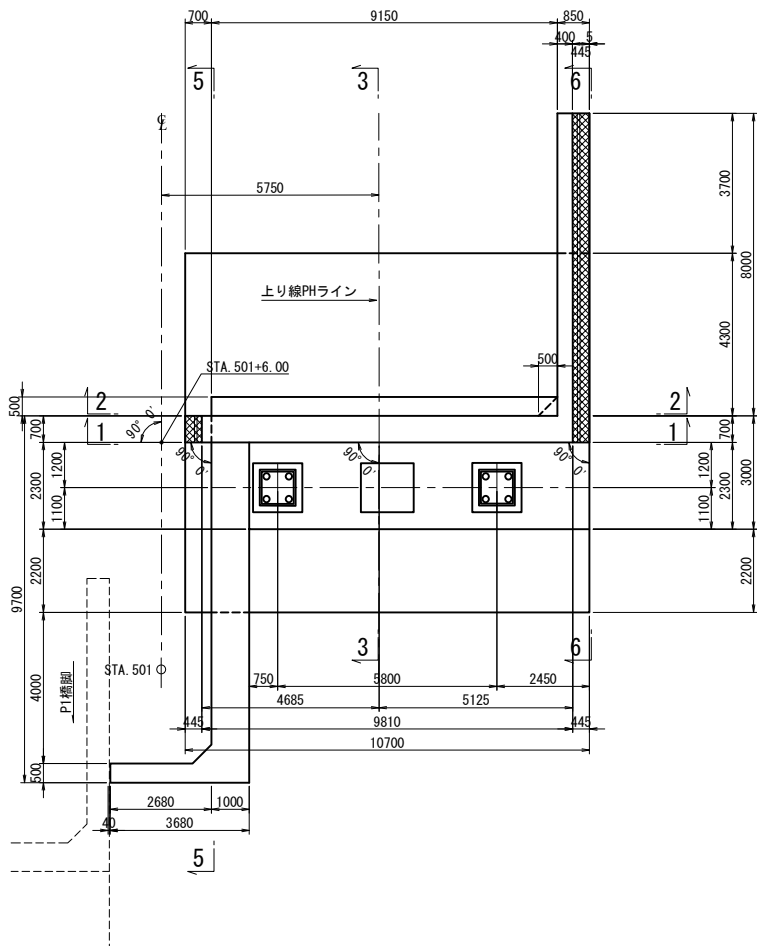
正面図(2-2)



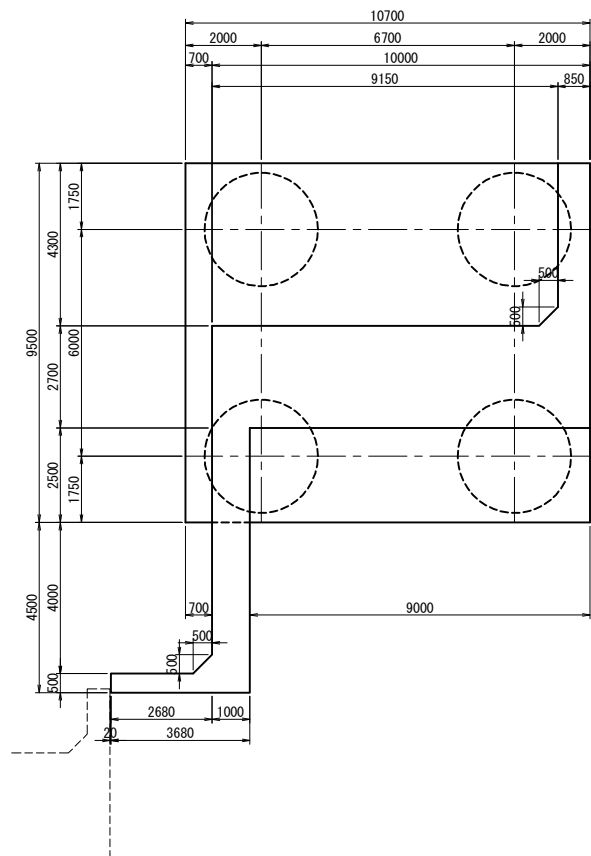
3 - 3



平面図



杭配置図(4-4)



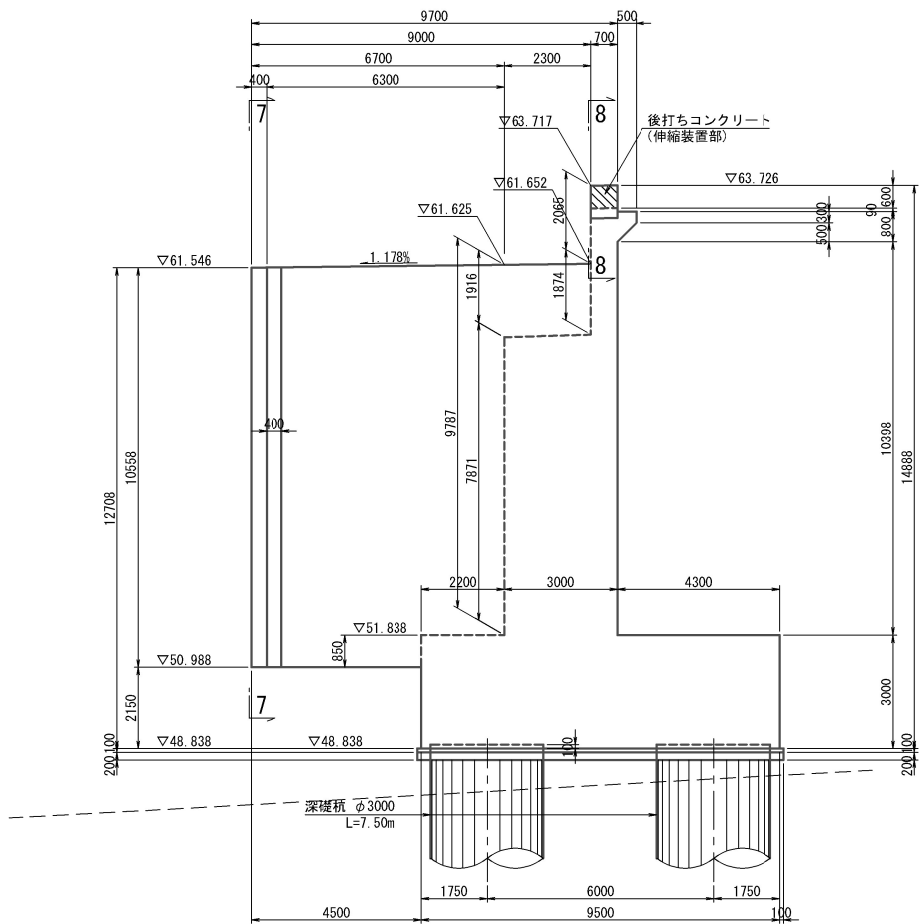
設計条件

道 路 規 格		第1種 2級 B規格		
重要 度 区 分		B種の橋		
活 荷 重		B活荷重		
地 域 区 分		A2地区		
地 盤 種 別		I 種地盤		
斜 角		∠R(支承設置角: 90° 1' 6")		
適 用 示 方 書		道路橋示方書・同解説 社) 日本道路協会(平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社(平成28年6月)		
設 計 水 準		レベル1	レベル2-I	レベル2-II
	橋軸方向	0.20	0.83	0.85
	直角方向	0.20	0.84	0.85
下 部 構 造	形 式	逆T式		
	基 礎	組杭深礎基礎φ3000		
	材 料	コンクリート 躯体: σ _{ck} =30N/mm ² 、底版・深礎: σ _{ck} =24N/mm ²		
	鉄 筋	SD345		
	支持地盤	シルト岩(Mk (si) 層)		

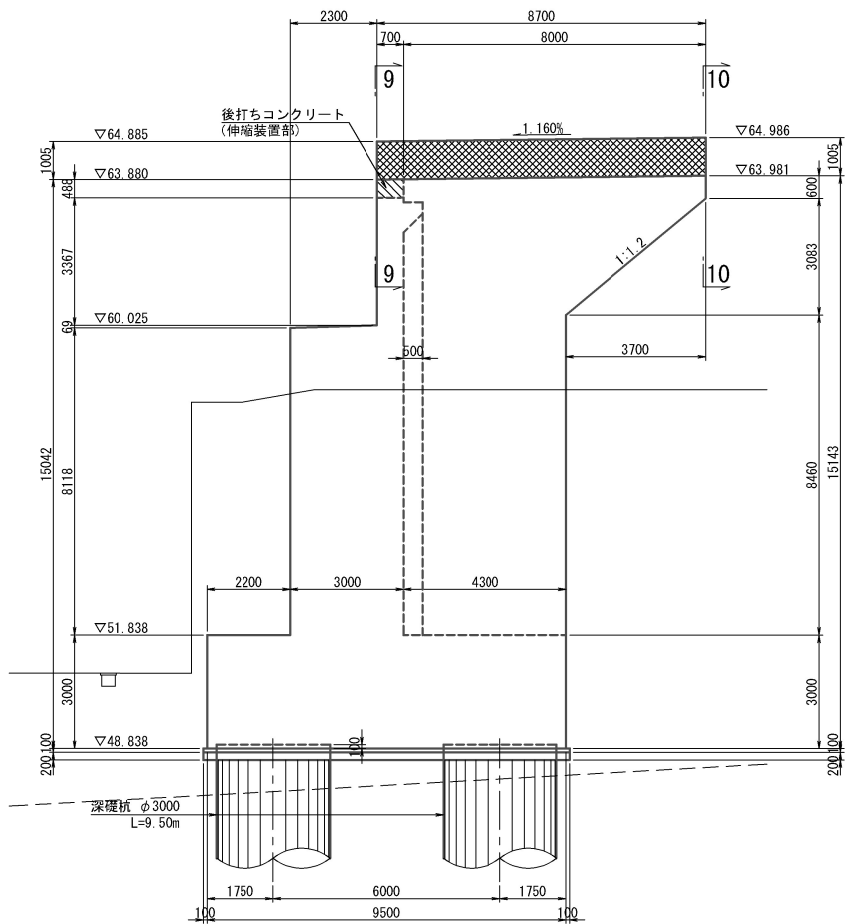
・本図で示す標高はすべてT.P表示とする。
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台構造一般図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

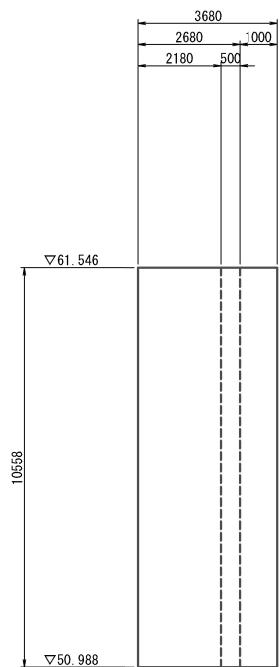
5 - 5



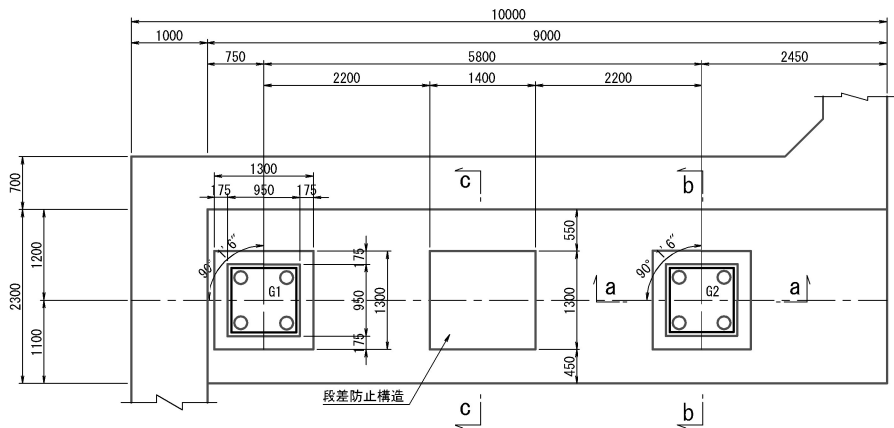
6 - 6



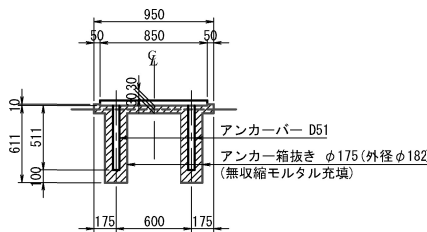
7 - 7



橋座面展開図 S=1:100



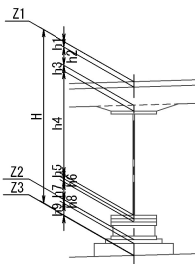
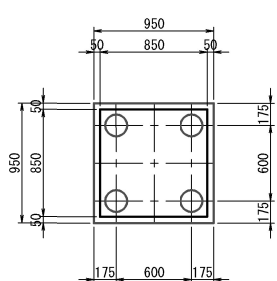
支承箱抜き詳細図 S=1:60



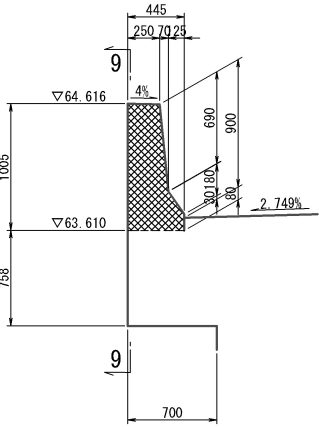
構造高表

		G1	G2
路面標高	Z1	63.750	63.909
舗装厚	h1	0.080	0.080
床版厚	h2	0.310	0.310
ハンチ高	h3	0.100	0.100
主桁高	h4	2.900	2.900
下フランジ厚	h5	0.026	0.026
ソールプレート厚	h6	0.027	0.027
支承高	h7	0.373	0.373
沓座面標高	Z2	59.936	60.095
沓座モルタル厚	h8	0.030	0.030
台座コンクリート高	h9	0.140	0.140
構造高合計	H	3.986	3.986
下部工天端標高	Z3	59.764	59.923

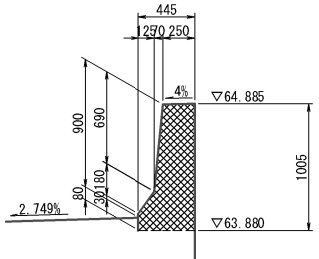
平面図



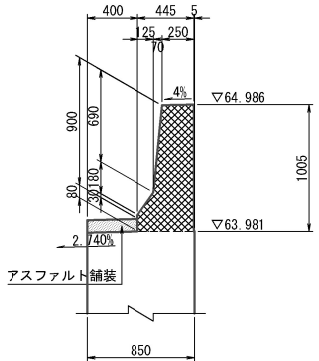
8 - 8 S=1:60



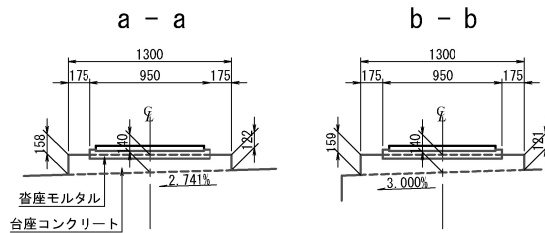
9 - 9 S=1:60



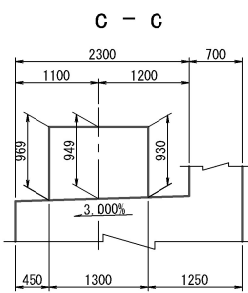
10 - 10 S=1:60



台座コンクリート詳細図 S=1:60

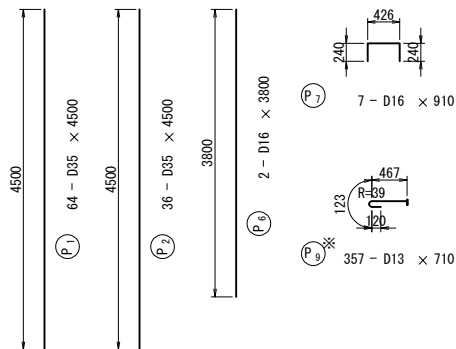
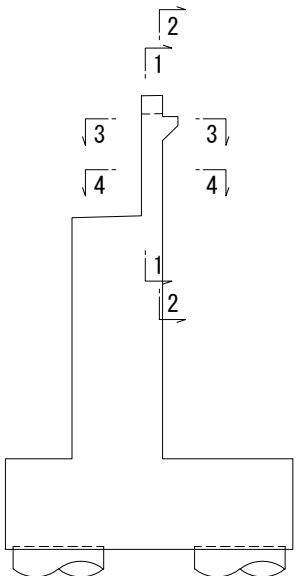
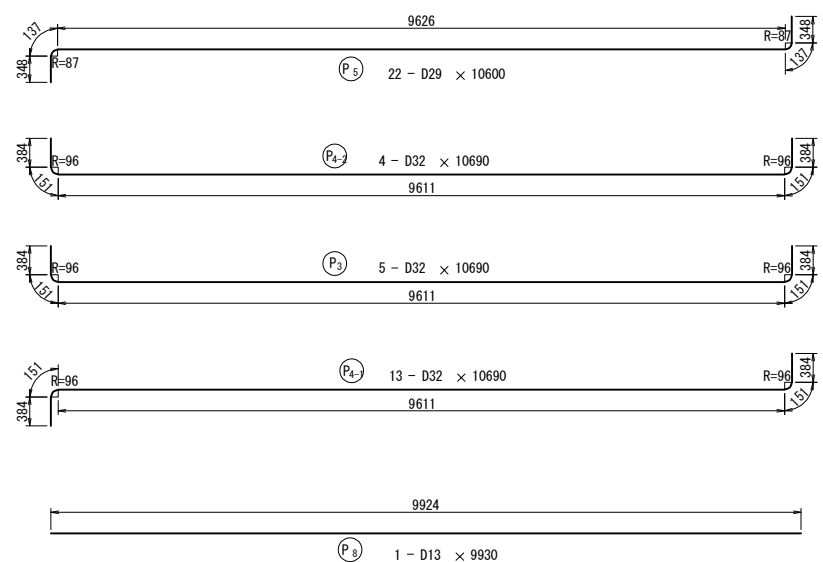
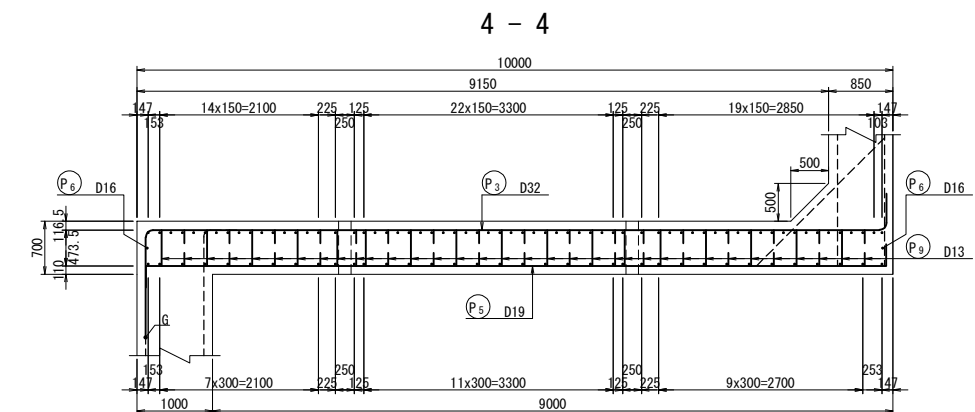
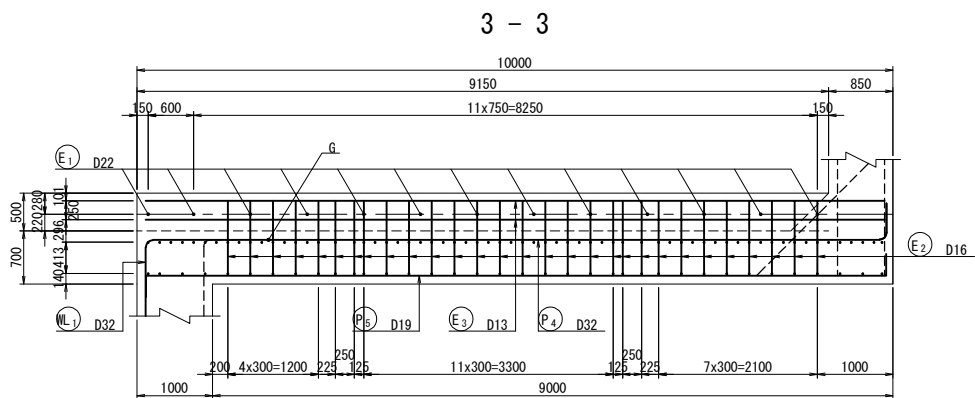
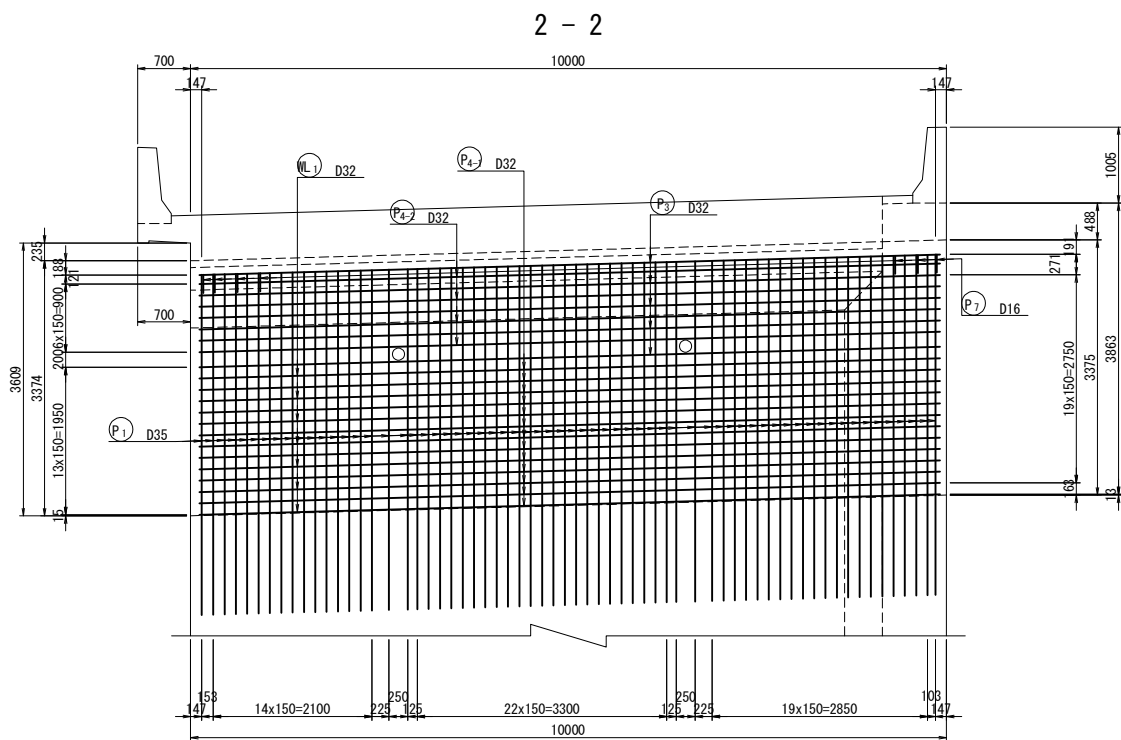
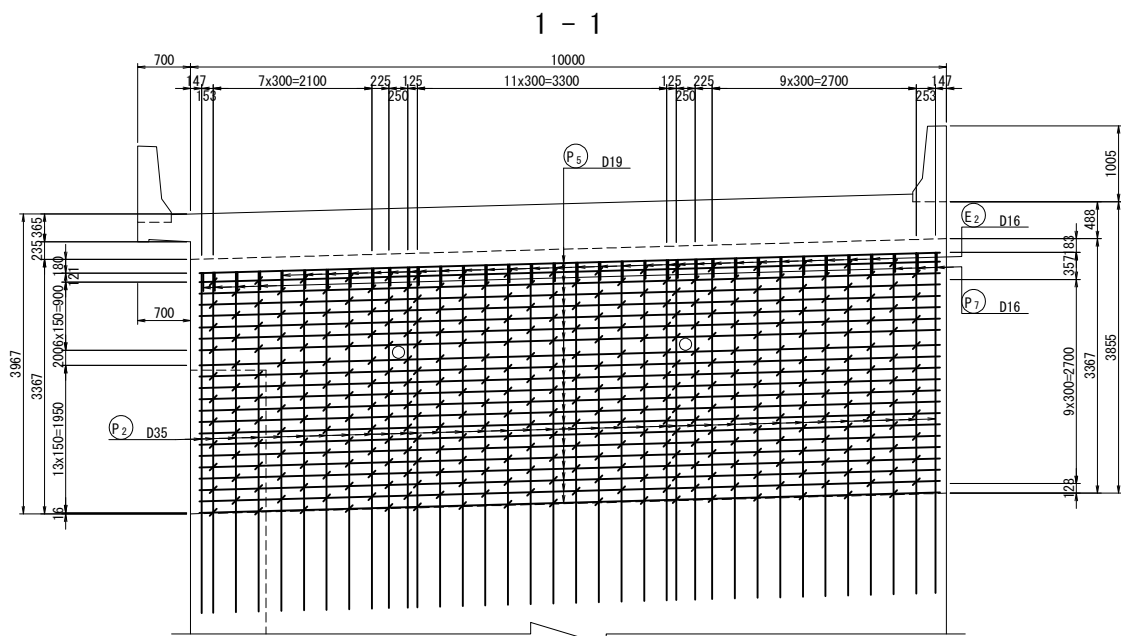


段差防止構造詳細図 S=1:100



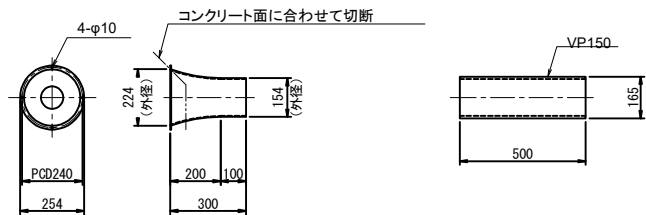
・本図で示す標高はすべてT P表示とする。
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台構造一般図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



偏向ダクト S=1:30

シース S=1:30



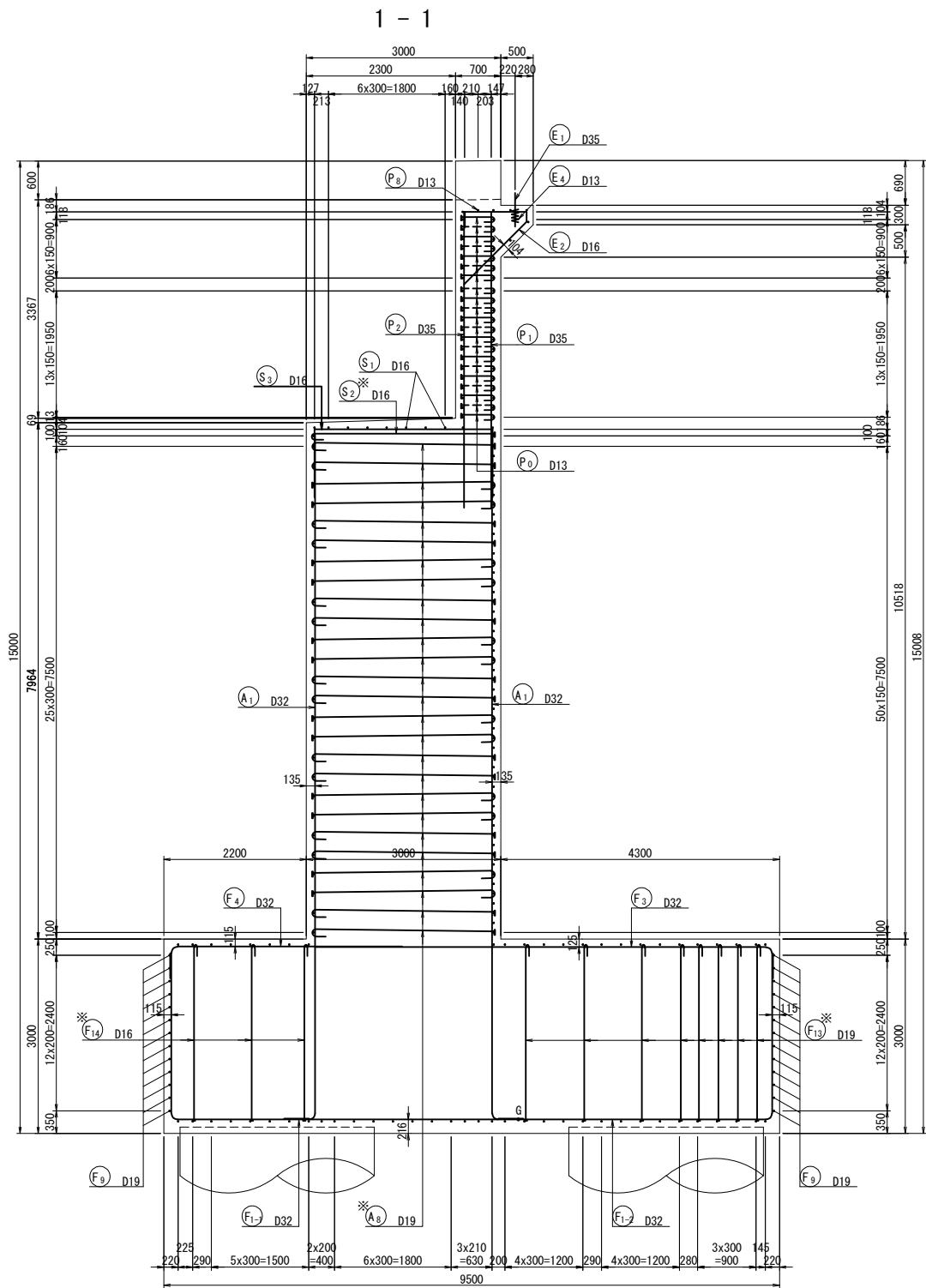
落橋防止構造材料表(1本当たり)

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
① 偏向ダクト	φ254×300	個	1	ポリエチレン
② シース(下部工側)	φ165×500	本	1	VP150

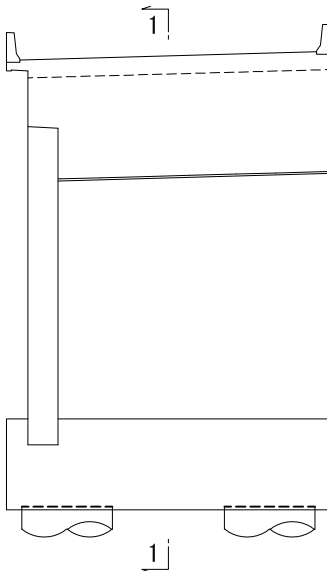
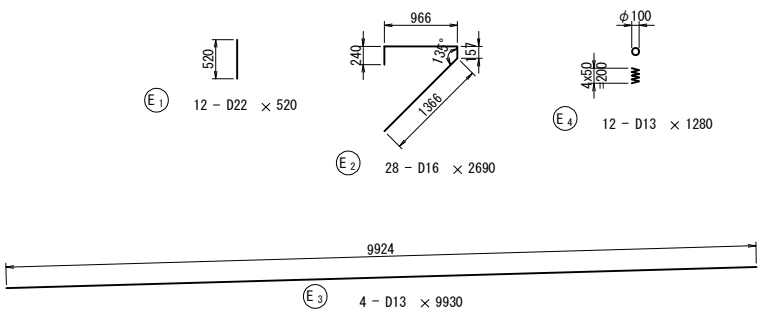
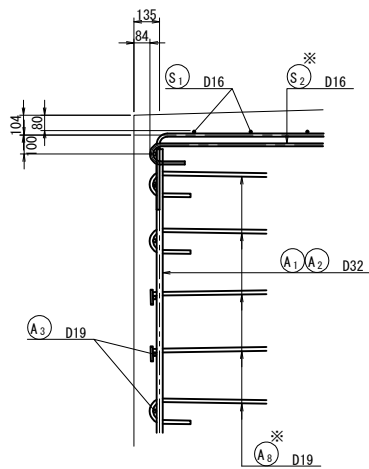
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - 道路標示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台配筋図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



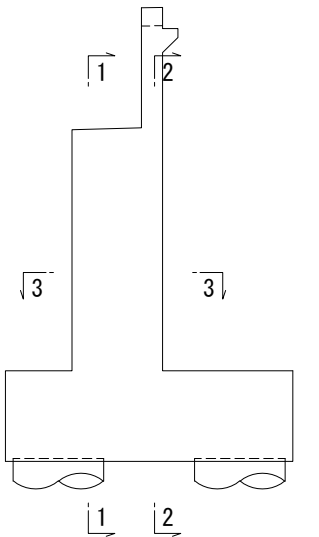
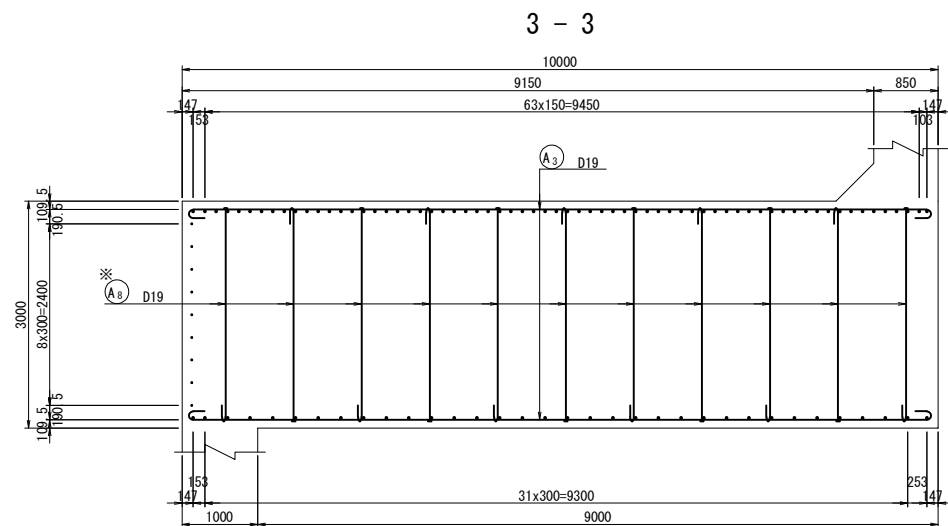
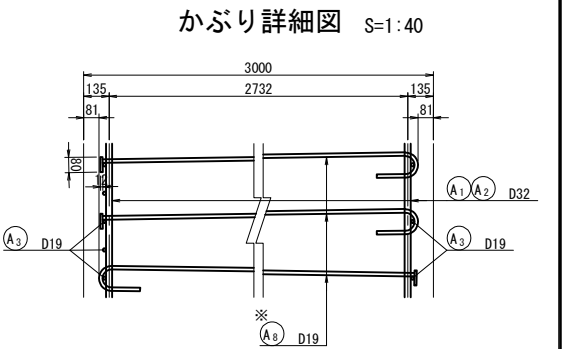
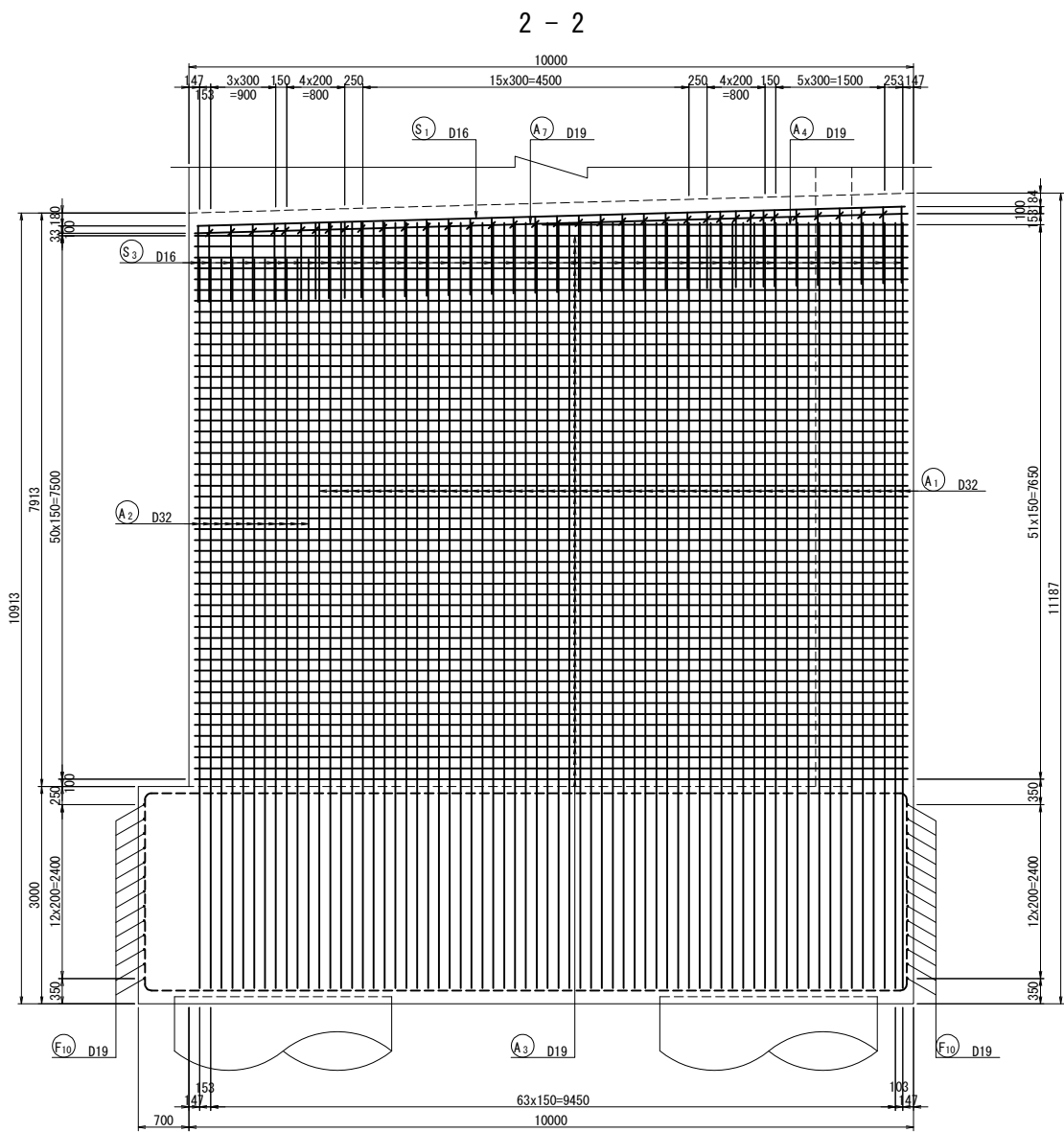
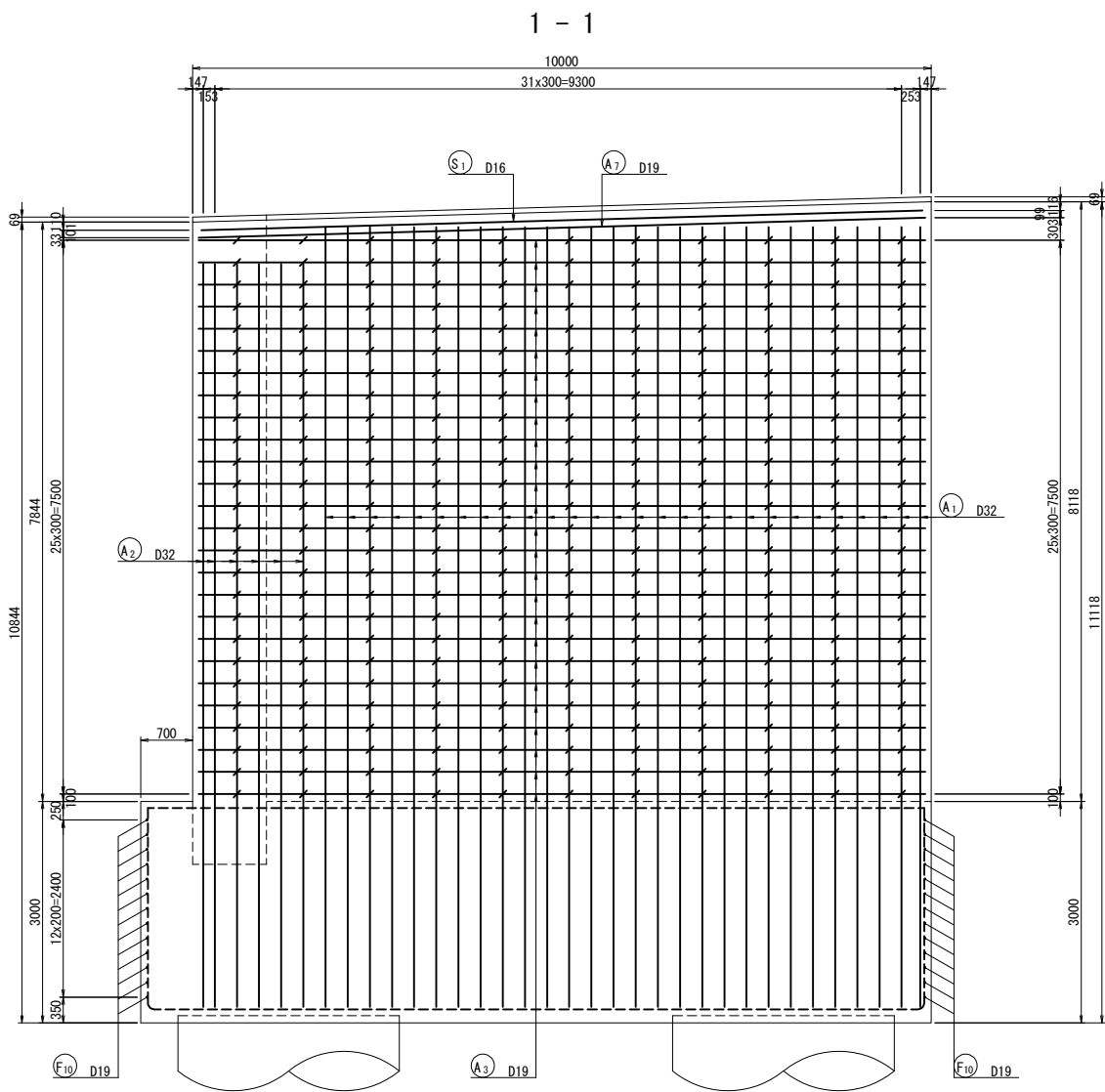
かぶり詳細図 S=1:40



特記事項

- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 3) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 4) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキン鉄筋を示す。
- 5) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A2橋台配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

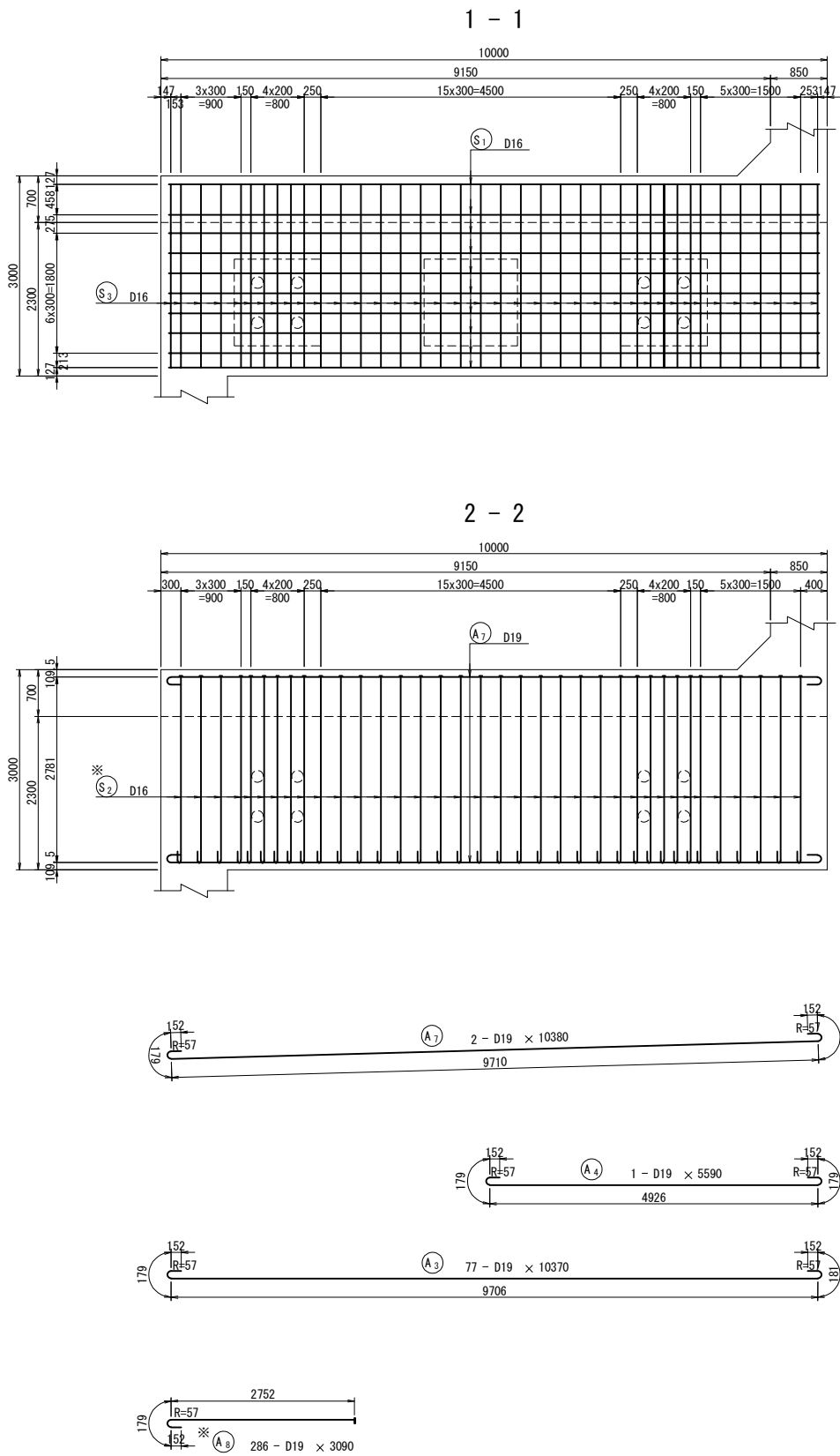
2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

3) 機械式鉄手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。

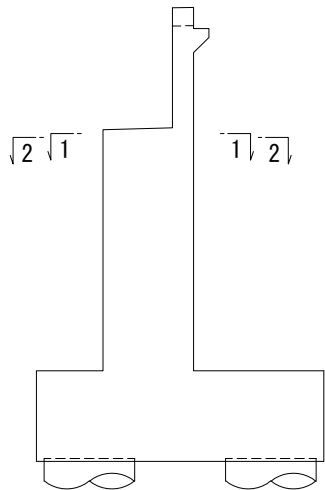
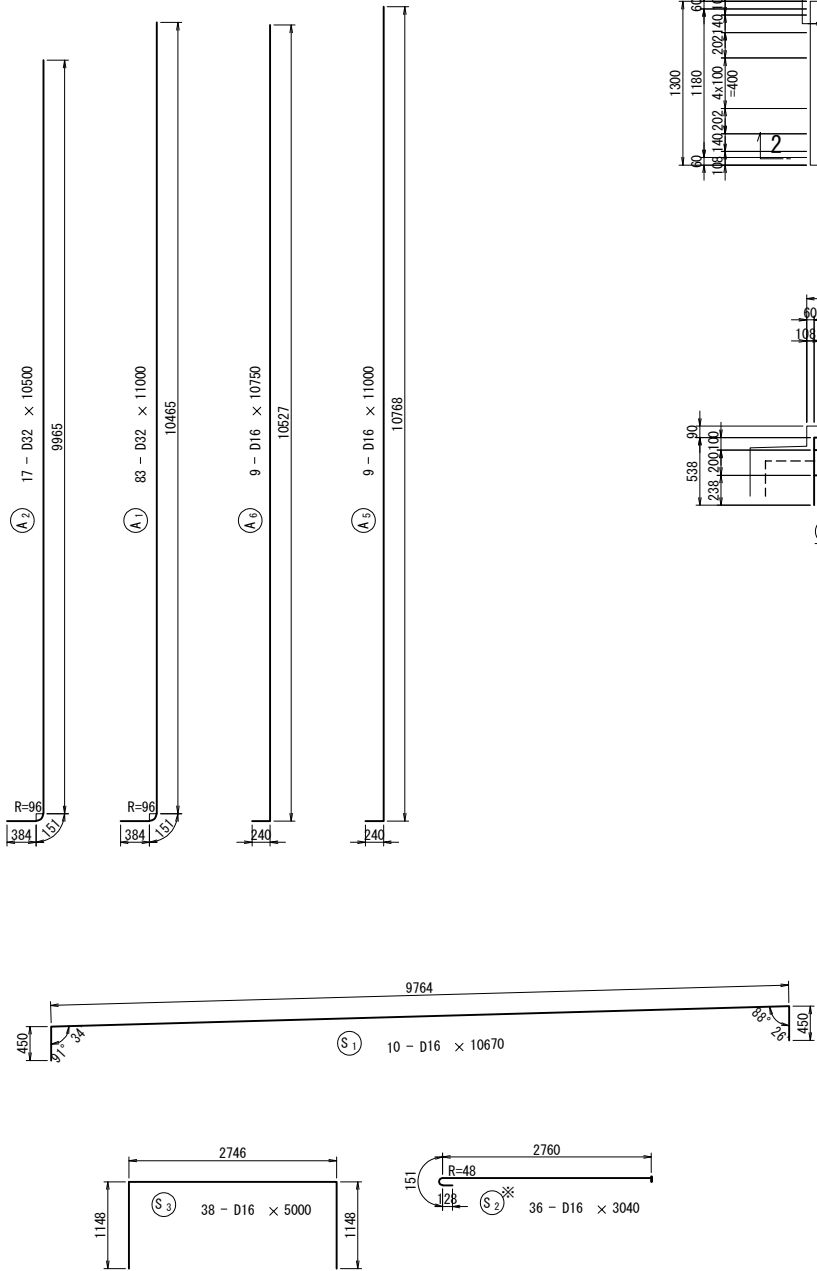
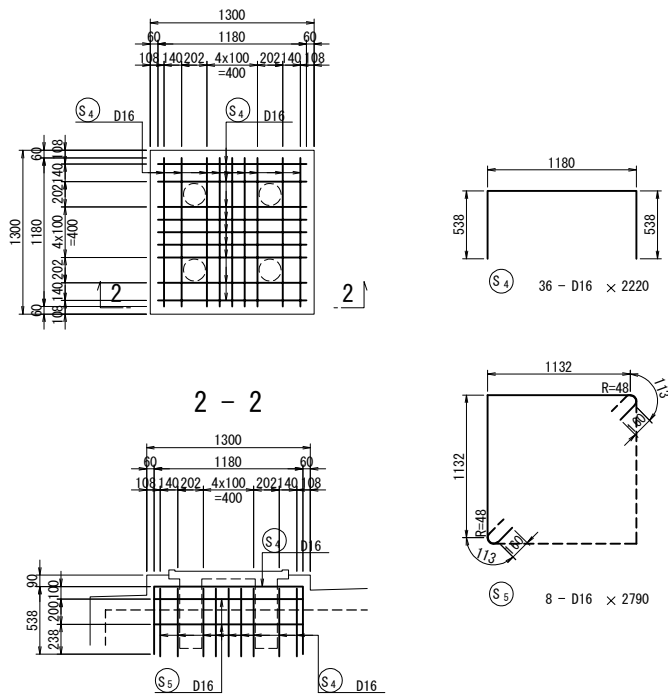
4) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。

5) K は機械式鉄手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



台座コンクリート補強図 S=1:60



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

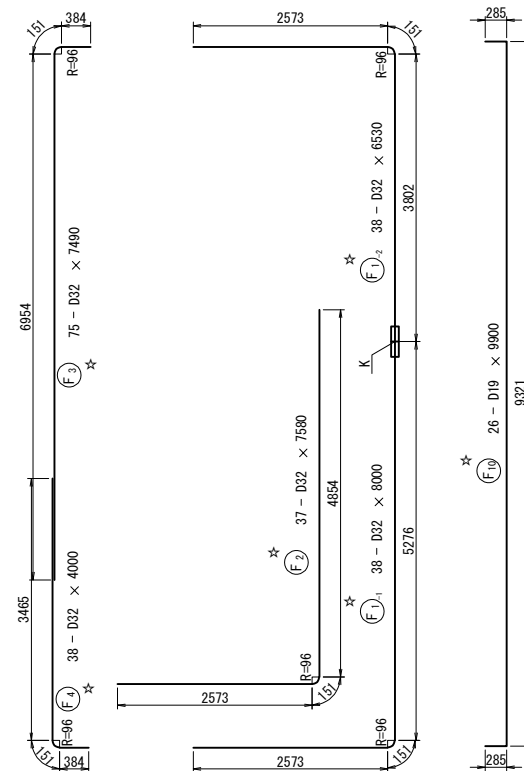
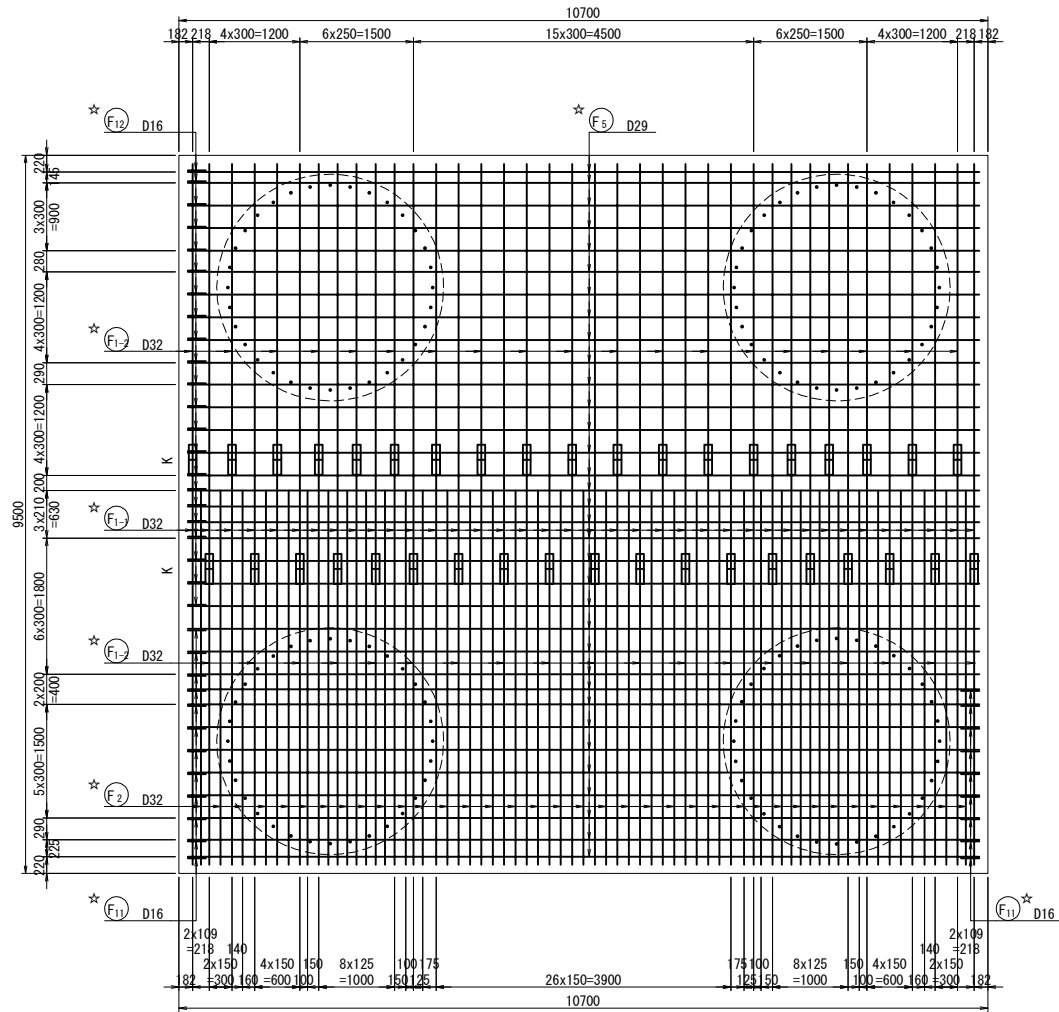
3) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

4) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

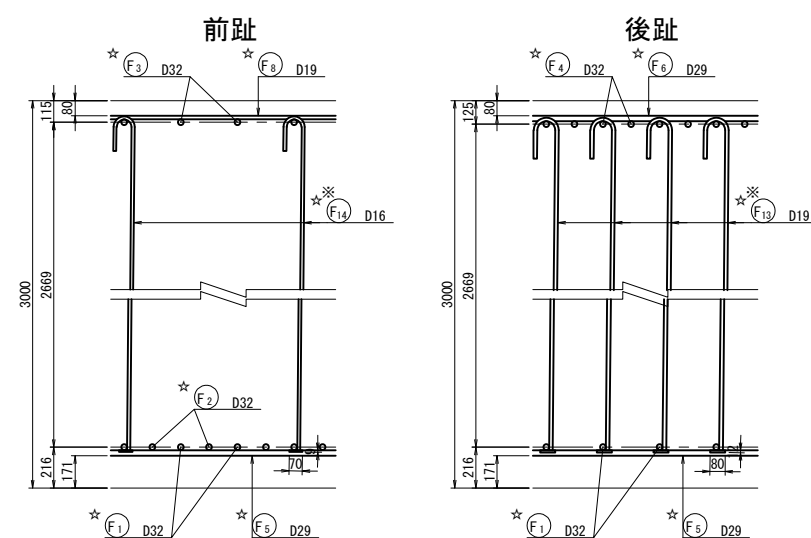
5) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A2橋台配筋図(4)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

2 - 2

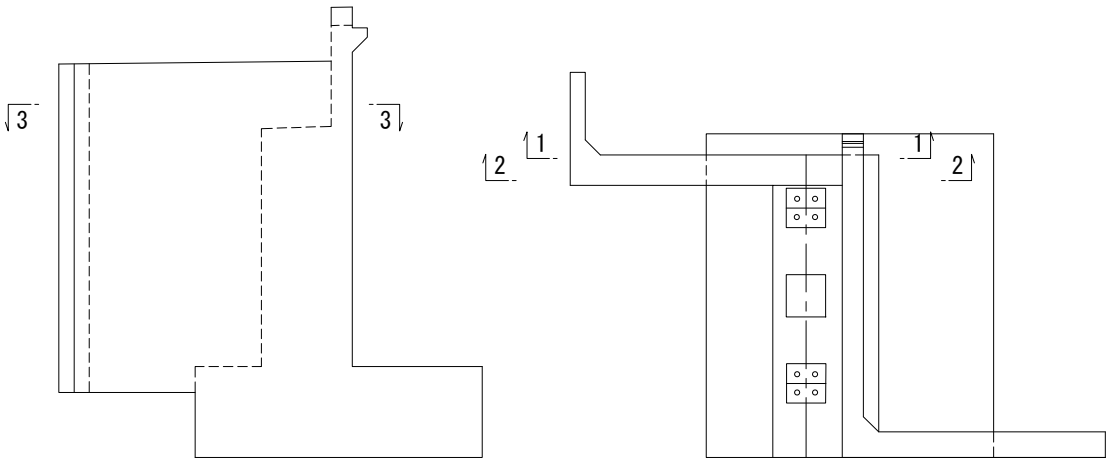
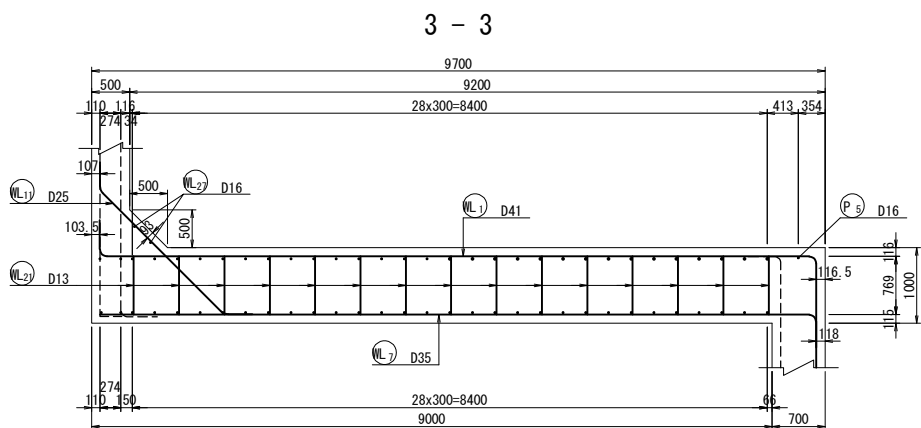
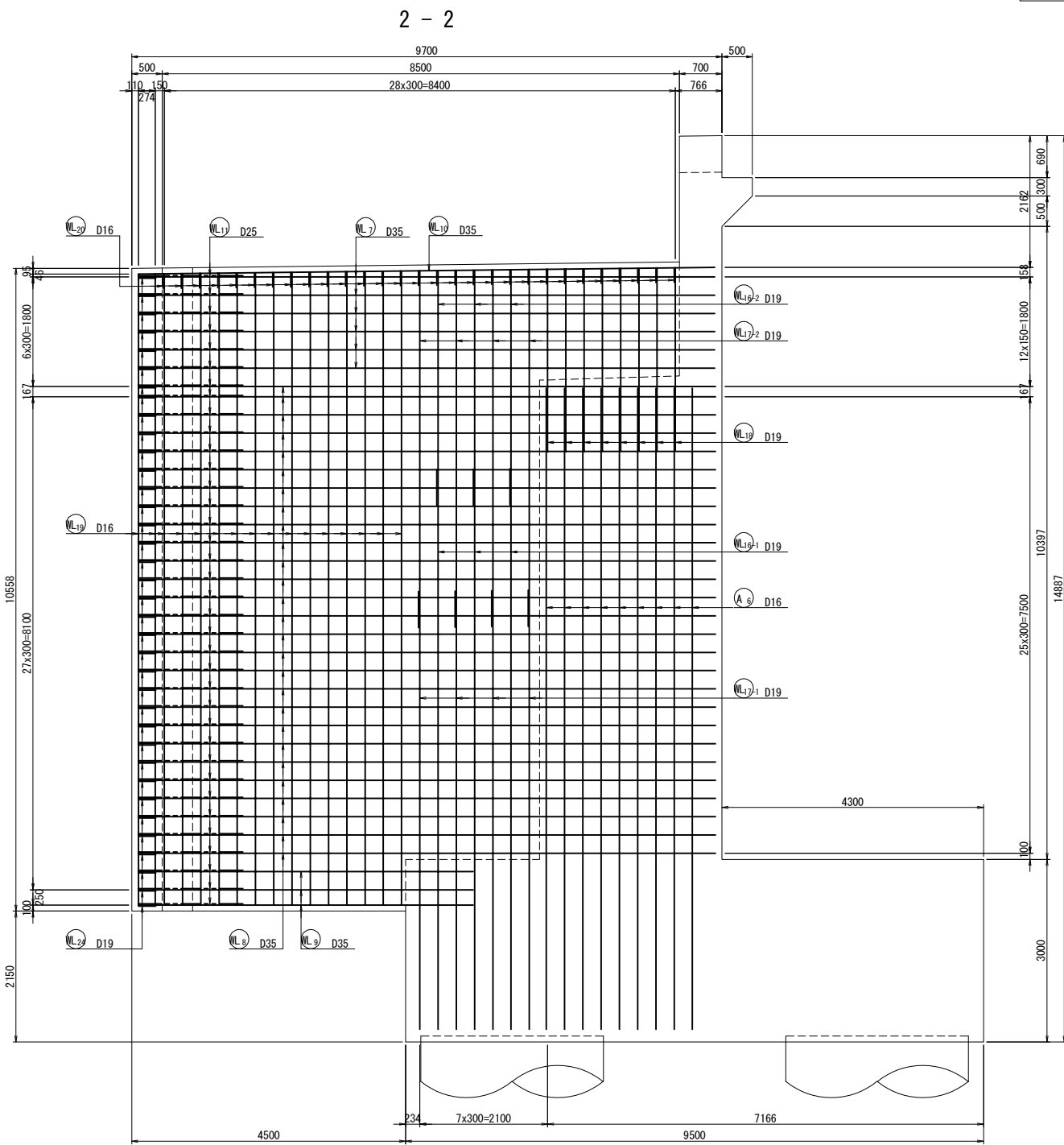
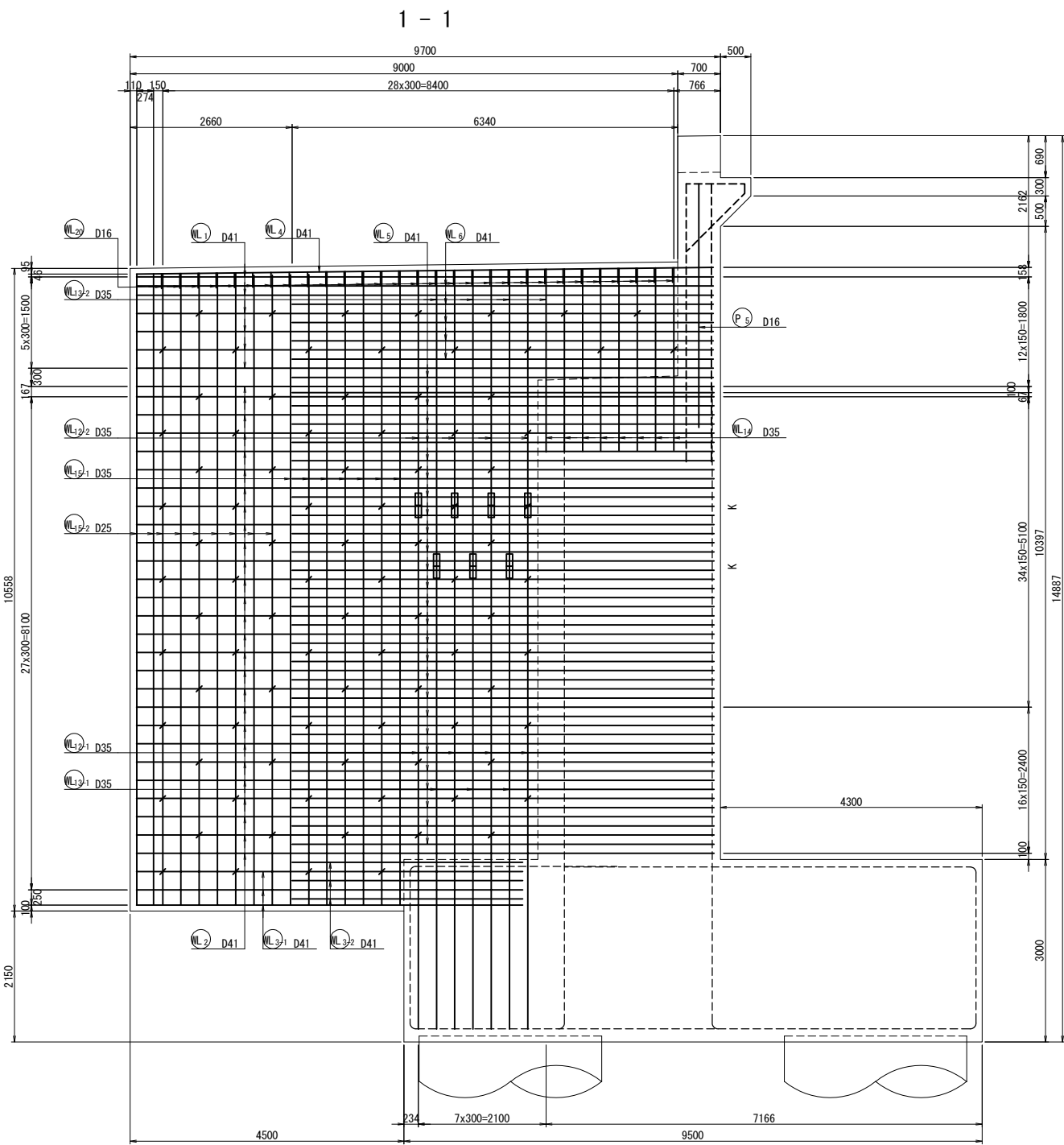


S=1 : 40

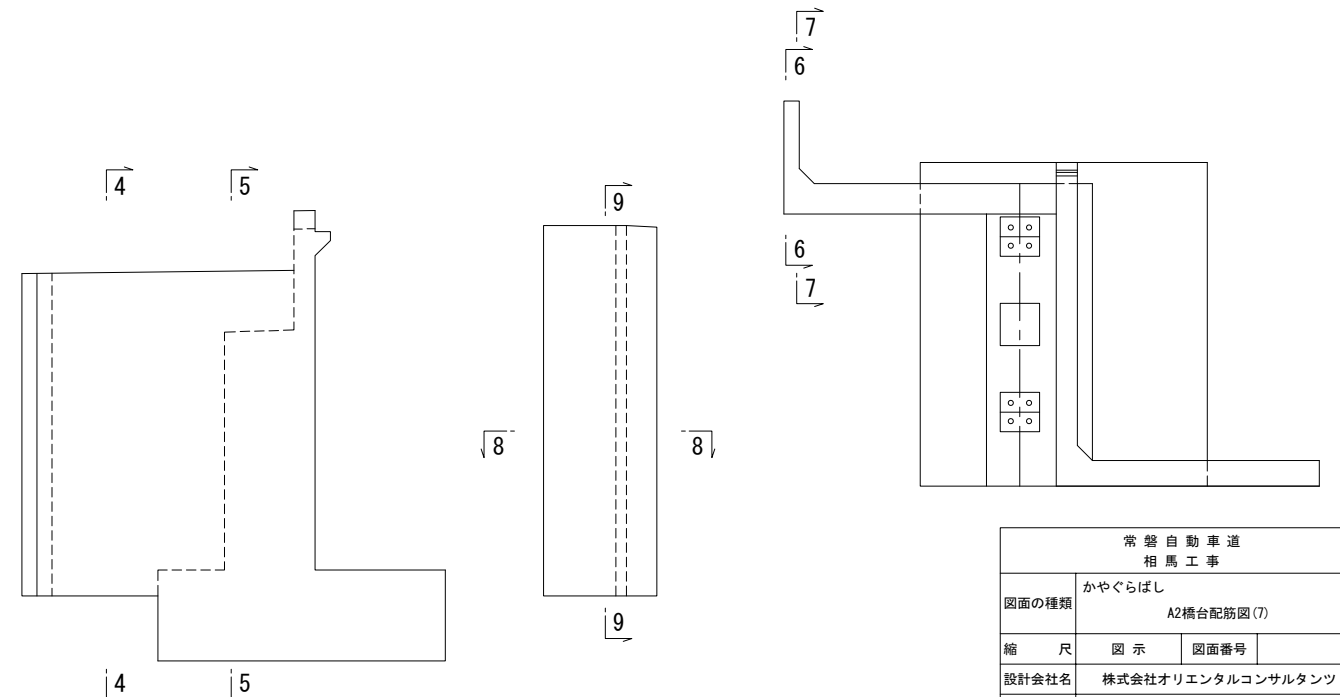
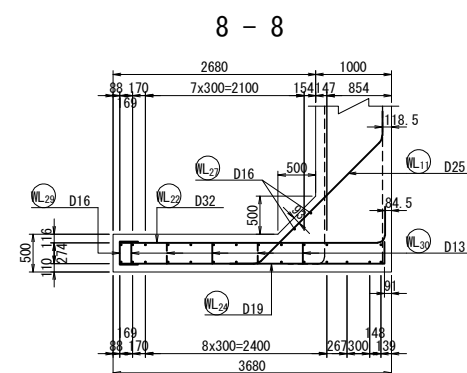
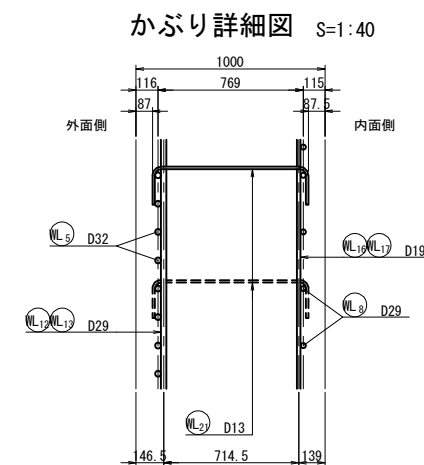
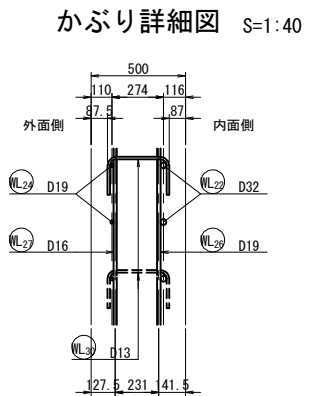
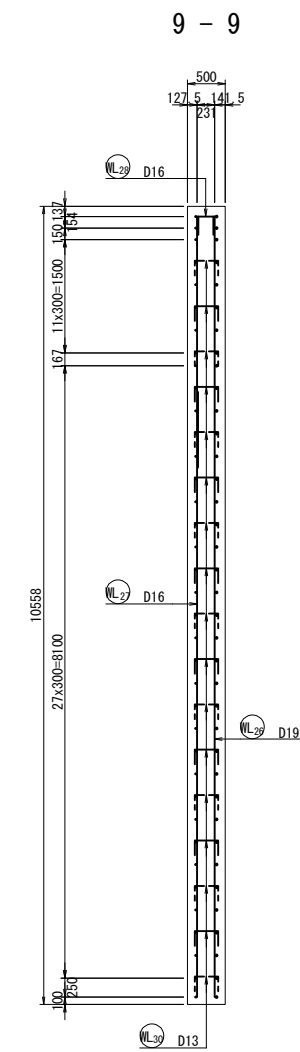
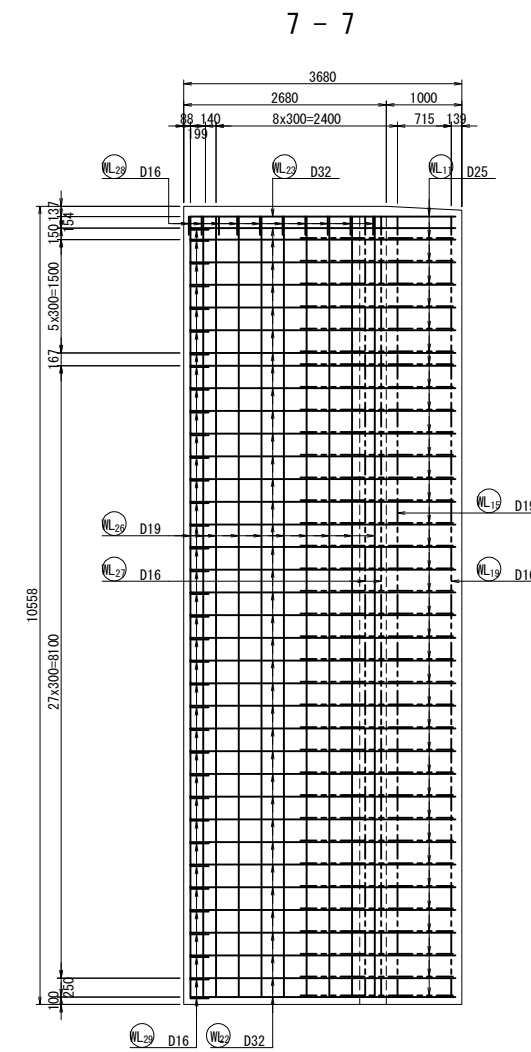
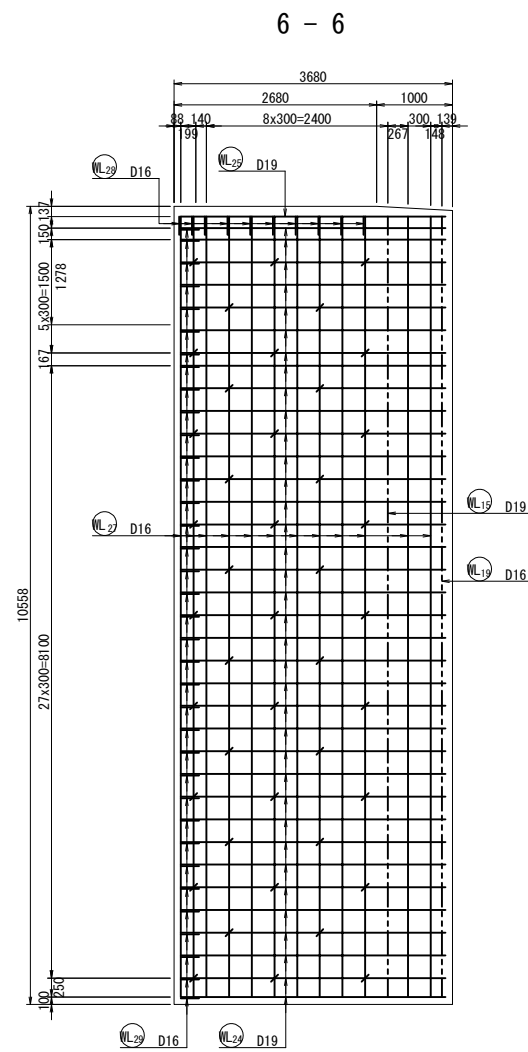
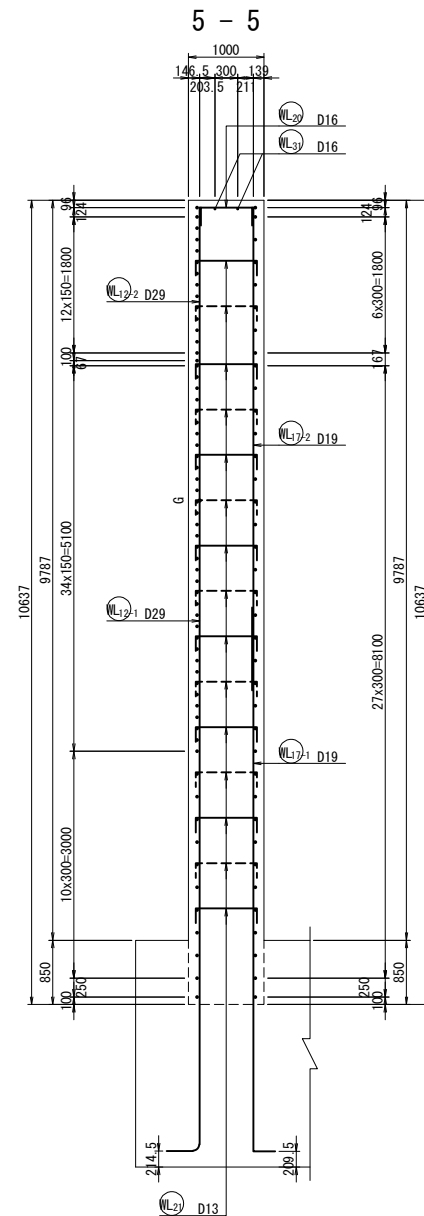
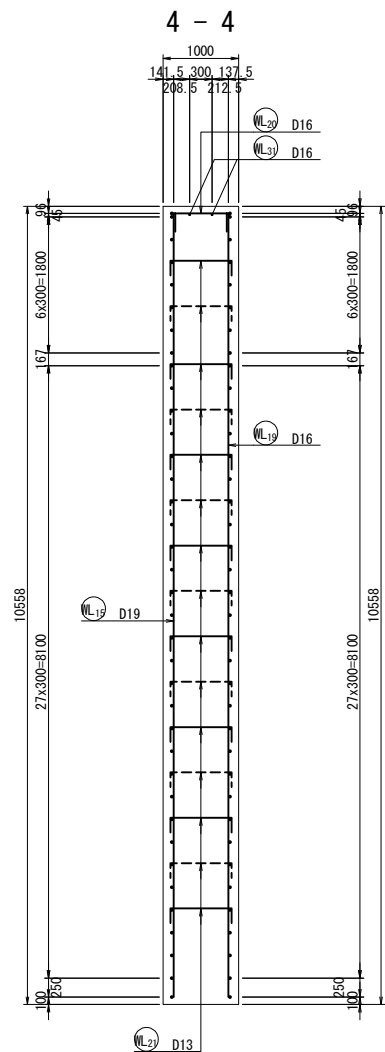


- 1) ※印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満たすこと。
 - ・道路標示方法 向解読図(29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
 - 監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
 - ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
 - K は機械式継手を示す。

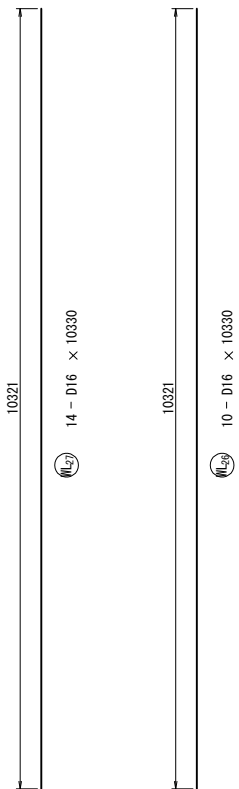
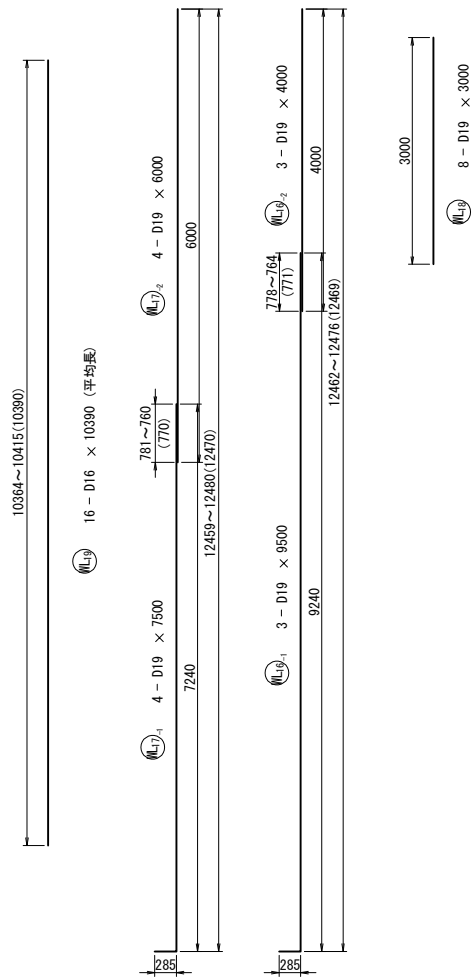
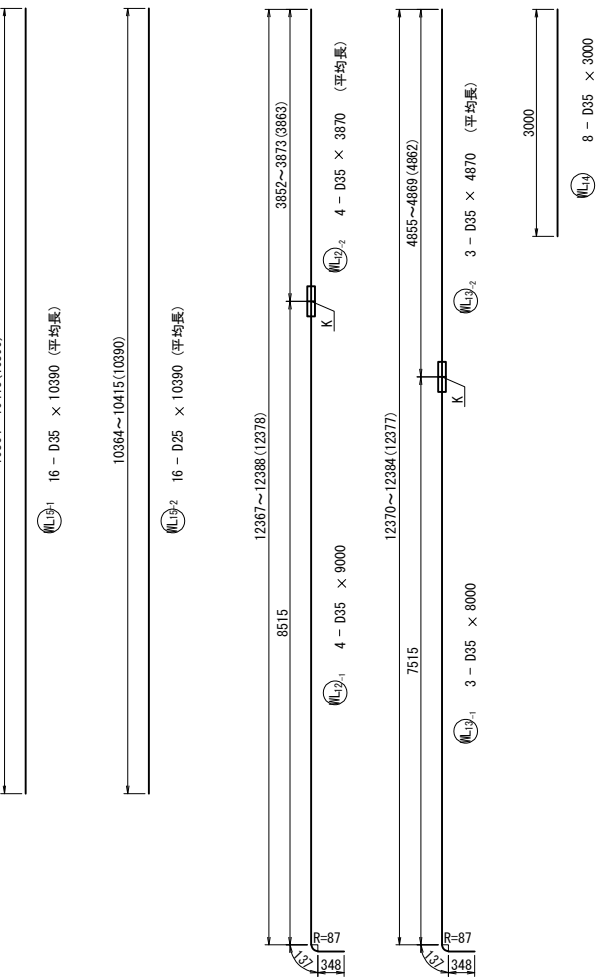
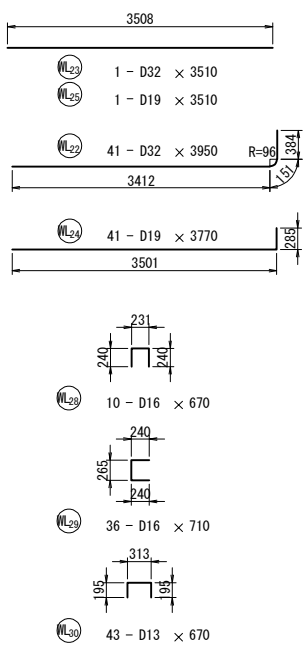
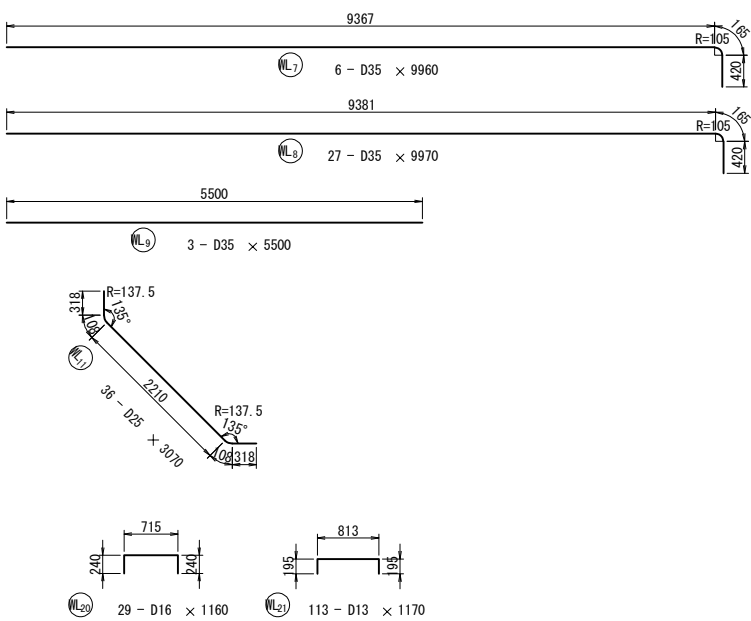
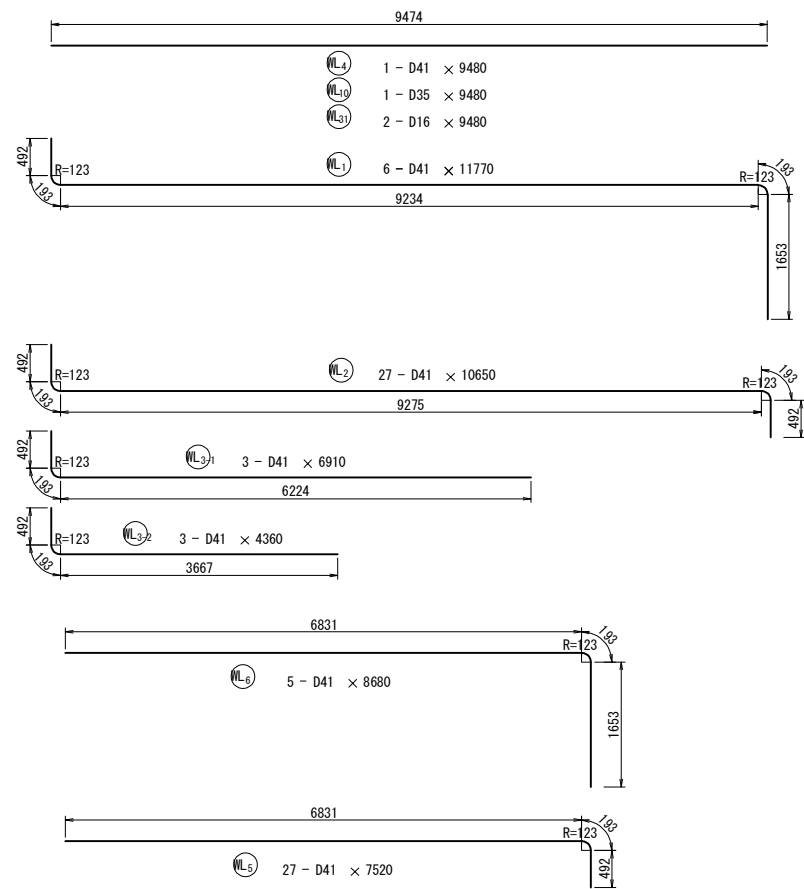
常盤自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらびし A2橋台配筋図(5)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支 いわき工事事務所		



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(6)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



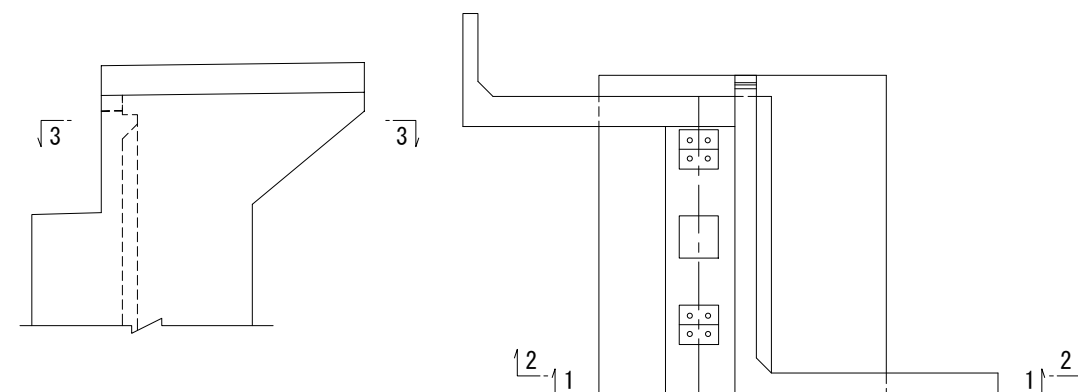
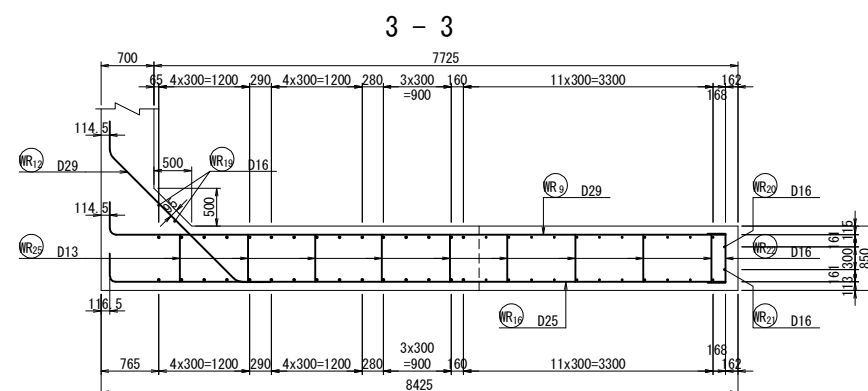
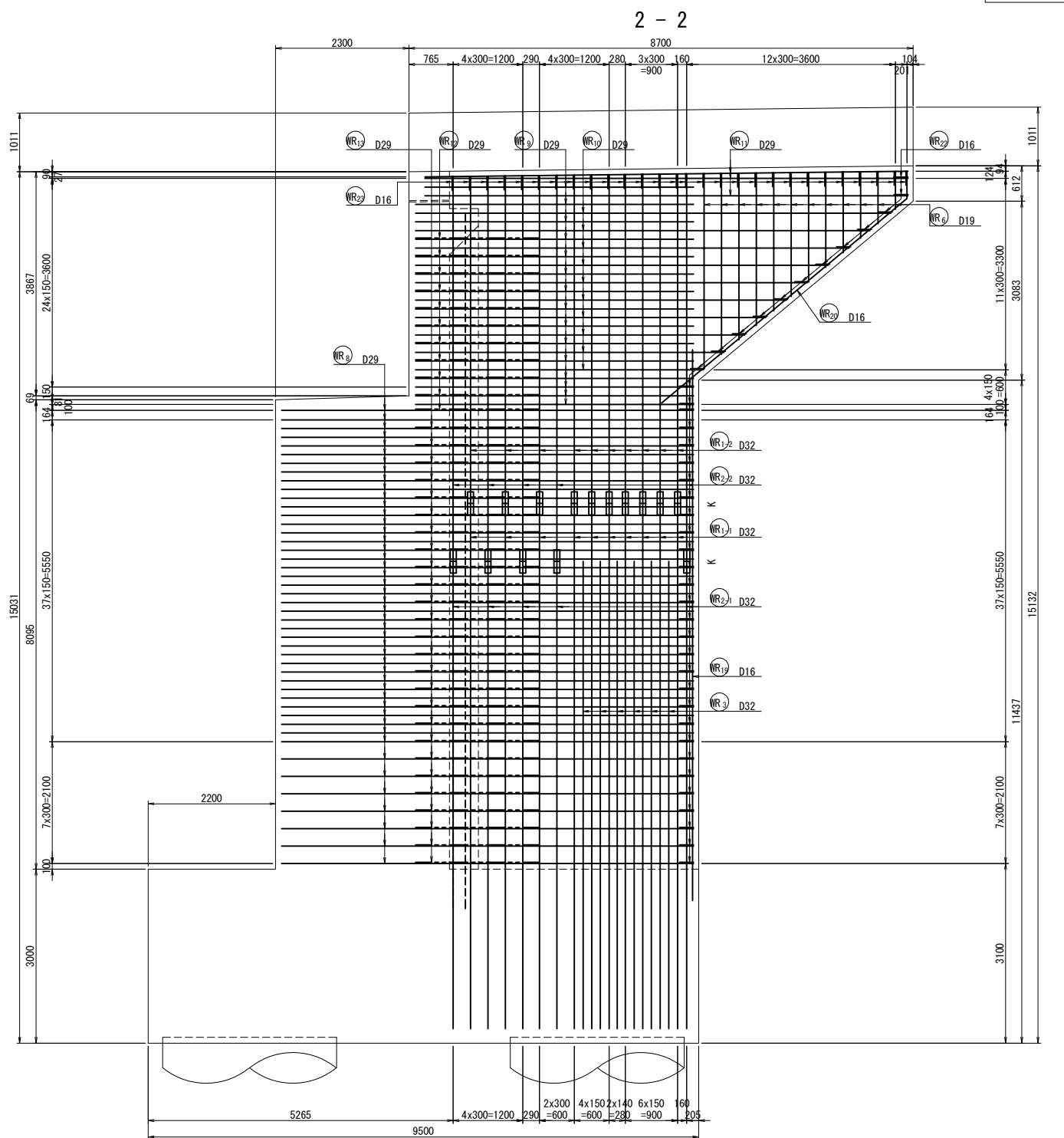
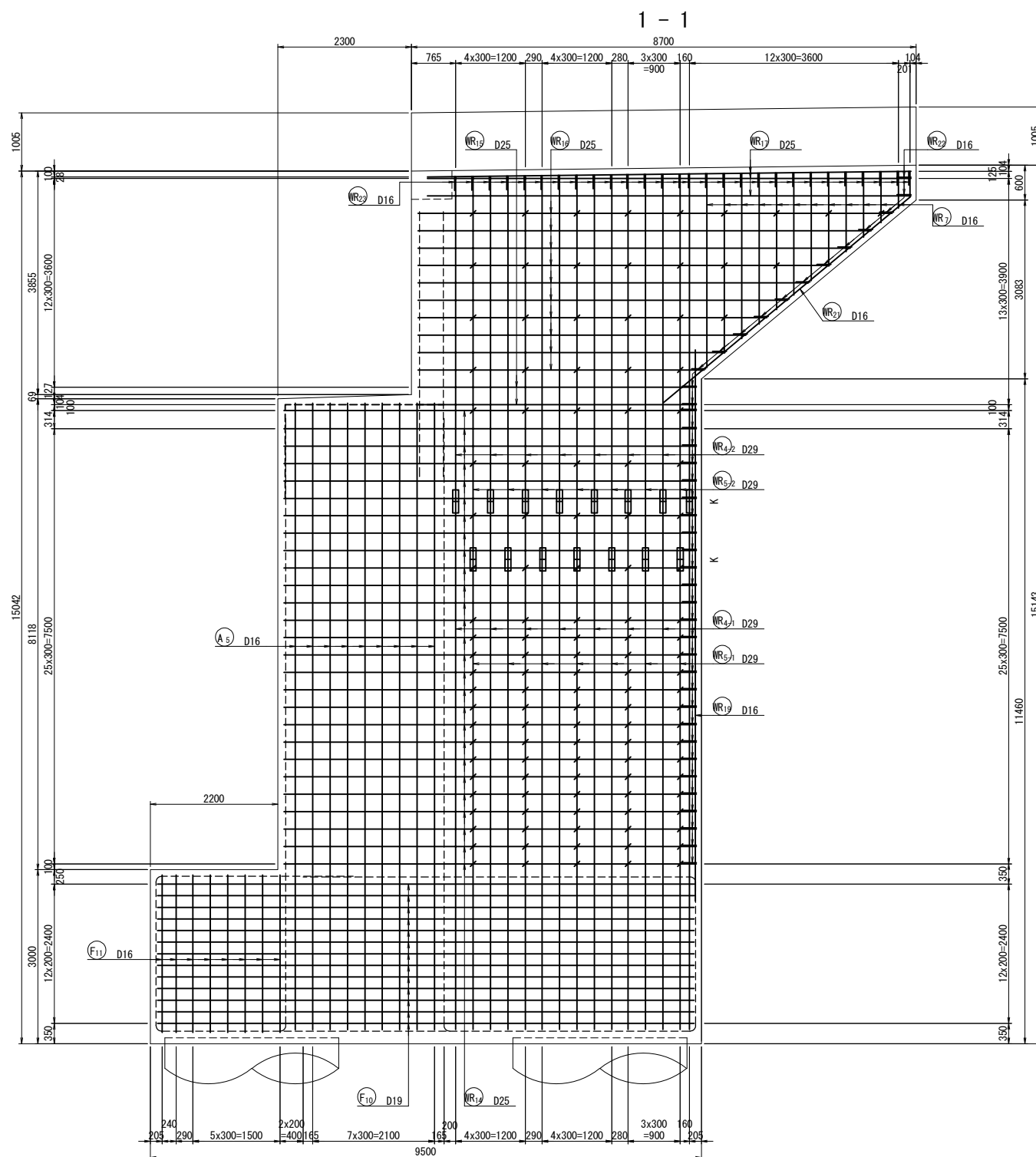
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(7)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



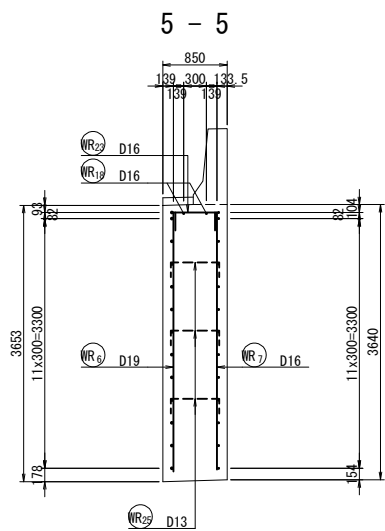
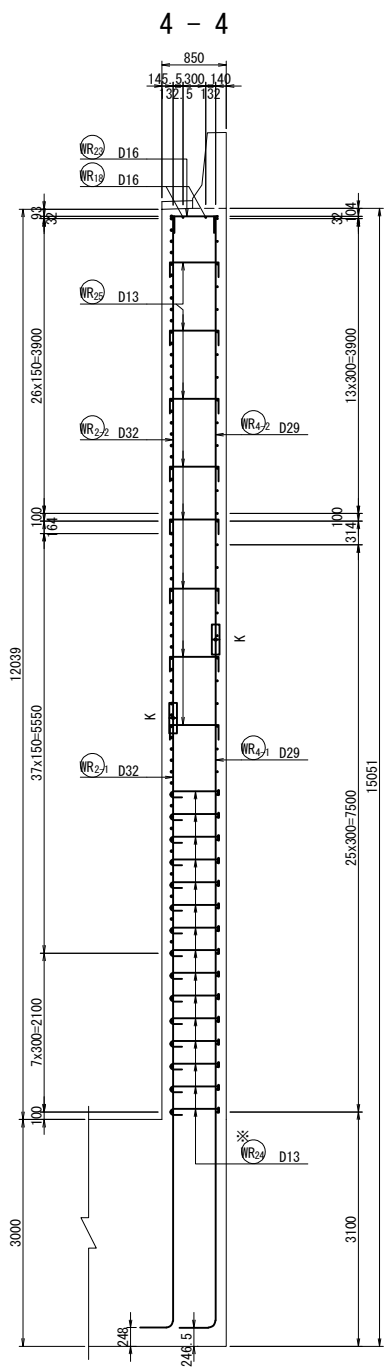
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 - ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
 - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- Kは機械式継手を示す。

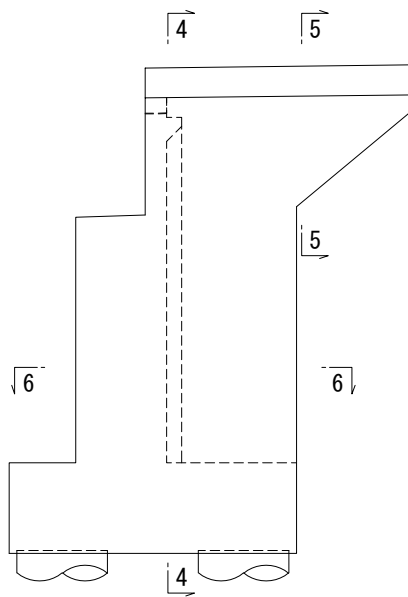
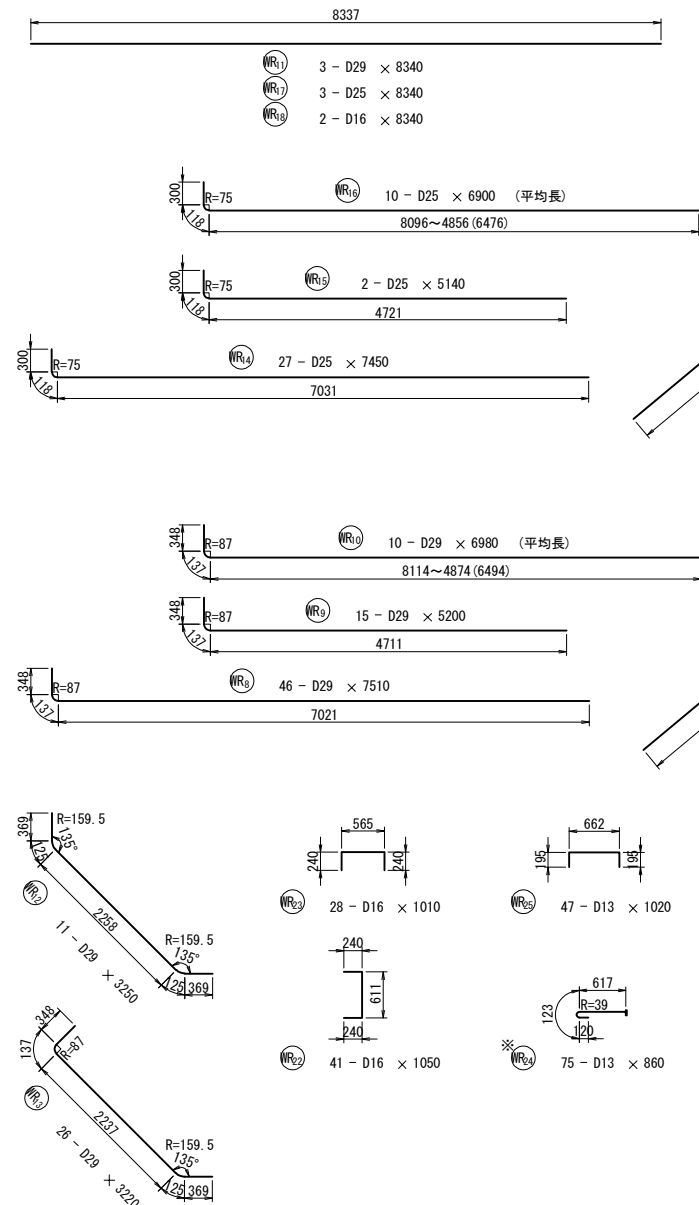
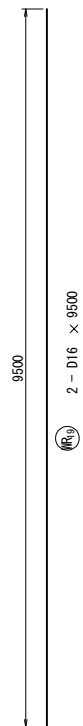
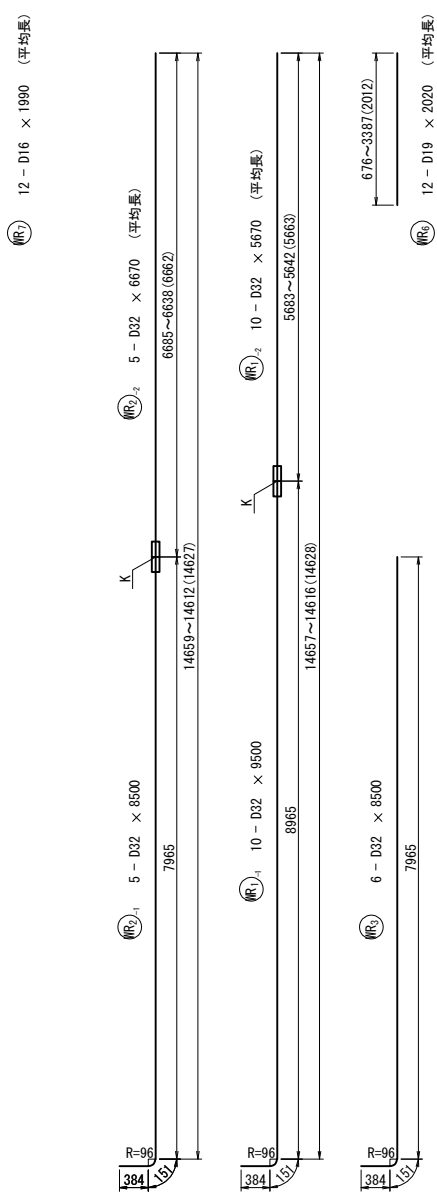
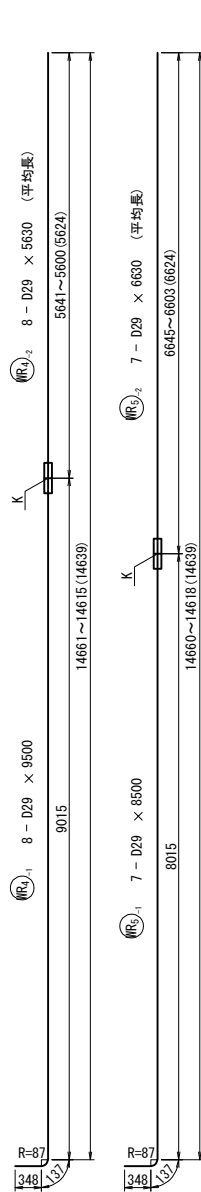
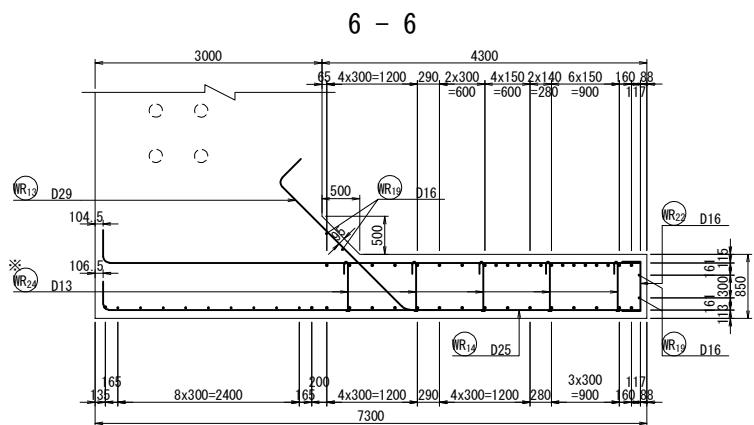
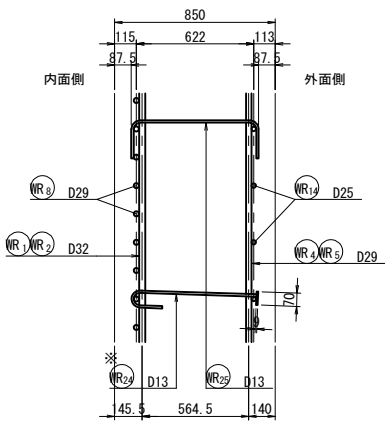
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(8)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(9)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



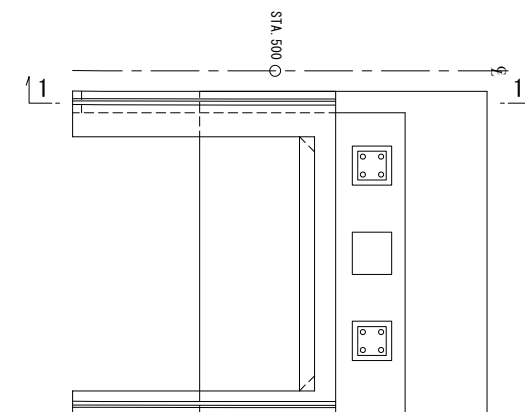
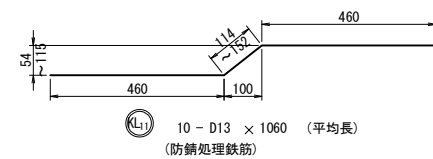
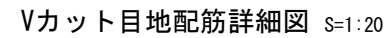
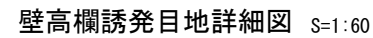
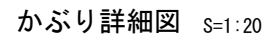
かぶり詳細図 S=1:40



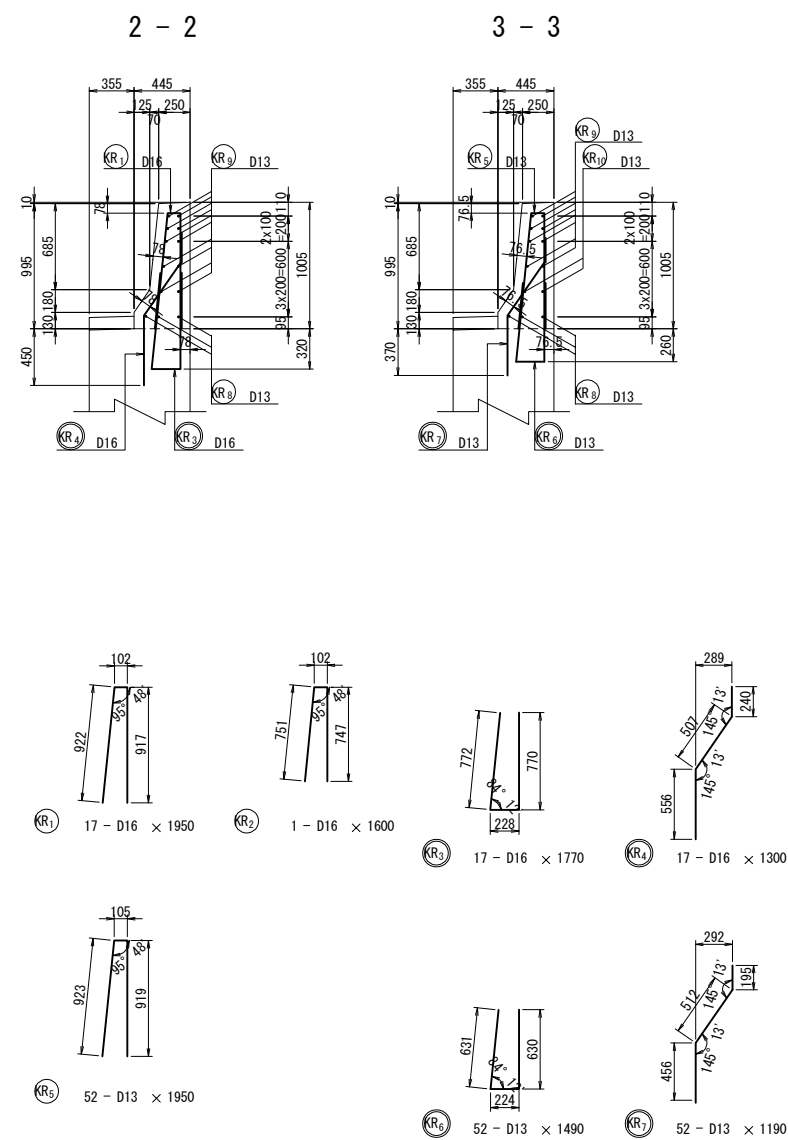
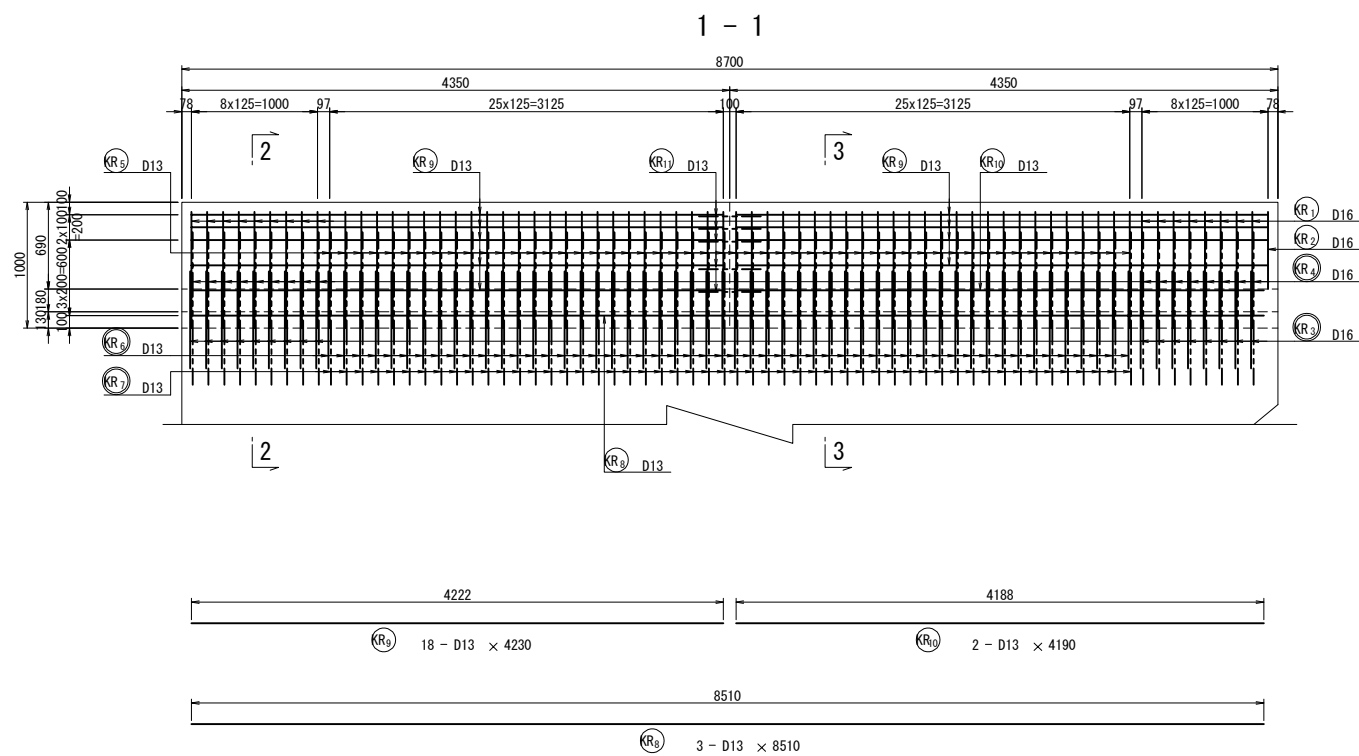
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
道路標示方書：同解説（H29.11日本道路協会）
機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

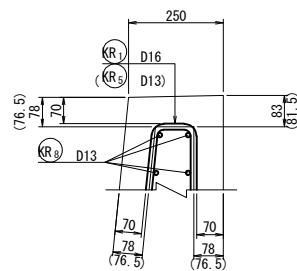
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台配筋図(10)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		



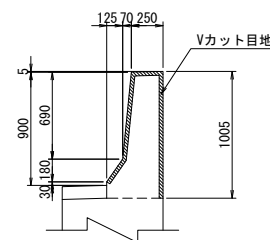
常 警 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(11)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



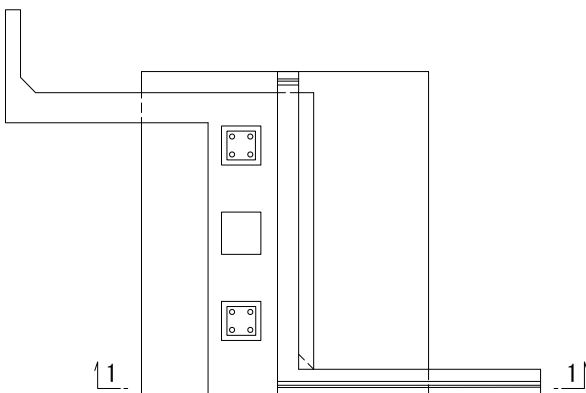
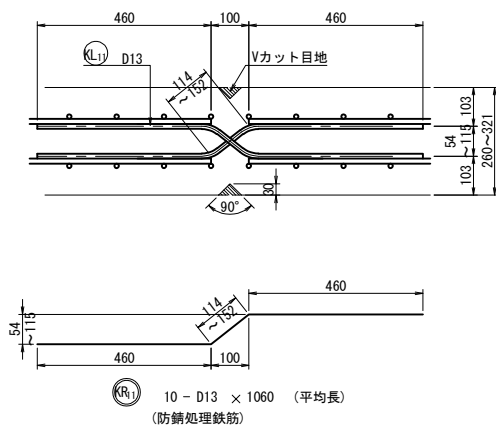
かぶり詳細図 S=1:20



壁高欄誘発目地詳細図 S=1:60



Vカット目地配筋詳細図 S=1:20



◎で示す鉄筋番号は、下部工施工時鉄筋を表す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(12)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A2橋台配筋図(13) S=1:60

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
P 1	D35	4,500	64	7.51	33.8	2,163	
P 2	D35	4,500	36	7.51	33.8	1,217	
P 3	D32	10,690	5	6.23	66.6	333	└
P 4-1	D32	10,690	13	6.23	66.6	866	└
P 4-2	D32	10,690	4	6.23	66.6	266	└
P 5	D29	10,600	22	5.04	53.4	1,175	└
P 6	D16	3,800	2	1.56	5.93	12	
P 7	D13	910	7	0.995	0.905	6	└
P 8	D13	9,930	1	0.995	9.88	10	└
P 9	D13	710	357	0.995	0.706	252	※
6,300 kg							
E 1	D22	520	12	3.04	1.58	19	
E 2	D16	2,690	28	1.56	4.20	118	└
E 3	D13	9,930	4	0.995	9.88	40	└
E 4	D13	1,280	12	0.995	1.27	15	≡
192 kg							
A 1	D32	11,000	83	6.23	68.5	5,686	└
A 2	D32	10,500	17	6.23	65.4	1,112	└
A 3	D19	10,370	77	2.25	23.3	1,794	└
A 4	D19	5,590	1	2.25	12.6	13	└
A 5	D16	11,000	9	1.56	17.2	155	└
A 6	D16	10,750	9	1.56	16.8	151	└
A 7	D19	10,380	2	2.25	23.4	47	└
A 8	D19	3,090	286	2.25	6.95	1,988	※
10,946 kg							
S 1	D16	10,670	10	1.56	16.6	166	└
S 2	D16	3,040	36	1.56	4.74	171	※
S 3	D16	5,000	38	1.56	7.80	296	└
S 4	D16	2,220	36	1.56	3.46	125	└
S 5	D16	2,790	8	1.56	4.35	35	└
793 kg							
☆ F 1-1	D32	8,000	38	6.23	49.8	1,892	└ [38]
☆ F 1-2	D32	6,530	38	6.23	40.7	1,547	└
☆ F 2	D32	7,580	37	6.23	47.2	1,746	└
☆ F 3	D32	7,490	75	6.23	46.7	3,503	└
☆ F 4	D32	4,000	38	6.23	24.9	946	└
☆ F 5	D29	11,250	34	5.04	56.7	1,928	└
☆ F 6	D29	11,270	16	5.04	56.8	909	└
☆ F 7	D22	1,580	8	3.04	4.80	38	└
☆ F 8	D19	10,980	10	2.25	24.7	247	└
☆ F 9	D19	11,040	26	2.25	24.8	645	└
☆ F 10	D19	9,900	26	2.25	22.3	580	└
☆ F 11	D16	3,160	20	1.56	4.93	99	└
☆ F 12	D16	3,150	22	1.56	4.91	108	└
☆ F 13	D19	2,990	206	2.25	6.73	1,386	※
☆ F 14	D16	2,940	33	1.56	4.59	151	※
15,725 kg							
WL 1	D41	11,770	6	10.5	124.0	744	└
WL 2	D41	10,650	27	10.5	112.0	3,024	└
WL 3-1	D41	6,910	3	10.5	72.6	218	└
WL 3-2	D41	4,360	3	10.5	45.8	137	└
WL 4	D41	9,480	1	10.5	99.5	100	└
WL 5	D41	7,520	27	10.5	79.0	2,133	└
WL 6	D41	8,680	5	10.5	91.1	456	└
WL 7	D35	9,960	6	7.51	74.8	449	└
WL 8	D35	9,970	27	7.51	74.9	2,022	└
WL 9	D35	5,500	3	7.51	41.3	124	└
WL 10	D35	9,480	1	7.51	71.2	71	└
WL 11	D25	3,070	36	3.98	12.2	439	└
WL 12-1	D35	9,000	4	7.51	67.6	270	└ [4]
WL 12-2	D35	3,870	4	7.51	29.1	116	└ (平均長)
WL 13-1	D35	8,000	3	7.51	60.1	180	└ [3]
WL 13-2	D35	4,870	3	7.51	36.6	110	└ (平均長)
WL 14	D35	3,000	8	7.51	22.5	180	└
WL 15-1	D35	10,390	7	7.51	78.0	546	└ (平均長)
WL 15-2	D25	10,390	9	3.98	41.4	373	└ (平均長)
WL 16-1	D19	9,500	3	2.25	21.4	64	└
WL 16-2	D19	4,000	3	2.25	9.00	27	└
WL 17-1	D19	7,500	4	2.25	16.9	68	└
WL 17-2	D19	6,000	4	2.25	13.5	54	└
WL 18	D19	3,000	8	2.25	6.75	54	└
WL 19	D16	10,390	16	1.56	16.2	259	└ (平均長)
WL 20	D16	1,160	29	1.56	1.81	52	└

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
WL 21	D13	1,170	113	0.995	1.16	131	└
WL 22	D32	3,950	41	6.23	24.6	1,009	└
WL 23	D32	3,510	1	6.23	21.9	22	└
WL 24	D19	3,770	41	2.25	8.48	348	└
WL 25	D19	3,510	1	2.25	7.90	8	└
WL 26	D19	10,330	10	2.25	23.2	232	└
WL 27	D16	10,330	14	1.56	16.1	225	└
WL 28	D16	670	10	1.56	1.05	11	└
WL 29	D16	710	36	1.56	1.11	40	└
WL 30	D13	670	43	0.995	0.67	29	└
WL 31	D16	9,480	2	1.56	14.8	30	└
14,355 kg							
WR 1-1	D32	9,500	10	6.23	59.2	592	└ [10]
WR 1-2	D32	5,670	10	6.23	35.3	353	└ (平均長)
WR 2-1	D32	8,500	5	6.23	53.0	265	└ [5]
WR 2-2	D32	6,670	5	6.23	41.6	208	└ (平均長)
WR 3	D32	8,500	6	6.23	53.0	318	└
WR 4-1	D29	9,500	8	5.04	47.9	383	└ [8]
WR 4-2	D29	5,630	8	5.04	28.4	227	└ (平均長)
WR 5-1	D29	8,500	7	5.04	42.8	300	└ [7]
WR 5-2	D29	6,630	7	5.04	33.4	234	└ (平均長)
WR 6	D19	2,040	12	2.25	4.59	55	└ (平均長)
WR 7	D16	1,990	12	1.56	3.10	37	└ (平均長)
WR 8	D29	7,510	46	5.04	37.9	1,743	└
WR 9	D29	5,200	15	5.04	26.2	393	└
WR 10	D29	6,980	10	5.04	35.2	352	└ (平均長)
WR 11	D29	8,340	3	5.04	42.0	126	└
WR 12	D29	3,250	11	5.04	16.4	180	└
WR 13	D29	3,220	26	5.04	16.2	421	└
WR 14	D25	7,450	27	3.98	29.7	802	└
WR 15	D25	5,140	2	3.98	20.5	41	└
WR 16	D25	6,900	10	3.98	27.5	275	└ (平均長)
WR 17	D25	8,340	3	3.98	33.2	100	└
WR 18	D16	8,340	2	1.56	13.0	26	└
WR 19	D16	9,500	2	1.56	14.8	30	└
WR 20	D16	6,000	1	1.56	9.36	9	└
WR 21	D16	6,000	1	1.56	9.36	9	└
WR 22	D16	1,050	41	1.56	1.64	67	└
WR 23	D16	1,010	28	1.56	1.58	44	└
WR 24	D13	860	75	0.995	0.856	64	※
WR 25	D13	1,020	47	0.995	1.01	47	└
7,701 kg							
KL 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	└
KL 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	└
KL 3	D16	1,400	17	1.56	2.18	37	└
KL 4	D16	1,230	17	1.56	1.92	33	└
KL 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	└
KL 6	D13	1,240	52	0.995	1.23	64	└
KL 7	D13	1,150	52	0.995	1.14	59	└
KL 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	└
KL 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	└
KL 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	└
KL 11	D13	1,060	10	0.995	1.05	11	└
469 kg							
KR 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	└
KR 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	└
KR 3	D16	1,770	17	1.56	2.76	47	└
KR 4	D16	1,300	17	1.56	2.03	35	└
KR 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	└
KR 6	D13	1,490	52	0.995	1.48	77	└
KR 7	D13	1,190	52	0.995	1.18	61	└
KR 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	└
KR 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	└
KR 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	└
KR 11	D13	1,060	10	0.995	1.05	11	└
496 kg							
B 1	D16	3,900	4	1.56	6.08	24	└
B 2	D16	3,770	5	1.56	5.88	29	└
B 3	D13	2,710	8	0.995	2.70	22	└
75 kg							

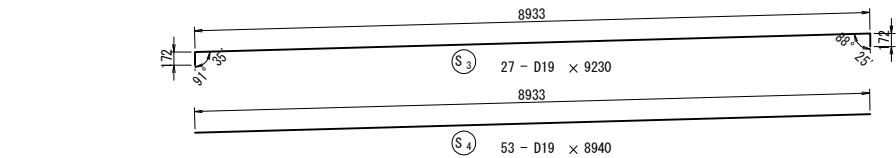
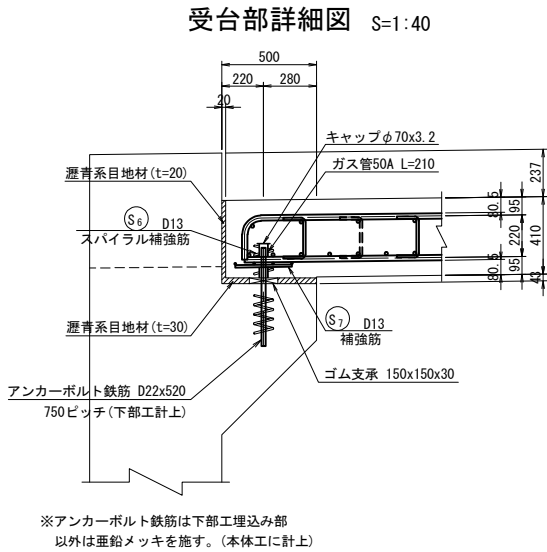
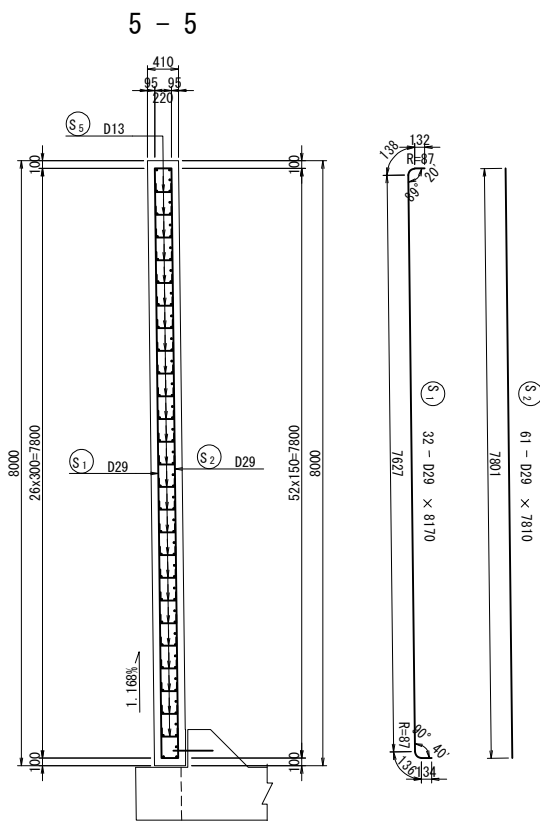
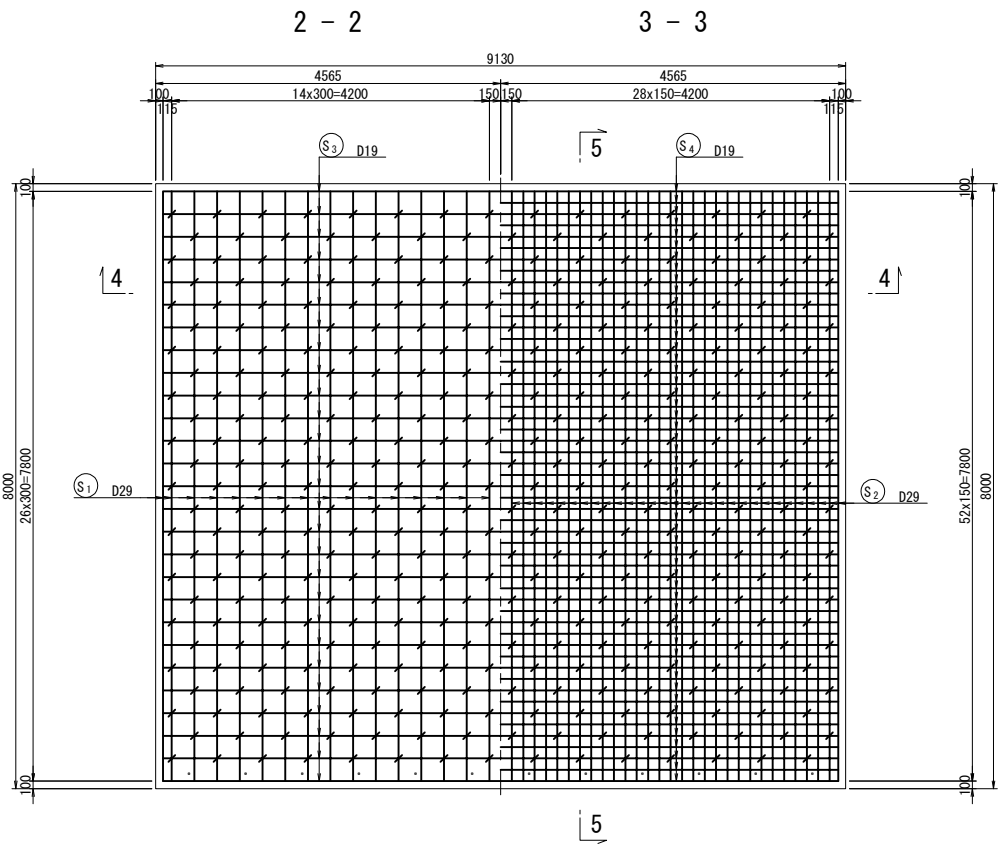
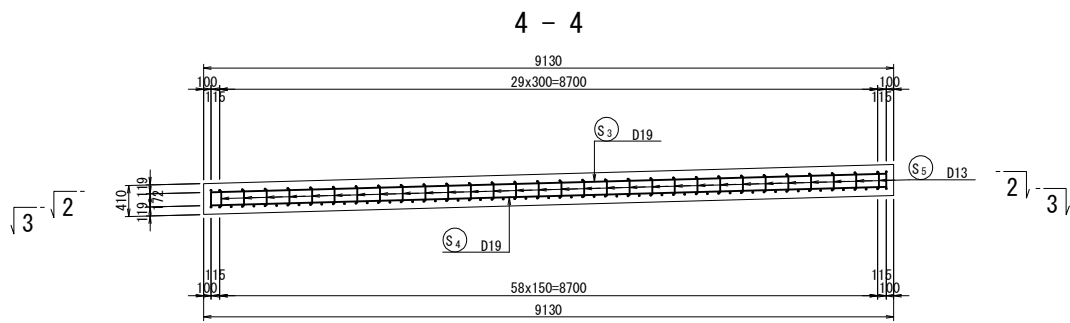
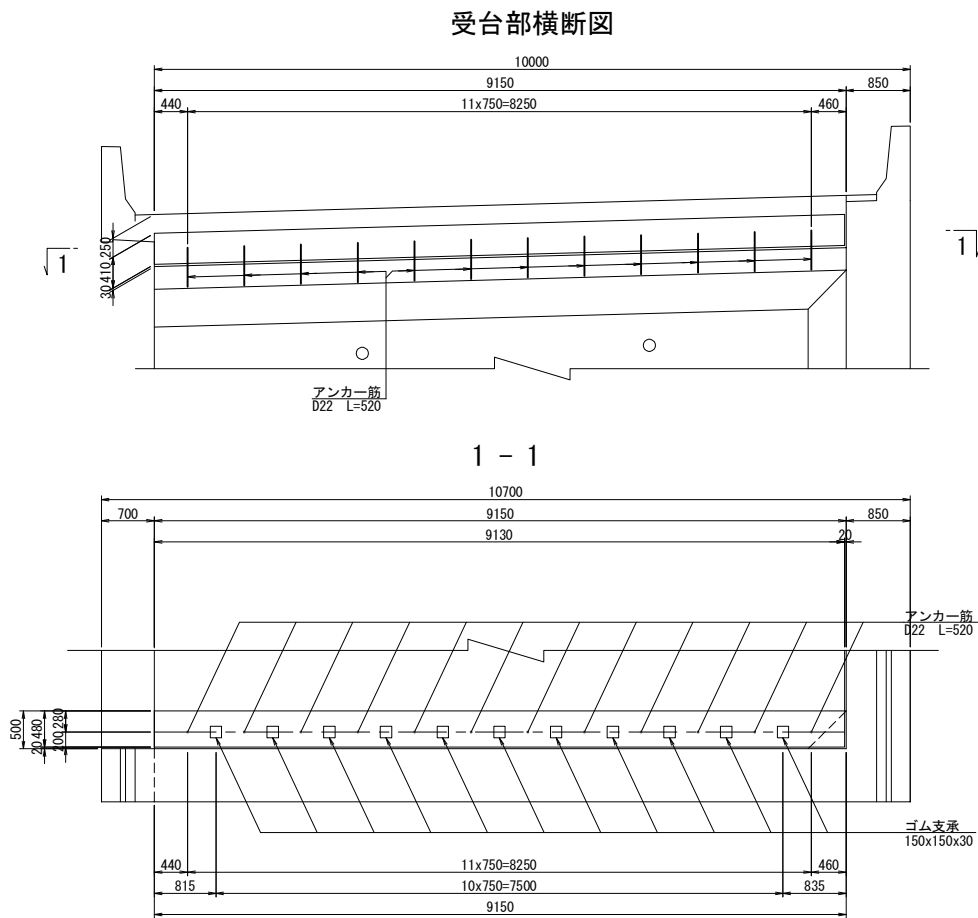
	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A + B + C
普通鉄筋	D51 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D41 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D38 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D35 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D32 6195 kg	3439 kg (38)	--- kg	9634 kg
	D29 2837 kg	--- kg	--- kg	2837 kg
	D25 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D22 38 kg	--- kg	--- kg	38 kg
	D19 1472 kg	--- kg	1386 kg	2858 kg
	D16 207 kg	--- kg	151 kg	358 kg
	D13 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
合計	10749 kg	3439 kg	1537 kg	15725 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋	D51 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D41 6812 kg	--- kg	--- kg	6812 kg
	D38 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D35 6772 kg	676 kg (7)	--- kg	7448 kg
	D32 9612 kg	1418 kg (15)	--- kg	11030 kg
	D29 4390 kg	1144 kg (15)	--- kg	5534 kg
	D25 2030 kg	--- kg	--- kg	2030 kg
	D22 19 kg	--- kg	--- kg	19 kg
	D19 2764 kg	--- kg	1988 kg	4752 kg
	D16 2212 kg	--- kg	171 kg	2383 kg
	D13 1003 kg	--- kg	316 kg	1319 kg
合計	35614 kg	3238 kg	2475 kg	41327 kg
総質量	46363 kg	6677 kg	4012 kg	57052 kg

機械式鉄筋定着工法数量表（普通鉄筋）

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	33	---	---	---
D19	---	---	206	---	---	---
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	239	---	---	---
合計	239箇所					

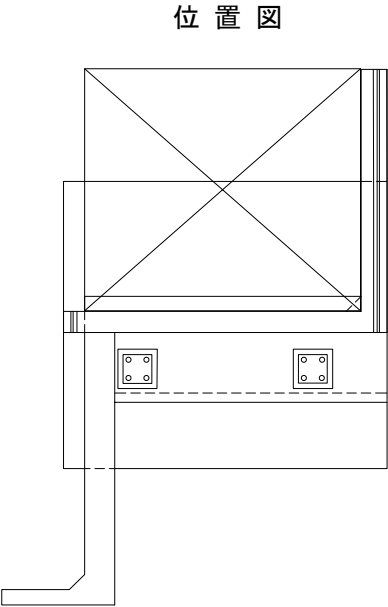
機械式鉄筋定着工法数量表（エポキシ樹脂）

鉄筋径	箇 所 数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	432	—	—	—	—	—
D16	—	—	—	36	—	—
D19	—	—	—	286	—	—
D22	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	—	—	—	—
小 計	432	—	—	322	—	—
合 計						754 箇所



鉄筋表

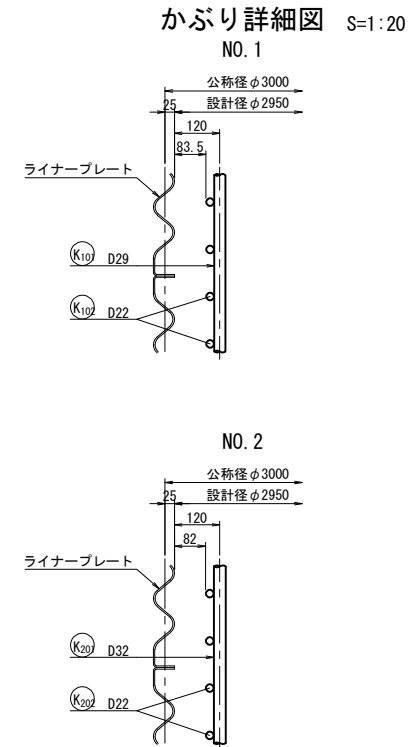
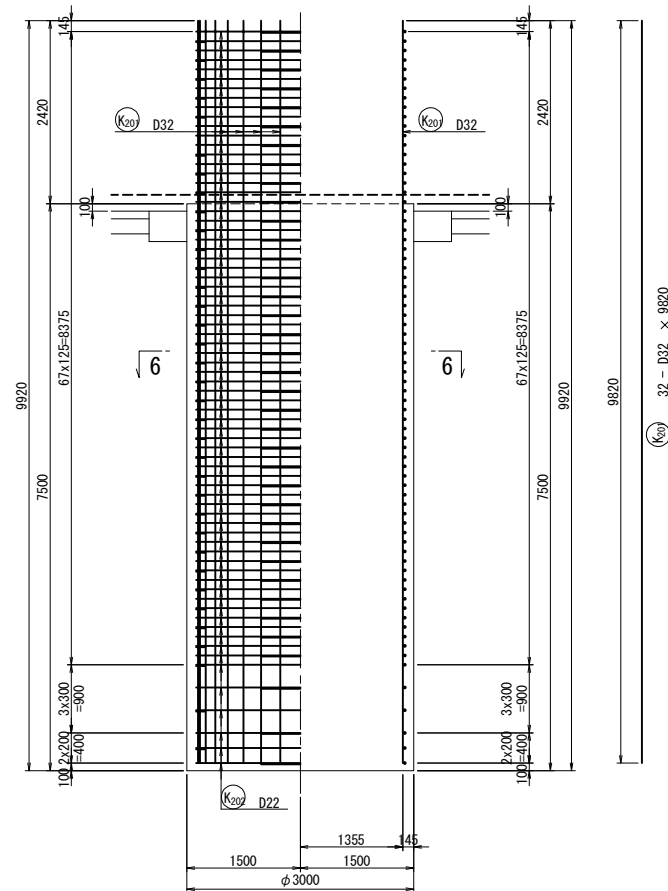
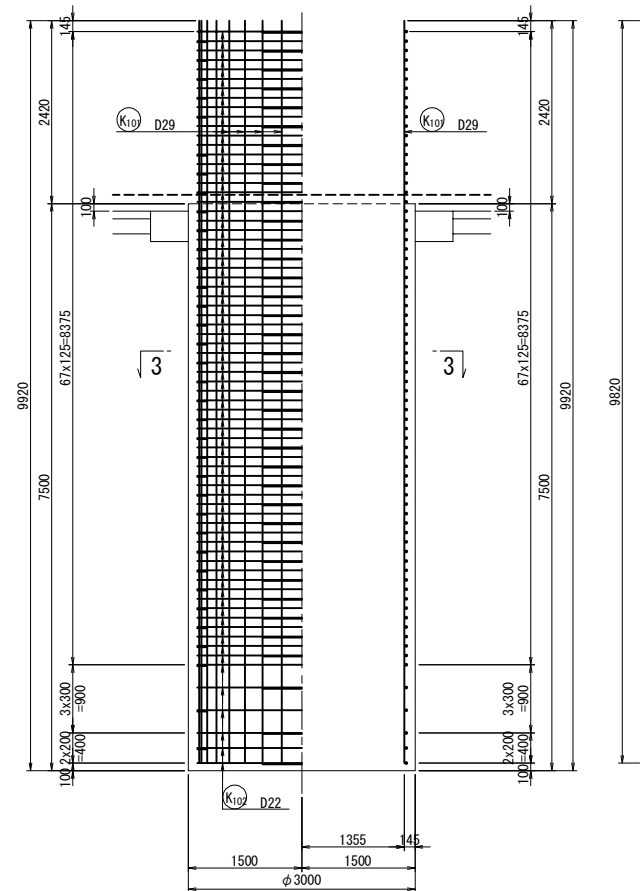
記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要	備考
S 1	D29	8,170	32	5.04	41.18	1,318	—	
S 2	D29	7,810	61	5.04	39.36	2,401	—	
S 3	D19	9,230	27	2.25	20.77	561	—	
S 4	D19	8,940	53	2.25	20.12	1,066	—	
S 5	D13	430	375	0.995	0.43	161	—	
S 6	D13	960	12	0.995	0.96	12	—	
S 7	D13	300	96	0.995	0.30	29	—	
5,548 kg								
(SD345) D13 202 kg								
(SD345) D19 1,627 kg								
(SD345) D29 3,719 kg								
合計 5,548 kg								



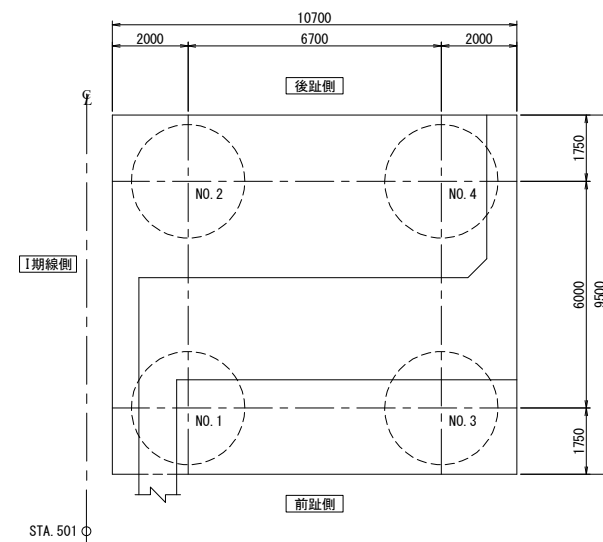
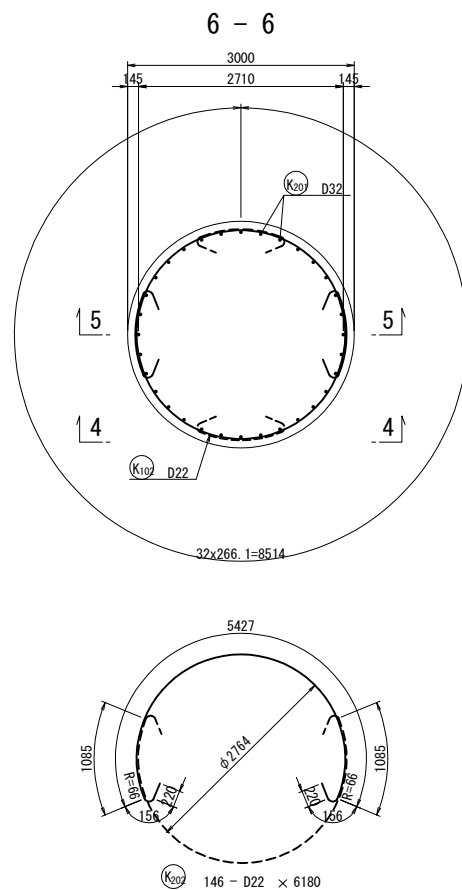
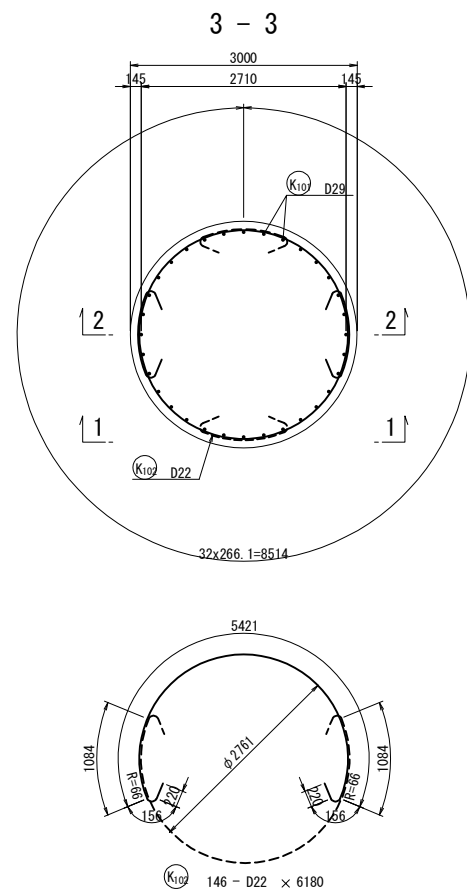
下部工計上以外施工対象外 (舗装工事施工)

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台踏掛版配筋図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

NO.1深礎杭 < φ3000 杭長 L=7.5m, N=2本 > NO.2深礎杭
1 - 1 2 - 2 4 - 4 5 - 5



鉄 筋 表							(杭1本当り質量)
記 号	径 (mm)	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	摘 要
NO.1深礎杭							
K 101	D29	9,820	32	5.04	49.5	1,584	
K 102	D22	6,180	146	3.04	18.8	2,745	○
						4,329 kg	
(SD345) D22						2,745 kg	
(SD345) D29						1,584 kg	
合 計						4,329 kg	
NO.2深礎杭							
K 201	D32	9,820	32	6.23	61.2	1,958	
K 202	D22	6,180	146	3.04	18.8	2,745	○
						4,703 kg	
(SD345) D22						2,745 kg	
(SD345) D32						1,958 kg	
合 計						4,703 kg	

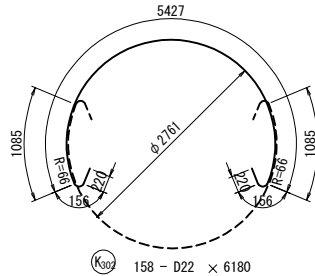
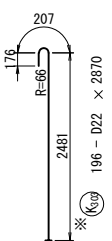
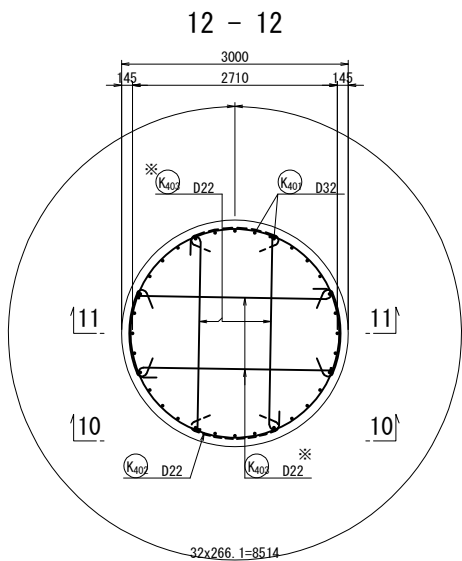
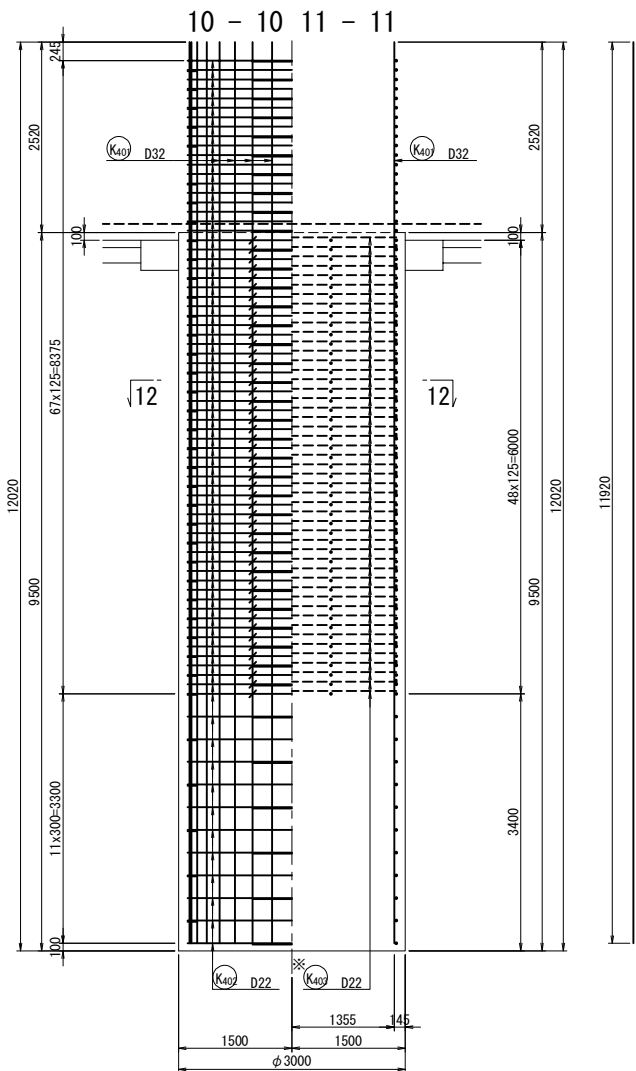
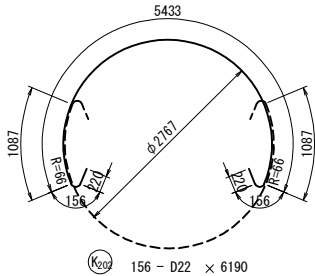
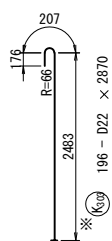
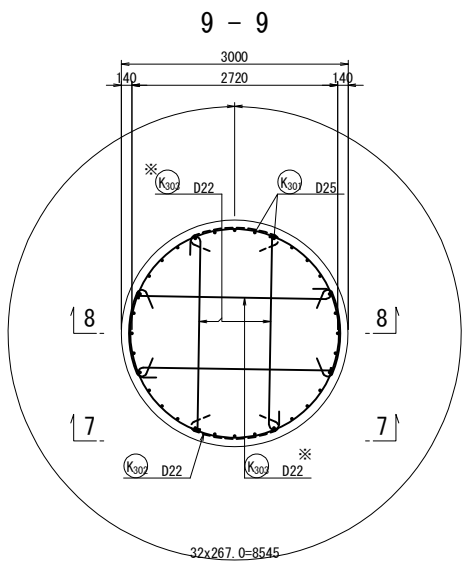
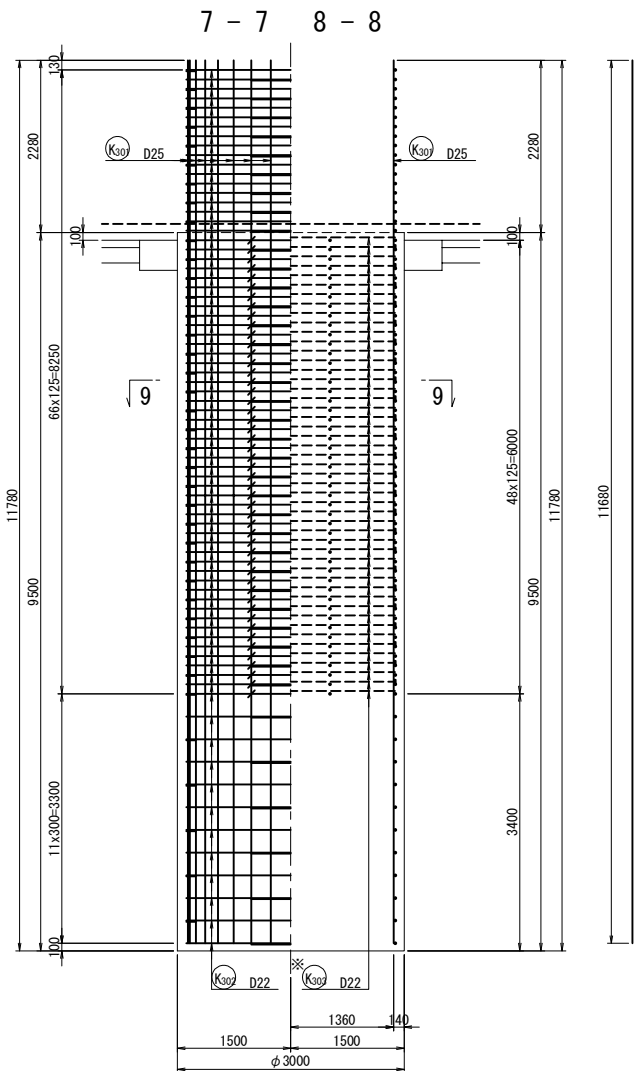


常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台深礎杭配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

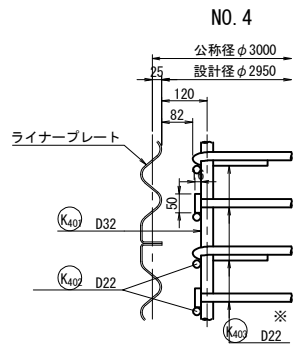
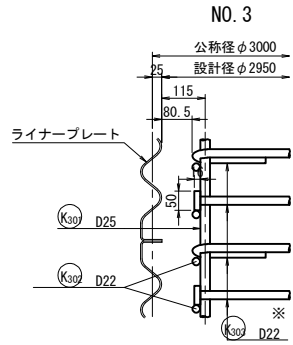
NO.3深礎杭

＜ φ3000 杭長 L=9.5m, N=2本 ＞

NO.4深礎杭



かぶり詳細図 S=1:20

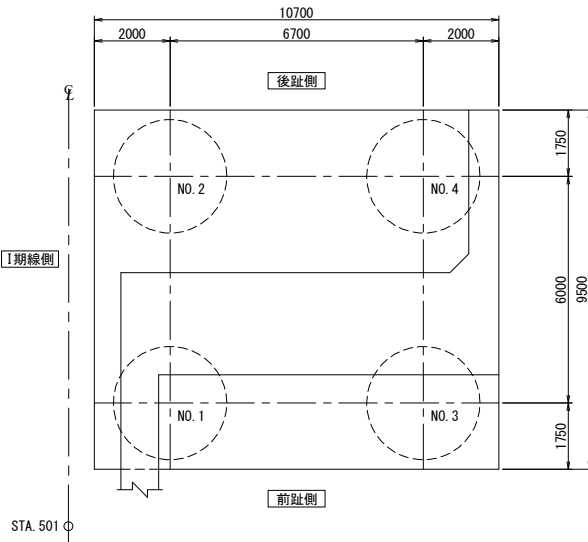


鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
NO.3深礎杭							
K 301	D25	11,680	32	3.98	46.5	1,488	└
K 302	D22	6,190	156	3.04	18.8	2,933	○
K 303	D22	2,870	196	3.04	8.72	1,709	└ ※
						6,130 kg	
				鉄筋A	鉄筋C		
(SD345) D22				2,933 kg	1,709 kg		
(SD345) D25				1,488 kg			
合計				4,421 kg	1,709 kg		
NO.4深礎杭							
K 401	D32	11,920	32	6.23	74.3	2,378	└
K 402	D22	6,180	158	3.04	18.8	2,970	○
K 403	D22	2,870	196	3.04	8.72	1,709	└ ※
						7,057 kg	
				鉄筋A	鉄筋C		
(SD345) D22				2,970 kg	1,709 kg		
(SD345) D32				2,378 kg			
合計				5,348 kg	1,709 kg		

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	---	---	---
D19	---	---	---	---	---	---
D22	---	---	392	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	392	---	---	---
合計	392箇所					



特記事項
機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。

- 道路橋示方書-同解説 (H24.3日本道路協会)
- 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

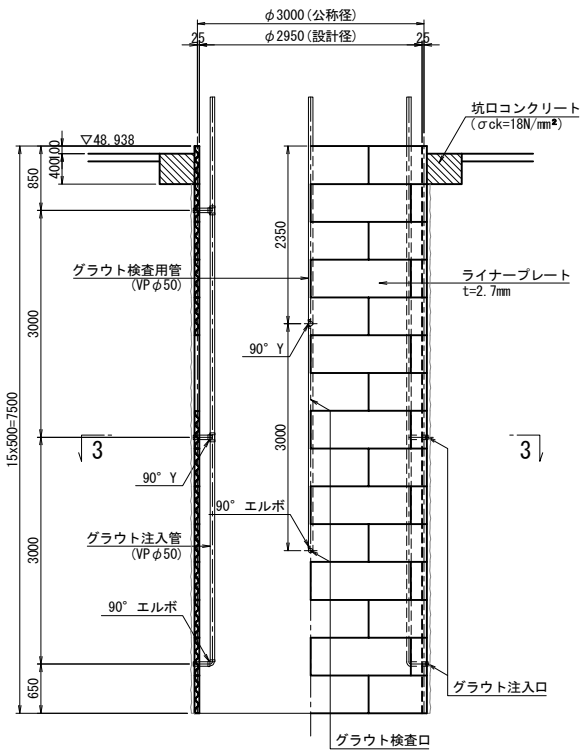
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

3. 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の確認を得てから工事を行うこと。

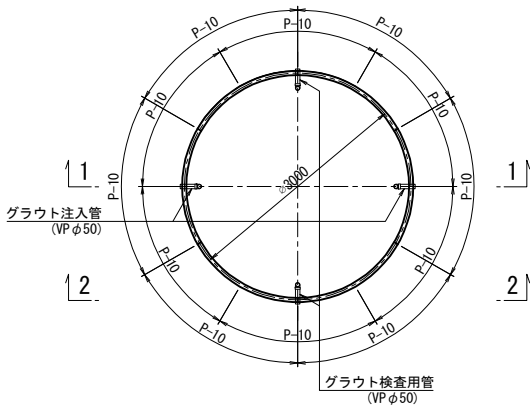
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台深礎杭配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

NO. 1, 2深礎杭

1 - 1 2 - 2



3 - 3

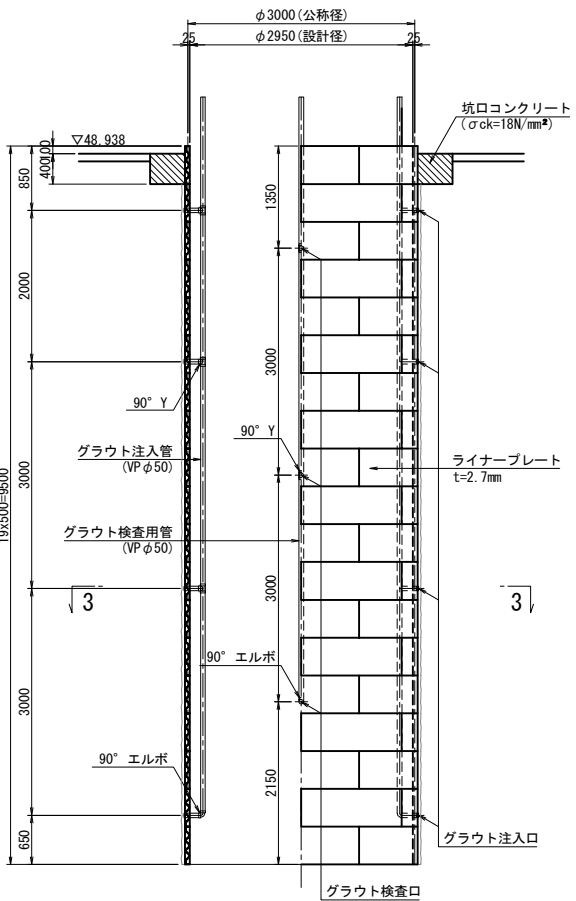


ライナープレート材料表

名 称	規 格 寸 法	数 量	単位質量	質量 (kg)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 7.5m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	180	26.0	4,680	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP組立て用)	2,400	0.137	329	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 9.5m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	228	26.0	5,928	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP組立て用)	3,072	0.137	421	
ライナープレート		10,608	kg		
組立ボルト		750	〃		
合計		11,358	kg		

NO. 3, 4深礎杭

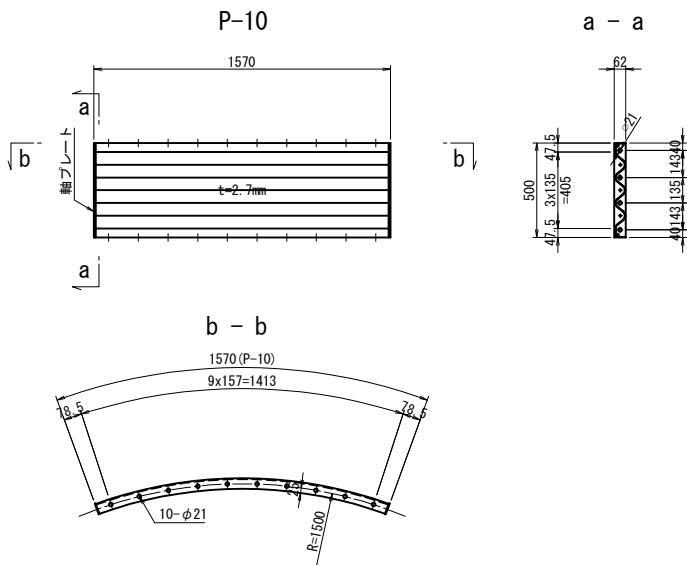
1 - 1 2 - 2



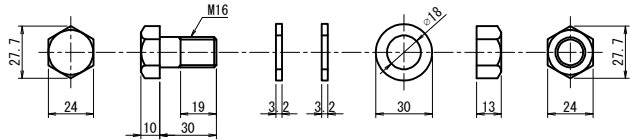
グラウト注入管材料表

名 称	規 格 寸 法	数 量	延長 (m)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 7.5m)				
直管	VP 50	—	50.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	12	—	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 9.5m)				
直管	VP 50	—	66.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	20	—	
坑口コンクリートD1=1	2.2 m ³	1本当たり		
	8.8 m ³	4本当たり		
坑口型枠D	5.025m ²	1本当たり		
	20.1 m ²	4本当たり		

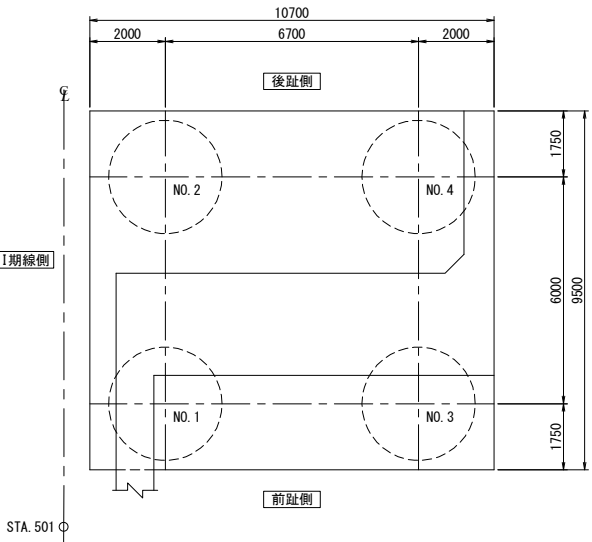
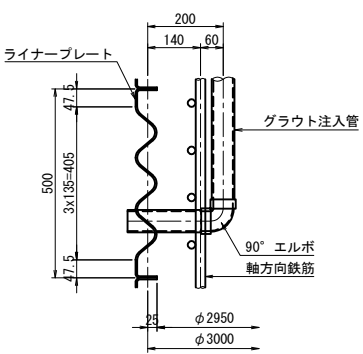
ライナープレート詳細図 S=1:40



組立ボルト詳細図 S=1:4

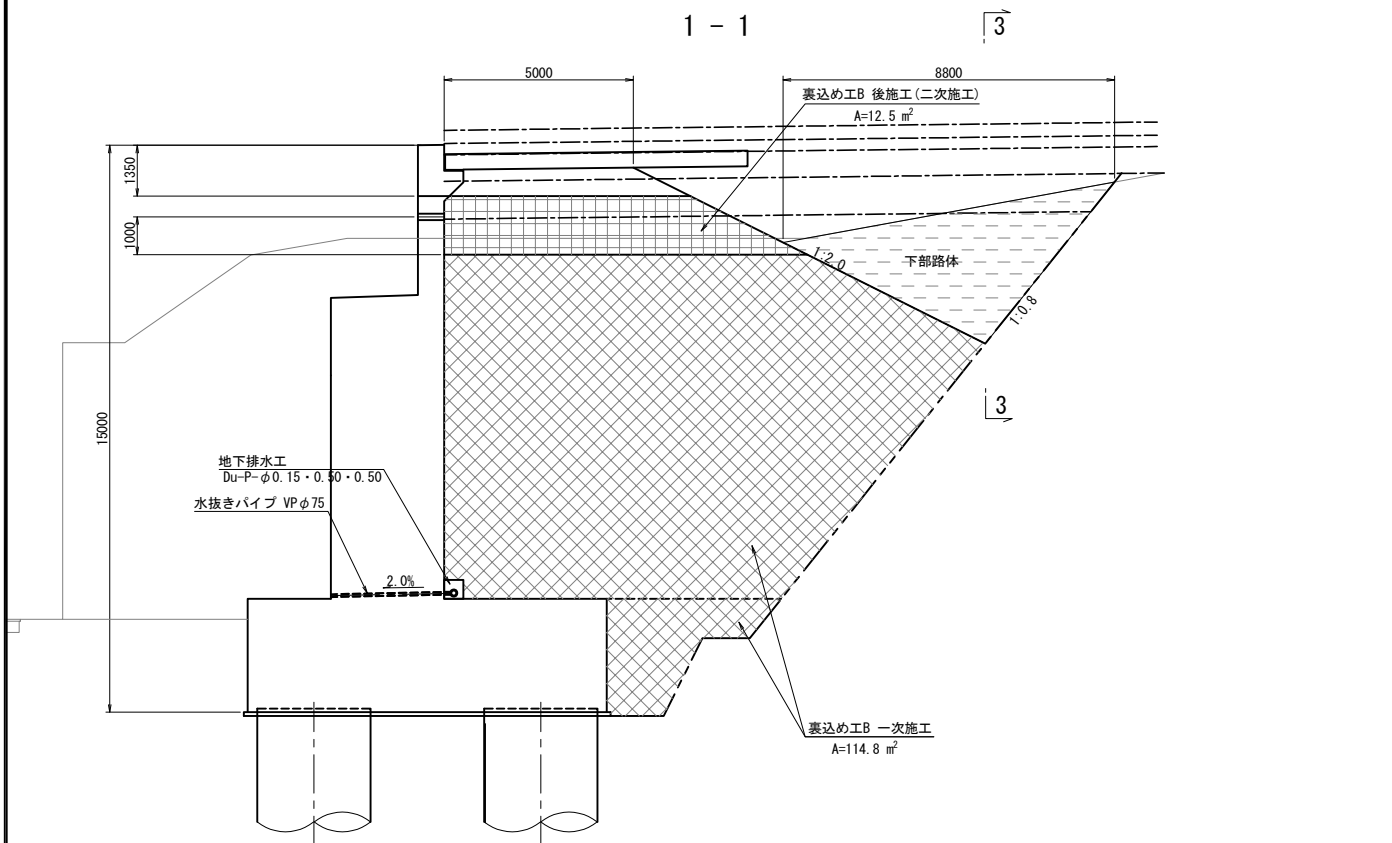


配管詳細図 S=1:20

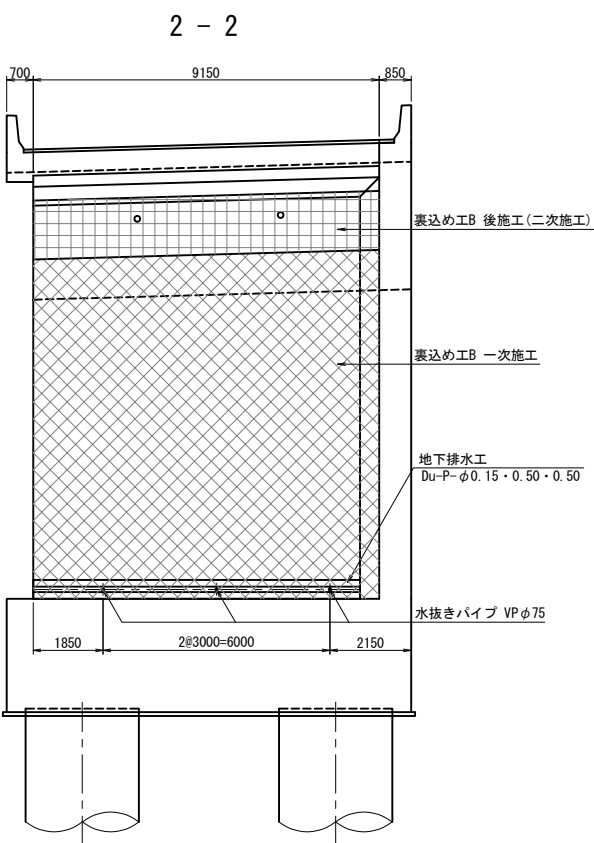
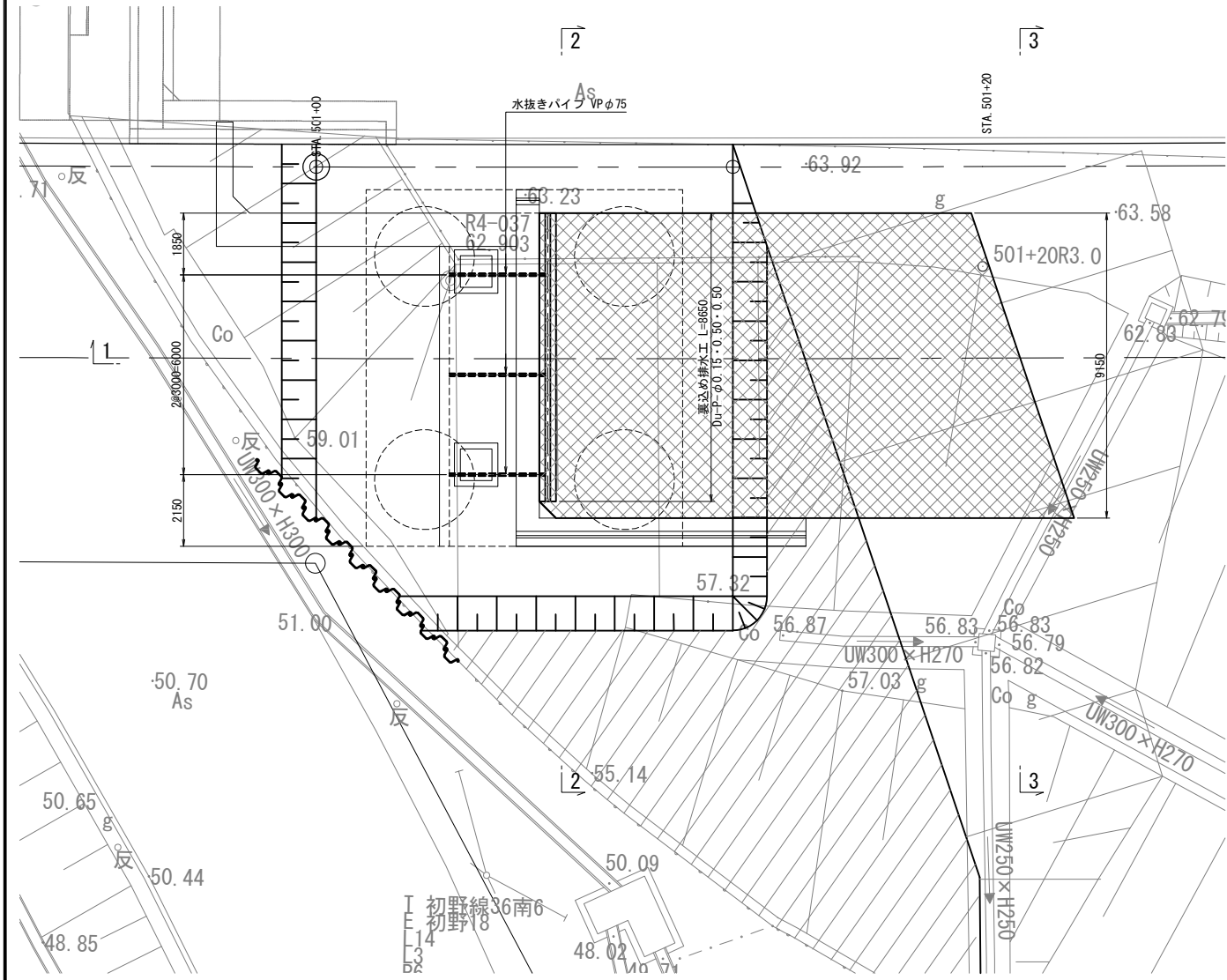


・ 本図で示す標高はすべてT.P表示とする。

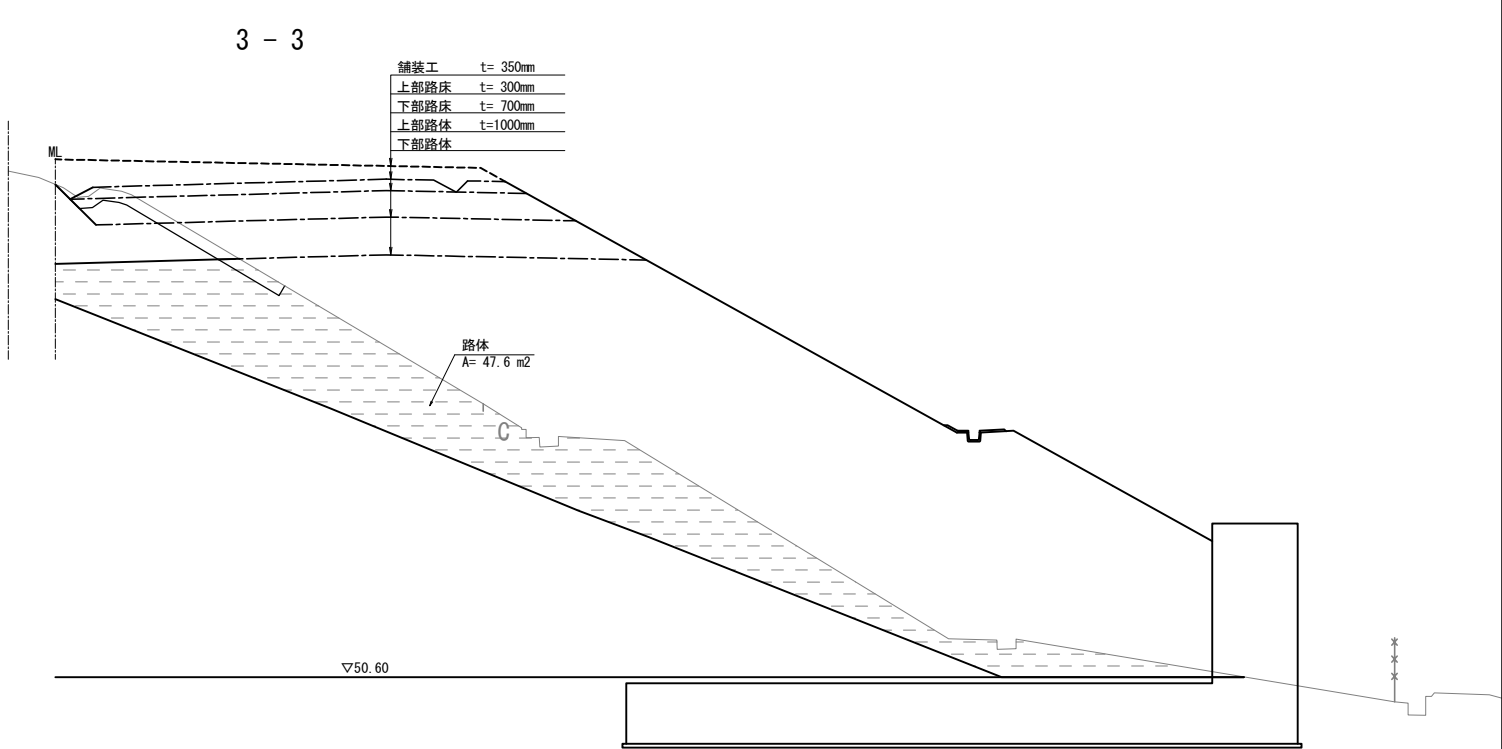
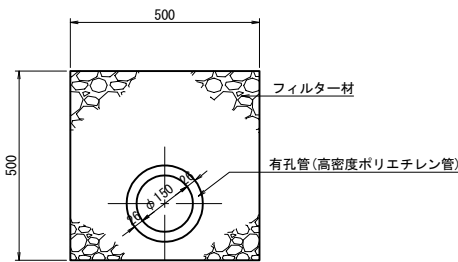
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台深礎杭土留工図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		



平面図



地下排水工詳細図 S=1:40
Du-P-φ0.15・0.50・0.50



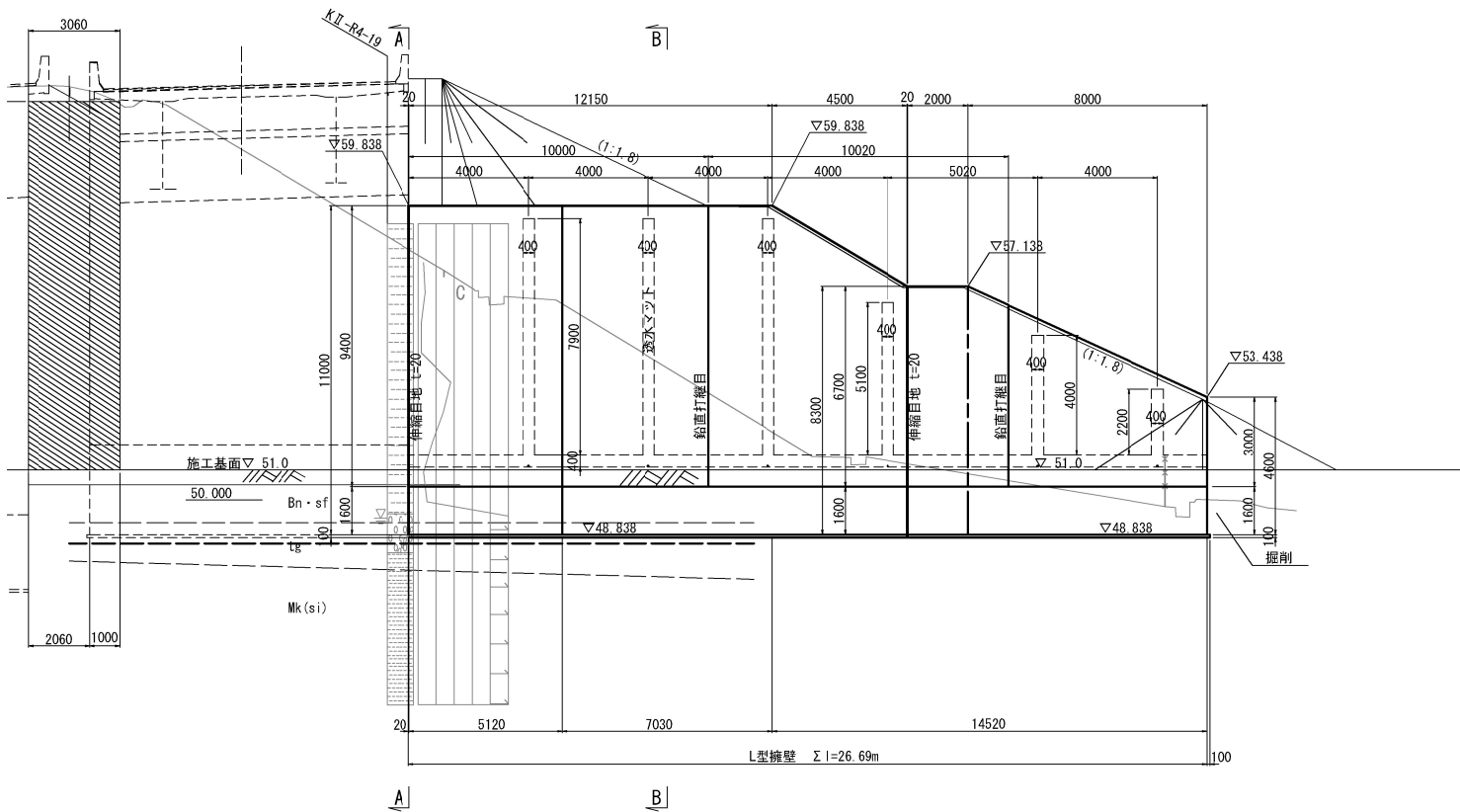
数量表

項目	種別	単位	数量	備考
裏込め材	裏込め工B 一次施工	m ³	1050.4	
裏込め工B (舗装工事施工)		m ³	114.4	二次施工
路体	本線路体へ計上	m ³	209.4	
地下排水工	Du-P-φ0.15・0.50・0.50	m	9.2	

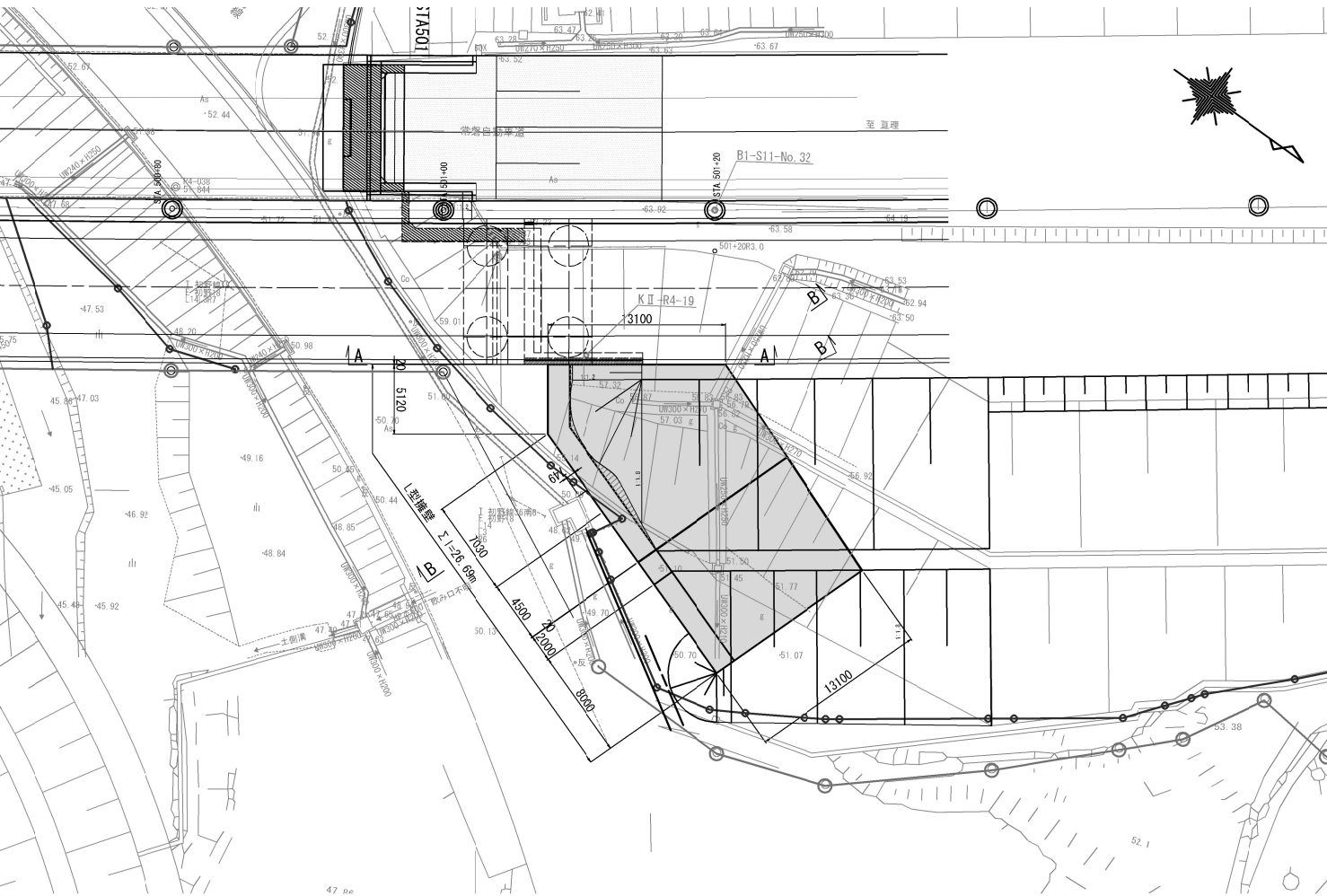
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台裏込め工排水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし L型擁壁一般図

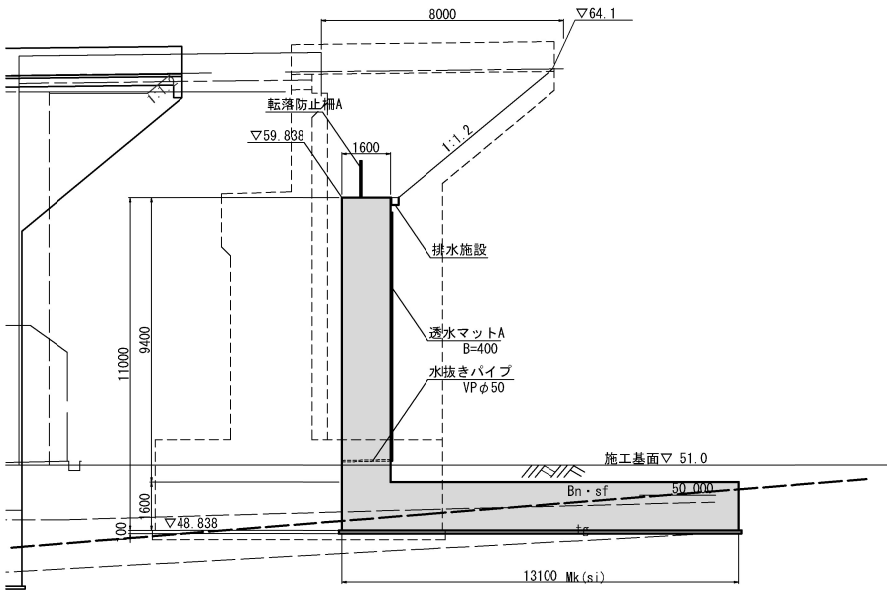
展開図 S=1:250



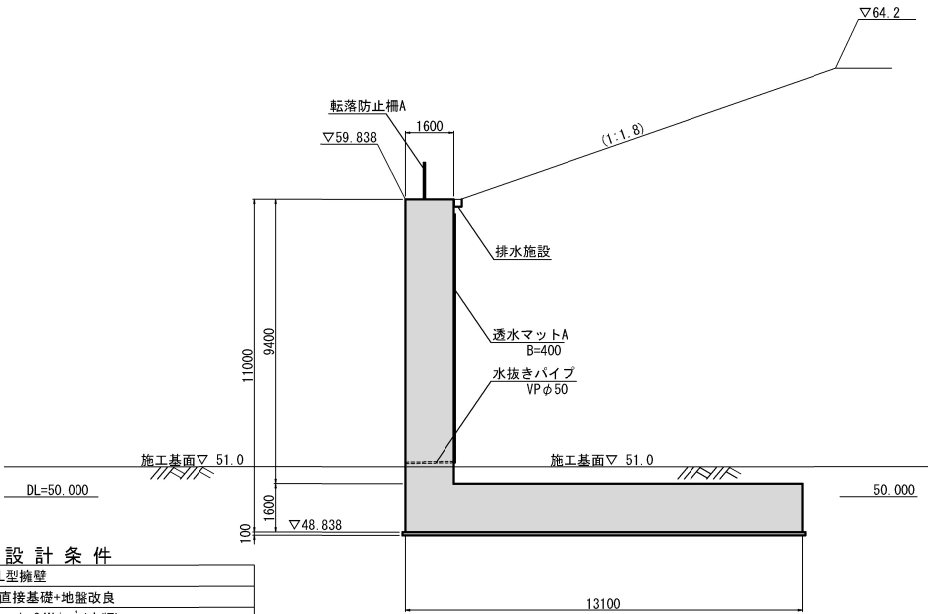
平面図 S=1:500



A - A S=1:250



B - B S=1:250



設計条件

擁壁形式	L型擁壁
基礎形式	直接基礎・地盤改良
材料	コンクリート
	σ _{ck} =24N/mm ² (底版)
	σ _{ck} =30N/mm ² (壁身)
鉄筋	SD345
	kh=0.16 (第1種地盤)
設計水平震度	設計要領 第二集 (R1.7)
適用基準	道路橋示方書・同解説I~V (H29.11)

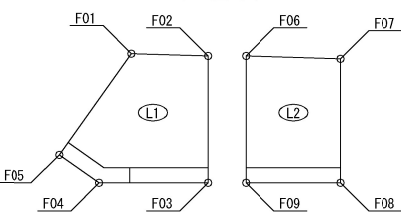
L型擁壁 数量表

項目	種別	単位	数量
コンクリート	A1-3	m ³	316.5
	B2-1	m ³	479.0
	D1-1	m ³	30.4
	C	m ³	561.4
鉄筋	D	m ³	8.5
	A	D13	t 1.572
		D16~D25	t 4.468
		D29~D32	t 6.266
		合計	t 12.306
	B	D16~D25	t 3.651
		D29~D32	t 18.908
		合計	t 22.559
	C (E)	D13	t 1.203
		合計	t 1.203
	A (E)	D13	t 0.176
		D16~D25	t 4.115
		D29~D32	t 15.414
		合計	t 19.705
裏面排水工	透水マットA	m	61.7
転落防止柵工	A	m	26.7

L型擁壁座標

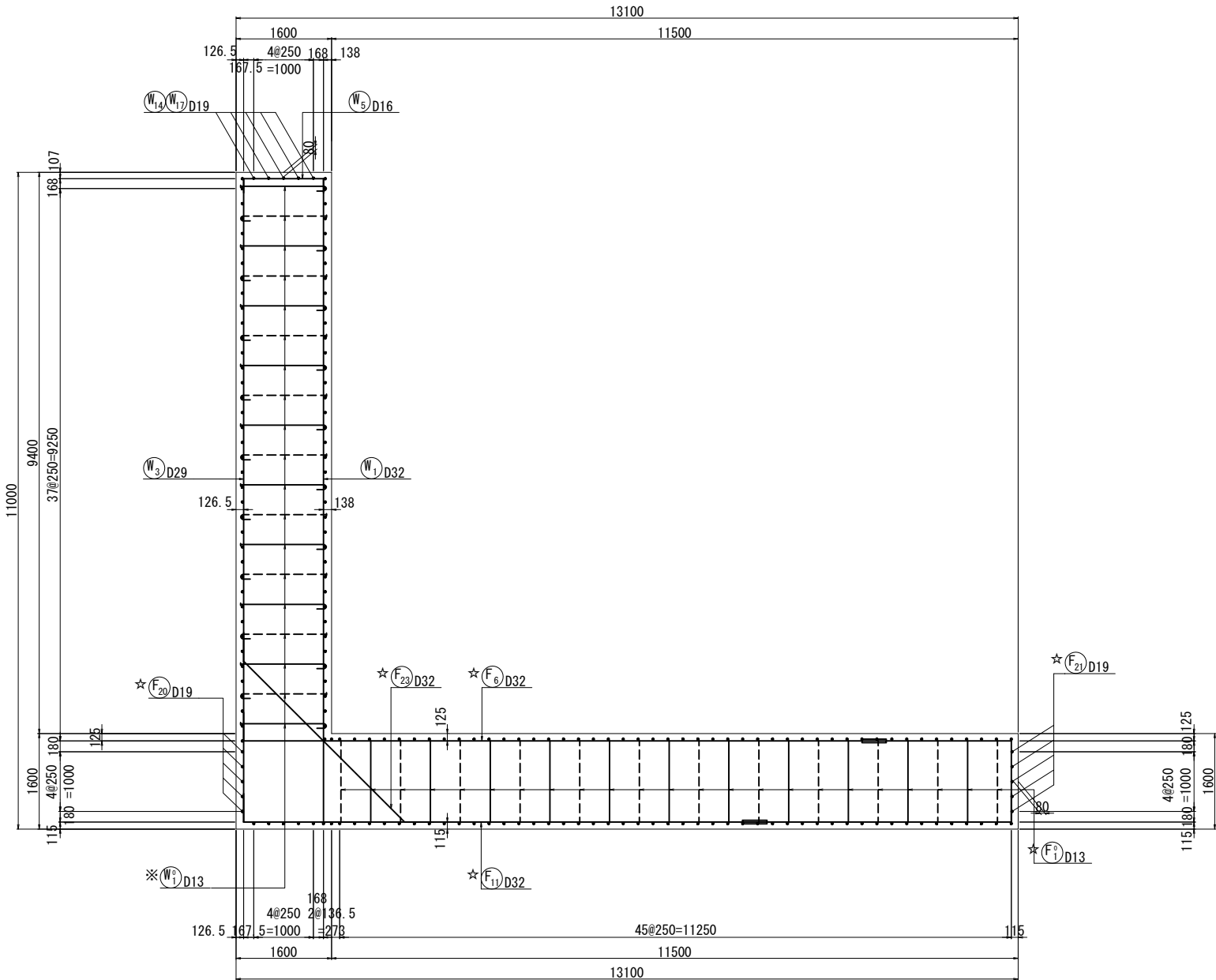
		x	y
L1	F01	201.589.7039	92.250.8274
	F02	201.597.3275	92.253.7210
	F03	201.592.9547	92.266.3923
	F04	201.582.0551	92.262.6309
	F05	201.579.0668	92.258.4735
L2	F06	201.597.3464	92.253.7275
	F07	201.606.7000	92.257.2776
	F08	201.602.4265	92.269.6610
	F09	201.592.9736	92.266.3983

位置図

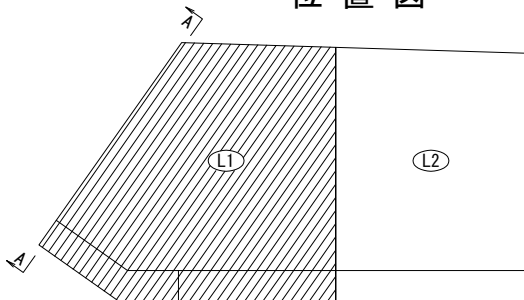


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁一般図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

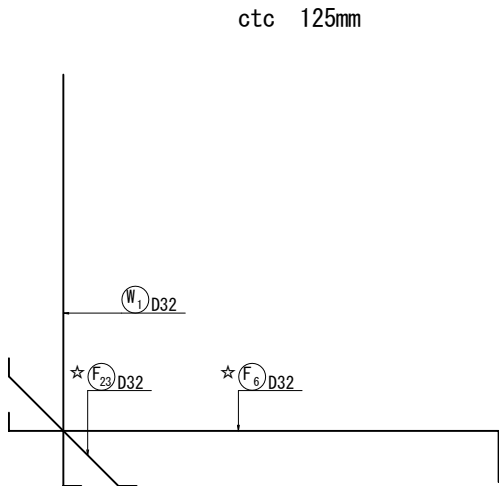
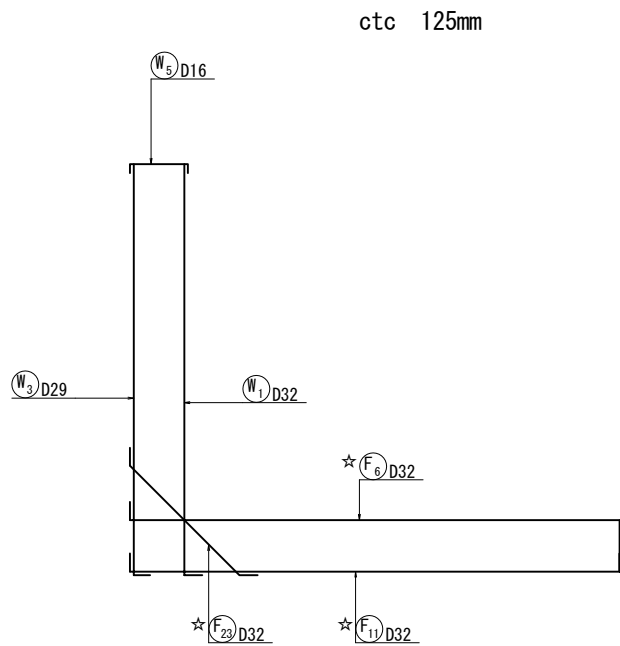
断面図
(A - A)



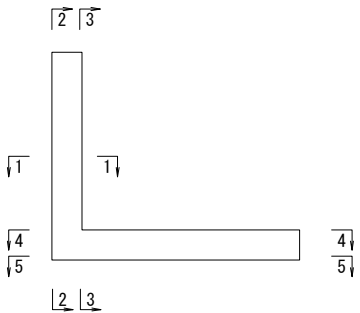
位置図



鉄筋組立図



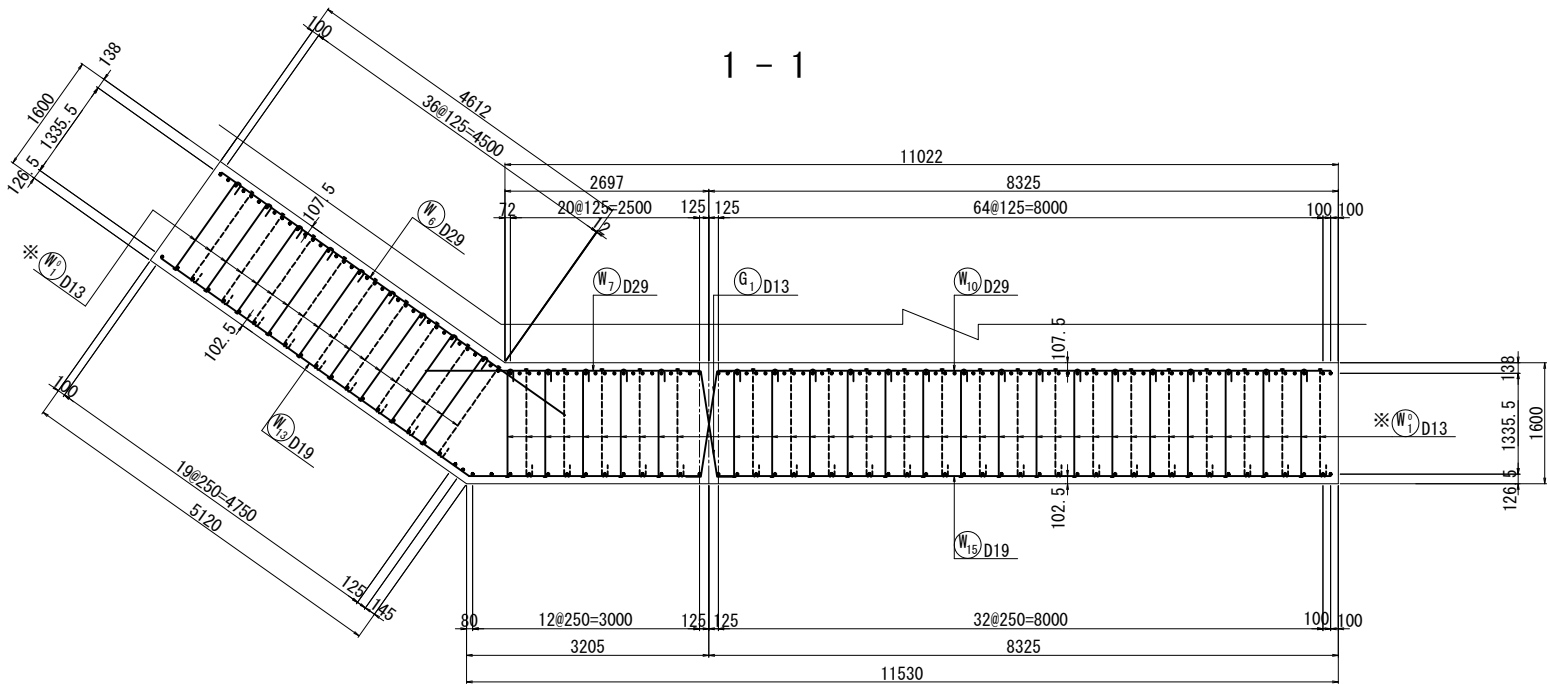
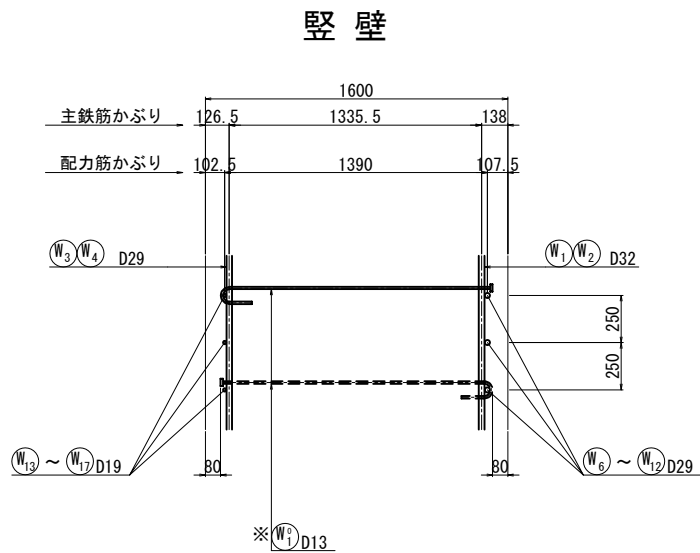
矢視図



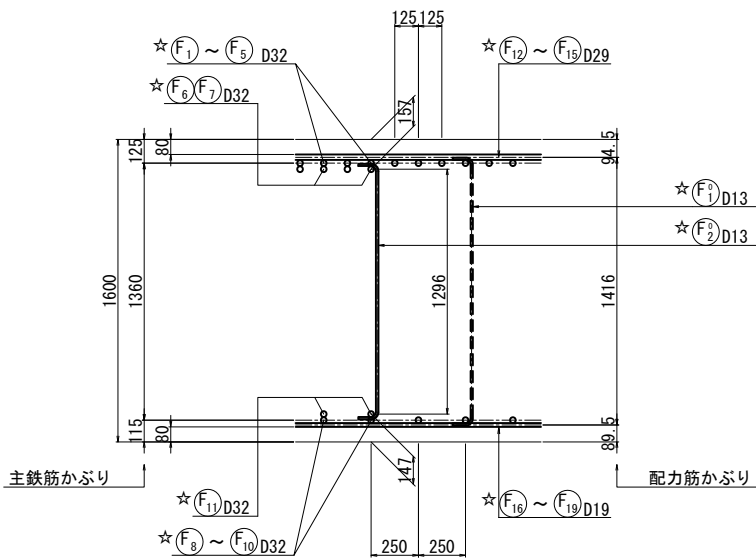
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上部工工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

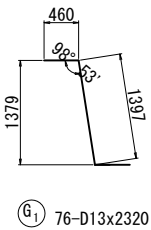
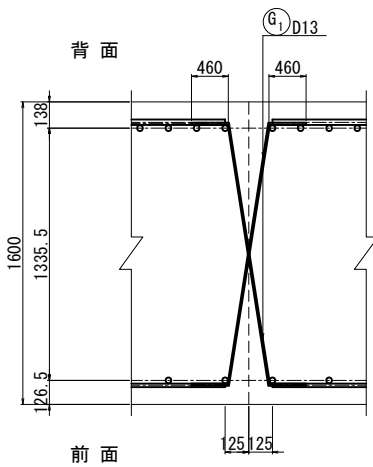
かぶり詳細図 縮尺 1 : 40



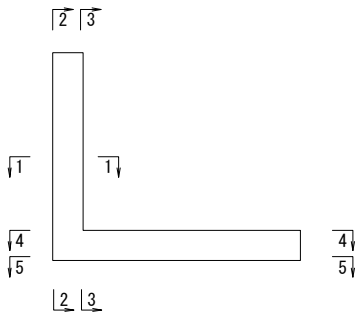
底 版



目地部詳細図 縮尺 1 : 40



矢 視 図



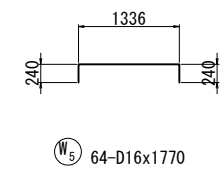
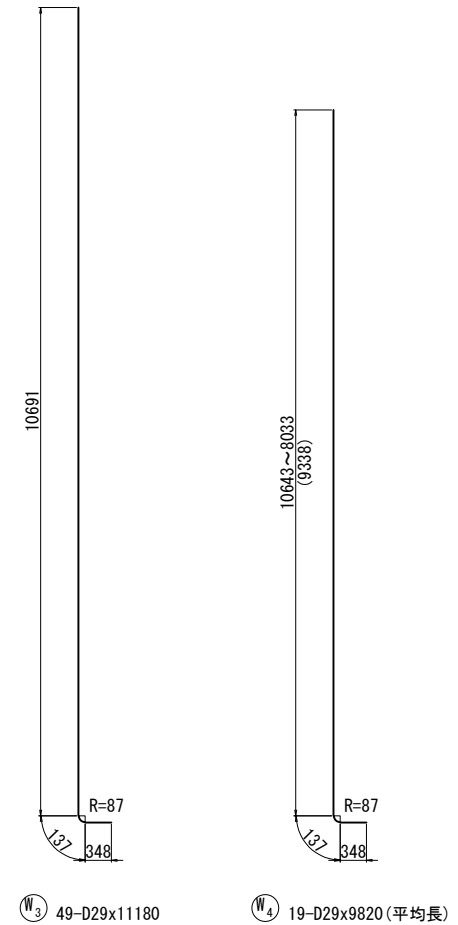
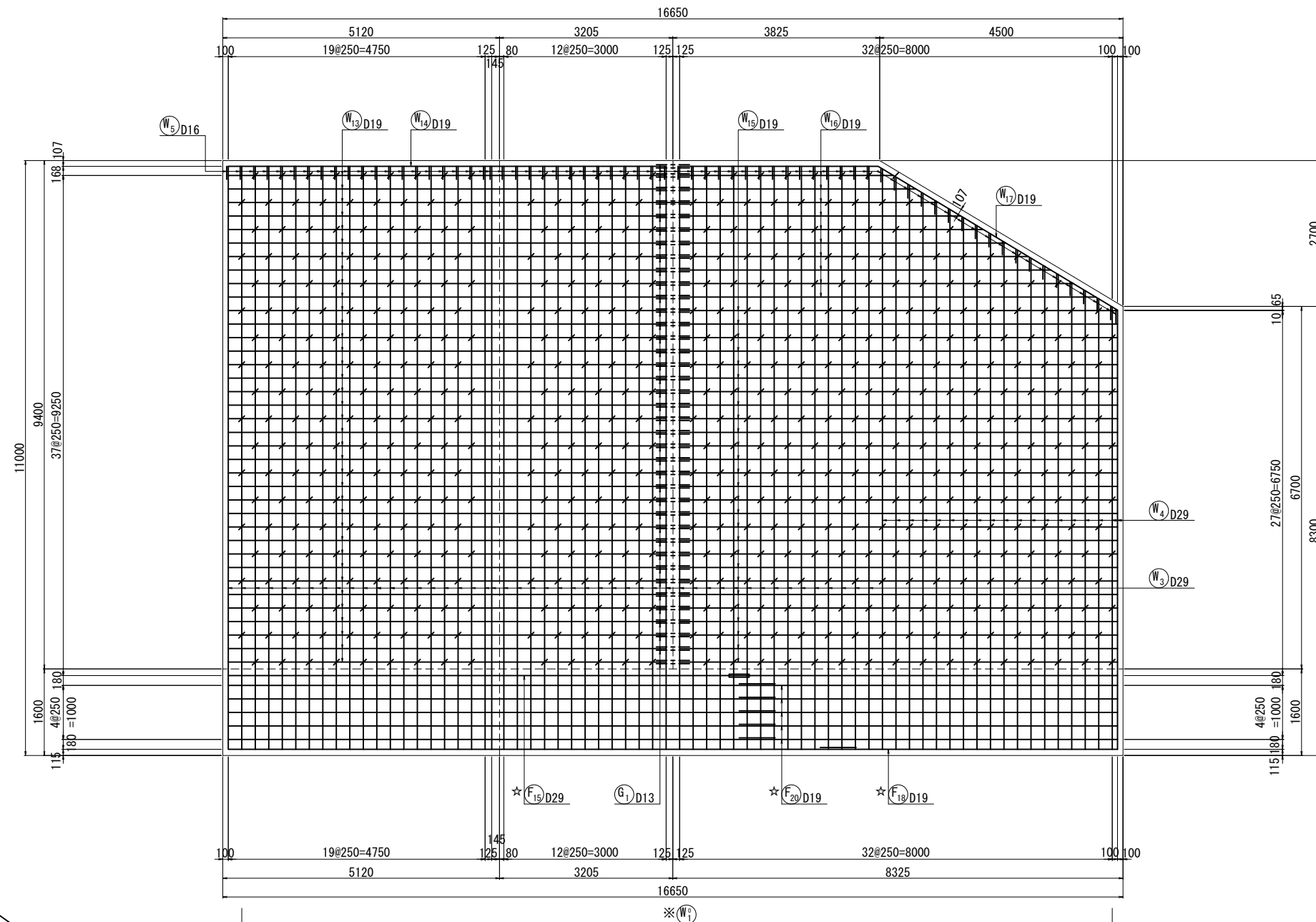
注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

注：◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

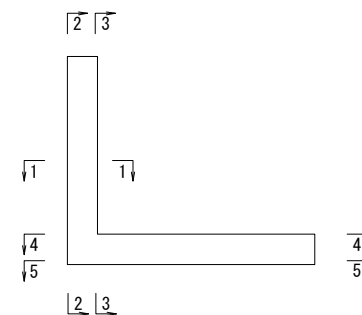
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

L1 (3)

2- 2(豎壁前面)



矢 視 図



注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。

- ① 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)
- ② 機械式鉄筋定着工法設計筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

また、中間部鉄筋に定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着体を用いること。

注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。

- ① 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)
- ② 鉄筋定着・継手指針〔2020版〕(R2.3 土学会)
- ③ 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。

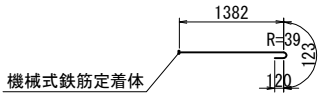
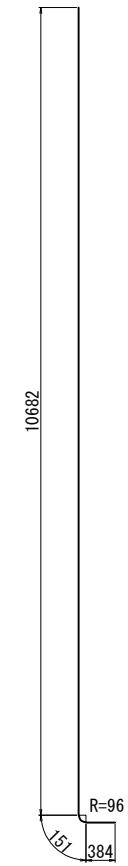
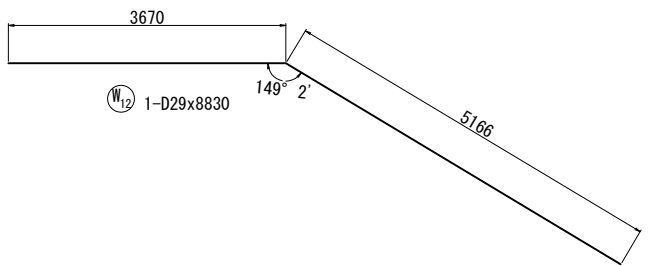
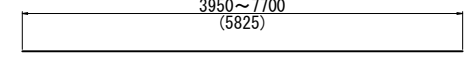
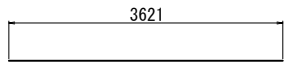
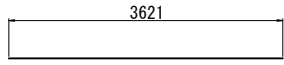
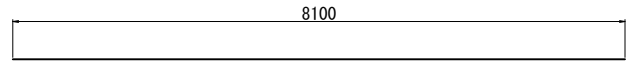
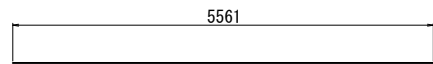
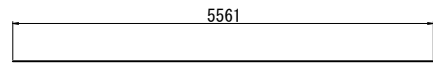
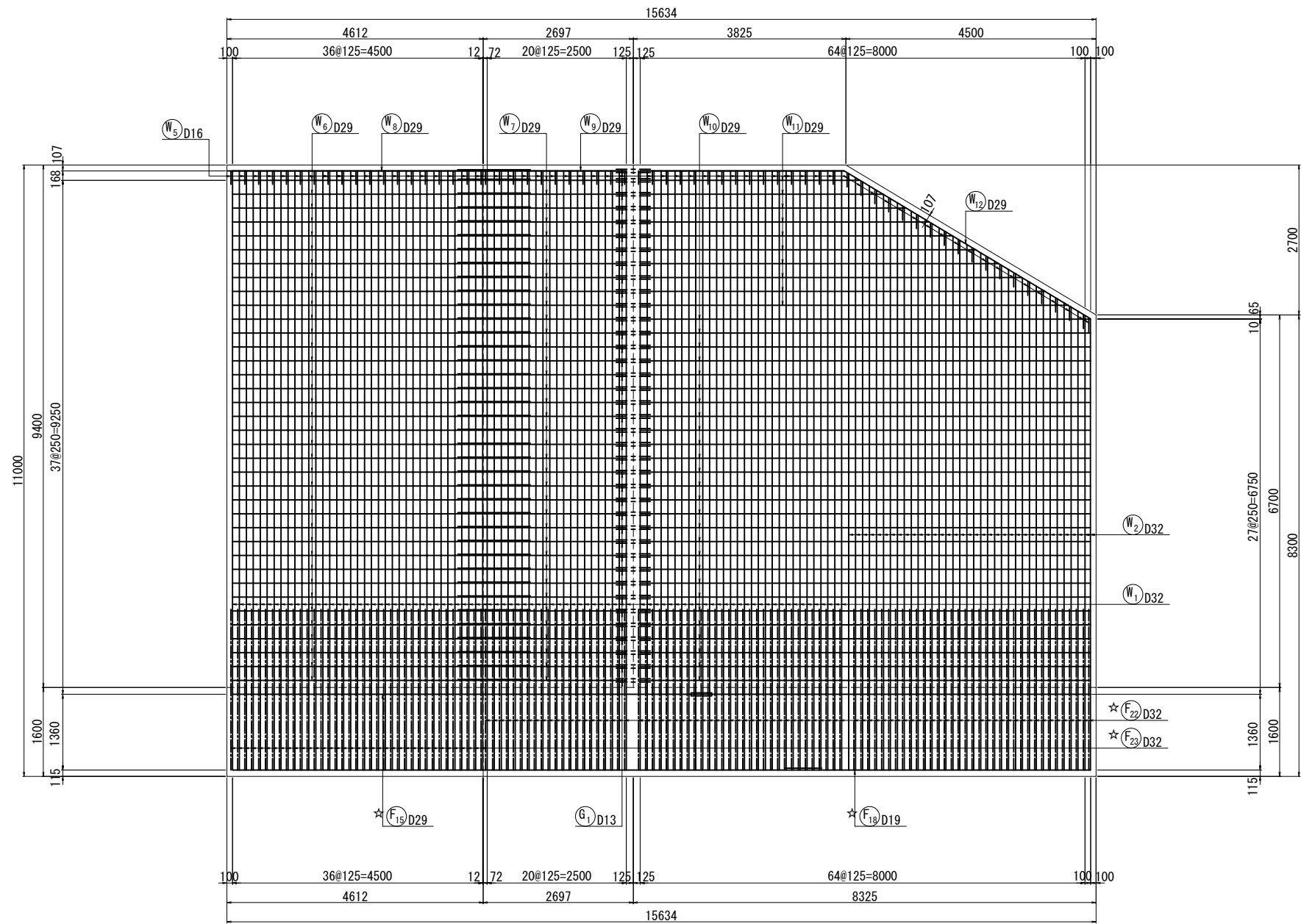
注：◎は上部工法を示す。

☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエキスポ鉄筋を示す。

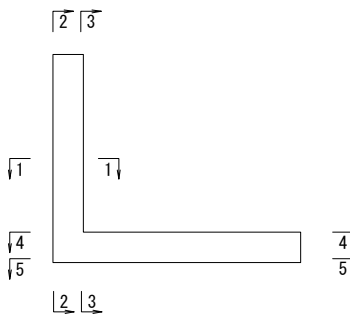
Kは機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし		
	Ⅰ型擁壁配筋図 (3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

3 - 3 (縦壁背面)



矢 視 図

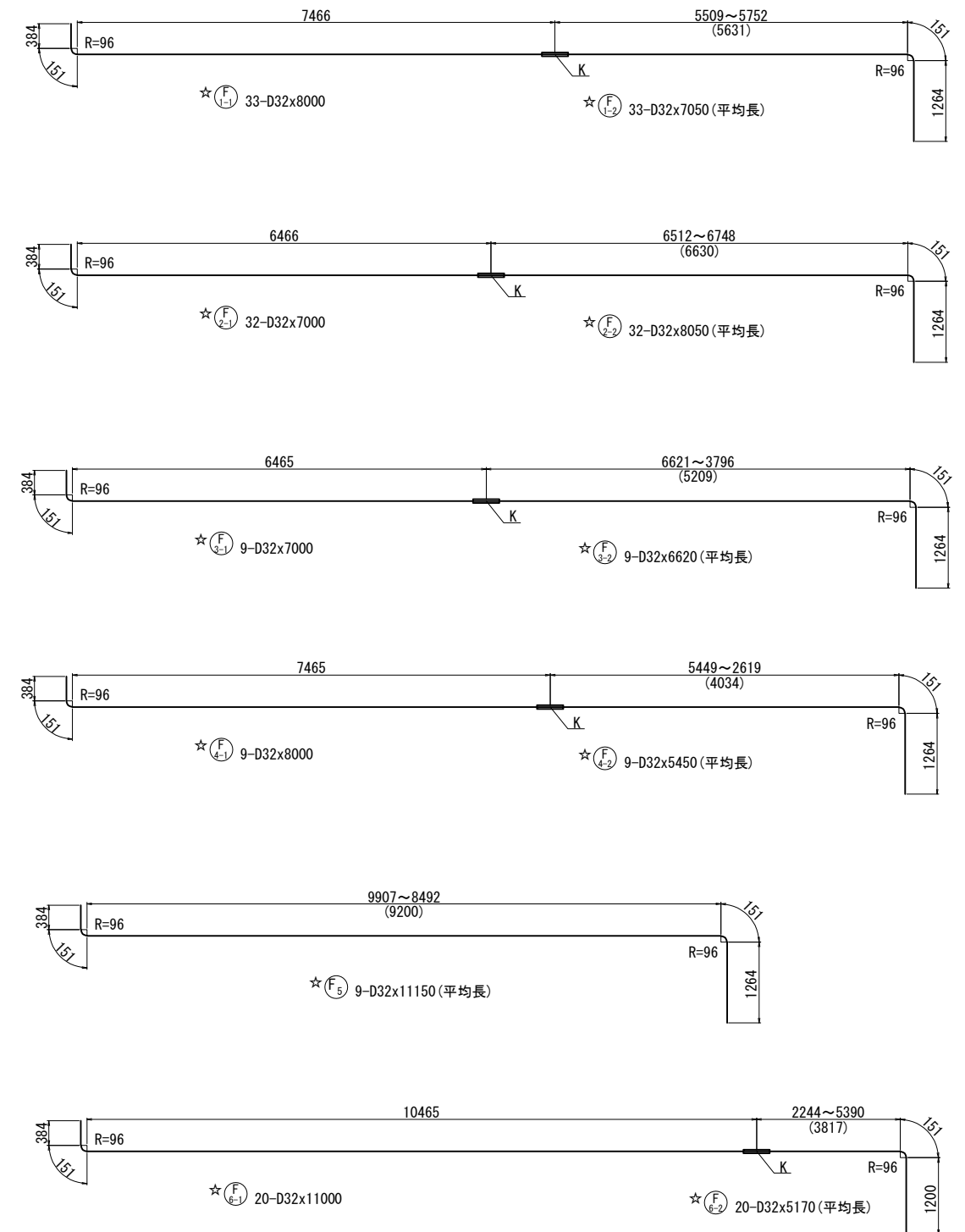
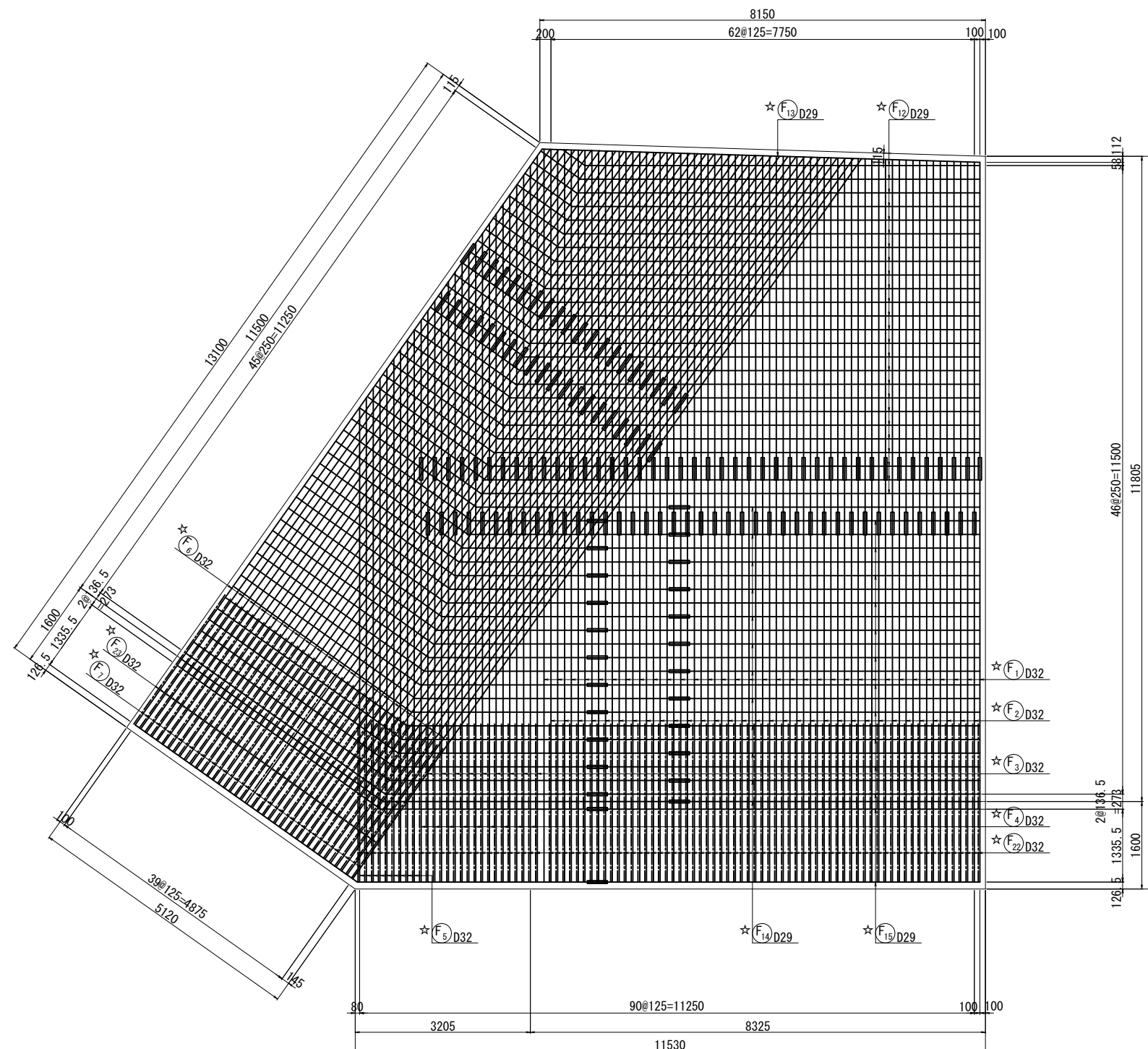


注: ※印機械式鉄筋定着工法については、
下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24. 3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン
(H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2. 3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の
承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

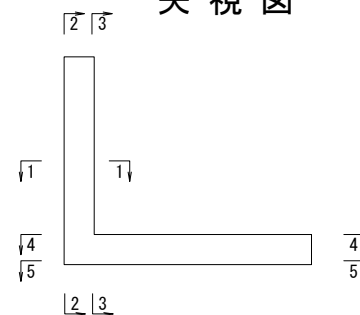
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(4)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

L1 (5)

4 - 4 (底版上面)



矢 視 図



注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。

下記の基準等を満足すること。

1. 道格指示書・面一解説(H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と平行な方向の設置方向を変更してもよい。

また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は構束束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。

1. 道格指示書・面一解説(H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針[2020版](R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の監照を得てから工事を行うこと。

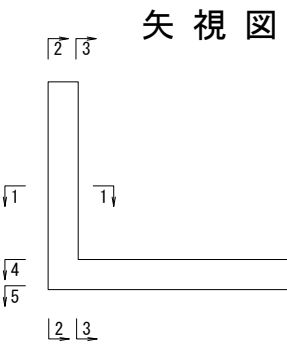
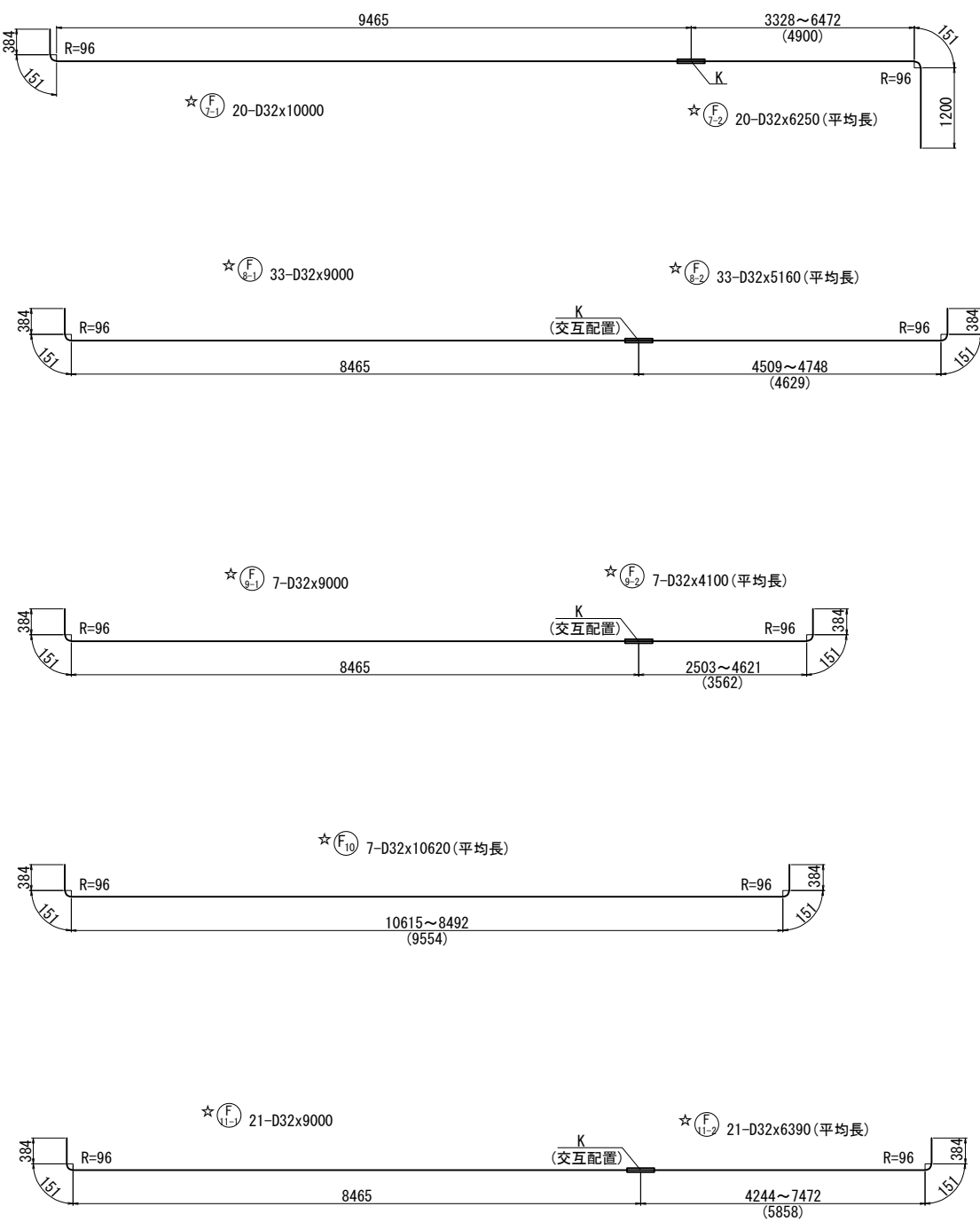
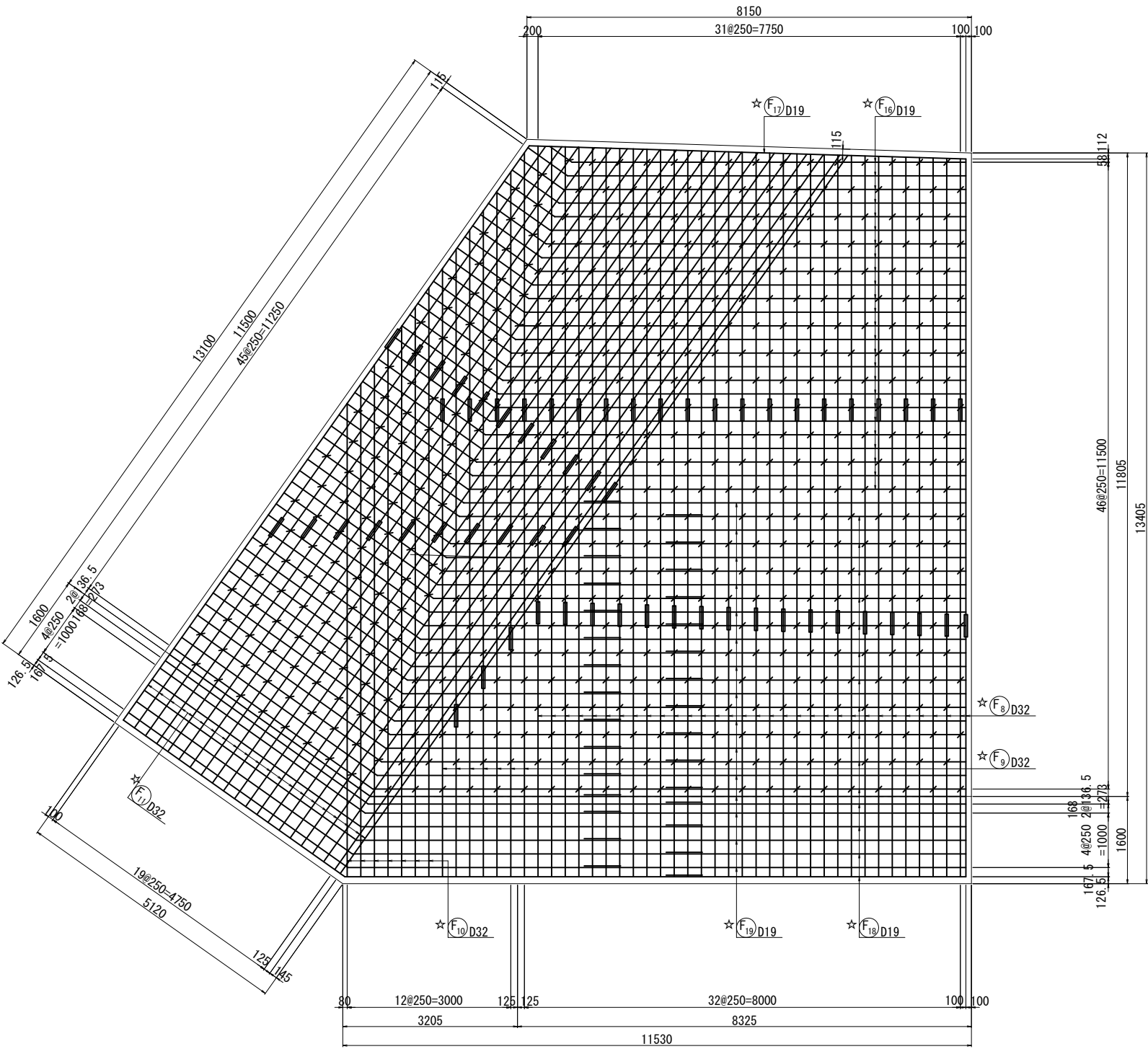
注：◎は上部工施工を示す。

☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。

△は機械式継手を示す。

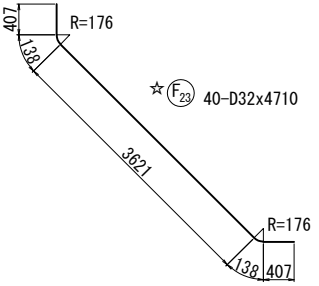
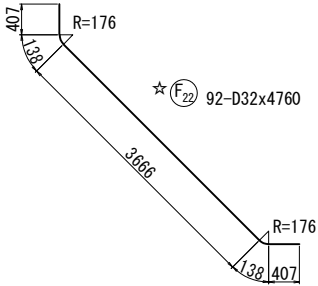
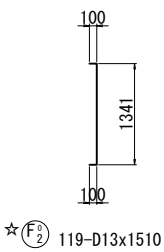
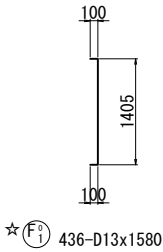
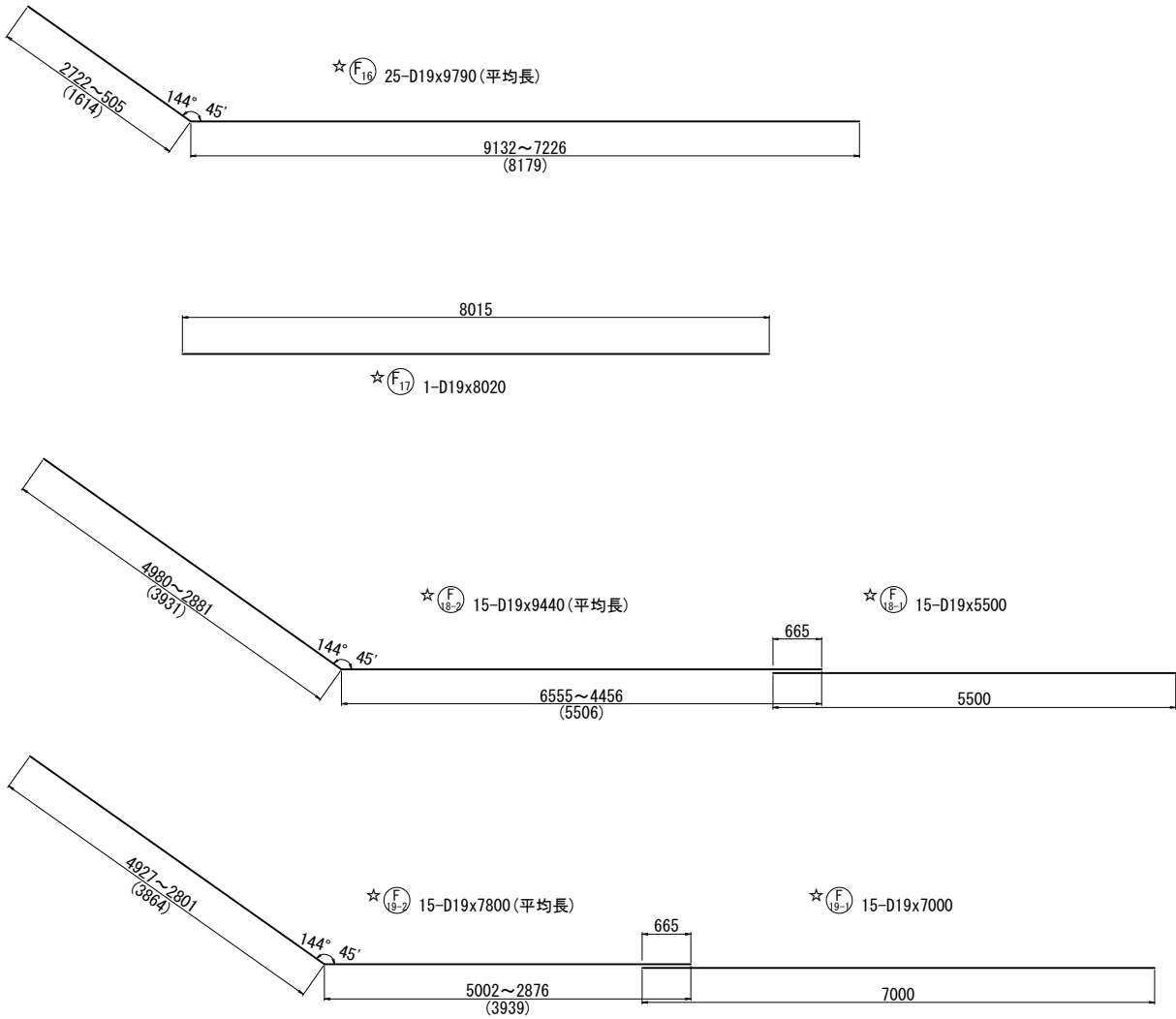
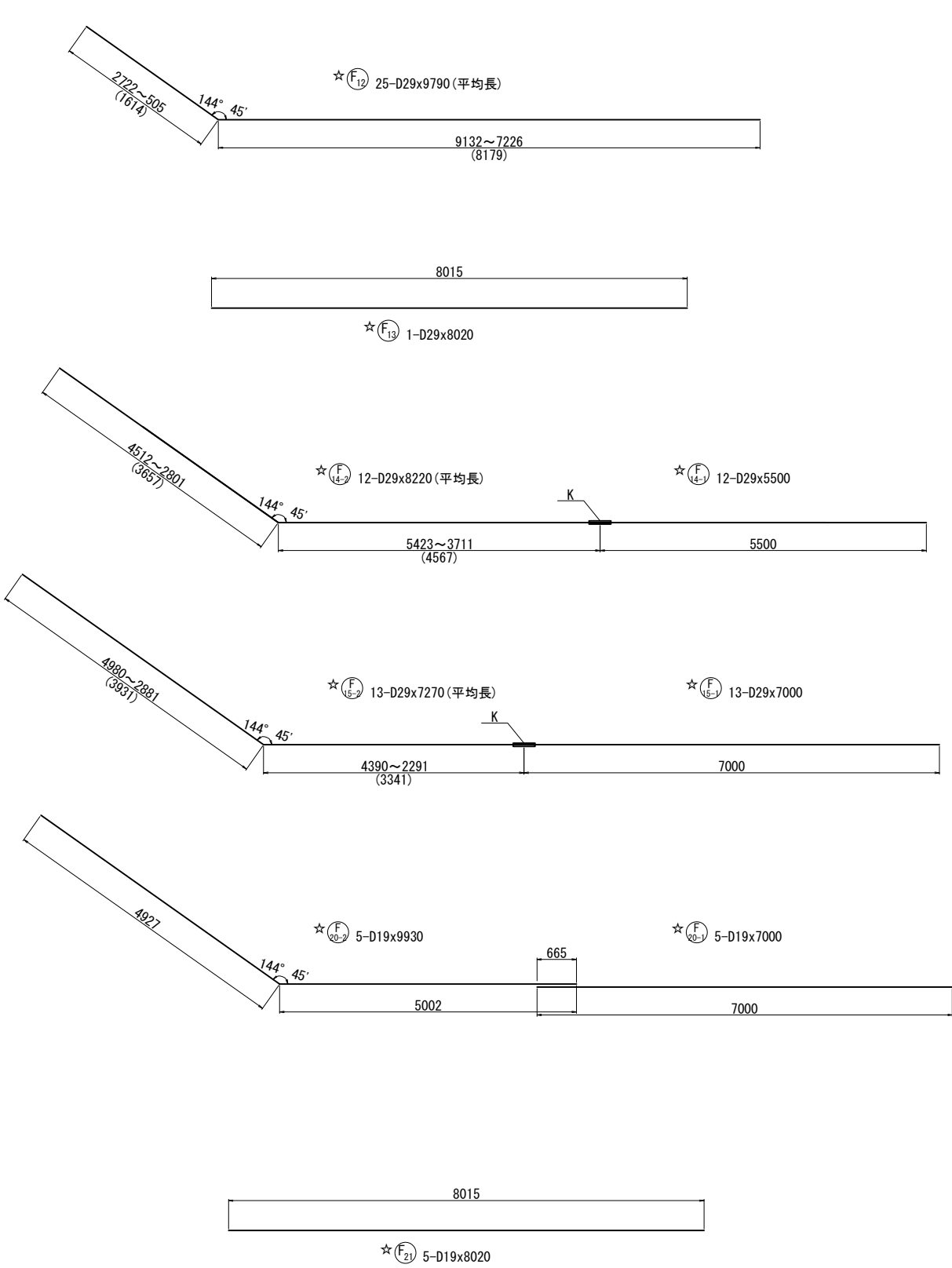
常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし		
	L型擁壁防眩図 (5)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

5 - 5 (底版下面)



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: ◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(6)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(7)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

鉄筋表

記 号	径	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
W 1	D32	11220	88	6.23	69.9	6151	└
W 2	D32	9860	36	6.23	61.4	2210	└ (平均長)
W 3	D29	11800	49	5.04	59.5	2916	└
W 4	D29	9820	19	5.04	49.5	941	└ (平均長)
W 5	D16	1770	64	1.56	2.76	177	┐
W 6	D29	5560	37	5.04	28.0	1036	—
W 7	D29	3620	37	5.04	18.2	673	—
W 8	D29	5560	1	5.04	28.0	28	—
W 9	D29	3620	1	5.04	18.2	18	—
W 10	D29	8100	27	5.04	40.8	1102	—
W 11	D29	5830	10	5.04	29.4	294	— (平均長)
W 12	D29	8830	1	5.04	44.5	45	—
W 13	D19	8030	37	2.25	18.1	670	┐
W 14	D19	8030	6	2.25	18.1	109	┐
W 15	D19	8100	27	2.25	18.2	491	—
W 16	D19	5830	10	2.25	13.1	131	— (平均長)
W 17	D19	8840	6	2.25	19.9	119	┐
17111 kg							
W0 1	D13	1630	544	0.995	1.62	881	┐ <544>
881 kg							
G 1	D13	2320	76	0.995	2.31	176	┐
176 kg							
F 1-1	D32	8000	33	6.23	49.8	1643	┐ (33)
F 1-2	D32	7050	33	6.23	43.9	1449	┐ (平均長)
F 2-1	D32	7000	32	6.23	43.6	1395	┐ (32)
F 2-2	D32	8050	32	6.23	50.2	1606	┐ (平均長)
F 3-1	D32	7000	9	6.23	43.6	392	┐ (9)
F 3-2	D32	6620	9	6.23	41.2	371	┐ (平均長)
F 4-1	D32	8000	9	6.23	49.8	448	┐ (9)
F 4-2	D32	5450	9	6.23	34.0	306	┐ (平均長)
F 5	D32	11150	9	6.23	69.5	626	┐ (平均長)
F 6-1	D32	11000	20	6.23	68.5	1370	┐ (20)
F 6-2	D32	5170	20	6.23	32.2	644	┐ (平均長)
F 7-1	D32	10000	20	6.23	62.3	1246	┐ (20)
F 7-2	D32	6250	20	6.23	38.9	778	┐ (平均長)
F 8-1	D32	9000	33	6.23	56.1	1851	┐ (33)
F 8-2	D32	5160	33	6.23	32.1	1059	┐ (平均長)
F 9-1	D32	9000	7	6.23	56.1	393	┐ (7)
F 9-2	D32	4100	7	6.23	25.5	179	┐ (平均長)
F 10	D32	10620	7	6.23	66.2	463	┐ (平均長)
F 11-1	D32	9000	21	6.23	56.1	1178	┐ (21)
F 11-2	D32	6390	21	6.23	39.8	836	┐ (平均長)
F 12	D29	9790	25	5.04	49.3	1233	┐ (平均長)
F 13	D29	8020	1	5.04	40.4	40	—
F 14-1	D29	5500	12	5.04	27.7	332	— (12)
F 14-2	D29	8220	12	5.04	41.4	497	┐ (平均長)
F 15-1	D29	7000	13	5.04	35.3	459	— (13)
F 15-2	D29	7270	13	5.04	36.6	476	┐ (平均長)
F 16	D19	9790	25	2.25	22.0	550	┐ (平均長)
F 17	D19	8020	1	2.25	18.0	18	—
F 18-1	D19	5500	15	2.25	12.4	186	—
F 18-2	D19	9440	15	2.25	21.2	318	┐ (平均長)
F 19-1	D19	7000	15	2.25	15.8	237	—
F 19-2	D19	7800	15	2.25	17.6	264	┐ (平均長)
F 20-1	D19	7000	5	2.25	15.8	79	—
F 20-2	D19	9930	5	2.25	22.3	112	┐ (平均長)
F 21	D19	8020	5	2.25	18.0	90	—

鉄筋表



記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
☆F 22	D32	4760	92	6.23	29.7	2732	――
☆F 23	D32	4710	40	6.23	29.3	1172	――
27028 kg							
☆F0 1	D13	1580	436	0.995	1.57	685	┐
☆F0 2	D13	1510	119	0.995	1.50	179	┐
864 kg							
A(E)鉄筋 A鉄筋 B鉄筋 C(E)鉄筋 合計 機械継手箇所 機械式定着箇所							
D32 8361 kg 4993 kg 17144 kg 30498 kg (184)							
D29 7053 kg 1273 kg 1764 kg 10090 kg (25)							
D19 1520 kg 1854 kg 3374 kg							
D16 177 kg 177 kg							
D13 176 kg 864 kg 881 kg 1921 kg <544>							
合計 17.287kg 8.984 kg 18.908 kg 881 kg 46060 kg (209) <544>							

注：()内数値は機械継手箇所を示す。
< >内数値は機械式定着箇所を示す。

鉄筋集計表

種別	径	質量(kg)	摘要
A(E) (SD345)	D13		176
	D16 ~D25	D16	177
		D19	1520
		D22	
		D25	
		小計	1697
	D29, D32	D29	7053
		D32	8361
		小計	15414
	D35		
	D38		
	合計		17287 kg
A (SD345)	D13		864
	D16 ~D25	D16	
		D19	1854
		D22	
		D25	
		小計	1854
	D29, D32	D29	1273
		D32	4993
		小計	6266
	D35		
	D38		
	合計		8984 kg
B (SD345)	D13		
	D16 ~D25	D16	
		D19	
		D22	
		D25	
		小計	
	D29, D32	D29	1764
		D32	17144
		小計	18908
	D35		
	D38		
	合計		18908 kg
C(E) (SD345)	D13		881
	D16 ~D25	D16	
		D19	
		D22	
		D25	
		小計	
	D29, D32	D29	
		D32	
		小計	
	D35		
	D38		
	合計		881 kg

鉄筋加工寸法表

主筋							壁・底版スターラップ			
										
主筋							スターラップ			
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3φ			$\theta = 135^\circ$ R=5.5φ			径	$\theta = 90^\circ$ R=2.5φ		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL		R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3	D13	32.5	51	14
D16	48	75	21	88	69	4	D16	40	63	17
D19	57	89	25	104.5	82	5				
D22	66	104	28	121	95	5				
D25	75	118	32	137.5	108	6				
D29	87	137	37	159.5	125	7				
D32	96	151	41	176	138	8				
D35	105	165	45	192.5	151	8				
D38	114	179	49	209	164	9				

機械継手数量表

項目	鉄筋径	箇所数
機械継手 箇所数	D29	25
	D32	184
	D35	――
	D38	――
	D41	――
	D51	――
合計		209箇所

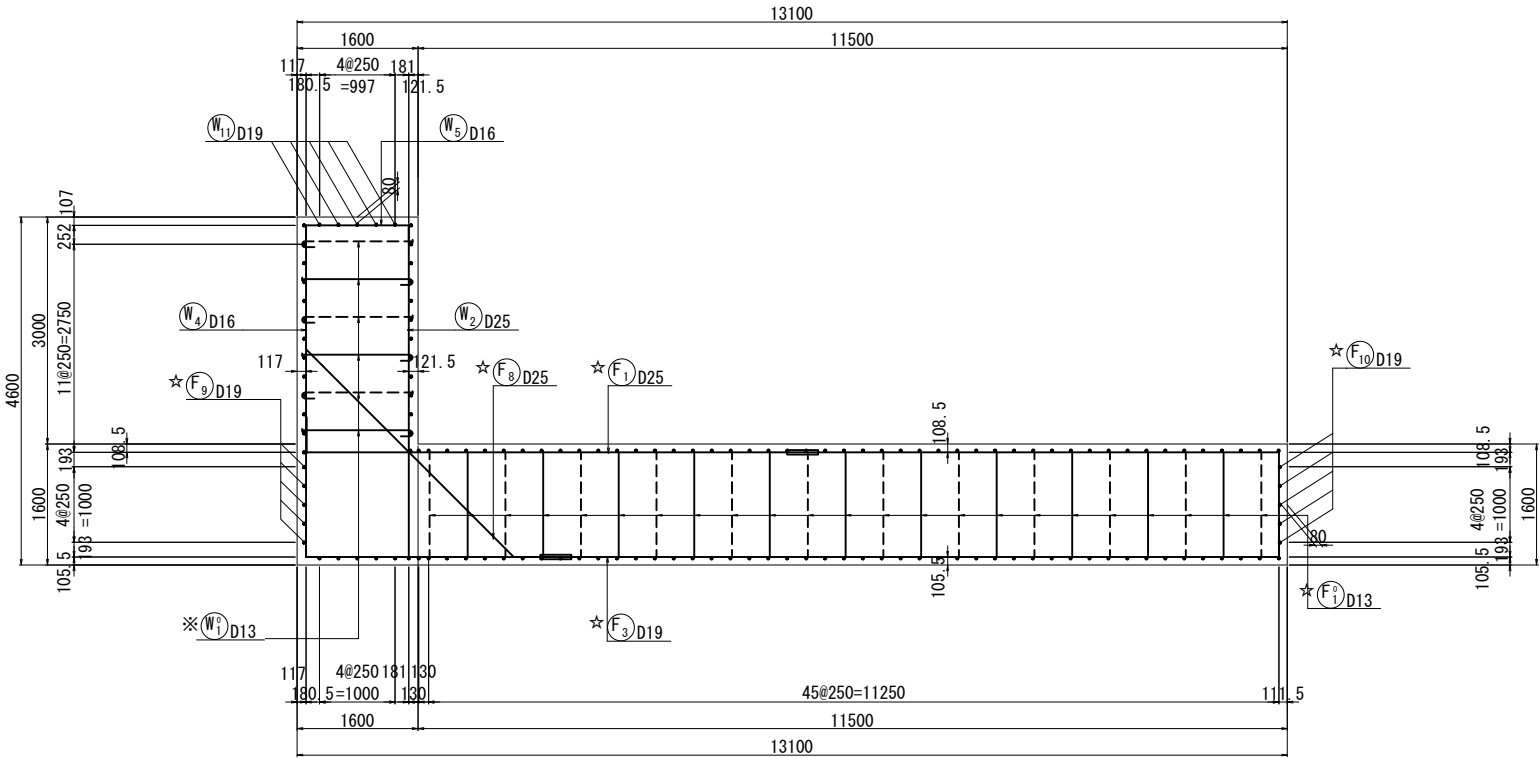
機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13		544				
D16						
D19						
D22						
D25						
D29						
D32						
D35						
D38						
小計		544				
合計	544箇所					

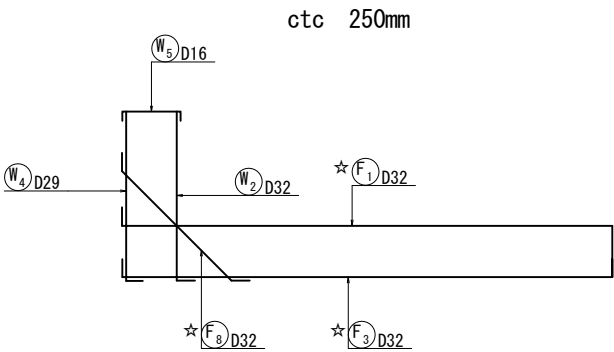
注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針〔2020版〕(R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注：◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。
B はB種鉄筋とする。
C はC種鉄筋とする。

常盤自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(8)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

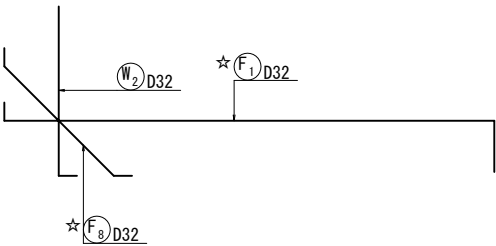
断面図
(A-A)



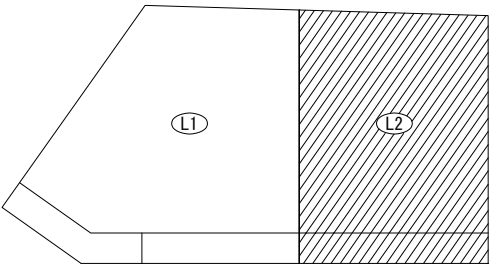
鉄筋組立図



ctc 250mm

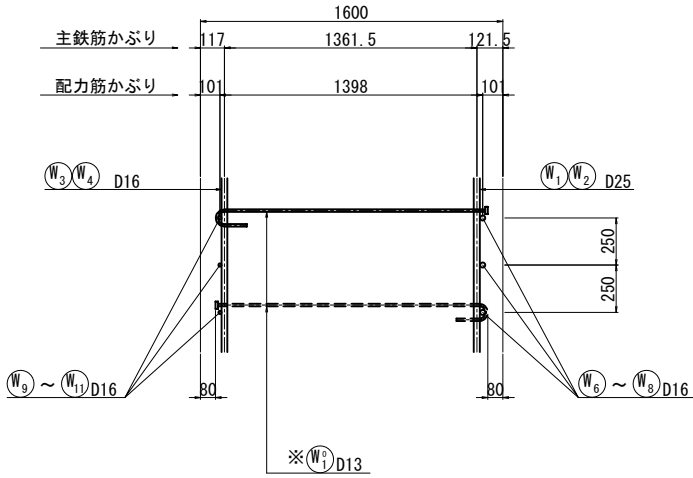


位置図

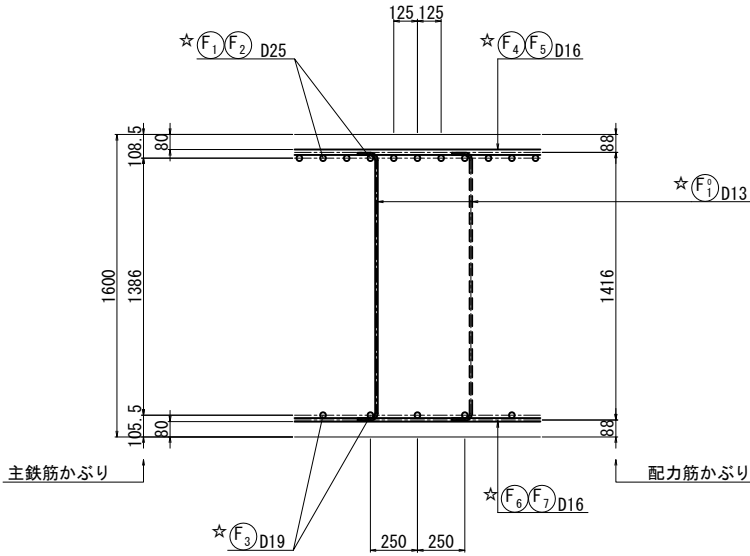


かぶり詳細図 縮尺 1:40

縦壁

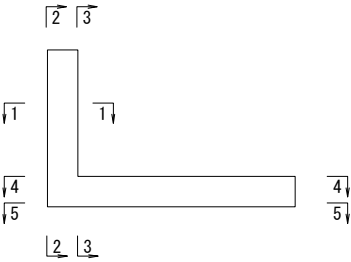


底版



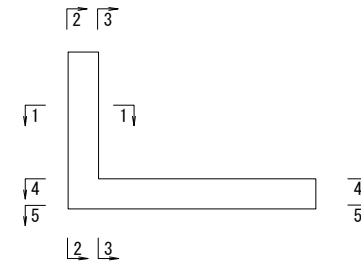
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

矢視図

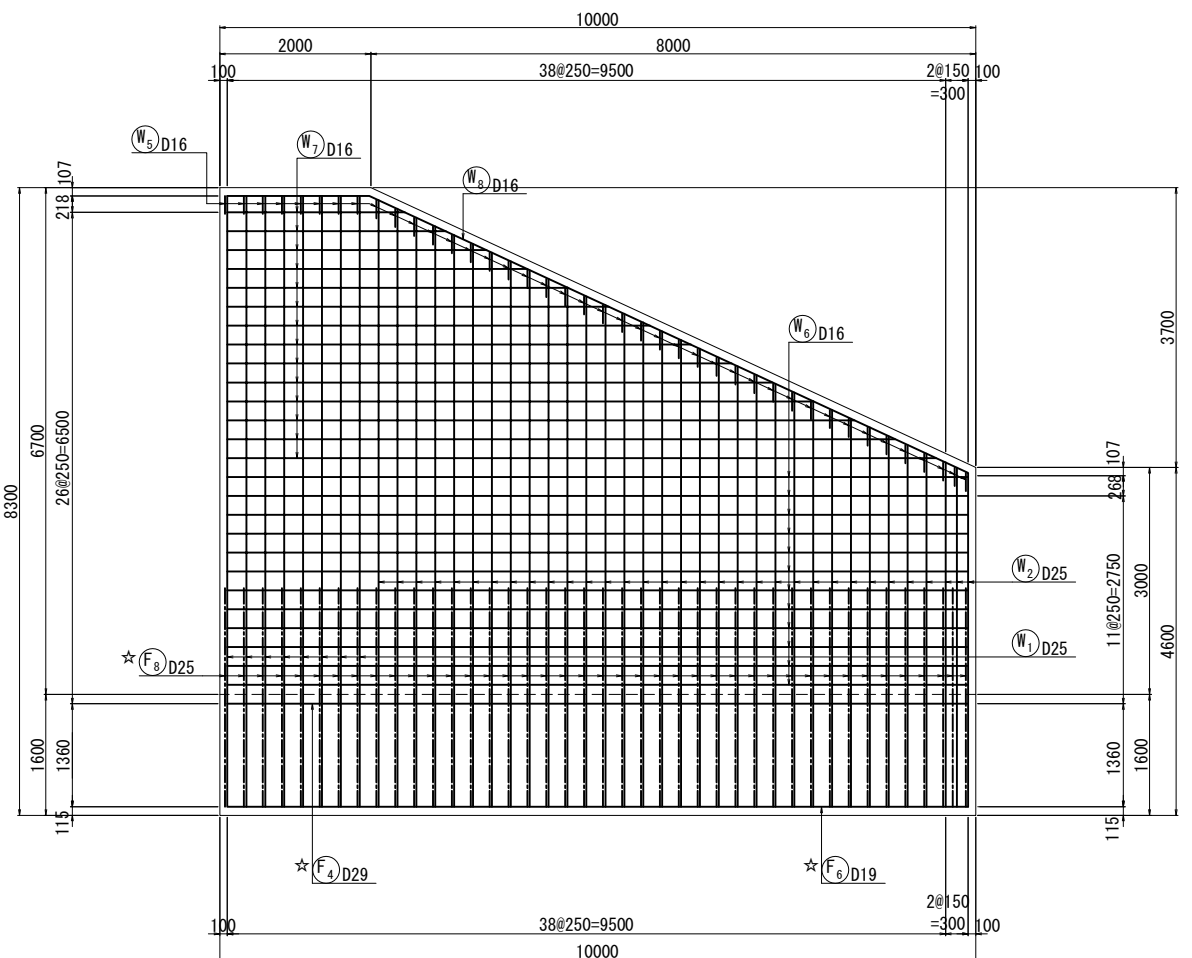


常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(9)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

矢 視 図



3 - 3 (豎壁背面)



注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)

2. 鉄筋定着・継手指針【2020版】(R2.3 土木学会)

3. 監査員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。

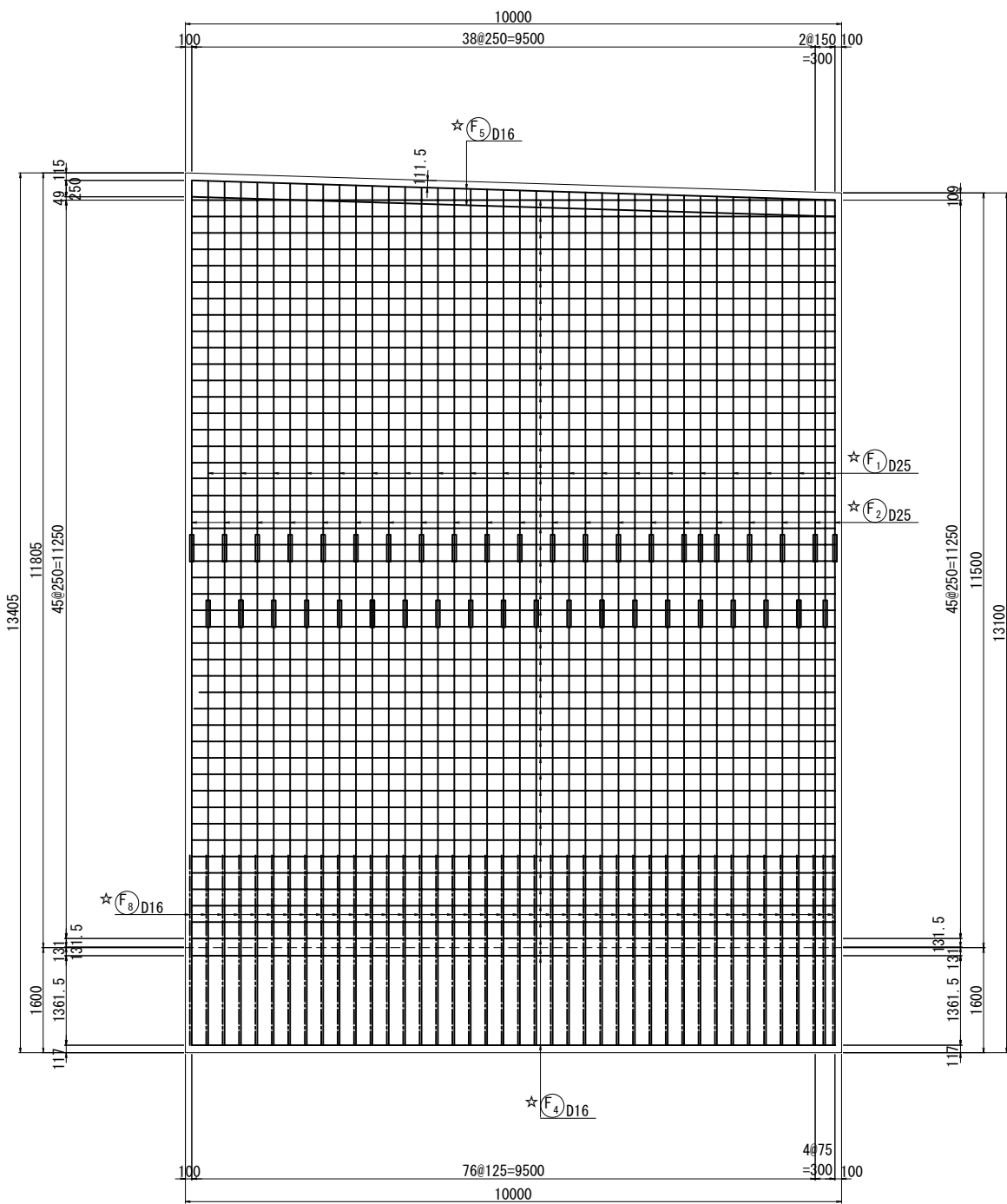
注：◎は上部土工工を示す。

☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

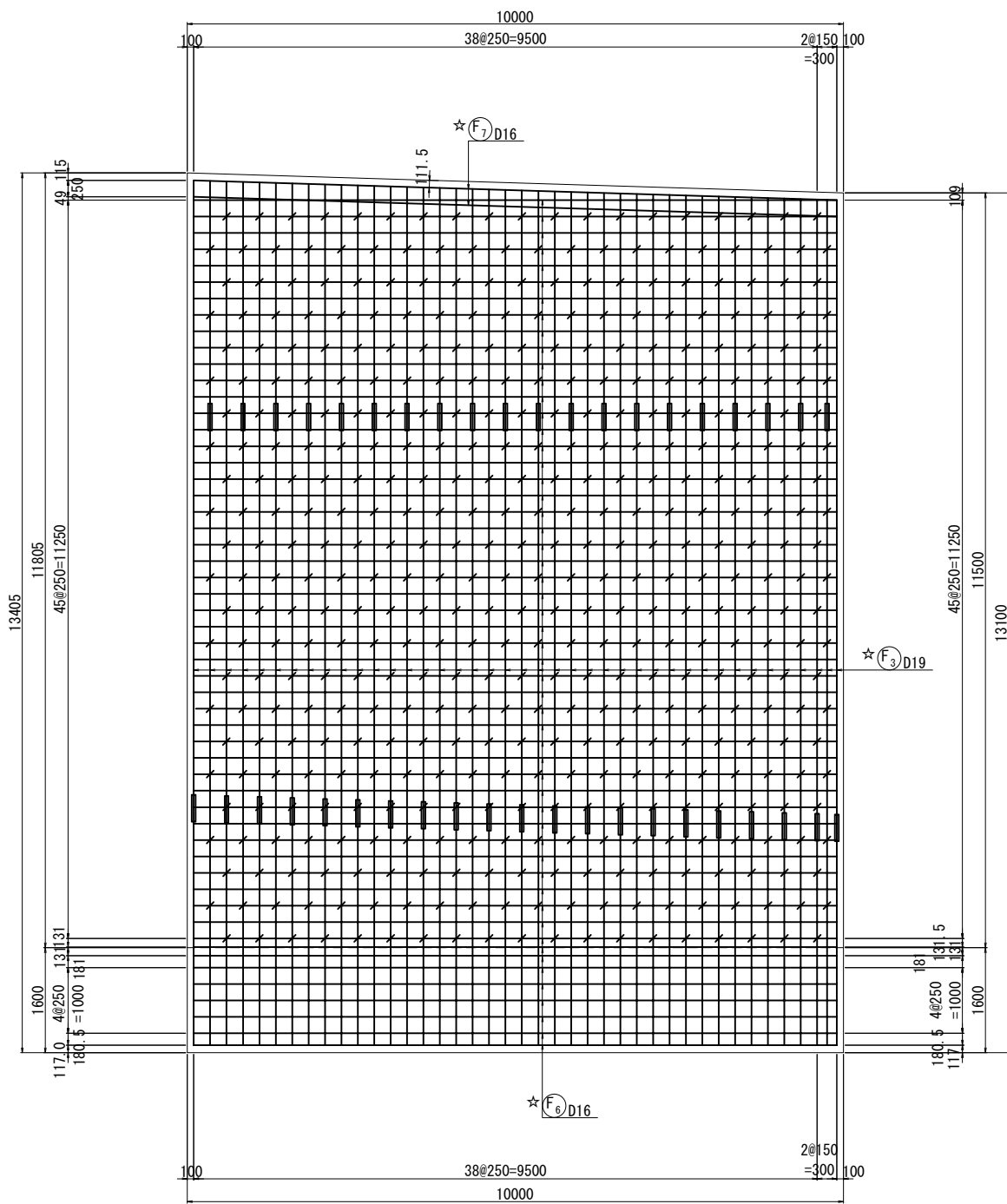
K は機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図 (10)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

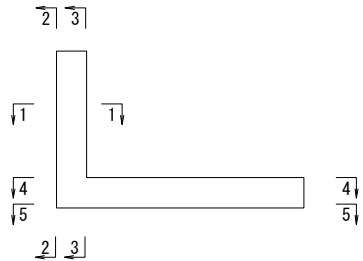
4 - 4 (底版上面)



5 - 5 (底版下面)

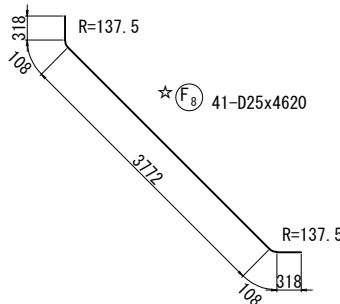
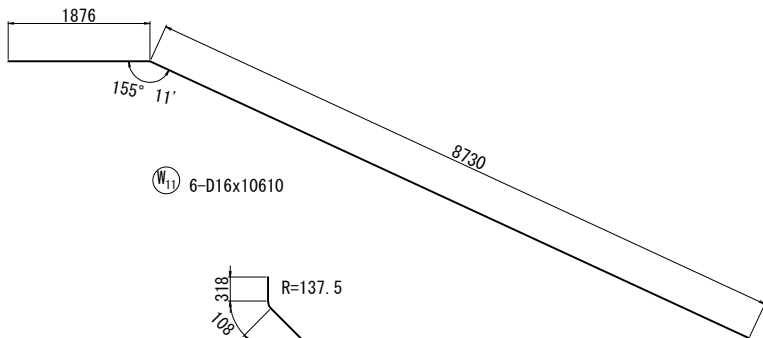
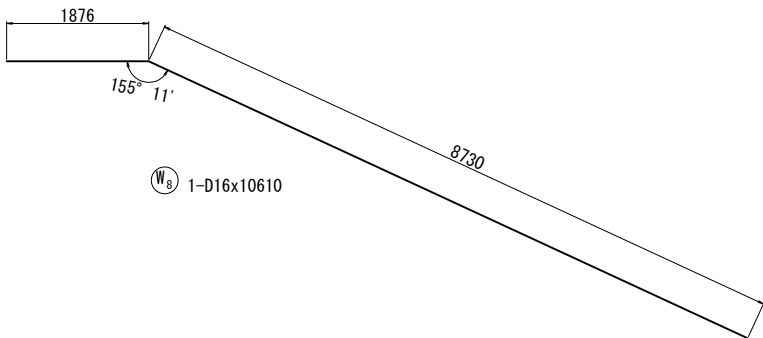
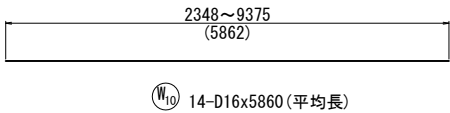
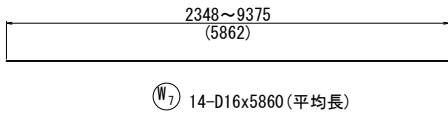
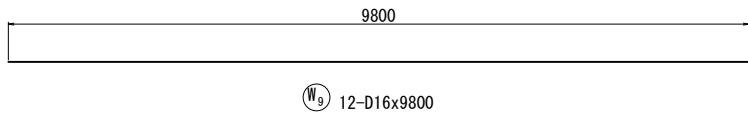
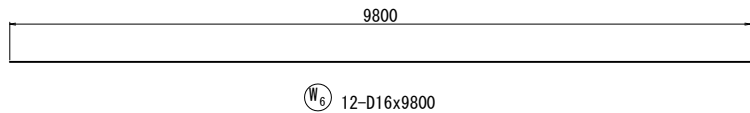
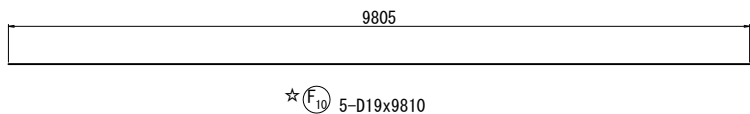
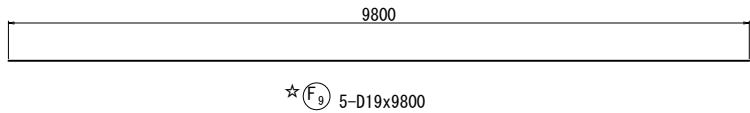
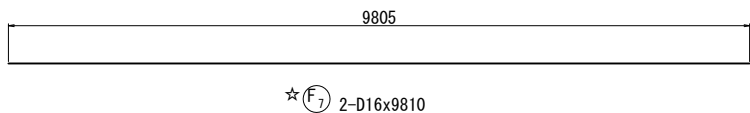
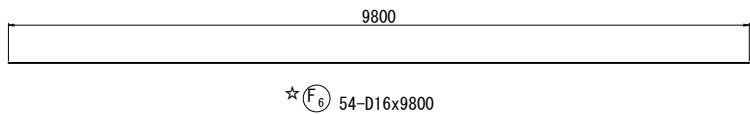
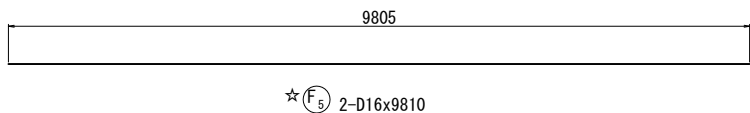
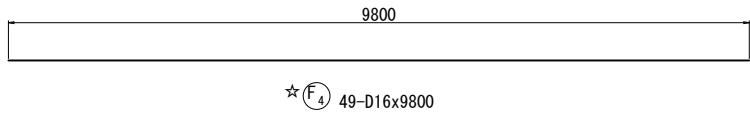
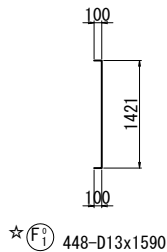
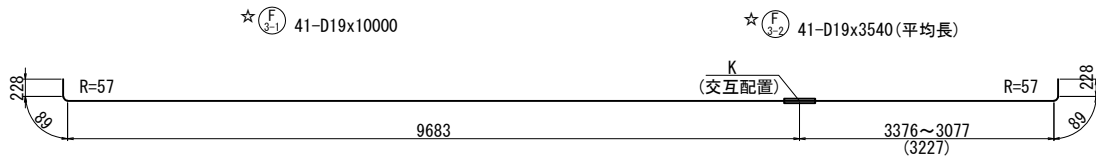
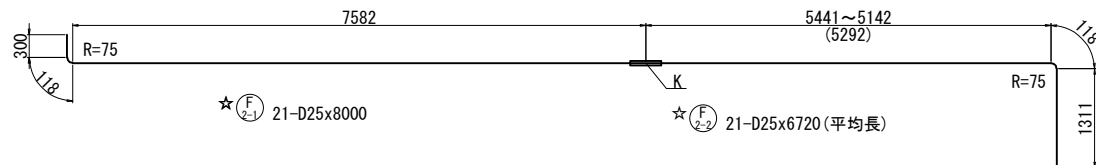
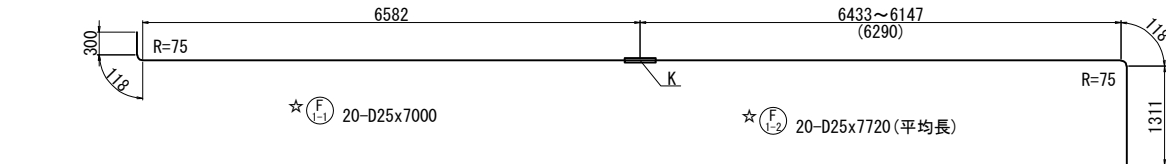
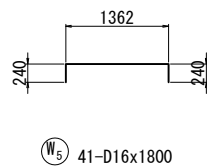
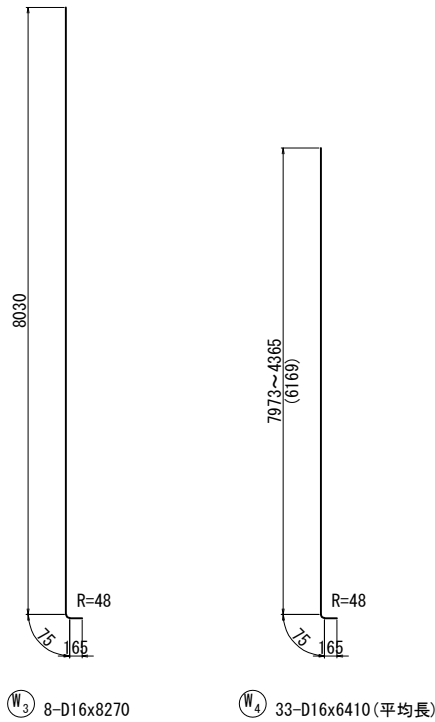
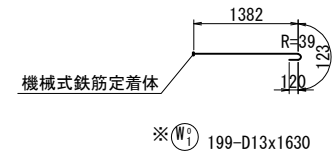
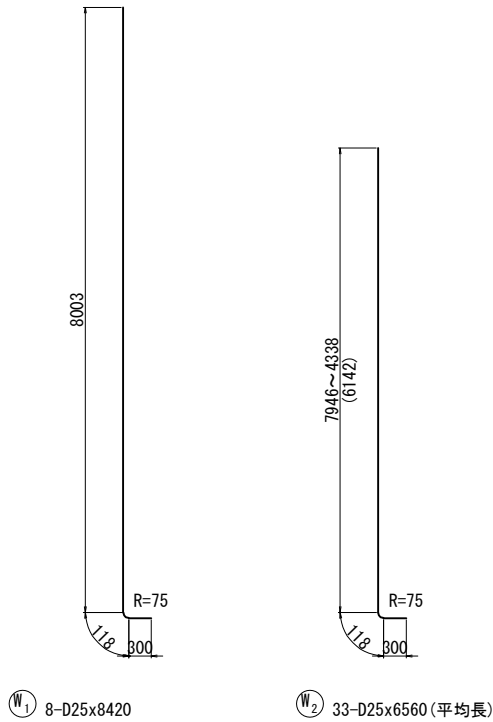


矢 視 図



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: ◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

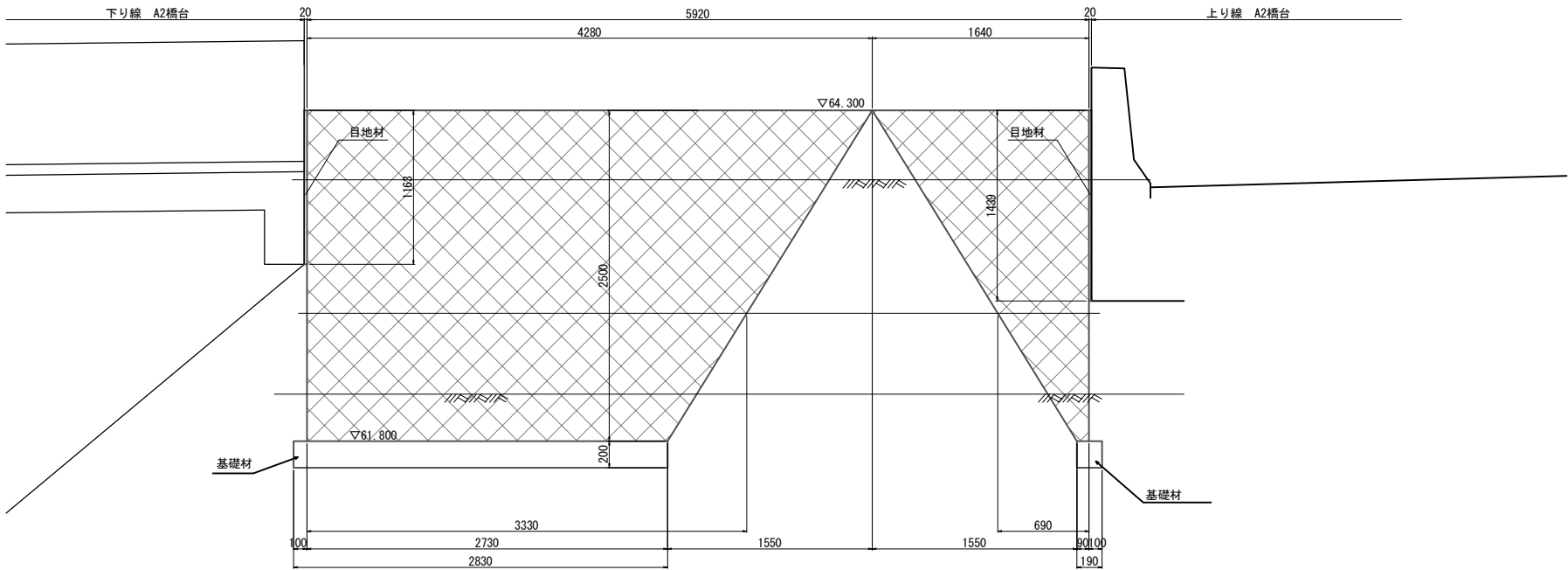
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(11)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



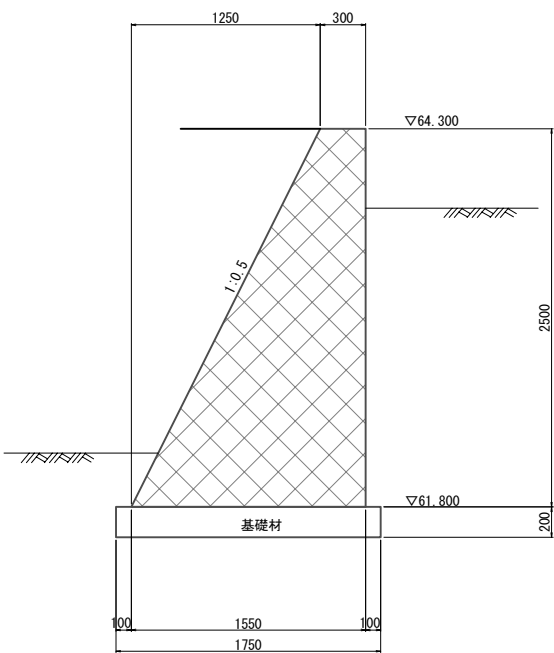
注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注：◎ は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(12)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

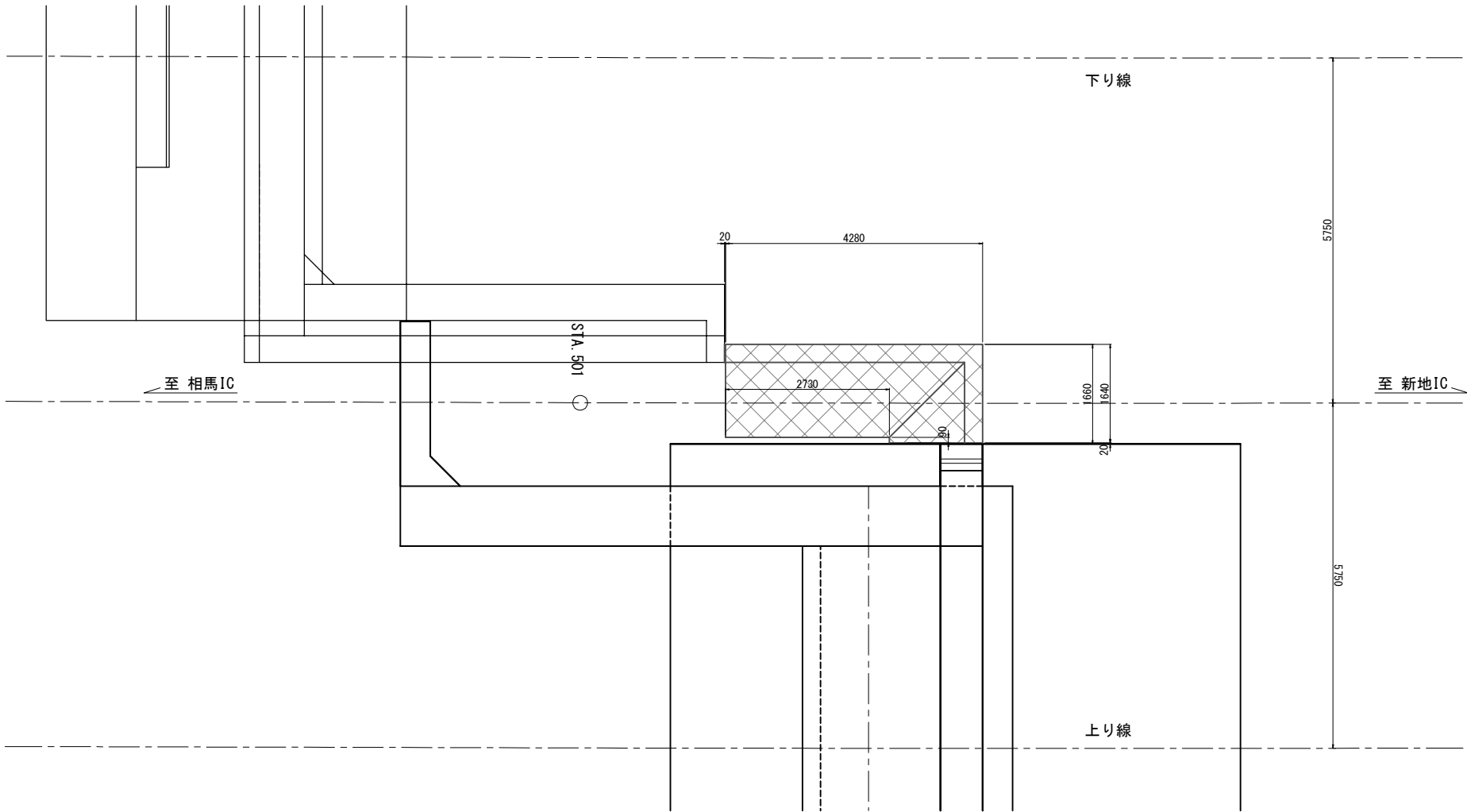
展開図 S=1:50



標準断面図 S=1:50



平面図 S=1:100

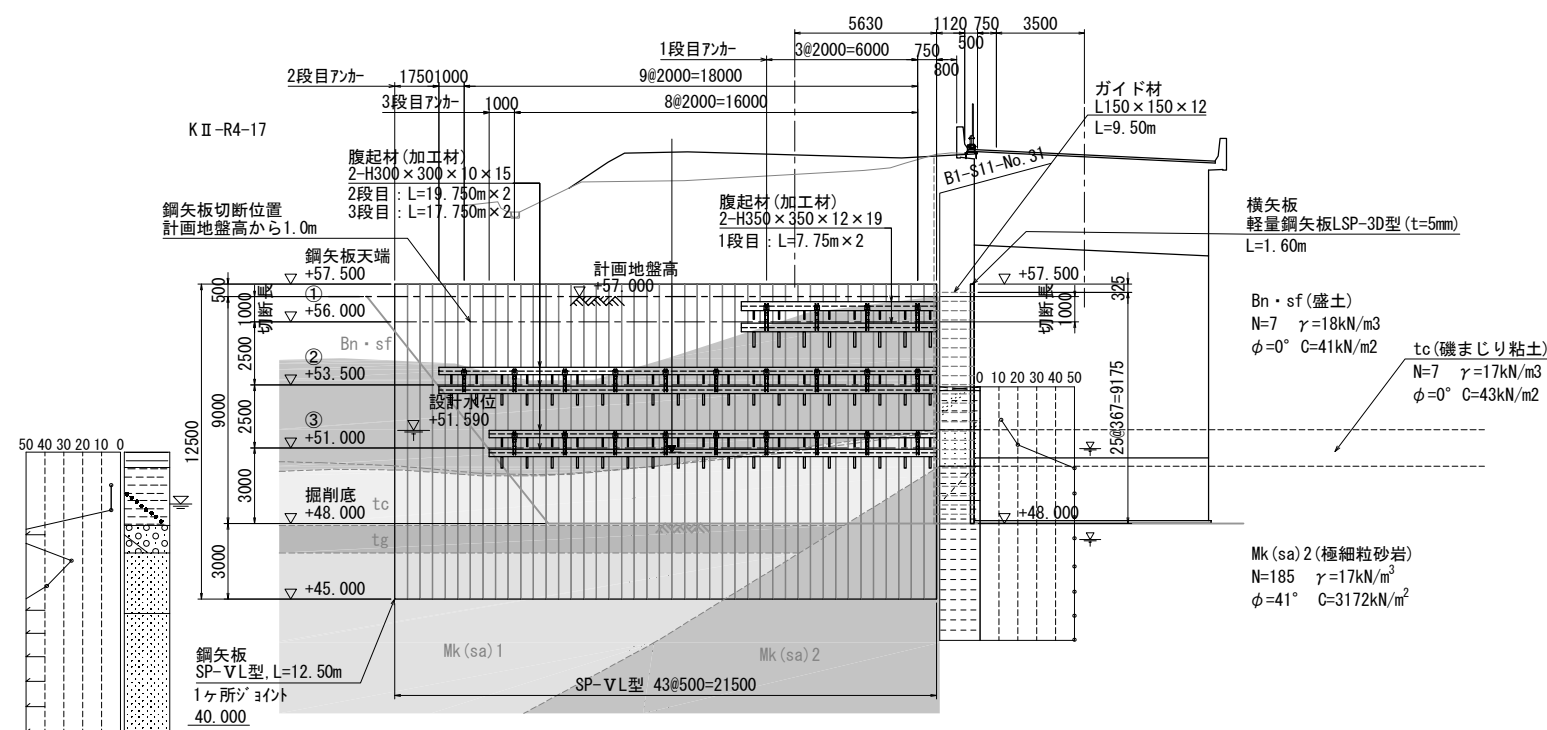


数量表

項目	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	C2-1	m3	9.3	
型枠	C	m2	25.9	
基礎材	RC-40 t=20cm	m3	1.1	

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台重力式擁壁一般図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

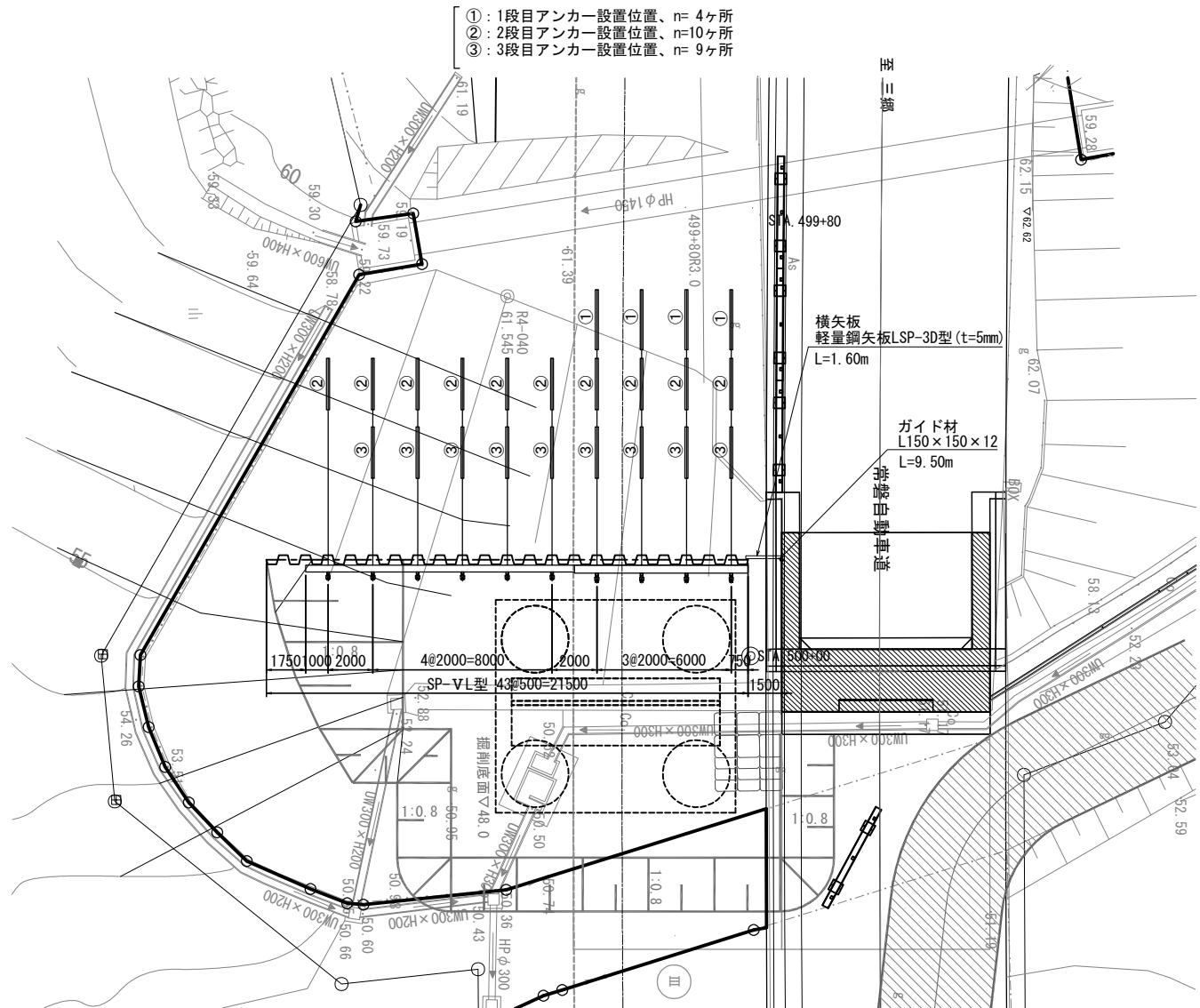
正面図 S=1:300



地質区分凡例

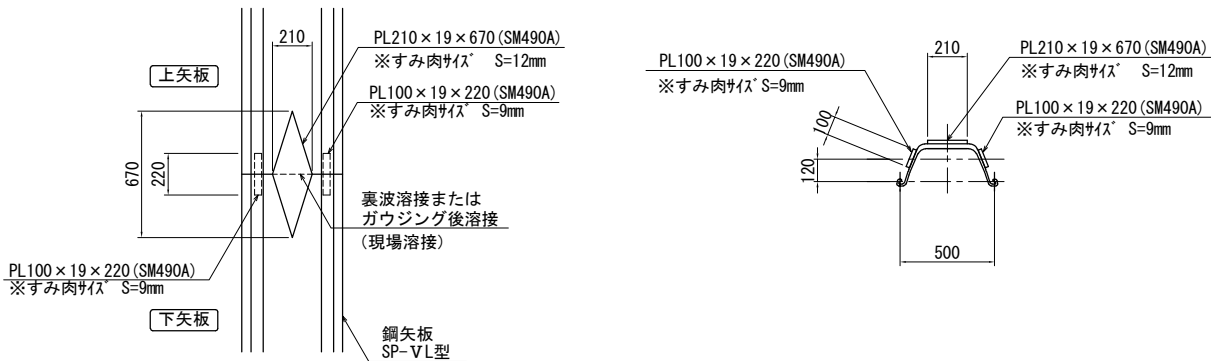
記号	主な土質・岩石名
Bn	粘性土
sf	粘土混じり砂礫 礫混じり粘土
tc	礫混じり粘土
tg	粘土混じり砂礫 玉石混じり砂礫
Mk (sa) 1	凝灰質中粒砂岩
Mk (sa) 2	極細粒砂岩
Mk (si)	シルト岩

平面図 S=1:300



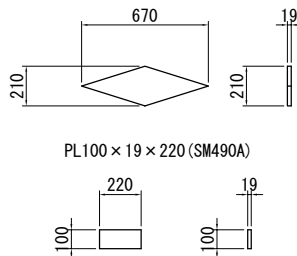
鋼矢板現場建込み溶接継手 S=1:40

鋼矢板 SP-VL型

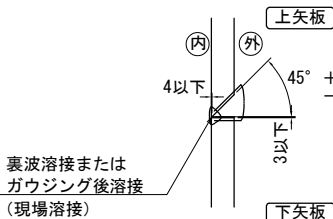


補強板 S=1:40

PL210 x 19 x 670 (SM490A)

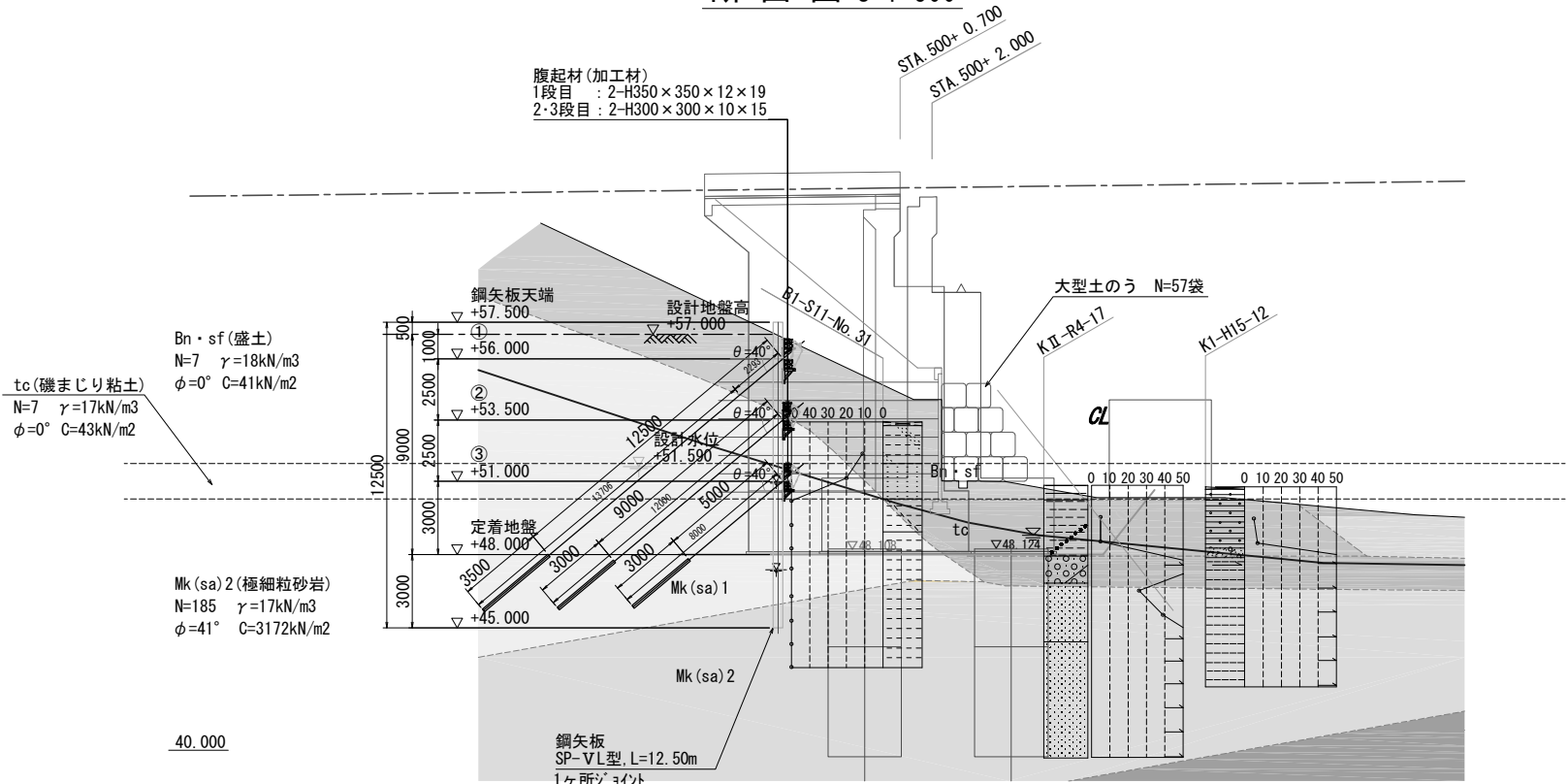


開先加工の形状 S=1:40



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台土留工構造図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

断 面 図 S=1:300



・ 鋼矢板数量表

項 目	規格寸法 (mm)	長さ (本/m)	本数	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg/本)	質 量 (t)	摘 要
鋼矢板	SP-VL型	12. 500	43	105. 0	1312. 5	56. 438	SY295
						56. 438	
添接板	PL210×19×670		43		10. 49	0. 451	
	PL100×19×220		86		3. 28	0. 282	
						0. 733	
杭材 合計質量: 57. 171 t							
支保工材							
腹起 (1段目)	H-350×350×12×19	7. 750	2	150. 0	1162. 5	2. 325	
腹起 (2段目)	H-300×300×10×15	19. 750	2	100. 0	1975. 0	3. 950	SS400
腹起 (3段目)	H-300×300×10×15	17. 750	2	100. 0	1775. 0	3. 550	
						9. 825 t	
副部材	カバープレート (H350)		4		20	0. 080	SS400
	カバープレート (H300)		12		17	0. 204	SS400
消耗部材	(主部材質量×0. 04)					0. 393	SS400
支保工材 合計質量: 10. 502 t							
プレート							
スチバー (1段目)	PL168×12×310		16		4. 91	0. 079	
スチバー (2段目)	PL145×9×268		40		2. 75	0. 110	
スチバー (3段目)	PL145×9×268		36		2. 75	0. 099	
プレート 合計質量: 0. 288 t							
腹起ブラケット							
1段目	H350-L50×4		8		4. 0	0. 032	
	H350-L90×13A		8		30. 5	0. 244	
2段目	H300-L50×4		20		4. 0	0. 080	
	H300-L90×10A		20		19. 7	0. 394	
3段目	H300-L50×4		18		4. 0	0. 072	
	H300-L75×9		18		14. 8	0. 266	
ブラケット 合計質量: 1. 088 t							
ガス切断工	切断長さ1. 5m/本	12. 500	43	105. 0	157. 5	6. 773	
合計質量: 6. 773 t							スクラップ重量

・ 横矢板数量表

項 目	種別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
軽量鋼矢板	SP	LSP-3D型 (t=5mm)	1. 6	25	19. 3	30. 88	772	SS400
合計質量:							772 kg	
ガイド金具	L	L150×150×12	1. 200	7	27. 3	32. 76	229	
ガイド金具	L	L150×150×12	1. 100	1	27. 3	30. 03	30	
合計質量:							259 kg	
打ち込み式アンカー	BN	M20 (埋め込み長さ80mm)		24		0. 5	12	
合計質量:							12 kg	
総合計質量:							1043 kg	

・ グラウンドアンカー仕様

Level	打設角度		削孔径 (mm)	自由長 Lf (m)	定着長 La (m)	削孔長 (m)	分担幅 (m)	設計 アンカー力 Po (KN)	許容 引張力 Pas (KN)	ユニット	P C 鋼より線 設置数 (本) (ヶ所)		サイズ	台座 板厚 (mm)	支圧板 板厚 (mm)	ブ ラ ケ ッ ト	
	水平 (°)	垂直 (°)														タイプ	脚長 (mm)
①	0	40	φ135	12. 500	3. 500	16. 150	2. 000	605. 24	856. 44	K5-8	8	4	2-H350×350×12×19	16	25	H350-L90×13A	12
②	0	40	φ135	9. 000	3. 000	12. 150	2. 000	322. 51	428. 22	K5-5	4	10	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6
③	0	40	φ135	5. 000	3. 000	8. 150	2. 000	147. 90	214. 11	K5-3	2	9	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6

< 除去式アンカ > (参考)

- ・ 使用工法 : K T B ・ U ターン除去アンカー (荷重分散型)
- ・ 定着具 : クサビ定着方式
- ・ 使用鋼材 : P C 鋼より線 (7本よりφ12. 7mm)
- ・ 上表中の削孔長は、余掘長 (0. 15m) を考慮した長さ

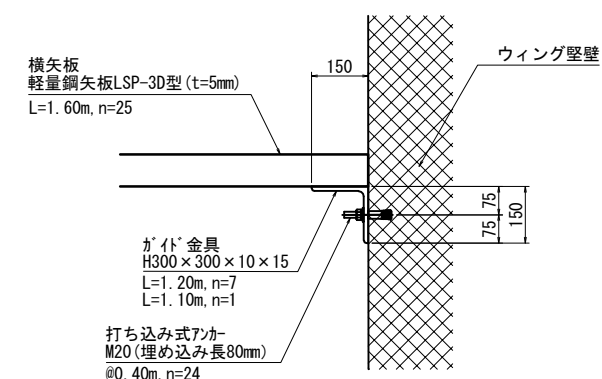
< 注 記 >

- ・ 鋼矢板天端 : +57. 500
- ・ 設計地盤高 : +57. 000
- ・ 設計水位 : +51. 590
- ・ 掘削底 : +48. 000
- ・ 定着地盤高 : Mk (sa) 2層天端から1. 00m下がった位置とする。
- ・ 掘削時の余掘り : 掘削時は支保工設置位置より1. 00m下までとする。
- ・ 解体位置 : 支保工設置位置より1. 00m下まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・ 上載荷重 : 各掘削時の背面土重量を上載荷重に換算した上載荷重に、10. 00kN/m² 加算した値を上載荷重として考慮する。

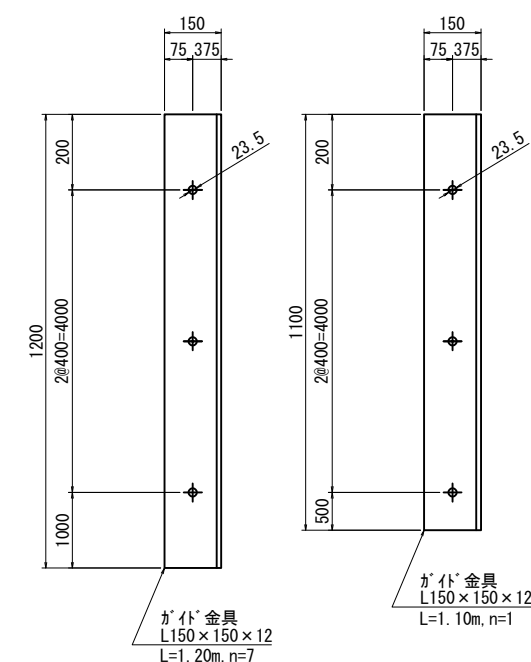
- ・ 鋼矢板の施工方法 : 圧入工法とする。但し、施工条件による周面摩擦力度の係数βを0. 5とする。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台土留工構造図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

カ`ト`金具取付詳細図 S=1:20

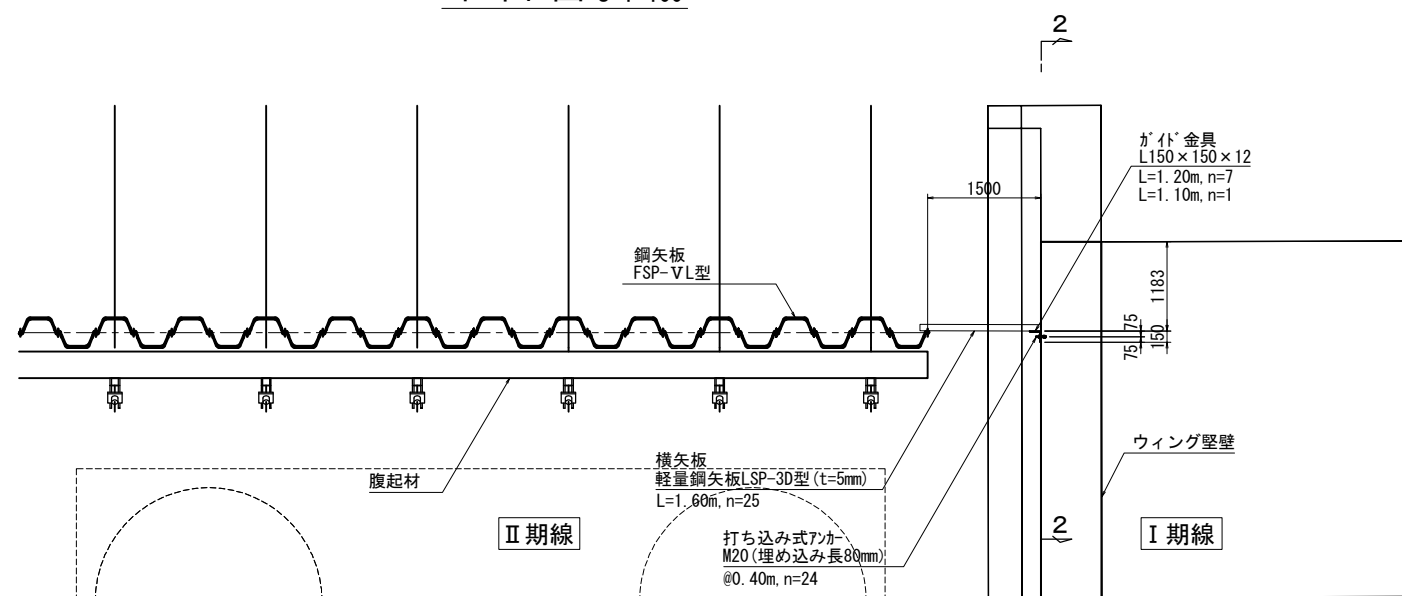


ガ 卜 金具詳細図 S=1:20



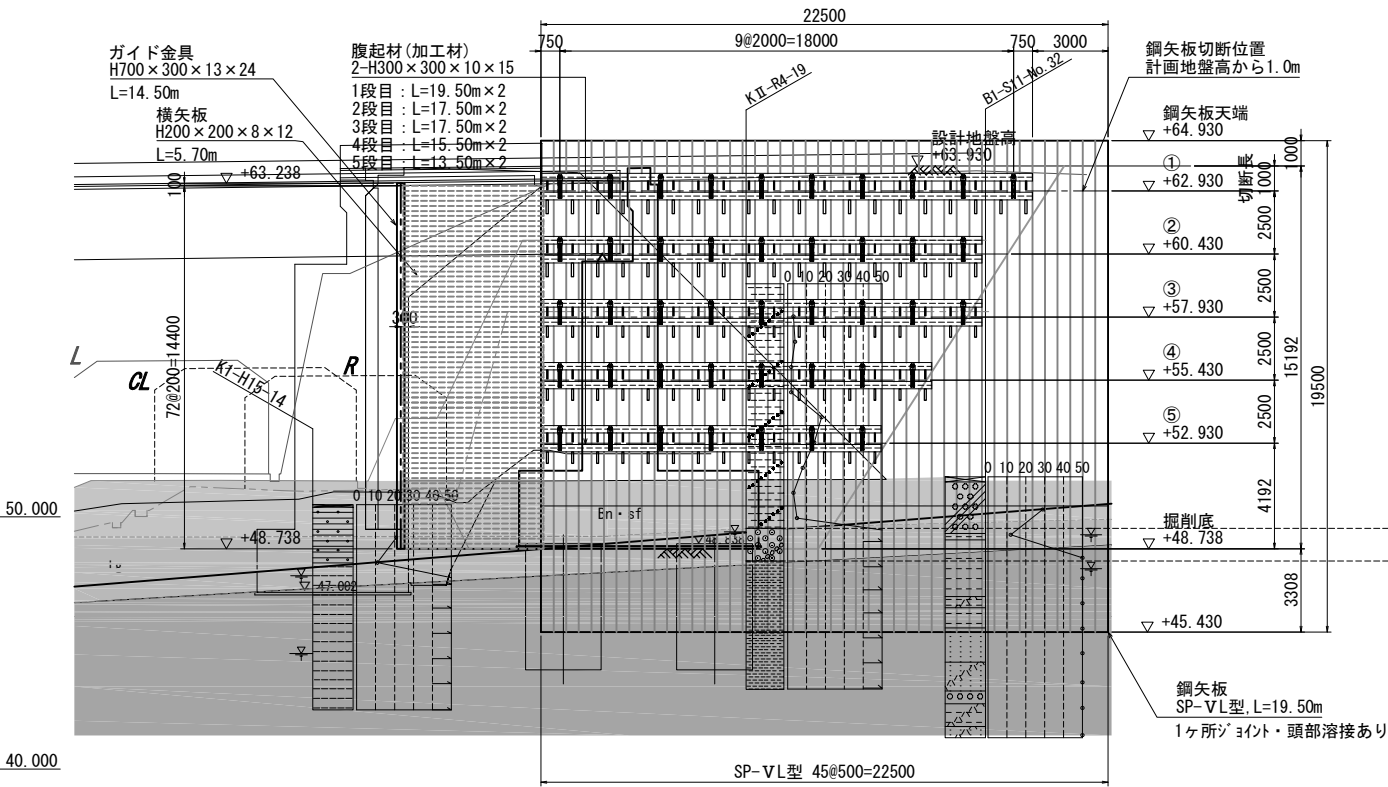
・横矢板数量表

購入数量表								
項 目	種別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
軽量鋼矢板	SP	LSP-3D型 (t=5mm)	1.6	25	19.3	30.88	772	SS400
合計質量:							772	kg
ガイド金具	L	L150×150×12	1.200	7	27.3	32.76	229	
ガイド金具	L	L150×150×12	1.100	1	27.3	30.03	30	
合計質量:							259	kg
打ち込み式アンカ	BN	M20 (埋め込み長さ80mm)		24		0.5	12	
合計質量:							12	kg
総合計質量:							1043	kg



常 登 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし AI橋台横矢詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

正面図 S=1:300



地質区分凡例

記号	主な土質・岩石名
Bn	粘性土
sf	粘土混じり砂礫 礫混じり粘土
tc	礫混じり粘土
tg	粘土混じり砂礫 玉石混じり砂礫
Mk(sa)1	凝灰質中粒砂岩
Mk(sa)2	極細粒砂岩
Mk(si)	シルト岩

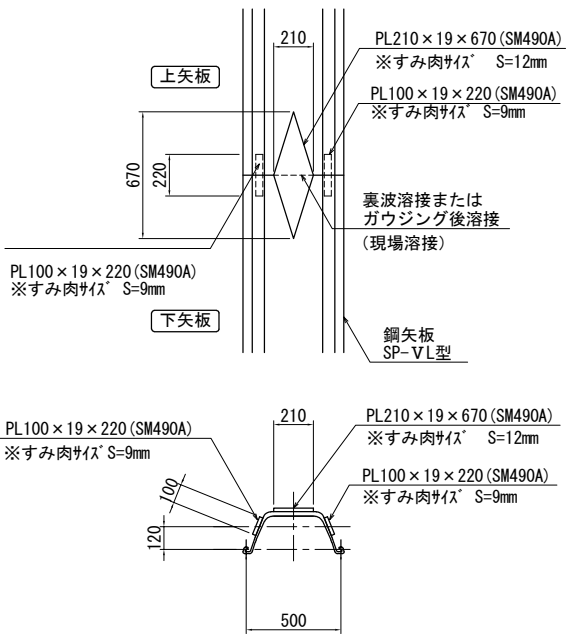
Bn・sf(盛土)
N=7 $\gamma=18\text{kN/m}^3$
 $\phi=0^\circ$ $C=41\text{kN/m}^2$

tg(砂礫)
N=37 $\gamma=21\text{kN/m}^3$
 $\phi=39^\circ$ $C=0\text{kN/m}^2$

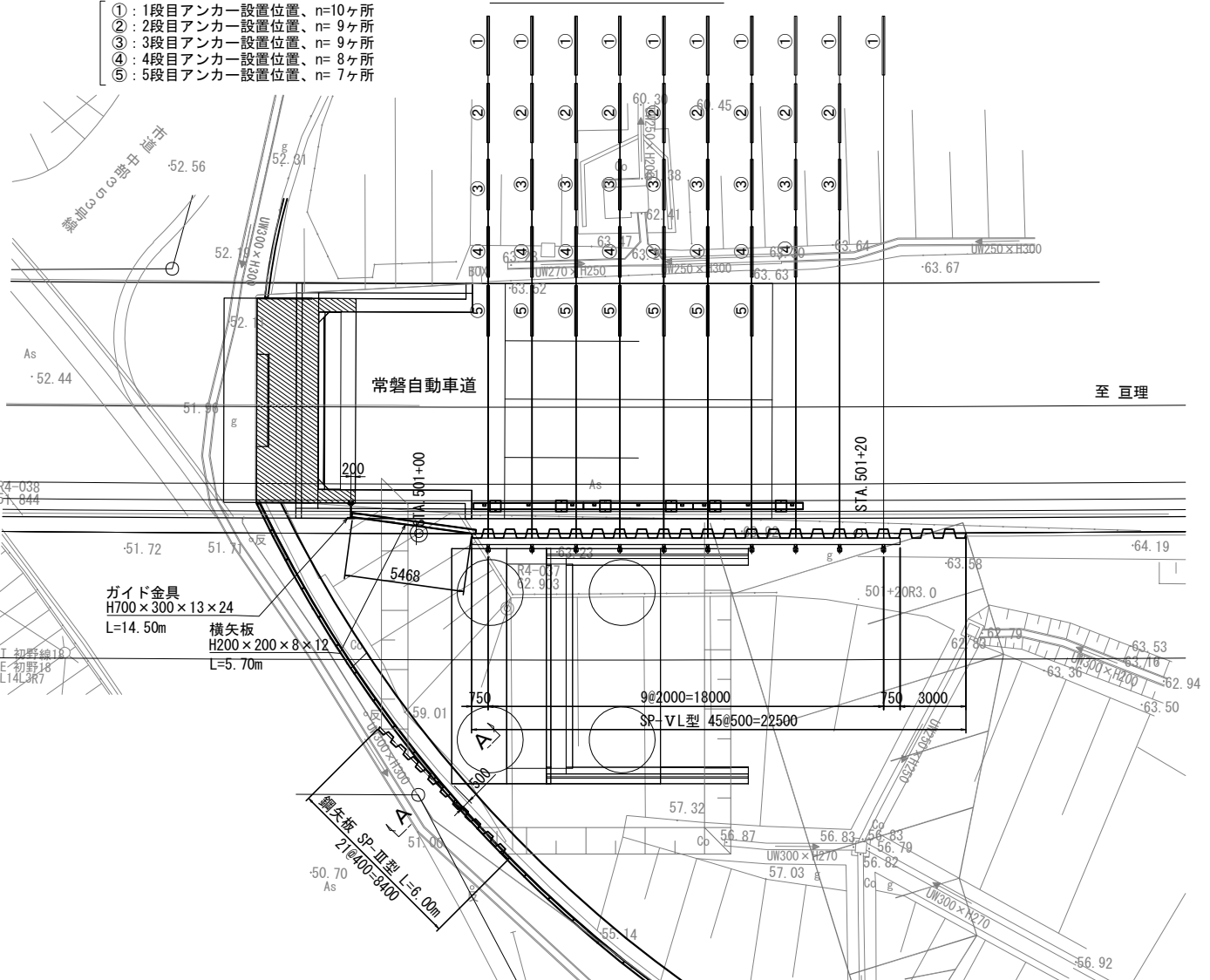
Mk(si)(シルト岩)
N=132 $\gamma=17\text{kN/m}^3$
 $\phi=21^\circ$ $C=3329\text{kN/m}^2$

鋼矢板現場建込み溶接継手 S=1:40

鋼矢板 SP-VL型

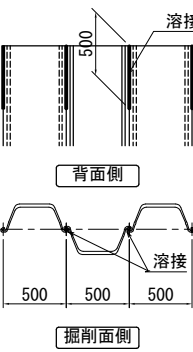


平面図 S=1:300

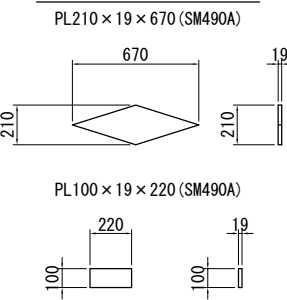


- ①: 1段目アンカー設置位置、n=10ヶ所
- ②: 2段目アンカー設置位置、n= 9ヶ所
- ③: 3段目アンカー設置位置、n= 9ヶ所
- ④: 4段目アンカー設置位置、n= 8ヶ所
- ⑤: 5段目アンカー設置位置、n= 7ヶ所

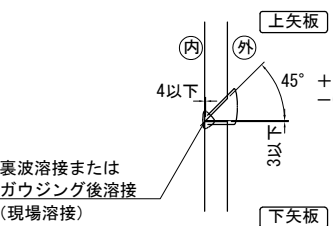
SP-VL型



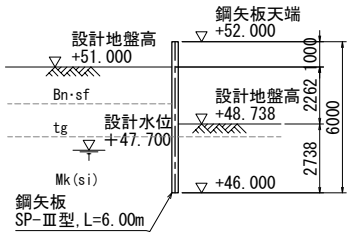
補強板 S=1:40



開先加工の形状 S=1:40



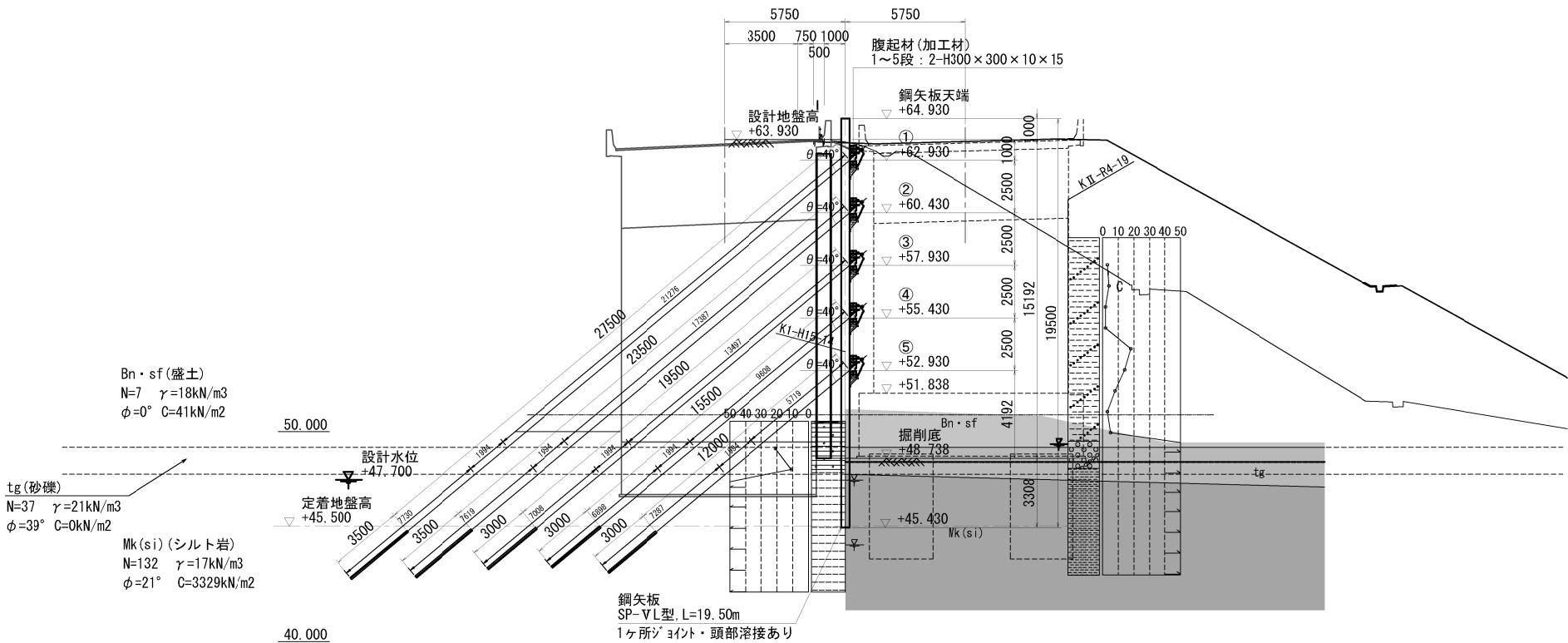
A-A断面図 S=1:300



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台土留工構造図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A2橋台土留工構造図(2)

断面図 S=1:300



・鋼矢板数量表

項 目	規格寸法 (mm)	長さ (本/m)	本数	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg/本)	質 量 (t)	摘 要
鋼矢板	SP-VL型	19.5	45	105.0	2047.5	92.138	SY295
	SP-Ⅲ型	6.0	21	60.0	360.0	7.560	
						99.698	
添接板	PL210×19×670		45		10.49	0.472	
	PL100×19×220		21		3.28	0.295	
						0.767	
杭材 合計質量:						100.465 t	
支保工材							
腹起 (1段目)	H-300×300×10×15	19.500	2	100.0	1950.0	3.900	SS400
腹起 (2段目)	H-300×300×10×15	17.500	2	100.0	1750.0	3.500	
腹起 (3段目)	H-300×300×10×15	17.500	2	100.0	1750.0	3.500	
腹起 (4段目)	H-300×300×10×15	15.500	2	100.0	1550.0	3.100	
腹起 (5段目)	H-300×300×10×15	13.500	2	100.0	1350.0	2.700	
支保工材 合計質量:						16.700 t	
副部材							
カバープレート	カバープレート (H-300)		28		17	0.476	SS400
消耗部材	(主部材質量×0.04)					0.668	SS400
支保工材 合計質量:						17.844 t	
プレート							
スチラー (1段目)	PL145×9×268		40		2.75	0.110	
スチラー (2段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
スチラー (3段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
スチラー (4段目)	PL145×9×268		32		2.75	0.088	
スチラー (5段目)	PL145×9×268		14		2.75	0.039	
プレート 合計質量:						0.435 t	
腹起ブラケット							
1段目	H350-L50×4		20		4.0	0.080	
	H350-L90×10B		20		21.5	0.430	
2段目	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
	H350-L90×10B		18		21.5	0.387	
3段目	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
	H300-L75×9		18		14.8	0.266	
4段目	H300-L50×4		16		4.0	0.064	
	H300-L75×9		16		14.8	0.237	
5段目	H300-L50×4		14		4.0	0.056	
	H300-L75×9		14		14.8	0.207	
ブラケット 合計質量:						1.871 t	
ガス切断工							
切断長さ2.0m/本		19.500	45	105.0	210	9.450	
合計質量:						9.450 t	スクラップ重量

・横矢板数量表

項 目	種別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
H形鋼	H	H200×200×8×12	5.7	72	49.9	264.43	20479	SS400
合計質量:							20479	kg
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.200	11	182.0	218.40	2402	
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.300	1	182.0	236.60	237	
合計質量:							2639	kg
フイーラープレート	PL	PL40×(t19～25)×200		72		1.38	99	
合計質量:							99	kg
打ち込み式アンカー	BN	M20(埋め込み長さ30mm)		144		0.5	72	
合計質量:							72	kg
総合計質量:							23289	kg

・グラウンドアンカー仕様

Level	打設角度 (°)		削孔径 (mm)	自由長 Lf (m)	定着長 La (m)	削孔長 (m)	分担幅 (m)	アンカー力 Po (KN)	ユニット	P C 鋼より線 (本)	設置数 (ヶ所)	サイズ	台座板厚 (mm)	支圧板板厚 (mm)	ブラケット	
	水平 (°)	垂直 (°)													タイプ	脚長 (mm)
①	0	40	φ115	27.500	3.500	31.200	2.000	421.78	K5-5	4	10	2-H300×300×10×15	16	22	H300-L90×10B	9
②	0	40	φ115	23.500	3.500	27.200	2.000	334.31	K5-3	3	9	2-H300×300×10×15	16	19	H300-L90×10B	9
③	0	40	φ115	19.500	3.000	22.700	2.000	221.97	K5-3	2	9	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6
④	0	40	φ115	15.500	3.000	18.700	2.000	128.61	K5-3	2	8	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6
⑤	0	40	φ115	12.000	3.000	15.200	2.000	40.00	K5-3	2	7	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6

<残置式アンカー> (参考)

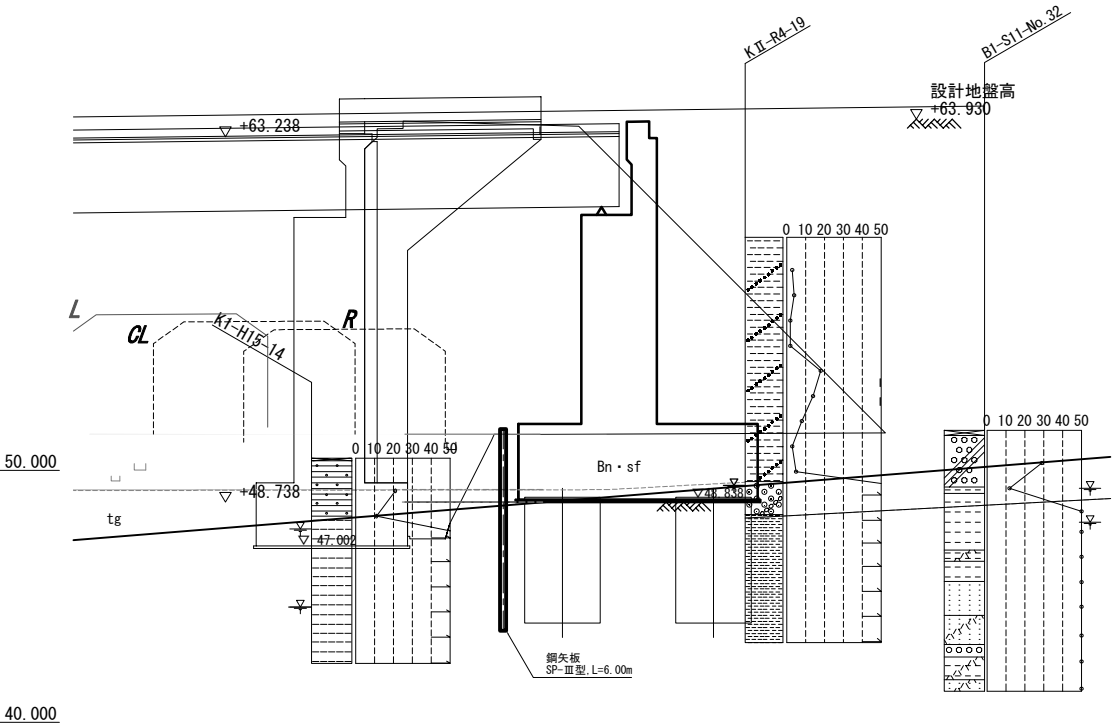
- ・使用工法 : K T B・残置式アンカー (引張型)
- ・定着具 : クサビ定着方式
- ・使用鋼材 : P C 鋼より線 (7本よりφ12.7mm)
- ・上表中の削孔長は、先端余長 (バレットキャップ) 分として0.20m) を考慮した長さ

<注 記>

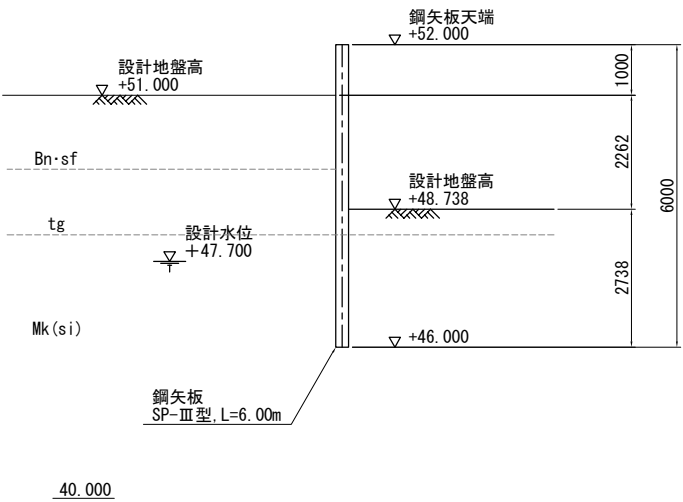
- ・鋼矢板天端 : +64.930
- ・設計地盤高 : +63.930
- ・設計水位 : +47.700
- ・掘削底 : +48.738
- ・定着地盤高 : +45.500
- ・掘削時の余堀り : 掘削時は支保工設置位置より1.00m下までとする。
- ・1次解体位置 : +51.838まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・2~5次解体位置 : 支保工設置位置より1.00m下まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・上載荷重 : 10.00kN/m² 考慮する。
- ・鋼矢板の施工方法 : 圧入工法とする。但し、施工条件による周面摩擦力度の係数βを0.5とする。
- ・鋼矢板の断面性能 : 右図に示すように 鋼矢板継手部の掘削面側を鋼矢板頭部から50cm程度溶接 するものとし、断面二次モーメントおよび断面係数は 全断面有効の80%とする。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台土留工構造図(2)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

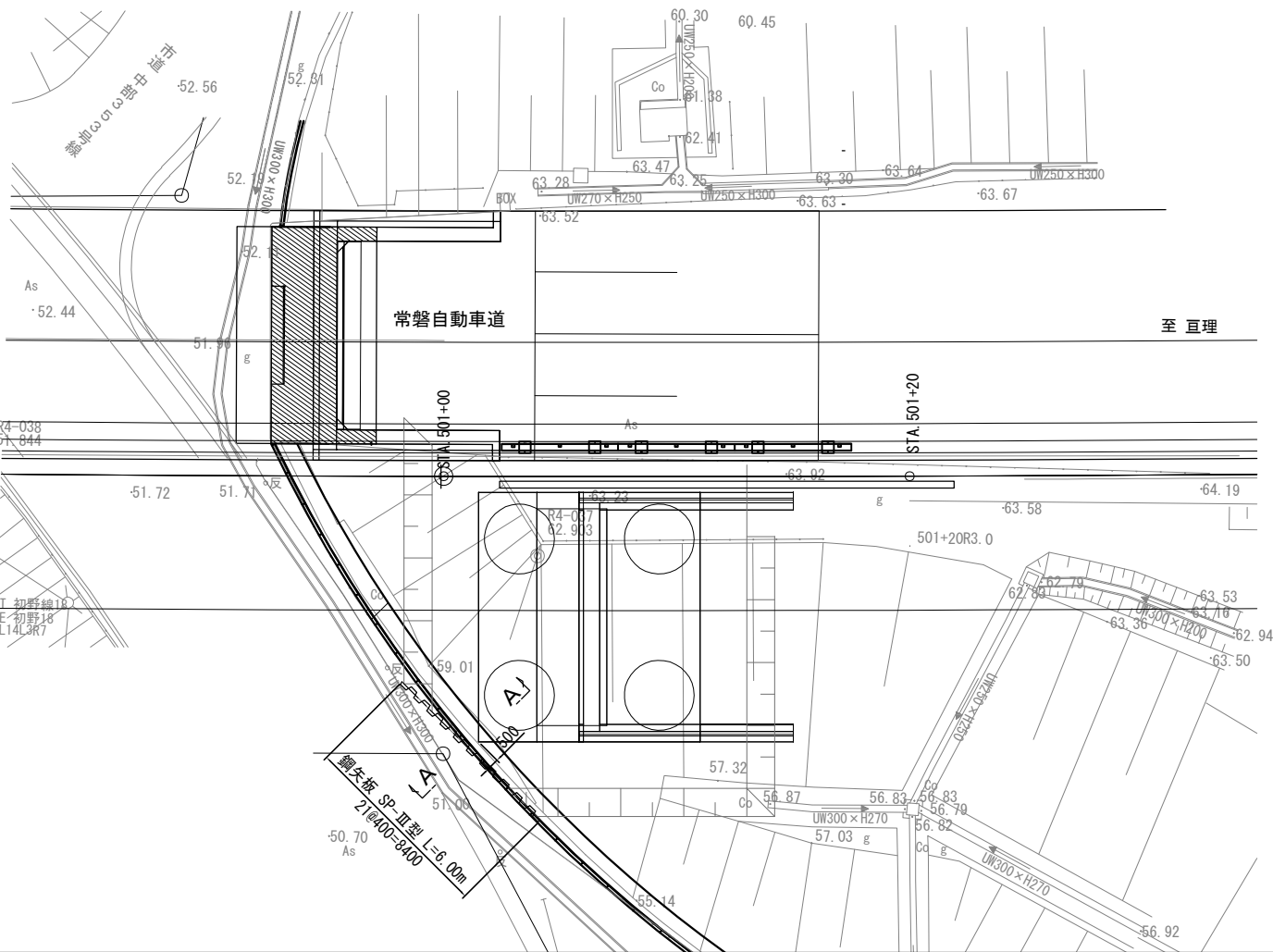
正面図 S=1:300



A-A断面図 S=1:150



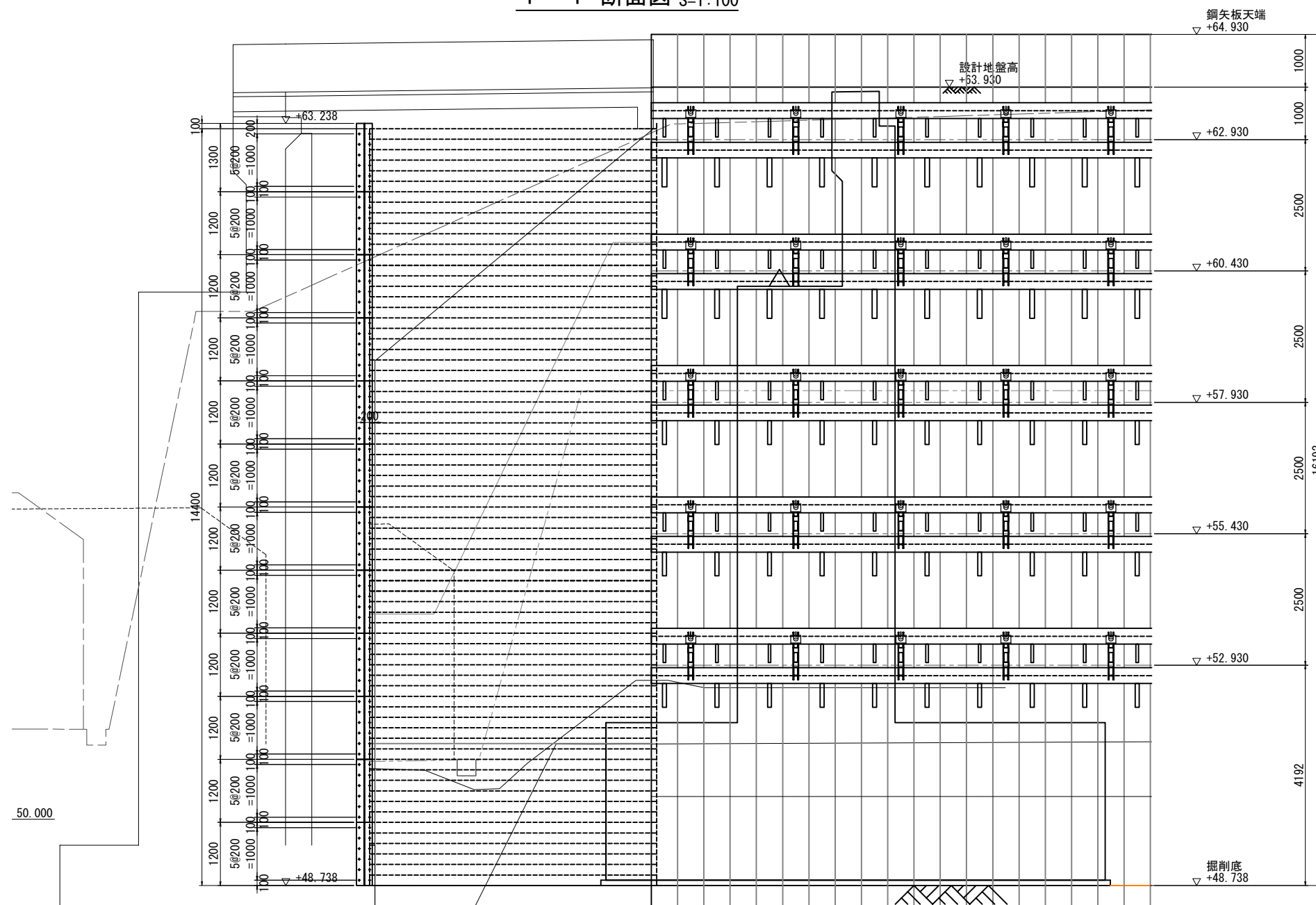
平面図 S=1:300



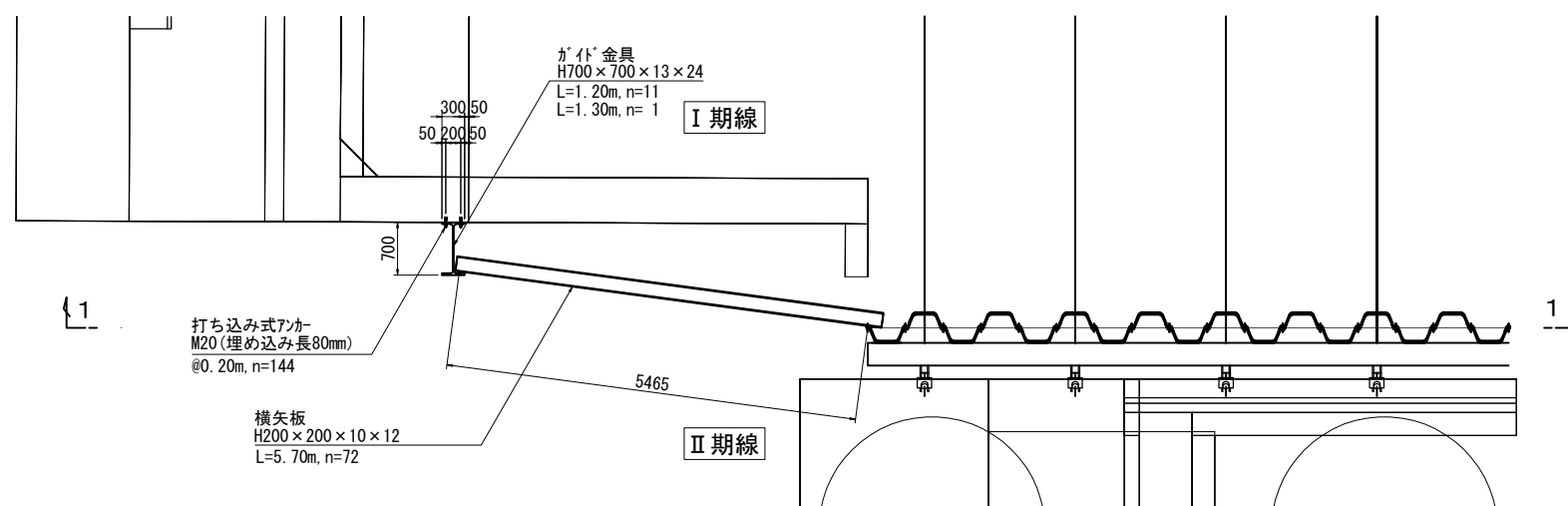
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台土留工構造図(3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A2橋台横矢板詳細図

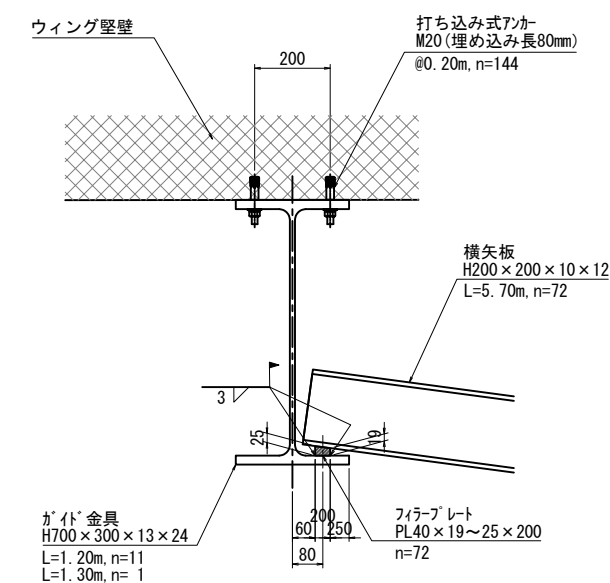
1-1 断面图 S=1:100



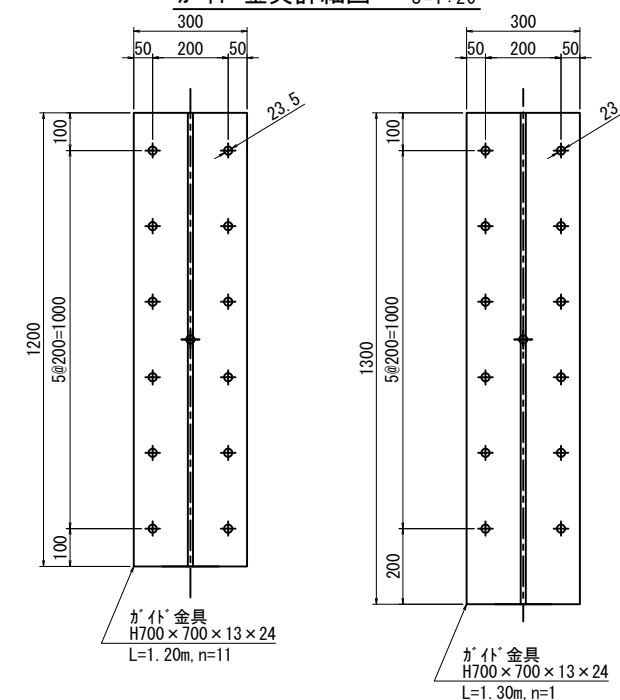
平面图 S=1:100



が 什 金具取付詳細図 S=1:20



カ'ト'金具詳細図 S=1:20

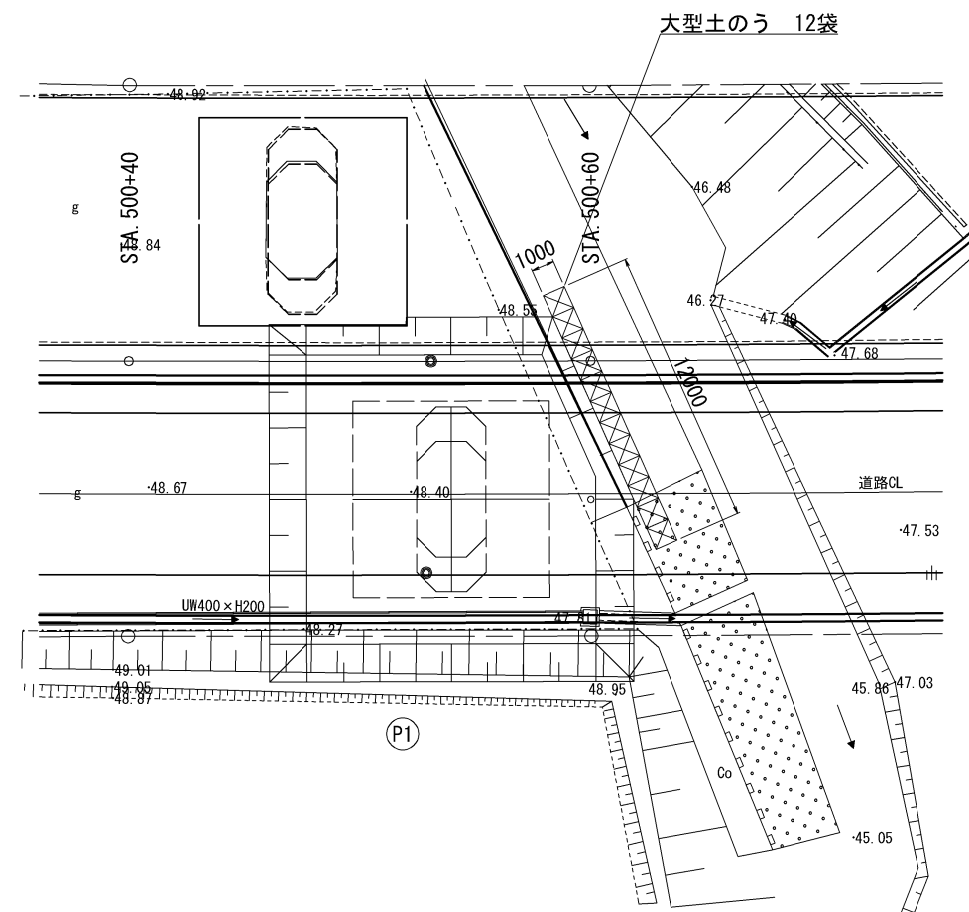


・横矢板数量表

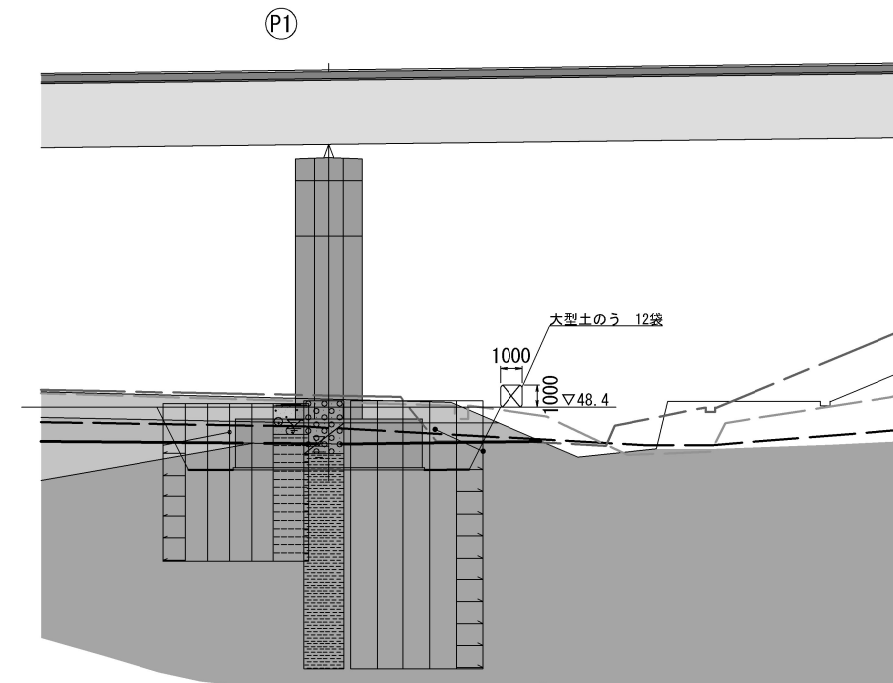
項 目		種 別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
H形鋼	H	H200×200×8×12	5.7	72	49.9	284.43	20479		
							合計質量:	20479	kg
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.200	11	182.0	218.40	2402		
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.300	1	182.0	236.60	237		
							合計質量:	2639	kg
フーテブプレート	PL	PL40×(t19～25)×200		72		1.38	99		
							合計質量:	99	kg
打ち込み式アカー	BN	M20(埋め込み長さ80mm)		144		0.5	72		
							合計質量:	72	kg
							総合計質量:	23289	kg

常 登 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台横矢詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

平面图



側面図

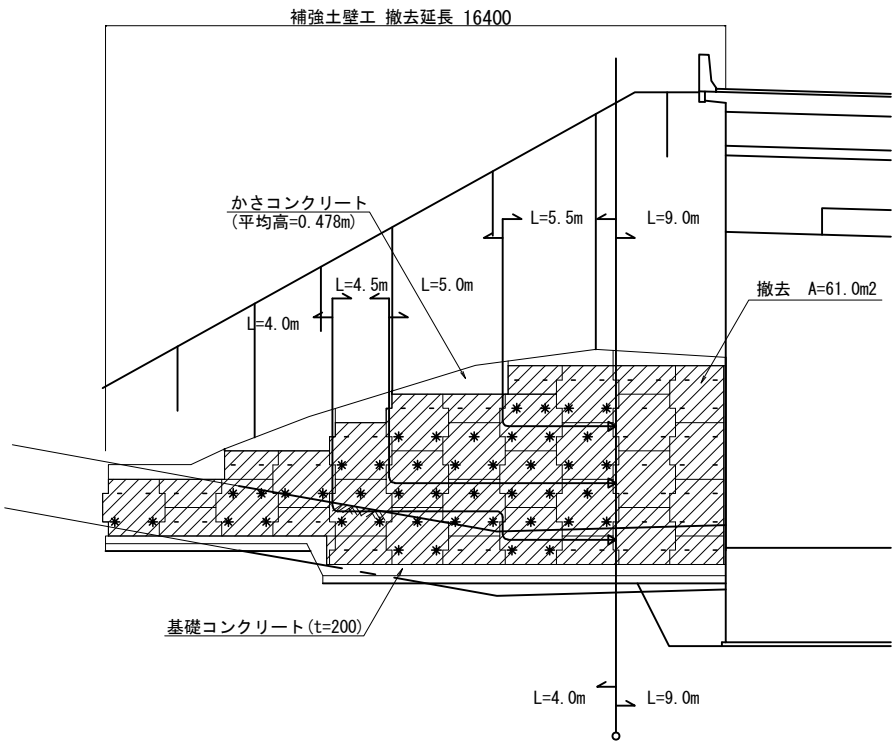


数量表

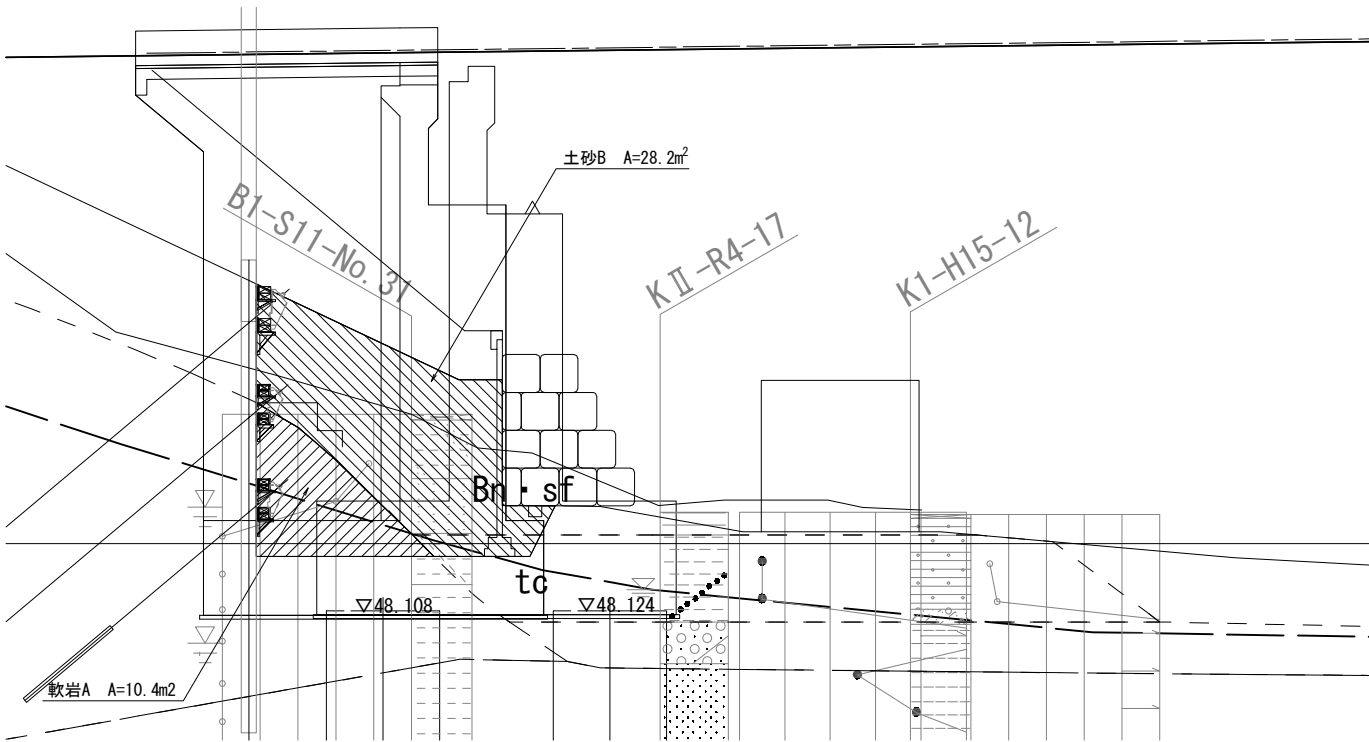
種 別	項 目	単位	数 量	摘 要
工事用道路工	耐候性大型土のう(設置・撤去)	袋	12.0	

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1大型土のう配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高遠道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

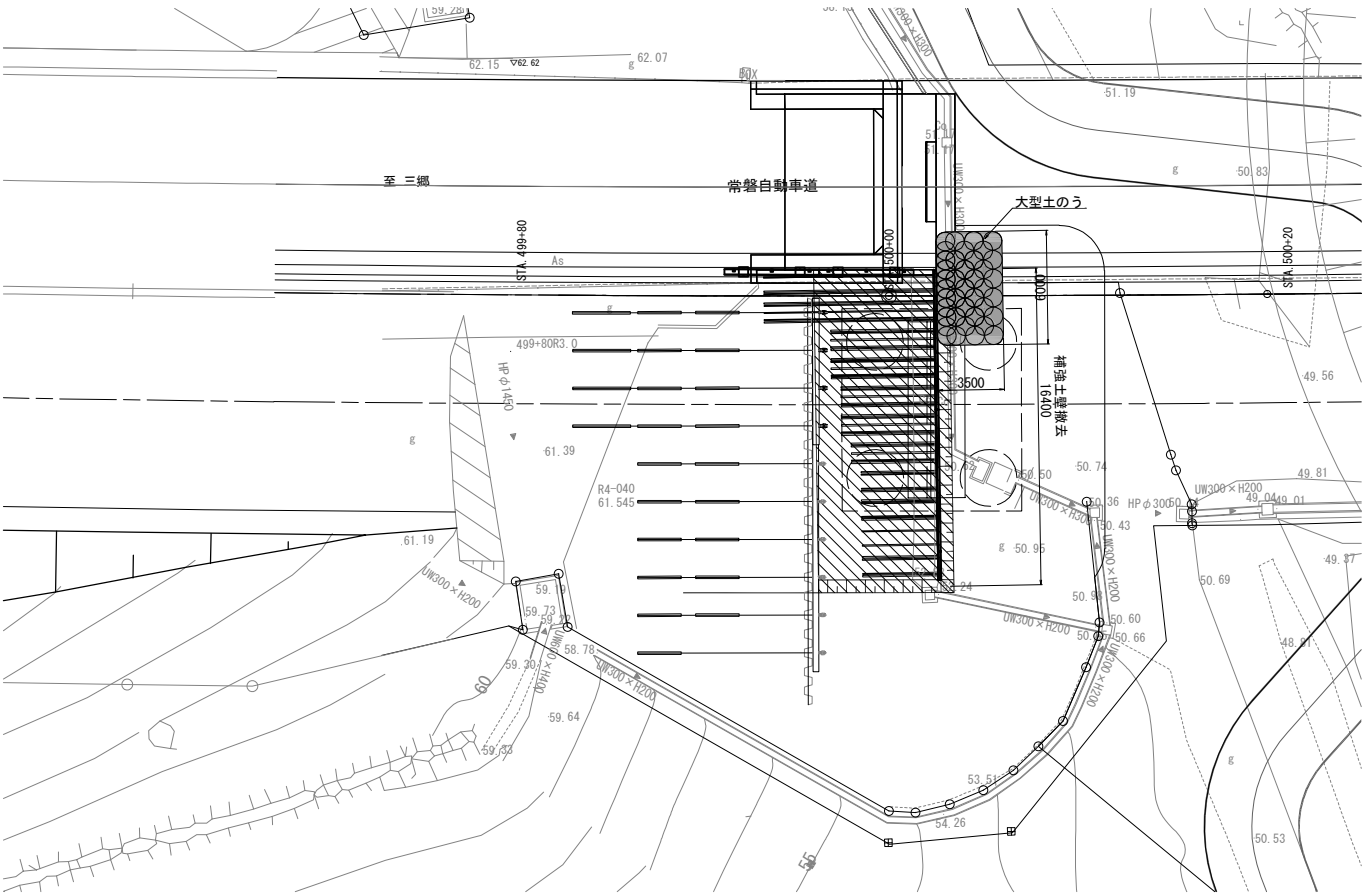
展開図 S=1:200



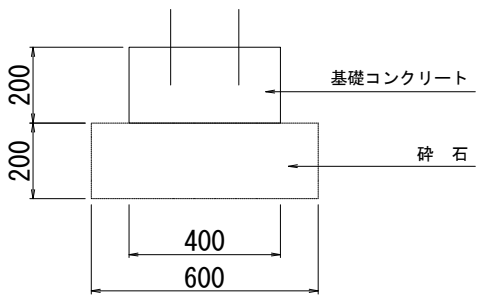
側面図 S=1:200



平面図 S=1:400



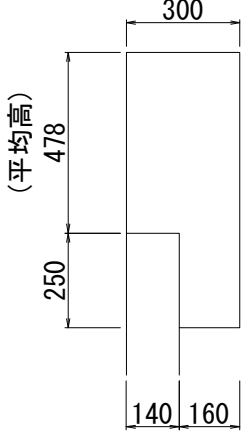
コンクリート基礎形状図 S=1:20



補強土壁撤去工 数量表			
項目	区分	単位	数量
補強土壁撤去	撤去面積	m ²	61.0
	補強材	m	552.0
	かさコンクリート	m ³	3.0
	基礎コンクリート	m ³	1.4
	大型土のう	袋	57
	掘削	※	0

※ 該当する橋梁下部工の構造物掘削と重複する範囲を除く

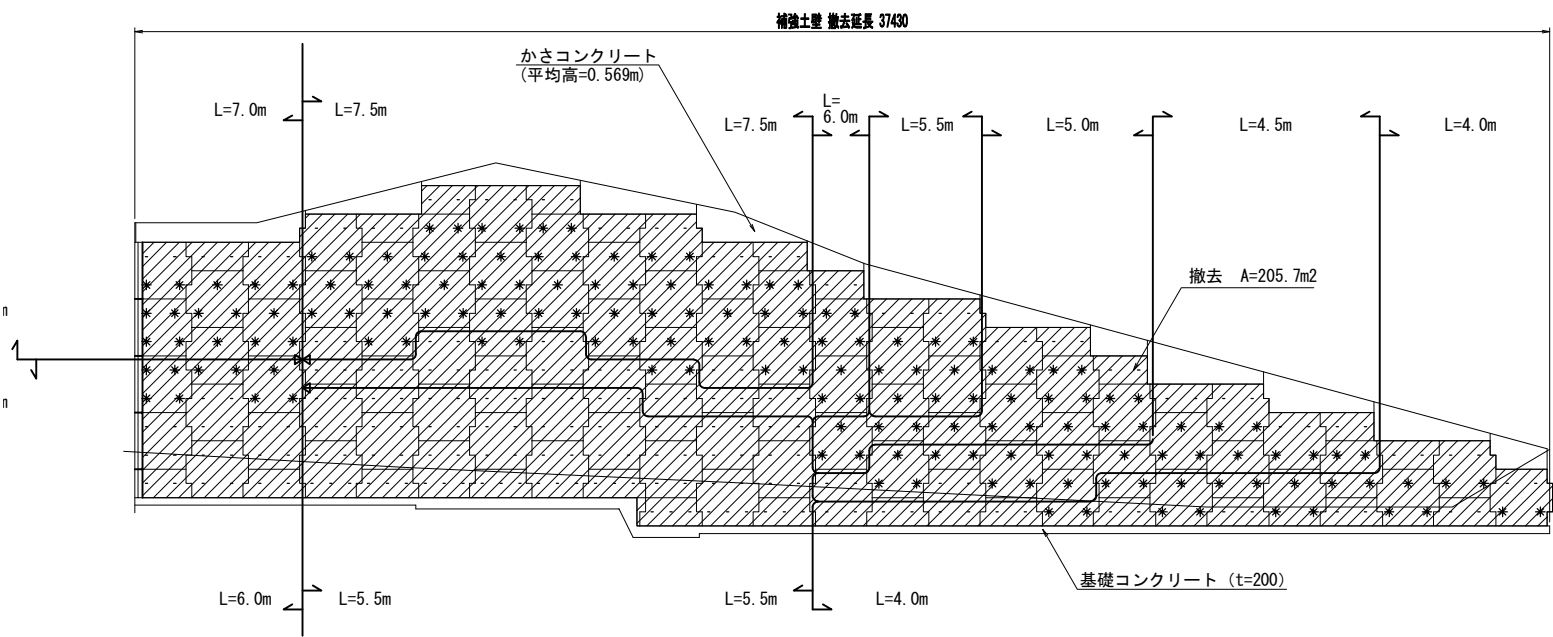
かさコンクリート形状図 S=1:20



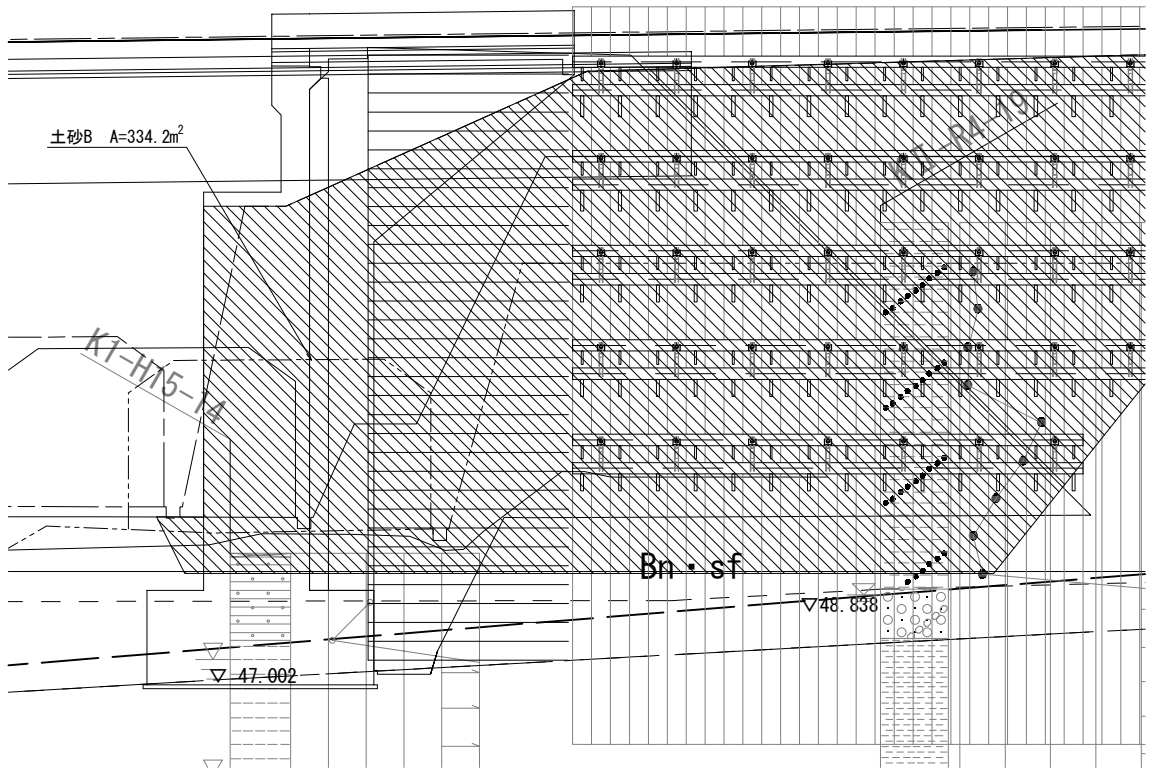
- ・Lは、ストリップの敷設長さを表す。
- ・※印は、SS400 (80×4.0) の幅広ストリップを表す。
- 他は、SS490A (60×4.0) のストリップを表す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台既設補強土壁撤去図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

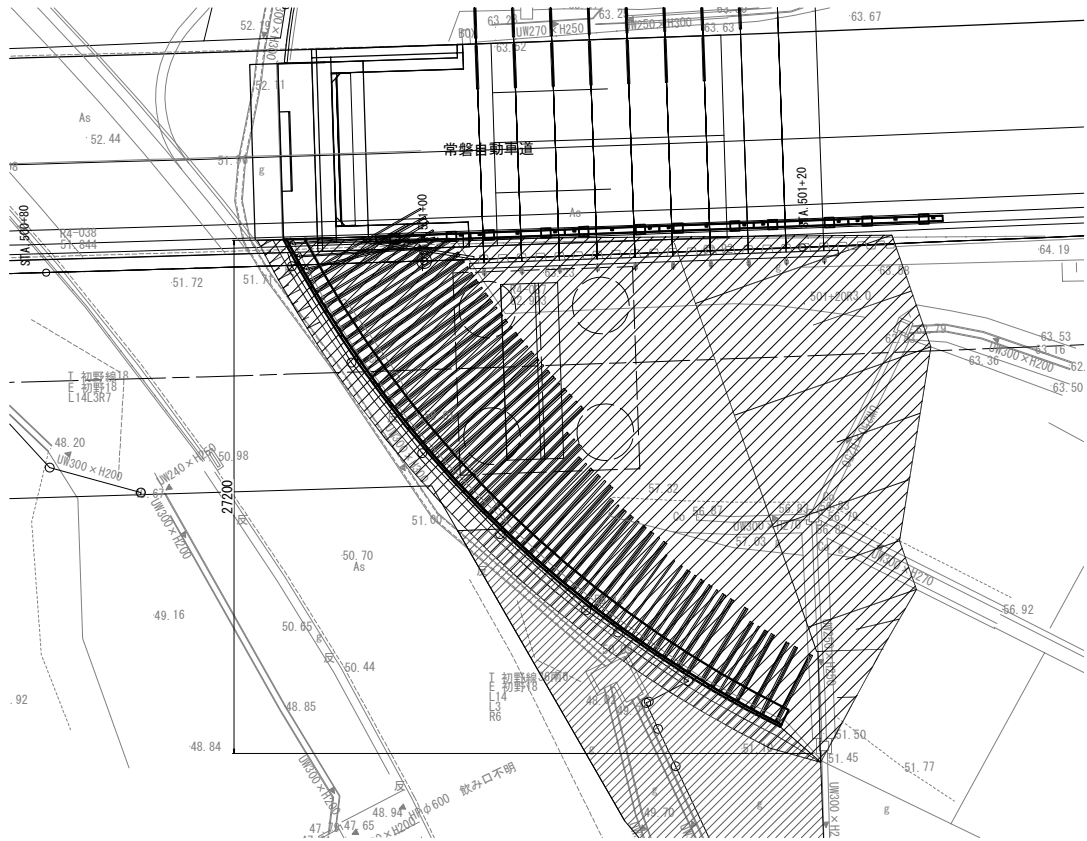
展開図 S=1:200



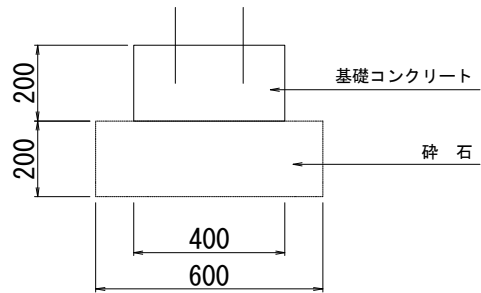
側面図 S=1:200



平面図 S=1:400



コンクリート基礎形状図 S=1:20

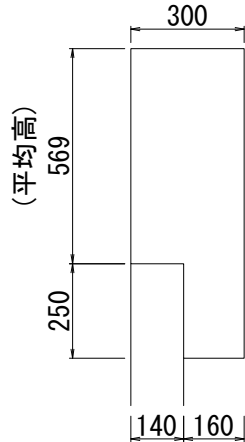


補強土壁撤去工 数量表

項目	区分	単位	数量
補強土壁撤去	撤去面積	m²	205.7
	補強材	m	2286.5
	かさコンクリート	m³	7.9
	基礎コンクリート	m²	3.1
	掘削	※ m³	0

※ 該当する橋梁下部工の構造物掘削と重複する範囲を除く

かさコンクリート形状図 S=1:20



- ・Lは、ストリップの敷設長さを表す。
- ・＊印は、SS400 (80×4.0) の幅広ストリップを表す。
- 他は、SS490A (60×4.0) のストリップを表す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台既設補強土壁撤去図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		